

## 昭和26年 短大卒業

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和26年：短大（家政）卒  |   |
| 氏名   | T. Sさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 切符の購入、食物、寮のこと等。終戦後四年目でいろいろな面で不安だらけの時代に上京させてもらって両親には感謝しております                                  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 旧制女学校（T女学校）当時、書店主催の教育講演会に青木先生が来校なされ（多分女学校4年生の頃）生徒会長として接待係をし、恩師（加藤先生）と共に会話し魅かれたのがきっかけと思います    |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 小学校、女学校とも多くの素晴らしい先生の御姿に接し、自分も生徒に報われる教師になろうと思いました   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 六十数年前のこと故、はっきりとは記憶にありませんが、多分希望をもって強く生きる力、女の自立独立を説かれた様に思います                                   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 昭和24～26年3月の期間ですが、水曜講演の時は専門学校と短大の学生のみでしたが、皆が競って前の机に座し耳を傾けた様です                          |
|  | ②内容  | 1.勉学にいそしむ（学長先生は毎朝3時4時に起床され机に向かわれた由）、2.自分の生活をきちんと設計する、3.常に美しくあること、化粧することは一つの芸術の様にも思われる |
|  | ③感銘を受けた点   | 学長先生の御二人の娘さんのことから、母の日のカーネーションを学長自ら描かれ送って下さる学園があるのかしらと思った事                             |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 気取ることなく、大きな声でもなく、子供に昔話でもなされる様に静かに、自然に講演の中にひきこまれていく様にお聞きしました                                  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 時に学長先生が御帰りの際 御会いすると、先生の鞆をお持ちし池袋の駅前デパートの食堂で御馳走になった事もあります。貴女は庄内米のところまで育ち寮の食事で大丈夫か等心配して下さいました |   |

|  |  |
|--|--|
| 8. その他の行事に関する思い出   | <p>② 学生祭の時だったかはっきりしませんが、多分学長先生の発案と思われますが、「老稚園」の寸劇を先生達が発表され、私はグノーのアベ・マリアを歌ったことを思い出します</p> <p>③ 洋裁の尾中明代先生の美声も素晴しゅうございました</p> |
| 1 2. 他の先生の思い出  | 多くの先生方に御世話になり、おひとりおひとりの方との思い出、記しきれません。学園だけでなく寮内でも  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 学園のモットーである「愛情・勤勉・聡明」を高くいつまでも掲示して欲しい  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 時代はいろいろ変化して行くと思われます。必ずしも理想通りには行かない事が多いと思う。自分を信じ希望を以て明るく進んでもらいたい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 感謝あるのみです   |
| <p>別紙：</p> <p>今回のアンケートで本当に六十数年振りに学生時代を回想させて頂きまして有難うございました。私にとって青木学長先生は自分の父親の様に思っておりますが、皆さんにそのことを話しますと皆さんもその様に感じておられる様で、学長先生は本当に皆さんに親われ尊敬された先生でした。学園内の檜の木の中の舗装道路を歩く学生を見ていらした先生はこう仰言られました。「銀ブラの時に外国人の後をついて彼らの歩く姿を見なさい。背筋を正し颯爽と歩く美しく歩く姿を」舗装道路はその為に作ったのであると。また或時学生が学長先生に質問されました。この学園を卒業すると先生という職業に就かなければならないのか、と。「女の人でも家庭的に向かない人もいるし、他の面で優れた面をいろいろ持っている人もいると思われる。必ずしも教職とは限らないと思われる」と。学長先生はいかなる時も広い視野に立って考えられる方だと私は思っております。</p> |  |

## 昭和27年 短大卒業

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和27年：短大（被服）卒   |  |
| 氏名   | M. Aさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | あの頃戦後のゴタゴタした時代、我が家は東京へ疎開から帰って（長野県の山奥の下伊那）右も左も解らず、私は何も考えずにただ東京の生活に習れようと思っている間の1年間でした。そして短大へ入れて頂きました    |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 上記同じ  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 入学時、夢も希望もないまま、心理学者の青木先生のところなら、と母がすすめてくれました  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 今でも水曜講演はとっても良いお話、為になるお話、という風に記憶している。あの頃の考えが私の心に沁みこんで今にある、と思うことはあります。何日の折のお話しか解りませんが遅刻する人についての講演。下記 |
|  | ②内容   | 自分の中の生活習慣のリズムの時計があって、それに合わせて自分が動くので遅刻するハメになるのであるという事。私は、それは心によ一く残っています                             |
|  | ③感銘を受けた点  | （上記続き）無論。今でもそう思います   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ゆったりとした歩き方、両手を後ろに回していらした。校庭内をよく歩かれていた。やさしい顔をされていた。少し含み声。きびしい顔をされていたのは見た事ありません                         |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 軽井沢の先生の別荘へお連れ下さったことなど。それ以来別荘生活が憧れになりました。生まれて初めて食べたソフトクリームの味が忘れられません                                 |  |
|  | ② キャンプファイヤー、フォークダンス。非常に美しい思い出になっています  |  |
|  | ③ 水曜講演はとてもよい教育指針と思っています。ですから、もし今の学生に出来る事なら又このようなお話をして戴きたいと思います。但し、水飲み場まで連れて行っても飲む人（馬が）いるかどうか問題ではありますが |  |

|  |   |
|--|---|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 若い学生時代にこれらの真面目なお話を今の人達はどうか受け取るか？ しかし年をとってからきっと良き婦人、良きおばあちゃまになれるものと思います  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 主人の生活を毎日手伝った50年間でした。それは愛情を基本としたものであったと思います。必要事項であったのでした。私にとって、愛情・勤勉・・・この二つは幸いに深く心に入りました。自分自身考えても肯定出来ますが、聡明さには少々自信がありません。IQの低さ故と思っています。残念ながら |
| 11. 学生生活の思い出   | 楽しかったこと：<br>友達がいた事。そしてクラブ活動。私は「演劇部」でした。そのクラブ活動が当時としては自由に時間的にも出来たこと。但し学業が二の次になってはいけないと自分を戒めておりました  |
| 12. 他の先生の思い出   | 書ききれません。プールで泳いだこと。キャンプファイヤーのこと。フォークダンスのこと。立教大学生と演劇の練習をしたこと  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 大学を大いに発展させて下さい。それにはいろいろとあるでしょうけれど   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 立派な、そして高名な先生方をお入れくださいますよう心から望みます  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 「ご指導有難うございました」と申し上げたい   |
| 別紙：<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の学生時代を振り返ってみて、それはそれは忙しい2年間であった事を思い出します。特に友達がいて楽しかったと思います。自由にクラブ活動させて戴きました。</li> <li>・本当に何も考えもせずして日々過ごしていた私であったと少し情けなくなります。</li> <li>・良き先輩にも巡り会いました。学生時代に、私より1～2年上のKu. Kさん、Ko. Kさん、古宮（吉野）先生。</li> </ul> |   |



|   |  |
|---|--|
| 卒業年   | 昭和27年：短大（被服）卒  |
| 氏名  | N. Mさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと  | 通学に便利な場所   |
| 3. 本学を選んだ理由   | 大正のはじめに生まれた母の従妹が渡辺裁縫女学校を卒業したため。女子は裁縫が出来なくてはいけないと、女学校（高校）途中より母から聞かされていきました。入学出来て良かったと思いました  |
| 4. 入学のときの希望や夢   | 終戦まぢかのため、女学校（高校）の家庭科の先生は、渡辺、東京女子専門の先生、助手の先生方多数いらっしゃいました。相談しますと是非行って下さいとのこと。緑の多い学校で学び恩師の先生方にあやかりたいと思いました                              |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容  | あまりの緊張で覚えていない。卒業式では角帽をかぶり威風堂々の曲で入場いたしました。学長先生の角帽とマント、印象に残りました。これ以来威風堂々の曲が好きになり、何時でもなんの時でもこの曲にしております                                  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | はっきりした口調で顔のごとくおだやかで聞きやすいお話でした  |
| 8. その他の行事に関する思い出  | 夏休み・冬休みには高橋先生と共に学長先生の別荘（軽井沢星野温泉近く）宿泊させていただきました。星野温泉を利用しました。贅沢なこと、現在では考えられない経験をさせていただきました   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか   | 更生保護の仕事を法務省より保護司の任命をいただきました。犯罪を犯した少年、成人覚醒剤、殺人犯等、保護観察官と共に再度罪をおかさない様、話し合いながら更生させる事です。まさに水曜講演（25年12月20日）を役立てなくてはならないと思ひ浮かべました           |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 学長先生と身近にお話し出来たこと大変幸いに思っております。おかげさまで21年4月29日 褒章（藍授褒章）の栄に浴しました。21年5月19日 皇居に参内、天皇陛下よりおことばをいただいて参りました。先生の教えの賜ものと感謝致します。有難うございますとお伝えしたいです |
| 別紙：<br>私はとても良い時に学園生活をおくらせていただいたと思います。その中では被服の材料その他の教材等、品うすでありました。実習等は布がなく、雲龍紙又天竺木綿等でドレスを作った経験があります。でも学長先生との出逢いで沢山思い出が残っております。 |  |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和27年：短大（被服）卒   |  |
| 氏名   | U. Tさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 疎開から高三の時、帰京し、短大へは西武池袋線を利用しましたが、あの頃はすごい混み方で、窓ガラスが割れたり大変でした                       |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 昭和25年頃は家庭科は結婚するにあたり必要なものとされていたし、その専門の学校だった事、家から1時間と近かったので。親の希望もありました            |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 漠然と中学の先生。青木学長の、単位はとれる時にとっておいたらと言うお勧めもあり、2年間で111単位とりました                          |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ① 内容  | 全体的な事として覚えているのは、他を愛し、問題意識を常に持ち、良く考え、自分の生活をゆるがせにしない事  |
|  | ② 感銘を受けた点   | 常に向上心を持ち、高い所を目指す前向きの姿勢に  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 声は高くもなく低くもなく良く通るお声でした。一心に話されました。おやさしい細い目で生徒を満遍なくご覧になりながら                        |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ①   | どの生徒も青木学長に尊敬と親しみを抱いていたと思います。冬の放課後、被服科の4人で学長室に明かりがついているので思わずお寄りして雑談させていただき、お茶を御馳走になりました。心の垣根を作らず暖か味のある親しめる学長でした                                     |
|  | ②   | クリスマスの行事では、サンタさんの赤い服を着られ背中に白い袋を背負われ、少しメタボな学長にとても良く似合っていました。行事が終わってからも、次々と学長と写真を御いっしょに写したくて待っている生徒に何回も何回もおそく迄付合われてました。生徒に愛情を持ってらっしゃるのだと感激した事を思い出します |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 青木学長は勿論、どの教授方もお話をする時、一人ひとりに実に誠実な接し方をされ答えを導いて下さいました                              |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私は色々な趣味の友人が多く、お互いが切磋琢磨し合いながら今も長いおつき合いが続いているのは、やはり今思うと学長の愛情と言う教えによるものかと有難く思っています |  |

|                                |   |  |
|--------------------------------|---|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ①悲しかったこと  | 社会人になっていましたが、青木学長が急逝された事、悲しかったです   |
|                                | ②楽しかったこと  | 当時生徒数が少なかったので、被服科一同、学校行事として軽井沢の学長の別荘へ泊りがけで参りました。美しい浅間山を見たり、碓氷峠や方々出かけた事。お風呂は近くの星野温泉迄、真っ暗な夜道をこわくてキャーキャー言いながら歩いた事。学長の好物は肉じゃがだそうです。楽しかったです   |
|                                | ③嬉しかったこと  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽井沢へ暑中御見舞いをお出しすると、几帳面にすぐお返事を下さり、文面と共に野の花の水彩画を描いて下さり嬉しくて今でもとってあります</li> <li>・被服科は宿題も多く荷物になり、電車でギューギュー押されて大変でしたが、仕上がると嬉しさも一入でした</li> </ul> |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被服科担任の松井教授。お美しく誠実でいつも一生懸命で、上手に縫いあがった時は心から誉めて下さり嬉しかったです</li> <li>・色彩学の宮下教授。白衣をいつもお召しでゆっくりした話し方で本当に授業が楽しくて仕方ないといった口調で話され私達も楽しかったです</li> <li>・生物学の高橋教授。授業で楽しかった。授業外でも生徒と良く話された。軽井沢での行事で生徒がお味噌汁のお代わりに、少しだけとおっしゃったのに生徒はいっぱい入れ、先生は御無理に全部飲まれました</li> </ul> |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 私達の頃より内容も充実し、レベルも高くなっていると思います。校舎もとても立派になりました。青木学長の「愛情・勤勉・聡明」を生活信条として、あらゆる分野に個性的な人が多く出られる様に願います  |  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 青木学長の生活信条を元に、すばらしい歴史が築かれた家政大学に学べる幸せを感じ、すばらしい教授の元、一日一日を大切に常に向上心を持って、社会の役に立つ人になってほしいです  |  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 青木学長の生活信条は皆が受け継ぎ花開いています。社会で御活躍の方も大勢いらっしゃいます。今回学長について考えるチャンスをいただき、学長からこんなにいっぱいすばらしい思い出をいただいていたのかとびっくりしました。心からの感謝を申し上げます。有難うございました  |  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和27年：短大（被服）卒  |  |
| 氏名   | W. Sさん（葉書一通寄贈）   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 進学を希望しましたが経済的に大変でした  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 被服を習った先生が家政大出身でした  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 立派な中学教師になりたいと思っていました   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 何年何月に、ということは覚えておりません。しかし入学から卒業まで青木学長のお話は私のそれから生きる指針となりました。別紙に記入します |
|  | ②内容<br>③感銘を受けた点  | （下記「別紙」参照）   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | あまり御身大きくない身体を講演机の上に手をおき、身を前に乗り出してゆっくりと優しく話して下さいました。必ず原稿を持っておられました  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 大学の学長先生は私共学生から遥か遠い所におられると思っておりました。そんな時、学園祭にもクリスマスにも一緒に学生の中に入って、クリスマスにはサンタクロースの服装をしてカードを配って下さいました。考えられないような感激でした  |  |
|  | ② 二年生の六月、私達全員（学生が少なかったので）を軽井沢の別荘につれて行って下さいました。田舎出身の私には別荘とは言葉を知るだけの夢のような現実でした。一緒にカレーライスを作り、夜は近くの温泉に一緒に行き語り明かした一夜は今もはっきりと覚えており、この上もない幸せな日でした。この思い出への郷愁は、10年来続けている私達の主宰するファッションショーに生かしました |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私の生きてきた人生最後のラウンドで平成2年から13年間、家政大の非常勤講師として被服構成を教えて（定年まで）きました。学生を愛し自分の全力をかけておりました。卒業生にこの学校に来たこと一番の幸せは若林先生に逢ったこと、と何人もが言ってくれました   |  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 1 1. 学生生活の思い出  | ①楽しかったこと   | 大学の先生方が学生と一緒に学園祭に遊んで下さり、キャンプファイアーを囲んだ19才の頃でした   |
|  | ②嬉しかったこと   | 終戦以来迷い続けた「これからの世の中はどう生きればいいのか。自由主義とはどのように考えることなのか」を学長先生は手を引くように優しく話して下さい、「これぞ」と思ったことでした |
|  | ③悲しかったこと   | 学長先生があまりにも早く亡くなられたことです  |
| 1 2. 他の先生の思い出  | 人を褒めることの大切さを思うことですが、卒業式の日、学長先生は親代わりに挨拶に来た姉に私のことを「この人は幸せに生きられる人ですよ」と言って下さいました。又、高橋敬三先生は、後藤さんの成績のよいのに驚いたよ、と肩をたたいて下さいました。この事は年を経ても忘れられないはげみとなりました |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 学校をしっかりとまとめて下さる先生がおられることを希望しております  |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 生命を大切に精一杯生きていただきたいと思います  |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 「先生、お教え通り精一杯生きましたよ」と申し上げたい。きっと、よくやった、と言って下さるでしょう。今もかぎりなくお慕い申している学長先生です   |   |
| <p>別紙：</p> <p>昭和20年の敗戦まで私共の世代は軍国少女でした。田舎に生まれ育った私は戦争による直接（空襲など）の被害は受けませんでした。兄は一兵卒ながら青春の10年を戦地（中国やボルネオ）を転戦したこともあり、兄への思いは戦争という国のあり方について強く考え続けておりました。戦争中、あれ程戦意高揚をめざして指導した学校の先生も、どの大人も、戦後手のひらを返したように自由主義の時代、と言いながら、それは一体どういう事なのか、どう考えどのように生きればいいのか、教えてくれる人はありませんでした。女学校から高等学校と名が変わった頃、東京にいた私の姉が送ってくれたざらざら紙の50頁にも足りない月刊雑誌「下村湖人主宰の新風土」の中に小説「次郎物語第四部」が掲載されておりました。この次郎の幼少年期のドラマは私が小学4年生の頃、学校から映画を見に、近くの道を歩いて全校で行きました。その続きの青年期に入った次郎が自由を求めながら友人や先生達と話し合い成長していく物語でした。その中には私が、何故、何故、どうしてかしら、と思う事があちこちに見られ、毎号わからない所に赤線を引いて持ち歩きながら次の月の物語の中でほんの少しずつ回答を得る人生の指導書として大切にしていました。</p> |  |   |

この雑誌が唯一私の疑問に答えてくれたものでした。小説が第四部の終り頃、私は家政大学に入学したのです。学寮に入ってからこの雑誌はとり続けましたが、下村湖人氏は青木学長とお知り合いでもあり青年を育てる情熱あふれる作家だったことを知りました。人を愛せよ、と言われた青木学長の教えは私が永年求め続けた、自由主義とは、の答えとして下村湖人先生の教えと二重に写し出され深く心にきざみましました。しかし湖人先生も間もなく亡くなられ、そして数年後には学長先生も旅立たれてしまわれたのです。

先生の思い出のひとつで、数人しか知らない事実があります。当時の女の子は地方から出た場合ほとんど寮におりました。昭和27年3月、卒業式のあと2～3日の内に寮を明けなければなりません。私は岡山県の山境の地の出身ですが、姉が東京に居り、私の就職も東京でのつもりでしたのでこの時は帰りませんでした。当時のJRに座席指定などなくて、東海道線下り急行は「瀬戸」が夜9時、「安芸」は10時出発でした。四国へ帰る人達は郷里へつくまでに20時間を要したはず。車内でその席をとるために出発2時間前から東京駅の指定場所で並んで待ちました。東京に住んでいた人達にはわからない一つの苦勞でした。私はその日帰らなくてもこの列と一緒に並んで別れを惜しんでおりました。その列が駅員の先導でホームに移動した頃、わずか数人の卒業生のために青木先生が送りに来て下さったのです。皆々どれ程感激したことか。涙しながら別れを惜しみましました。ホームに残ったのは青木先生と私の二人。ほんの少しお話しただけでそれぞれの方向の向かう山手線でお別れしました。どこの世界に夜のホームまで卒業生を送りに来て下さる学長先生がおられるのでしょうか。どれ程学生を愛していて下さったか。これは特筆すべき事と思われられません。

私は昭和27年の春、短大卒業と同時に染色の助手として残していただきましたが、当時は食糧事情も悪く体調をくずしがちな私に学長先生は「あまり働き過ぎてはいけないよ」部屋へ話しにおいて、と呼んで下さり、当時やっと出たばかりのインスタントコーヒーを学長室におられた古宮(現吉野)さんに入れていただき楽しく話したこともありました。そのように優しくしていただきながら病気で学校を止め田舎へ帰りました。間もなく元氣快復、短大の二年では足りない洋服の勉強を志して上京した列車の中で、偶然同席した後輩(校章をスーツの衿につけておられて)と話しているうちに学長先生が亡くなられたことをその人から聞きました。大勢の学生が泣きくずれた音楽葬だったと聞きました。私も呆然自失、列車の中なのに叫びたかったです、先生、先生と。もっと生きてほしかった、お目にかかりたかった、と顔を覆いました。上京すれば母校に行き先生方にお逢いするのが何より楽しみでしたのに、学長のいらっしゃる学校は何かのぬけたようなもの。以来学校へ行くこともほとんどなくなり、東京にいたお友達と一度学長先生のお家の仏壇にお参りさせていただきました。

私事に戻ります。止むに止まれず色彩学の宮下先生に御相談しましたところ、文化服装学院に行くことを進めて下さいました。嬉々として学んだ2年間、卒業時は文化服装学院長の御推薦もあり勤め口はいろいろありましたが、夫の両親の面倒をみるために勤めることは出来ませんでした。嫁として妻として母としての一応の責任を終えた後、私の人生の最終ラウンドで平成2年から再び家政大学の非常勤講師として洋服を担当すべく迎えられるました。

当時学生が大変多くて、選択ながら一クラス70人もいた時もありました。講義と違って実技は作品が出来なければ認められず、一人の落ちこぼれもないよう引張っていくのは大変なことでした。でも懸命に学生と向き合い時間を惜しまず助けました。青木学長から植えつけられた愛の心をいつも持っていました。学生に「先生はどうしてそんなに優しいの」と言われたこともありました。学生の中には五月病と言われて苦しんでいる人もあり、ただ一度授業をして話しただけの私に悲痛電話をくれたことがあり、その話と現状に自殺の危機を感じて助けたこともありました。その人は休学して復学、卒業し、立派な母となって今も交流しています。学生に私の時間の総てを使うことが出来たのは、私が非常勤という自由な立場にあったからだと思います。停年退職までの13年間、学長先生に教えられた愛を思い残すことなく学生に捧げました。そして今も学校の生涯センターで中高年の受講生と和服を作り直して着るユニバーサルファッションを続けさせて頂いております。はからずも学長秘書だった吉野さんも私の生徒になり、私共の協会が催す京王プラザホテルでのファッションショーにも出ていただきました。私の遠い思い出の軽井沢別荘を心に、学生四人に「リゾート」の題で舞台を踏ませた日もありました。青木先生に今お逢できたらきっと「後藤さん(旧姓)、よく生きたね」と褒めて下さるでしょう。今も学長先生を惜しみ続ける元学生でございます。私の命あるかぎり青木学長を忘れることはありません。



「青木先生手描きの葉書」

～ 上記ハガキ、昭和27年短大卒（被服）W. S様提供

|   |  |
|---|--|
| 卒業年   | 昭和27年：短大（被服科）卒   |
| 氏名  | K. Sさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと  | 寮生活。何もかも大変でした  |
| 3. 本学を選んだ理由   | 教職につきたくて   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演   | （水曜講演というよりも授業に関して）短大2年のみ授業をうけただけ。「家族関係」とゆう時間でした。夫婦は「一身同体」というお言葉を覚えています |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 人間性豊かな、きゅうくつな感じの全くない方です  |
| <p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は昭和27年卒（短大被服科）ですが、昭和22年東京女子専門学校を書類で入学。校舎は本当に粗末。宮城県から出てゆき、女専二年の時、目を患い、女専中退。二年間の療養後、26年に短大二年に編入。ですから青木先生の授業は一年間のみでございます。</li> <li>・私苦学生でしたので、講堂での授業が一番うしろで居眠りばかりしてしまして、友人にノートを借りて講義をまとめていたのが実状です。</li> <li>・（学長は）太りタイプ。おやさしい。人間性豊かなお人柄ということのみ印象づけられています。</li> <li>・卒業後すぐ結婚。長男の嫁として、色々な道中がございまして、緑窓会、一度も学園を訪れた事なく八十才を過ぎて現在に至ります</li> <li>・女専入学時は、畑井新喜司先生でした。私19才でした。本当に昔、昔の事になりました。</li> </ul> |  |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 卒業年  | 昭和27年：短大（被服）卒     |
| 氏名   | I. Sさん            |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 大変だったことは何一つなかったです |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 近かったから            |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 良き家庭人になるため        |



|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 6. 水曜講演で感銘を受けた点                 | 愛情あふれるやさしいまなこでした   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | 青木先生の軽井沢の別荘へ友達と5人で旅行に。とめていただき庭にすずらんが沢山咲いていたのが今でも思い出します     |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 24年間民生委員をして今は町会の仕事をしていますが、何事も愛情を持ってお話をすればわかっていただき良かったと思います |
| 11. 学生生活の思い出                    | 松井和歌先生のやさしかった事が今でも思い出します                                   |
| 12. 他の先生の思い出                    | 色彩学の先生が戦争の話をしてくださった事                                       |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | だれからも、愛される人間になってほしい  |

|  |  |                 |
|--|--|-----------------|
| 卒業年  | 昭和27年：短大（児童栄養）卒  |                 |
| 氏名   | T. Nさん（写真3枚、クリスマスカード1枚寄贈）  |                 |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 戦後の混乱が多少落ち着いてきたとは言え、まだ娘を上京させる事への心配をする父親を説得するのが大変でした。幸い教師をしていた兄が私の進学したい気持ちを理解してくれて一緒に父親を説得してくれ、ようやく進学を許してくれました。但し短大、家政科と言う条件つきでした     |                 |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家庭科のある短大を調べました結果、私の得た結論は、家政科を学ぶのなら家政大学が家政に関してきっとオーソリティなんだろうと考えました。父は、学校名だけで娘は確かに家政の事を学ぶのだ、と納得したような笑えない理由です。学校の歴史などについては入学してから知った次第です |                 |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 新制度の大学で勉強できる喜びに満ちあふれていました。小学校、女学校（新制高校2回生）とほとんどを戦争に翻弄されてきましたから   |                 |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 残念ながらあまり覚えていません。入学者数は40名足らずで少々心細い思いをしたのを覚えています   |                 |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 短大二年。卒業間近の頃 2月？ |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ②内容   | 人に迷惑をかけない事が人を愛するという事につながる。この二年間に育てられた、他を愛するという生活を、卒業しても忘れないことを望むと具体例をあげてお話して下さいました   |
|                                 | ③感銘を受けた点  | 居心地の良かった学生生活のしめくりとして、青木先生の論すようなわかりやすいお言葉がこれから社会人として出発する私への規範だと思われました   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 言葉で表現するのは難しいですが、先生はいつもゆっくりとおだやかに話されたと思います   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 忘れられない先生のお言葉があります。寮からの登校時、ぼったり先生にお逢いした時に「〇〇、歩くときには上を向いて歩きなさい」と仰いました。多分私がうつむいて歩いていたのだと思います。今でも歩く時には先生のお言葉を思い出して姿勢を正すように心がけています |  |
|                                 | ② 何葉かの写真をコピーしました。当時のアルバムの添え書きを裏に記しました。軽井沢の別荘へは学生数が少なかったから招待していただけたとおもいます  |  |
|                                 | ③ 在学中、母の日とクリスマスのカードは全部先生の手書きでした。卒業してから勤務先宛にいただいたクリスマスカードが手許にありますので是非御覧いただきたいと思います。このカードは「卒業しても見守っているよ」という先生の温かいメッセージだと思ったことでした  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 思い出は数えきれない位あります。2年間の毎日毎日が私にとっては大切な時間でした   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 教え子が言った言葉で、私の事を「先生はえこひいきしないから好き」「やさしいから好き」と言ってくれました。退職した日に4帖半のせまい部屋へ担任の子供達が皆で押しかけてくれました   |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと  | 楽しかった事や嬉しかった事は沢山ありますが、新しい生活で寮生活の不自由さがこたえました  |
|                                 | ②つらかったこと  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・風呂がなくて隣室の新生と二人ではじめて銭湯という所へ行った事</li> <li>・13人の大部屋で布団を敷く時には各人の机を壁際へ移動しなくてはならなかった事</li> </ul> |

|                                |   |  |
|--------------------------------|---|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ②つらかったこと  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめての夜半にねずみが宙を飛び回って怖かった事。朝見たら私の柳行李の隅がかじられて母がいてくれた煎豆がこぼれていました</li> <li>・板張りのトイレが13人に1つしかなかった事</li> <li>・冬の暖房は大きな部屋に火鉢一つで寒がりの私には辛いことでした</li> </ul> |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 家庭管理の氏家先生は話しかける時に「貴女方は」と仰言らず「あなたは」と仰言いました。大勢で受講しているのに自分一人の為に先生が講義をして下さっているように思ったからです                              |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 質実剛健。家政大の卒業生なら、と言われるような学習がなされるように期待したいです  |  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 実力を身につけてほしいです   |  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 私は先生にお詫びしたい事があります。お世話をして下さった教職を三年間で突然退職してしまいました。3月に母が急病にかかり看護の為に退職せざるを得なくなり、退職してから事後報告の形でお詫びを申しましたが、ずうっと心にかかっています |  |

別紙：

- ・私は東京に保証人を頼める方がいませんでした。担任の松井和歌先生が保証人になって下さいました。父は娘を東京へ出す事の不安が一度に払拭できたようです。4年後、妹が家政大学へ入学できた時には青木先生が妹の保証人を引き受けて下さいました。個人の困っている事にさりげなく気配りをして頂き、もし他の学校へ進んでいたら東京での学生生活はどうなっていたかと思えます。
- ・家政大学については入学してから知りました。青木先生が長野県御出身という事も。私の高校時代の国語の先生（松井芒人・あららぎ派の歌人）が青木先生の長野師範の頃と同級生だった事。私も長野県出身という事で何かとお声をかけていただきました。長野県人会を作るといいと先生が提案して下さい、初めての県人会を松本で開き学生部長の高橋先生と御一緒に出席して下さいました。当時先生は食事制限をしていらして、お刺身やお肉などは近くの席にいた学生に「食べなさい」と仰言って皆さんで御馳走になりました。
- ・二年生になった時、新入生歓迎の辞というのをやる事になりました。この学校の目標は“愛情・勤勉・聡明”ですと言った事を覚えています。実は当時はこの言葉のフレーズが気に入っていて使ったのではないかと思います（反省）。50年余もたった今頃になって、この言葉の持つ真の意味が理解できるようになり、多少でも日常生活の中で活かされているかしらと思えます。

- ・私共の卒業時も就職難の年でした。幸いな事に先生が教育指導にいらした長野県の飯田市立H中学校へ勤務できるようにして下さいました。二年後、先生が教育指導にいらした時に公開授業をしました。その時には先生は何も仰言いませんでした。後日上京した時に三木先生が「〇〇はよくやっていると学長さんがほめていた」と仰言下さって嬉しく思いました。
- ・私事乍ら只今は子供二人も独立し夫と二人、年相応の健康でおだやかに暮らしております。H中学で教えた子供達は停年を過ぎ、時々を訪ねてきてくれたり集まったりしております。教え子二人が高校を卒業した時に〇〇先生の卒業した家政大へと入学してくれた事は、私がお世話になった学校にちょっとだけ恩返しができるかと嬉しく思ったことでした。今の生活の支えになっているのは、たった二年間でしたが家政大で学ばせていただいたおかげだったと思います。今回あらためてあの学園での生活を振り返り、青木先生の大きくてあたたかったお人柄を偲ぶ事ができました。有り難うございました。

写真3葉同封

- ① 1950年7月7日 前期講義を終了して、我等がパパは良き人なり。ここに写っていない方もありますが、級全員先生が好きだったと思います。誰にでもあたたかく接して下さいましたからだと思います。
- ② 1951年5月21～23日 先生の軽井沢の別荘を開放して下さいました。級の皆さんと楽しませていただきました。助手の古宮先生の夜の怪談など怖かったけれど今でもとてもなつかしく思い出します。夜青木先生はどう過ごされていたのかしら？ 思い出せません。
- ③ (日付なし) クリスマスパーティでサンタクロースに扮した先生がかついでいる袋は私のシーツで作りました。先生はそれを「これはいい」と喜んでかついで下さいました。

青木先生からの手書きのクリスマスカード同封

1954年12月18日 「人類に愛情をおしえし基督降誕祝日にあたって」の印字がある



「前期講義を終了して～我らがパパは良き人なり」 (1950年7月7日)

～ 上記写真、昭和27年短大卒(児童栄養) T. N様提供

## 昭和28年 短大卒業

|  |  |                                      |
|--|--|--------------------------------------|
| 卒業   | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒   |                                      |
| 氏名   | S. Mさん   |                                      |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 昭和26年は世の中がようやく落ち着きつつあるころでしょうか。農家の生活しか知らない私の進学は夢のようでした。でもすべてが準備不足です。ことに勉強などまったく出来ていませんでした |                                      |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 進学する学校を選ぶ時、担任の先生が、青木誠四郎先生が学長だからとその一言で決めました   |                                      |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 良妻賢母となるための教養を身につけること   |                                      |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 記憶が定かではありませんが、学長先生は、「理想を高く目標に向かって進みなさい」と   |                                      |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 入学して第1回から卒業迄、21～22回あったと思いますが全部勉強しました |
|  | ②内容  | その都度講堂は、身動きが出来ないほどの満員でした             |
|  | ③感銘を受けた点   | 質素な中にも夢のある生活を、と教えて下さったことなど           |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 学長先生は講演の都度、ゆったりとして、しかもにこやかに、学生達に語りかけるようにお話下さいました   |                                      |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日のカーネーションの思い出。先生は一枚一枚丁寧にお書きになり、母のある方には赤いカーネーション、母亡き方には白い花をいただきました                    |                                      |
|  | ② 学長先生はじめ他の教授から助手の先生方、皆さんが学園の広場に集まり、学生と共にキャンプファイヤーを楽しんだことなど、今も鮮やかに心に残っております              |                                      |
|  | ③ クリスマスカード、今もあると思います   |                                      |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 入学後間もなくのこと、青木先生がこう申されました。それは「門柱にみなさんの故郷の石を1つずつぬり込めて思い出にしますから持っていってらっしゃい（こぶし位）」と。私も持参しました |                                      |

|  |  |
|--|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 50年前の先生の教えは現在の社会にこそ必要なことと思っています                                  |
| 11. 学生生活の思い出   | 学園にはカシの樹がとても多く印象的でした。二年間でしたが、一日一日が充実していて、この学園で学べたことを心から俵せと思っています |
| 12. 他の先生の思い出   | 先生方全員があたたかく接して下さった。最後の思い出にと、一流の中華料理店でマナーを学ぶ食事会など                 |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 柔軟な心を育てながら世間に通用する人物を育てていただきたいと思います                               |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 自分から心を開いて飛び込んで行きなさい。人生は信じることから始まります                              |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 先生の信条、学んだこと「愛情・聡明・勤勉」<br>私は78才です。人生を終るその日迄、持ち続けたいと思います           |
| 別紙：<br>思い出すままに。東京家政大学は青木誠四郎先生によってその名声をあげることが出来たのではないかと、今も思っています。造兵廠の跡地で終戦後のさまざまな想いを残す限りなく広い敷地の中で、これからの日本を背負って行くべき女性に、最高の教育を与え名実共に育ててくれることを願って、心身を投げうっての実践教育だったとおもいます。私のような田舎者が上京して何の不安感も持たず、都会の生活になじんでゆけたのも、学長先生始め諸先生方が常に親切でやさしくご指導くださったり、面倒をみてくださったからこそ、と今も忘れていません。青木誠四郎先生の突然の訃報を知らされ、信じられず驚くばかりでございました。松本の先生のお墓参りをさせていただき、ようやくお別れができました。たった二年間でしたが、青木誠四郎先生の元で学ぶことができましたことは、私にとって最高の崑こびであり生涯の宝と思っています。ありがとうございました。すばらしいきかくをしてくださった関根先生に心からお礼を申し上げます。青木誠四郎先生のこと色々と思出すことができました。重ねてお礼申し上げます。 |  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒  |
| 氏名   | S. Sさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 校舎、学生寮共に古い倉庫での教室で、俗にいうバラック校舎で、夢を抱いて上京した若い学生にとって少々残念でした  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 先輩の様子をみて、堅実で礼儀正しい校風に  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士という新しい分野に夢を描いていました   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 明るく、のびのびとした女性像を強調されたこと。(授業について) 青木学長の授業はあふれるばかりの受講生でした。この大学をえらんでよかった、といつも思っていました  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 感銘を受けた点：<br>女子教育について熱く話され感動していました   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学長先生からクリスマスカードを頂き、長い間私の机の中で大事に保管していました<br>② 雨の降る日、学生寮に青木学長が突然たずねてこられ寮生に親しくお話しされ、今で思う、ホームシックから救い出して下さったこと<br>③ 学部4年の上級生たちと比べて、短大生の私どもは青木先生に接する機会が少なく高嶺の花の学長先生でした |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 寮生はなれない大部屋に10人くらいの学生と生活する不安がいっぱいでしたが、上級生が温かくして下さったことが印象深いです   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 親許をはなれての寮生活。人間関係のあり方を学びました。女性としての社会人の生き方等、いろいろ思い出し、年を経て感謝しています  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ホームカミングの行事、学園祭のこと、箱根の家政大の別荘等、家族的なあたたかみあふれる行事  |
| 12. 他の先生の思い出                               | 山下俊郎先生の授業、三木先生、村上先生。きりっとした松井和歌先生。寮の本郷先生、松井正子先生、お世話になりました  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 女性としての基本的な生き方を  |

|  |  |
|--|--|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 堅実な大人としての生き方を学んでほしい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 大人の女性としてのあり方をいろんな角度からみて講義されたこと。卒業して社会人となって時々青木先生のこと胸にしていたいこと |
| 別紙：<br>昭和28年3月に卒業し、郷里の山口県に帰って中学校に勤務しました。その夏、青木先生が徳山市の教員振興大会で講演をされ、その後、私共卒業生5～6人が青木先生に面会した時の学長先生のお顔がずーっと私を力づけて下さっていました。寮生にもよく気がつかって下さって有難かったこと等。50年以上たってもあの二年間の日々が思い出されます。私たちのような古い遠くに住む卒業生にお心配って下さること深く感謝しております。私の教え子を何人か家政大に送り、今でも交流があり有難いことと思っております。 |  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒  |   |
| 氏名   | I. Kさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 岡山県倉敷市児島の出身なのでバスで始発駅宇野まで行き特急で17時間乗車で東京駅着。足は腫れて靴が履けませんでした。四国出身の方はもっと大変だったと思います |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 心理学を勉強したいと思っていましたら、高校の先生に家政大御出身の方がいらして、その先生に強く勧められました                         |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 児童、青年心理を勉強して、成長過程で色々な悩みを持つ人達の良き相談者になる仕事に就きたかったです                              |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 賜玉のおことばを覚えておりません。大学の入学式って、こんなんだ、とか並んでいらっしゃる教授・講師の先生方を観察したりで心は四方八方に飛んでいたと思います  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 短大2年、10月  |
|  | ②内容   | 忍耐と努力。人はともすれば易きに流れるが困難にぶつかった時、そこから逃げないでその先に明るい灯がともる事を信じて進むように。青木先生はイージーゴーイングというお言葉を使われました |



|                                |  |  |
|--------------------------------|--|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演        | ③感銘を受けた点   | なぜかイージーゴーイングというお言葉は50年以上たちました今でも脳裏に浮かんできます |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等  | お声一少し粘っ気のある中音。表情豊かに身振手振ではなく、教卓の上に講演メモを置き椅子に腰かけて穏やかな御表情で話されていた  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出               | ① 青木先生は秘書の古宮先生、高橋先生、三木先生と、皆様にこやかな表情で校内を巡回していらっしゃいました   |  |
|                                | ② 学生祭の折、ちょうど新しい校門が出来ました。ちょうど青木先生がお通りになったので御一緒の撮影をお願いすると、気持ちよく参加して下さいました                                  |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 少子高齢化に猛スピードで変化している日本に於いては、大学の広告塔ともいべき教授が必要だと思います。広大なキャンパスを都心近く所有している恵まれた環境は、他大学の追随を許さないと。先生方の内なる手腕に期待します |  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 東京で大学生活を送る事じたい非常に恵まれている事を今一度真剣に考えて、先生方のお言葉を、できるだけ記述しておく事。歳を重ねるごとにそのお言葉の持つ意味が理解できるようになる                   |  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | H. Yさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 経済的に貧しい時代でしたから、青春最高という年令でおしゃれも出来ず、通学の便も悪く、1本電車を逃すと次の電車まで待ち時間が大変でした       |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 終戦ということで未来が読めず、これからの女性はどうなるのか不安でしたが、家族の勧めで腕に力をつけなければと思い、家政方面を勉強しようと思いました |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 何かあった時、独りでも出来るような仕事。例えば教員のような職につければ良いと思いました                              |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | はっきりとした記憶はありませんが、これからの日本を支えていけるような人間になって下さい                              |

|                               |   |                           |
|-------------------------------|---|---------------------------|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演       | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年生の時、2月頃                 |
|                               | ②内容   | 自分の言動にはしっかり責任をもつこと        |
|                               | ③感銘を受けた点  | 長い人生を送るためには常に人を愛し、自分を守ること |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等 | 青木先生には心理学、青年心理学、家庭科教育法、職業指導の四教科の授業を受けました。先ず、ことばがはっきりしていて、声も大きく、立派でした。学生はコトリともせず、筆を走らせる音だけの教室でした |                           |
| 8. その他の行事に関する思い出              | ① まだクリスマスカードの交換はなかったと思います   |                           |
|                               | ② 楽しいことは少ない時代でしたので、箱根の寮（草屋根のレトロな建物）への旅行はただ一つの楽しい思い出です   |                           |
|                               | ③ 卒業式に、黒の紋付を着て、黒いハカマを着た写真が残っています。今思うと滑稽に思えます  |                           |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | W. Sさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 初めての都会生活全体にとまどいを感じ、親の元をはなれて孤独のさびしさを感じた事はおぼえております                             |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 知人の先輩のすすめ  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教師を希望していたのですが、すぐ結婚でした  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 長い年月がすぎてしまい、特別に答えられませんが、講演にはその都度うなずけたものと思っております                              |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 学長と申しますと、私達には近づくことの出来ない存在でしたが、おだやかなお姿がお聲にも表情にもあり、暖かさを感じておりました                |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 母の日のカードやクリスマスカードなどいただきました。長い年月がすぎて具体的な事はお答えできず心苦しく存じます。青木学長のお姿やお顔は今でも思い出されます |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒  |
| 氏名   | K. Cさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は1944年4月、国立のO師範学校女子部予科1年に入学し生徒は全員寮生活でした。同年10月10日の大空襲で、生まれ故郷（現在の那覇空港）は軍の命令で立ち退きを命じられ村は離散しました。1945年4月1日、米軍上陸で私達はひめゆり学徒として軍の命令により病院壕で重傷兵の看護に協力し生き地獄を体験しました。壕の南部への撤退後は夜死体を踏みつつ逃避し奇跡的に生存しました。父は日本兵に射殺されました。終戦直後、N高校で教科書なしの授業を受け卒業しました。当時兄が東京在住でマッカーサー司令部に母親と妹の引き取り・上京を申請し、許可を得て沖縄から初めて本土へ上京しました。兄の勤務先、小金井の電波研究所の官舎生活でした。しかし兄1人の給料で五人家族の生活は非常に厳しいなか、私は進学を志し教科書を買って1年間受験勉強に励みました。幸いに短大合格したものの経済的に困難で育英資金とアルバイトで補いお小遣いなしの苦しい2年間でした。（私は戦争体験「ひめゆり予科1年生」を2003年5月出版） |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 本校の前身は渡辺学園で女子教育に有名校であると本で知りました。また当時沖縄は戦争で木々はなぎ倒され地形は変貌し「国破れて山河なし」の状態でしたが、本校へ初めて見学に来て感じたのは、平和な緑に包まれ木漏れ日に心がいやされ、この学園で学びたいと決心しました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 戦前、師範学校入学時の初志貫徹。教師への夢でした  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 具体的には記憶していませんが、頑張ろうと将来への夢の実現のスタートラインに立った思いでした   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | A. 1年生の時、昭和26年6月5日。入学後最初の講演。自分の生活リズムに無駄がなくなりました<br>B. 1年生の時、昭和26年11月28日。空き時間のないよう多くの単位を修得しました<br>C. 2年生の時、昭和27年10月22日。同上。<br>上記の3回共に、忍耐と努力を痛感し行動しました。そのおかげで2年間恙なく過ごせたと思います。（家庭科と保健の教職の免許も修得しました）  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 青木先生は低いお声でゆっくり諭すような口調で話され、先生の心の中の熱い思いが感じられ、柔和なお顔でした。ちなみに私共は先生からお叱りを受けたことは全くなく、また先生の怒ったお顔も見たことがありませんでした  |

|  |   |
|--|---|
| <p>8. その他の行事に関する思い出</p>                | <p>① 私は最初に思い出すのは青木先生のお部屋（学長室）に在室か否かおかまいなく気楽に出入りしていたことです。お掃除に行っていたと思いますが？ お部屋の入り口は鍵なしのガラス戸があるだけで青木先生の個室はなく、ノックして入る必要はありませんでした。お部屋の内部は左手に茶道具の棚があり、棚の裏に掃除用具がありました。右手の奥の方が青木先生のお仕事場あったと思います。あんなに気安く自分の家のように行動していたのが、今考えると珍しくもあり懐かしく蘇ってきます</p> <p>② 学生祭で私達は手作りクッキーを販売することを企画し、一週間前から放課後準備しましたが、調理室はまるでクッキー工場でした。責任者の私は夜遅くまで居残り短期寮生活をさせていただきました。当日、作品は好評で完売しました。青木先生のご苦労さん、のお声で疲れがとれました</p> <p>③ 他大学からいらっしゃる専門科目の教授の授業が2回続けて休講となり、学生達は皆怒って私は代表で事務所へ抗議？お願いに行ったことがありますが、おかげでそれ以後、休講はありませんでした。私共は水曜講演の勉学への精神、人に迷惑をかけない、ことを大事にしていたと思います</p> <p>④ 青木先生は学生の服装について、女性はズボンでなくスカートを着用するよう話され、寒がりの私は冬は忍耐でした</p> |
| <p>9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか</p> | <p>水曜講演の全部を網羅するご指導を私共は実践するよう心がけ、学内は和気あいあいの場でした</p>  |
| <p>10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか</p> | <p>昭和28年3月、短大卒業後私は豊島区のK学園に、児童心理学者山下敏郎先生のお世話で就職し42年間奉職しました。その間に昭和37年3月、日本女子大学通信教育学部 食物科を卒業し、高校教師免許、国家試験で栄養士の資格も修得しました。高校で担任していると欠席の多い生徒、成績面の問題児は食生活や親の無関心等、愛情不足を感じ、保護者会等で訴えました。また私は生活指導の責任者を担当していましたが、生活面の問題児は親の愛情不足が原因であると感じ生徒の立場を理解しよく話し合うよう根気強く指導した時は、下校の際家まで同伴し親に事情を話し引き渡していました</p>  |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 定年退職後は平和活動として集会を企画したり、沖縄の基地問題で、環境破壊を阻止し自然を愛し人類を愛し、止めよう戦争への道、平和を訴えています。自分の戦争体験を証言したり「東京の高校生平和ゼミ」や「東京の高校生平和のつどい」の世話人として高校生の活動を支援しています |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと  | 私は上京後都外に出たことがなかったので、千葉県野田市のキッコーマン工場見学は勉強になりお土産もいただいて満足でした  |
|                                 | ②嬉しかったこと  | 卒業式で短大の卒業生代表として答辞を終え卒業証書を手にした時は2年間の苦労がみのり涙がにじみました  |
|                                 | ③つらかったこと  | 調理実習のカッポー着は義姉からもらいましたが、外部（工場、病院、保険所等）の実習は白衣着用でした。私は白衣を買うお金を兄に無心できなくて親友（旧姓 K.M.さん）と実習日がずれて都合よくお借りする事が出来ました  |
|                                 | ④悲しかったこと  | 卒業前に帝国ホテルで洋食のテーブルマナーの講習がありました。費用が高価で欠席しました。クラスで欠席者は私1人だったと思います。就職後、ホテルで和、洋のテーブルマナーの講習を受け、生徒に指導しました。また退職後、ピースボートの世界一周の船旅の自主企画で洋食のテーブルマナーを指導しましたが、そのつど学生時代の悲しかった事が思い出されました |
| 12. 他の先生の思い出                    | 担任の村上先生の調理実習は素材を大事に廃棄物を少なく合理的な有難い御指導を受け今日でも実践しています  |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 青木先生の生活信条「愛情、勤勉、聡明」の精神を継承するようお願い致します  |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | お若いうちにより多くを吸収し卒業後も何か資格を取ってほしい   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 水曜講演のご指導を賜りまして有難く感謝申し上げます。生活信条のお教えを常に心がけ自分なりに努力しております。心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌   |  |

別紙：

このアンケートのおかげで青木先生のご尊顔や自分自身の青春時代のあんなこと、こんなことが懐かしく蘇って参りました。思えば貧乏学生でしたが、戦時中の一秒後の生死に脅えていた三か月の体験と水曜講演の心の糧のおかげでのり切れたと思います。

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養）卒  |
| 氏名   | （無記名）  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自らの通学の便（付属高校から計5年間）6時台の汽車（混雑）で弁当持参。親（母）は大変だったと思う   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 旧制女学校が併設中学で卒業となり、担任だった（東京女子専門の卒業生）先生に勧められて高校に  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女でも自立出来るものを身につけること   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 優しく歯切れのよい、わかりやすい。御容姿からも包容力が感じられた。それまでの「先生」の印象とは違い、学生の立場まで降りてこられて、学長と云う権威的なものは感じられなかった  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | <p>① 老稚園。教授の先生方がエプロンを着て帽子（子供用）をかぶり肩カバンをして並んで壇上に入場し、助手の先生が先生となって園児たちとの楽しいやりとり。満場大喝采</p> <p>② 夏休みに自宅に届いた暑中見舞。水彩で浅間山の絵を描かれたお葉書。学長先生から1枚1枚お手書きされたものを戴き親も驚きました</p> <p>③ 十条駅からの通学路が出来ることになり、校門を作るに当たり、夏休みが終わって上京する際に、学生それぞれの土地から石を1つずつ持ってくるように、と。校門の礎石にしたいとのこと。埋め込まれたのが出来ましたが、今はないとのこと</p> |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 常吉先生の栄養学教室に属しておりましたが、助手であられた石山先生が、夏休みが終わる前に一人で教室のまわりの雑草をきれいに刈られ、新学期に集まった皆が顔を見合わせました。そんな所に学園の信条が表われたのだと思います。玉井先生は良い方を奥様に選ばれたと話したものです  |

|  |   |
|--|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 具体的なことは浮かびませんが、卒業後短期間中学校の教職につきましたが（高校の時間講師も）教える立場で愛情やら優しさを口にしていたように思います |
| 11. 学生生活の思い出   | 楽しかったこと：<br>・箱根の寮での共同生活は楽しかった<br>・学生祭。栄養についての（当時は食べられるものがあればよい）展示作品づくり  |
| 12. 他の先生の思い出   | 三木先生から私に結婚のお世話をしたいと話があり驚きました  |
| 別紙：<br>「突然の母校からのアンケートに驚きました。なにせ77歳。レンガ造りの暗い校舎の明るい青春がよみがえり、青木先生や当時の先生方などなつかしいことです。母校に帰る日の最後の会に出席出来ず年をとりました。機会がありましたら一度お尋ねしたいですが、どのような母校になったのか、時折いただく通信で想像しております。御発展の程、祈念しております」 |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | I. Tさん<br>(写真8枚寄贈)   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 特に大変なことはありませんでした。古い兵舎の寮生活は多人数の部屋で各地の人とおつき合ひでき、今も交流があり楽しかったです                                   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母が家政大学の前身である東京女子専門学校卒であったため  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 何となく東京の大学へ行きたかったこと。児童栄養だったが、4年制にすればよかったと思いました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 残念ながら覚えていません。夢中だった気がします  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 今こうして（アンケートの依頼文中で）書いていただくと、「そうだったのか」と改めて感銘をうけますが、水曜講演のことはあまり記憶になく、すみません。もう一度読ませていただき糧にしたいと思います |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 今、「愛情、信頼、感謝」をキーワードにしています。これは主人と二人、又は職場、保護者にも伝えて日々生活しています                                       |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 思い出は、寮生活であったと思います（一部屋に10人以上。全国各地から来た人との交流。特に四国地方の方が多く、卒50年のホームカミングデーで逢い、昔をなつかしみました。そのうちの1人とは年賀状交流を続けています |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 山下俊郎先生。講義内容は忘れませんでした。発達心理学でした  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 昔は「良妻賢母」ということでしたが、やはり女性としての優しさ、思いやり、勤勉、努力、知恵を育てる素敵な大学でありますように  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 上に記した通りで、地道に探究し悔いのない大学生生活を送って下さい。どんな方向に進むかは、私自身もわからなかったですから。その時々を真剣に生きることでしょうか                           |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 優しくて包容力のある本当に尊敬できる先生にお会いできて、幸せでした。水曜講演の記述は参考にさせていただきます   |

別紙：（追加説明文、写真コピー、経営されている幼稚園の写真）

今59年前を思い出し非常に懐かしい気持ちでいっぱいです。当時は写真も少なかったですが、セピア色になってしまった当時のものが何枚かありましたのでスキャナーで取り込みプリントしてみましたのでお送りします。水曜講演は忘れたと記入しましたが、まだなかった時期だったのでしょうか？まったく記憶にないということは不思議です。青木誠四郎先生といえば、包容力のある温かいお人柄と安心感は今になっても消えることのない素晴らしい方で、たまたま「写真をとる？」とおっしゃってくださって、皆がウキウキとしていたのを忘れることができません。このような写真があったことは本当に幸せのことでした。（以下、写真の説明が続く）

- ・青木先生と山下俊郎先生と学生寮の仲間です。前列青木先生の隣に座っているのが私です。キャンプファイヤーのは後列左から3人目です。
- ・大きいのは昭和26年4月7日 短大入学記念ですが、くしくも青木学長先生のすぐ後ろ右にいます。今見ると、偶然ですが、いつもお近くにいさせてくださったのか、なんて感慨にふけています。
- ・その他の2年間の寮生活の仲間です。当時は兵舎の跡の窓のない広い部屋に、一部屋14人くらいで生活していました。1年に2回、部屋替えがあるので大勢の友達が出来ましたが、やはり最初に一緒だった人達が一番印象に残り、現在も交流している人がおります。鹿児島県が3人と東北その他でした。



教室もアチコチ点在していました。森の中のように、夜ひとりでは寂しい所でした。日曜日には都内へ、くりだしていったり、お菓子を買ってきて食べたり、食事当番の時は自分達の部屋の分が多くて、今日ほどの部屋が当番かわかるような状態でしたが、楽しかった思い出です。当時新幹線もなく普通列車でしたが、群馬が一番近い方でしたので、時々家に帰ったりしていました。

9年前、卒業後50年の「カミングデイ」に参加させていただきました。皆で古い所をみつけて歩きましたが、今は立派になり、なかなかみつきりませんでした。いただいた2年間でしたが、多感の年齢、よい経験をさせていただいたと思っています。

半世紀も過ぎた今ですが、学生さん方、どんな道に進むかはわかりませんが、一日一日を真剣に努力して悔いのない生活を送ってほしいと心から願っています。自分自身、偶然が重なっているのか運命なのか、よくわからなくなりましたが、もうすぐ78歳という年齢と健康と仕事に恵まれ、幸せに過ごし感謝と努力の日々です。関根先生の自己紹介を見させていただきうれしかったです。

私は終戦の年、小学校6年生で受験し県立T女学校へ入学、その3年後、学制改革で高等学校になったために6年間の生活をしました。長く伝統のある勤勉な校風の中での一貫教育を受けたのち、母の母校である（東京女子専門学校）家政大に入学、当時は短大が多かったのでここで卒業。母は昔からの念願であった「自分の学校」をつくりたいと、「G高等家政女学校」として15年間ほど、洋裁、和裁の学校を経営していました。私は卒業後、G大付属幼稚園へ就職。3年間の勤務、その後、「家政女学校」も高等学校が多くなったために昭和36年、幼稚園（S幼稚園）を併設して現在にいたっています。それからは私の出番が多くなりました。2年間の「児童栄養学科」では単位が足りなかったために玉川大学の通信教育で単位をとり、免許取得し、車の免許をとりバスの運転、その間に保育、自分の子育てと、30代、40代、50代は夢中だったように思います。少し落ち着いてきた60代は、タイプライター、ワープロ、パソコン教室と変化しました。勉強でも何でも「人のあとについていくより、人の先にするほうが疲れないよ」と言われ、いつも先へ先へと進もう、と思っています。今は園のホームページを更新しています。「よくその年でね」と言われながらも「居場所と出番」のあるのがいいんだよ、と皆にいいながら毎日を楽しんでいきます。若い人との面接や話しは苦手、説明には自分で作った資料や写真をプロジェクターを使って説明し、毎日デジカメを下げた園児の写真を撮り、まだ歩ける幸せを大事にしつつ、朝の7時から夕方5時頃までは勤務しています。時間が足りない足りないと思いながら。すぐ近くに自宅があり2世帯同居6人家族での生活にも感謝。これらもすべては皆様のおかげとおもっています。幸いに現在268名の園児がいます。少し多すぎると思うのですが、なかなか難しい問題もあります。青木学長先生の思い出も過去となり、資料もなくすみませんでした。



「短大入学記念」 (昭和26年4月7日)



「寮生活の仲間」

～ 上記写真、昭和28年短大卒(児童栄養A) I. T様提供

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（児童栄養B）卒   |  |
| 氏名   | U. Hさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活なので食事が不足でした   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 故三木先生が疎開をして富良野に在住の折、当時私は道立A高三年生で、突然お手紙をいただいた。その中に校風が気に入り伝統のある本校にひかれた   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | アメリカ等の前途をみると、日本にも保健所が出来るだろうと考え、栄養士と教員の資格を取りたかった。保健所に9年勤務した   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生、26年11月28日（勉学への精進）<br>2年生、27年1月23日（生活を創る）                                 |
|  | ②内容  | 自分を立派にしようとするならば、自身が自分の生活を大切にすること   |
|  | ③感銘を受けた点   | 私は入学時より目標があったので、自分が取得する免許に自信のもてるものでなければ他人を教育することはできないので、自身をみがく事が大切だという点に感銘した |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ゆっくりと、やさしい口調で諭すように話された   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 学校の勉強、保健所や乳児院又東大での栄養実験、教育実習等々、日々忙しく過ごしたので、又生きることに精一杯の時代でしたから上記の様な「母の日」「クリスマスカード」などありません。学生祭はしましたが、栄養室の説明に忙しかった   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 私は寮生だったので舎監の三木テイ先生は厳しく、その生活信条は「礼儀正しく、愛情・勤勉・聡明」で包まれている感じでした   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私は市民教育で（栄養学）食生活の講師も務めて参りましたが、聞いて下さる人を愛する事から一番大切な事は、相手にわかる易しい言葉で話すように、そしていばらないように心掛けました。これは青木先生、三木先生の教えが生かされたのでしょ |  |

|                                |   |                             |
|--------------------------------|---|-----------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ①楽しかったこと                                | 寮生活を共に過ごした友と今も交流がある事        |
|                                | ②嬉しかったこと                                | 栄養士の国家試験に合格(家政大学で一人だった)     |
|                                | ③つらかったこと                                | 寮は寒くて火鉢の生活がつらかった事           |
|                                | ④悲しかったこと                                | 父が大手術で働けなくなり奨学資金(育英会の)を受けた事 |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 和裁が苦手な裕を全部ほどかされた事。半泣きで仕上げやっとならした        |                             |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 職業婦人として免許を取り、実力をつける事                    |                             |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 生きるのに厳しい時代になりました。目標を持って自己の免許の実力をみがくことです |                             |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 努力しております                                |                             |

|  |   |                              |
|--|---|------------------------------|
| 卒業年  | 昭和28年：短大(被服A)卒  |                              |
| 氏名   | S. Kさん  |                              |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私自身は大変だと云う思いはありませんでした。娘を一人上京させてくれた家族は種々大変だったと思います(経済的或いは安全面で)       |                              |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 祖母の知り合いの方が山下俊郎先生をご存じで、山下先生が女子教育にはとても良い学校だからと推進して下さいました              |                              |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 大層な希望や夢を持ってなかったと思います(今考えれば勿体ない)。18年間離れなかった田舎から兎に角広く世の中を見たいだけ思っていました |                              |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 昭和26年4月から28年2月迄講演を受けたこととなります |

|                                 |  |   |
|---------------------------------|--|---|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ②内容  | しかし水曜講演そのものを、申し訳ありませんが覚えていません。然し(送ってもらった講演)リストの中でいくらか思い出しました                                    |
|                                 | ③感銘を受けた点   | 服装に厳しいところがありましたが、27年4月に、第一に清潔に、簡素な美、心の美しさ等を説かれた事を思い出します   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 青木先生の青年心理学を受講していましたが、お話はユーモアがあって解り易い言葉で語り掛ける様なお話振りでした                                |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 卒業の時だったと思いますが、青木学長を先頭に教授の方達が「老稚園」の出し物をなさいましたが、転げる程笑ったのを覚えています                      | ② アルバムを改めて開いて見ましたが、クリスマスの行事に学長先生を囲んで皆楽しそうに写っています。常に学生と一緒にいらした感じがあり、学長先生は単なる教育ではなく、薫育をされたのだと思います |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 寮生活でいきなり20畳の部屋に14人が一緒に寝起きた事。先輩方がよく新入生の面倒を見て下さった事。厳しい舎監の先生の下でしたが、寮生活の中にも生活信条があったと思います |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 短大2年間の短い期間ではありましたが、学長先生を始め諸先生に教えを受けられた事を感謝しております                                     |   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 今は楽しかった事しか思い出しません  |   |
| 12. 他の先生の思い出                    | 被服科ですので、和、洋裁共実技の授業は非常に厳しかった。羽織の裏で接ぎ目の糸一筋分が合わないとお返しが出ました。然しその厳しさのお蔭で実技の腕は磨かれました       |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 本学で教育を受けた事を誇りに思って生活してほしい   |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 思春期の2年間、青木学長先生のお人柄に触れる事が出来て本当に良かった。感謝の気持ちをお伝えしたい                                     |   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服A）卒   |   |
| 氏名   | K. Hさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は東京出身で恵まれておりましたが上京された方はその当時は寮があり、そこに生活する方が多く、しかしミシンなど使うのに十分でなく、私の家でミシンを使い作品を仕上げた方が多くいらっしゃいました |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 私は父のすすめで（青木誠四郎先生が学長ということで）受験しました。当時は児童心理学の山下先生にもあこがれておりました                                     |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自分の好きな事をし、お友達も出来、先生とも仙石原の寮でのびのびと過ごしたり、これからの自分の生き方が素直に明るくのびていく様で心が明るくなりました                      |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | ただ新しいお友達とここでの学生生活が始まるのだという思いで一杯で内容はおぼえておりませんが、この学長先生が父の尊敬している先生だと一生懸命お話を聞いていたことは事実です           |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ① 内容   | (送ってもらった)水曜講演リストを拝見して改めて何十年前の学生生活を思い出し、学長先生のおだやかな人柄と、断片的なお言葉を思い出しています   |
|  | ② 感銘を受けた点  | 何時までも心をおだやかに。でも目的をもって事にあたり、うまくいかない時もあまり自分自身をせめないで、心をやわらかくしていなさい   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | いつもおだやかなお顔で一寸かすれた声でした。当時は林の中に教室があり、林の中で学長先生にお会いすると「どうですか、楽しくやっていますか。あーそうお」とお声をかけていただいたこともあります  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ①  | いつの講演の時か、もう忘れましたが、私が心に感じて、いまも心掛けていることがたくさんあります。自分が今している事に対しては忍耐と努力をもって集中してやる事。たとえそれが自分の思う様にならない時には、心をまずおだやかにしておさえ、そしてまた別の考え方、方法を改めて求めて事をなすとげる様に |
|  | ②  | 一年一年の経験、努力したことが、人間のよい成長となり、20代、30代・・・とその年なりのおだやかなよい顔をつくる。その年に合ったよい顔はその人の心をあらわす、と  |

|                                 |   |   |
|---------------------------------|---|---|
| 8. その他の行事に関する思い出                | ③ 自己をもつことはよいが、それを誰にでも押し通すことはいけない。自己の中にも他人の自己を少し受け入れ、人からも友達からも愛されるおだやかな女性になる様に   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 学長先生の生活信条ですが、当時この学校で生徒にばかりでなく働く方々にもやさしい方が多く、私が縫い物などで肩がすごくはって貧血で校門の所で倒れたことがありました。その時門番のおじさんに肩をもんでいただいたり、少し休ませていただき帰宅しました。今も肩や背中がはるとその時のことを思い出します   |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 「愛情」と申しましても、いろいろな場合に大切なことと思います。子供を育てる時も「まず話を聞く」、こうした事から大人になり、社会にあつていろいろな折、「まず人の話を聞く」ことを大切にしてきました。そのためよその方から「人の話をよく聞いて相談にのってくれるから」と信頼されたり、主人の海外勤務でいろいろ大変な思いもしましたが、語学力の努力、いつも笑顔で・・・こうして改めて考えてみますと皆青木先生の教育目的が私の体に入っているのを感じます |   |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと  | 私は陸上の選手でグラウンド一杯走りまわったこと                           |
|                                 | ②思い出  | 学園祭の準備で夜8時頃まで学校にいて帰宅する時、校門から十条の駅まで暗く、お友達と走って帰ったこと |
|                                 | ③思い出  | 林の中の所々にパン屋さんがあつて、そのパン屋さんとおしゃべりしながらパンを買ったこと        |
| 12. 他の先生の思い出                    | 私の受け持ちの先生、木曾山先生とご一緒に仙石原の寮に行き、お夕食のあとすぐに「甘いようかん」を召し上がったので皆でおどろいてお夕食がすんだばかりなのに、と申しますと、「歳をとるとこういうものなの」とおっしゃり、今の私が木曾山先生と同じことをしています   |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 私の近くにも昔の渡辺学園を卒業した方、最近入学・卒業した方がいらっしゃいます。その方達は皆、家政大の生徒であることを喜んでいらっしゃいます   |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 「自己中心にならないこと」。私達の頃は、家庭的な雰囲気です学生生活をすごしました。時代と共にいわゆる普通の大学生にならず、目上の人、友達の話など、自分の中に一応入れ、その上で物事を考える様にしてほしい  |   |

|   |   |
|---|---|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 先生のお言葉を時折思い出しては、自分自身を修正し、二人の息子にも30代、40代・・・といい顔の男性になりなさい、と伝えております（心をやわらかく持つこと） |
| <p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私自身は戦中戦後で学校制度も六・三・三と変わり、入学した中高とも違う学校に入学・卒業という状態でいつも中途半端でした。その様な折、青木誠四郎先生のいらっしゃるいい大学があるからと父のすすめで受験し、充実した二年間をよいお友達にも恵まれて卒業しました。私の姉はやはり父のすすめで羽仁もと子先生の自由学園に通園しましたが、私には青木誠四郎先生という素晴らしいお考えの理念をお持ちの先生がいらっしゃる家政大学を・・・というこで受験し合格し本当に幸せだったと思います。</li> <li>・青木先生の水曜講演も、この表を改めて拝見しますと受講していない時も多く勿体なかったように思います。しかしこの講演に限らず先生と折にふれてのお話として、「心を下向きにし心を閉じてはいけないということ。お友だちとのいきちがい、勉強・研究でのつまづき、家庭の中で・・・、子育ての中で・・・、自分が大人になった時、どの様な困難にぶつかった時にも、心を下向きに閉じてはいけない。その顔を鏡でみてごらん。その顔からは何の解決も生まれない。つまり忍耐と努力といつも明るい心で、明るい顔で一歩前に出てみよう、その結果は必ず時間がかかっても良い方に事がむかっていく。そうすればまわりにいい人が集まり自分の力以上の何かが生まれる・・・」と。</li> <li>・関根先生がお書きになりました文中に「戦後間もない時期で施設、設備は不十分であったかも知れませんが、精神的には本学園の黄金時代であった」との文を拝見し、本当にこの二行の文がああ当時の青木先生を中心とした学校の環境、雰囲気、生徒の様子を見事に表していると改めて当時の学生であった私を思い出し、涙が浮かんでまいります。</li> <li>・あれから永年経て教育制度も変わり、子供達も恵まれた環境に育ち、昔の事を持ち出しでもむずかしいと思いますが、偏差値に左右される受験、何もかも平等・・・と。現代においても自分の立場で出来るだけの心の持ち方、暖かさ、心の成長に必ず大切なものがあるはず。機械にふりまわされる生活とそれにつけて心のゆとりが失われる生活。生活にも心にもゆとりが生まれるにはどうしたらよいでしょう。</li> </ul> |   |



|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服A）卒   |  |
| 氏名   | N. Yさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 過去は美しい。苦労はあったかも知れないが、勉強、技術を学ぶのは最高の場であった。感謝のみ。寮の大部屋で友人も集い、遠く離れた土佐から娘の将来を思ってくれた、信じてくれた両親を思うが、将来に希望を持っている娘を見て喜んでいたと思う     |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 地元の女子大より、伝統のある技術を学ぶことであった両親の考えが大切なことで、当時としては「家庭科を学ぶ事に賛成。約束は2年間だよ」この言葉は私も合意して上京した。家庭科の担任のすすめ、「青木学長、教授陣の説明があった（すばらしい）」   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家庭科の好きな私は信じて上京。家庭に入ってもよし、職業として自立してもよし・・・と漠然と上京入学したと思う。未熟なままの娘の感性はここで育った  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | こまかい事は正直云っておぼえていません。戦後のやや落ち着いた時代の女子教育の流れ、愛情に満ちたりた御訓示があったと思います。入学後、水曜講演で更に深く理解された                                       |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 沢山ありますが、私の老化のためお答えしにくいです。すべてですから。青木学長の理想に輝いている時代のお話ですから、全生徒私語ひとつなく吸収して聞く思い出深い事。2年生の頃、27年4月。「真の美しさ」 |
|  | ②内容  | 簡素な美、人の心の美しさなどの内容。街で出会った着飾った娘が、破れ障子の家へ帰って行った（例）。現在私は毎年障子を張りかえる時に、この客観的に話されたお言葉が耳に残っています            |
|  | ③感銘を受けた点   | 戦後日本社会が落ち着き、ぜいたくに流れ世の中が変わりつつある時代。私は当時の世の中を見つめて、戦時中の節約の教育を受けた者として疑問を持ち始めていたと思います                    |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 壇上の机にリラックスされて、椅子に腰かけた姿勢。対話的でおだやか。押しつけではなく、人の道を具体的に客観的に、そして芯のある、考えさせられる内容。何ひとつ反発する内容はなかった。若き脳へ只々吸い取り紙に吸い取らして頂いた思い出ばかりです |  |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 8. その他の行事に関する思い出                | <p>① 寮生活も楽しく助け合った。技術面で伝統の和裁の苦勞をした事。諸先生方は2年間の内に4年間のカリキュラムを教えようとしていたと思う。「おなおし」有名な言葉。夜間1室だけ寮の中で宿題に追われて頑張った。お陰様で技術は上達した</p> <p>② 寂しさ等、故郷の事は申し訳なくも考える事はなかったと思う。クリスマスイブは緑の木立ちの空間で、寮生全員でフォークダンスをして楽しく、友好を暖めた事。理論だけでなく実践的に人間同志学び合う精神を身体でおぼえた事(勿論、サンタクロースは学長であった)</p> <p>③ 私の感性は、脳のゼロ地点で柔らかい時に、人生のあるべき姿、常識を耕し、種をまいて下さった人間形成の元であったと信じます。芯は強く、表面はおだやかに、温かく、相手の身になる様に…。自然に身体の中にそそぎこまして下さった。今もこの性格は根づいている</p> |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 先輩の方々やさしい説明、案内にぬくもりがあり不安は全くなかった  |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 教育は十年、二十年後に現われるものがあると知りました。戦後の教育のみの年令と、前と後と環境から来る感受性は異なると思います。只私はこのアンケートを通じて自分の人生そのものを振り返る事が出来ました。関根先生、有難うございました。偉大な環境の中、アンケートのお蔭で、自分の人生は進んで来たのだと今気付きました(再確認です)。青木先生の水曜講演、御人柄は鮮明で、感謝のみです   |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと   | 箱根の寮へクラス全員で過ごした事(楽しかった)  |
|                                 | ②嬉しかったこと   | 2年間の学園で学んだ事で、そのまま、希望の就職(力もそのままついていた)。高校へ採用して頂き、3年間楽しい教員生活へと進めたこと。その後、義務教育へと希望で変わり(合計28年間の教職歴を持つ)生がいのある人生が出来ました |
| 12. 他の先生の思い出                    | 何のイベントだったか忘れましたが、教授陣が幼児の服装に変装して、幼稚園の童謡で踊り、なごみました。すべてのベテランの教授に教えを頂き、有難うございました。高校普通科より入学した私は和裁に苦勞しました。厳しい「おなおし」。今は感謝です。力となっています  |  |

|  |  |
|--|--|
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | (下記「別紙」参照)   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 今の世の変わりようにうろたえている私、書けません。女子は強くなった。インターネットの時代。世の若い者の求める事に变化してほしい。しかし本校の持つ伝統とモットーはいつの世も変わらない |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 18才~20才の脳の柔らかい時に種をまいて下さって、感性を養って下さった事。お蔭様でよき人生でした。有難うございました                                |
| <p>別紙：（地元新聞への投稿記事コピーと説明文、「奥さま使節」での渡米に関する文等が同封）</p> <p>アンケートにより若き日の自分を振り返る事ができました。技術以外に「感性」を育てて頂いた学園であったと深く感謝する次第でございます。私の年代は戦中の教育を受け、戦後の荒廃を体感し、そして急速な民主教育の流れで男女共学となる変革の時代をたどっています。思えば思考力は混乱し、未熟な先の見えない社会でした。只一つ漠然と女性は自立を考える時代だ、と云う思いを持ち上京にふみきったと思います。出逢いは人生にとって大きな事。学園を奨めて下さる先生の御意見に従い、青木学長、諸先生方に技術のみならず、感性と云う、形には見えないが人生の射程を指導して頂いたと、人間教育の愛を育んで下さったと厚く感謝いたします。愛情・勤勉・聡明のモットーの元、水曜講演は私語ひとつなく、吸取紙の様に全員が一言、一言、耳を傾け正にしーんとした一時間余りの真剣な時間を頂いたと思います。学長は客観的な見解を例にあげながら、押しつけでもなく、本質を暖かく、温かく、私共にそそいで下さいました。青年心理学者としての熟知されたものでした。御人格の高さは今も鮮明に臉に残っております。私は幸せな人生だったと感謝いたします。アンケートのお蔭で、この思いを書く事ができました。青木誠四郎先生、有難うございました。合掌。</p> <p>次に、地元新聞「あけぼの」への投稿文のコピーに関するご本人による解説文の一部を紹介：「卒業して以来、若い頃より地元新聞（高知新聞）の「あけぼの」主婦の自由投稿欄に出し始めて、現在まで楽しみの作業は続いております。昔は文章苦手の私にとっては不思議に思うものでした。日常生活の中、突然、瞬間的に感性をゆさぶられるのです。同時にテーマと文が数分間に出来上がると云うタッチの文なのです。（学生生活の中で自然に培って頂いた）潜在している意識に刺激が振れた時でしょう。謎は解けた思いです。二年間は短いですが、長さは問題ではないと思います。水曜講演の根底は同じです。大切な時期を見逃さないで、と学生の皆様にお伝えしたい」。</p> <p>更に、米国の独立200年（1976年）に当たる建国200年記念行事の「ジョンソン奥様使節」で渡米したことの解説の最後に次の文章あり：「水曜講演の根底にある内容はすべて感性を養い、後に世の中に本気でいきがいを求める大切な教えだと再確認致しました」</p> |  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服A）卒   |  |
| 氏名   | A. Yさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 千葉県の成田に近い農村からの通学でしたので、駅まで出るのに4キロ程歩き汽車で2時間、約3時間余りの通学で苦労いたしました                                 |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母の時代には田舎からの進学は叶えられなかったもので、母のすすめが大きかった  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教師になることを希望していた   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 暖かいお人柄に接し、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」についてお話をお聞きし、深い感銘を受けました  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 水曜講演は毎回期待を持って出席しておりました                                 |
|  | ②内容  | 人と人とのかかわりについて具体的にお話下さいました                              |
|  | ③感銘を受けた点   | 人を愛することの喜びを知れ、愛されることの喜びを知れ等と、人と人の関わり方等、講演頂き、深い感銘を受けました |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 先生は余り大きな声ではなく、おだやかな口調でいつもにこやかで、知らず知らずお話の中に引きこまれてしまうようでした                                     |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 私は「青年心理学」の授業を受けておりましたが、試験の時、及第点を取得したのがクラスで6名だったので、そのひとりだったと、おほめを頂いたこと忘れられません                 |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 田舎育ちの私は、不安いっぱい入学したのですが、学園の生活信条のように教授と学生が親しみ合い、和やかに日々生活を送る事が出来、幸運な学生生活でした。のちに姪と娘も家政大を卒業しました   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 31年間の教職を経て後、保護司や民生児童委員、青少年問題協議委員等をさせて頂き、現在は薬物乱用防止指導委員として活動しておりますが、これはみな先生から受けた御指導の賜物と思っております |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 全国から集った友達と毎日学習出来ることが何より楽しく嬉しい事でした                      |

|                                |   |                        |
|--------------------------------|---|------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ②つらかったこと  | 少々つらかったことは、通学に時間がかかった事 |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 木曾山かね先生が担任でした。大変きびしい先生でしたが、愛と忍耐と努力について学びました。私が先生からいただいたお言葉は「愛と真実の人となれ」でした |                        |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 卒業生が社会に出て如何に活躍できるかが問題です。社会に出て、真に役立つ人の育成に期待します                             |                        |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 真面目に努力し、頑張った事は必ず生かされます。希望を持って学生生活を楽しんで欲しいと思います                            |                        |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 先生から受けた沢山の教えは私の人生の道しるべでした、と   |                        |

別紙：(藍綬褒章記事コピー、藍綬褒章状写真1葉同封)

同封の藍綬褒章記事には「24年間、更生を手助け」という見出しのもと、「問題を起こした人たちが立ち直ってくれることが最高の喜び」と語るA.Yさんのプロフィールと更生した人達に関する嬉しい体験談が掲載されている

以下、私信の内容：

昭和28年3月短大の被服科を卒業いたしました。この頃の学校は広い敷地の木立の中に旧陸軍の造兵廠の煉瓦建の1教室程度の建物が点在しており、そこで授業を受けました。先の見えない苦しい戦争が終結し、安心して授業を受けられることの幸せを感じた時代でした。多くの先生方の授業を受けましたが、中でも、当時の学長青木誠四郎先生の水曜講演と青年心理学の授業の中で「愛と誠の心=つくそうとする心」について伺い、感動し心に深く刻み込まれました。又、担任の木曾山かね先生からは「愛と真実の人となれ」との教えを頂き、私の生きる道しるべとして現在に至っております。私は教師になることが夢でしたから東京都の教職員採用試験を受け、思い切って僻地を希望し、伊豆七島の三宅島のT中学校に赴任しました。当時は船便が週1回の離島でしたので、珍しく若い女教師が赴任して来たと地域揚げての大歓迎を受けました。公私共に新鮮で思い出深い日々を過ごすことが出来、現在も当時の生徒達との交流は頻繁に続いております。昭和30年には郷里の千葉県に戻り、地元の中学校に勤め、島で培った人々とのふれ合いの大切さと学級経営や部活動、生徒指導に活かしました。特に家庭的に恵まれない生徒や成績の振るわない生徒に力を入れ、校内で教育相談等も手がけました。教職に生甲斐を感じており、定年まで頑張るつもりでしたが、家庭の都合で昭和59年、31年間の教員生活にピリオドを打ち辞任しました。その後、家庭には入りましたが、地元の役所から、民生・児童委員や母子福祉推進委員、青少年問題協議会委員等々、いくつかの役職を頂き活動しておりましたところ、更に昭和60年7月法務大臣より保護司の拝命を受けました。

罪を犯した人達との接触ははじめてなので、その接し方も全く分らず戸惑うことばかりでした。只々夢中で向い合い、1人1人の境遇と気持ちを理解してあげることに心がけ、試行錯誤を繰り返して乍ら務めました。対象者が更生の道を歩むには、安定した職につくことが大切であり、また少年達には進路の方向づけも考えてあげなければなりません。そのためには協力雇用主の確保や学校の情報収集にも努めました。多い時には7、8名も担当しており、少年院や刑務所への面会に北から南まで随分歩きました。対象者が涙を流して喜ぶ姿こそ更生に繋がるものと信じつつ…。秋田の刑務所を訪ねた時、所長さんから「家庭や周囲から見放された彼等にとって保護司の面会は大きな喜びであり、更生の力になります」とのお言葉を頂き印象に残りました。私の扱った百余名の対象者の中にはいろいろありましたが、特に印象に残ったのは、獄中結婚を2組させたことです。どちらも立派に更生し、社会復帰後は更生保護に力を貸してくれています。またこの地域には、暴走族が暴力団と組み、他の地区の暴走族と度々抗争事件を起こし住民を不安がらせていたことがあり、その暴走族のリーダー達と話し合いを持ち、百数十名のグループを解散に追い込んだこともありました。今思えば暴力団からねらわれたり命がけの苦勞でした。こんな時いつも青木誠四郎先生からのお言葉「愛と誠の心」に励まされ活動できました。以上のようなことがあったからか、平成19年3月27日内閣府で開催された「青少年の非行問題について」と題しての有識者会議に全国で5万名余りの保護司の中から3名選ばれ、その1人として経験談を発表させて頂きました。万引から傷害、窃盗、薬物乱用、性犯罪、殺人と多岐にわたり担当しましたが、再犯者を余り出さなかったことは嬉しいことでした。平成19年11月に思いもかけぬ法務大臣表彰を受けることに成りました。また平成21年春の叙勲（5月）の際には、凶らずも藍綬褒章を拝受することになり、只々驚きでした。凶らずも、この榮譽に浴することになりましたのは、長い歳月いつも東京家政大学の卒業生であることを誇りに「愛と誠の心＝つくそうとする心」を胸に活動して来た結果と感謝いたしております。これからも、この榮譽ある彰に恥じぬよう老体ではありますが精進したいと思っております。

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | M. Mさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時女性が大学進学することが珍しいことで、しかも田舎から上京しての入学は精神的にも経済的にも不安でした。幸いなことに兄と二人で下宿して通学することで両親の許しが出て実現しました |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 尊敬していた高校の家庭科の先生が渡辺学園を卒業されていたので進められて入学しました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時、技術の面で他の学校よりすぐれていると聞いて決めました  |

|  |   |
|--|---|
| 1 1. 学生生活の思い出  | 実習の面でかなり厳しく、時間内に仕上げる。決められた作品がきちんと出来ない場合のお直しが何回でも返ってくるので大変でした。今ではその厳しさが良かったと思っています |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 教職を希望する人には、技術面はもとより、知識、特に人間性（思いやり）を希望します  |
| 別紙：<br>半世紀も昔のことになるので、申し分けございませんが、内容については思い出せません。でも豊かな心、素直な心、知的な美しさ等はからだにしみついております。青木先生のやさしいお顔、お姿は目にやきついております。今でも思い出します。2年間受けた御指導のお蔭で現在まで社会生活を無事に豊かに過ごすことが出来たこと感謝しています。 |   |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服科A）卒<br>29,30年の2年間、松井和哥教授の助手を勤める                                 |   |
| 氏名   | F. Nさん<br>(カード7枚寄贈)   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 絶対的にすべての面で物資不足の時代。故に、今思えば、物を大切にしていました。かけがえのない体験をさせて頂いたと、なつかしく又感謝の気持ちかわいて来ます |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母が昔、渡辺裁縫女学校と云うのがあったけど今どうなっているか、兄が調べて校名の変更を知る。それ位、母の時代の女性は、「ワタナベ」は有名でした      |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京の学校へ行くようになったら、世界が広がるだろうとワクワクしました。高校と違い好きなやりたい学科に集中出来るようになる事               |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 「日本中から入学して来られた皆様、御両親、御家族の愛につつまれて、今日があることを忘れぬように」                            |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年の時。夏休み終わった頃と思う。定かではない   |
|  | ②内容   | インパクトの強い言葉、いつでも思い出させる言葉、"easy going"。人間はいつでも安易な方へと考える、即ち努力をおしむ。それは最も悪い人間の性癖です。常に前向きで努力を忘れぬ人間になりなさい、と。努力をする人間と云うより女性になりなさい |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ③感銘を受けた点  | これ以上の言葉はない、完結で世界に通用する言葉。人間はたやすく出来る方へ、つまり出来る限りなまけ心がつきまとう。その方向へ流れる事をのぞむものである、と |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 雰囲気暖かめで人なつこい。いつでも肩に手をかけて話しかける。気安く話しかけて下さる。(学生数が少なかった事もよかったと思う。非常に家族的でした)  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① カーネーションとクリスマスカード。ずっととっておいたのですが・・・。一枚一枚手書きで、その頃に学長室を訪れるといつでも作業中でした   |  |
|                                 | ② 何よりも、今は亡き母が感心していました。沢山の学生さんがいる事だろうに、すごい先生だね、と云っていました  |  |
|                                 | ③ 学年末のキャンプファイヤーが楽しく忘れられぬ思い出です。学長先生と云う感じではなく、思いやりの心が全身にみなぎっていた感じ。きびしい一面もあり、叱る時は、びしっとおっしゃる。女性としてのプライドを持て。今は考えられない、女はズボンをはくものではない、ズボン禁止。体調をくずした時、診断書を出して着用した |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 学長先生は特にこれからの女性と云う事について、いつも“女性らしくあれ”を中心にお話されていたように思います   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 先生の教え共々、家政大の卒業生は良き家庭人であれ、と。そして家政大で学んだ事は後年、家庭の主婦としてすべて日常の中で生きた学びであったと述懐しています   |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと   | 夏休みに入る前のキャンプファイヤー。学長先生を中心に全教師が童心にかえって暗くなる迄歌いおどり、心を一つにした事                     |
|                                 | ②つらかったこと  | つらかった思い出はない  |
|                                 | ③悲しかったこと  | 当時、中高の校長先生(土屋先生)が朝礼時に倒れ、教室の一部が病室になり、(動かない状態で)昇天された事                          |
| 12. 他の先生の思い出                    | 直々に授業を受けられた事。今では考えられない。一般心理学、家族関係です。当時の心理学は、児童・青年・教育・一般心理学と分れ、現代と大きな差   |  |



|  |   |
|--|---|
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 人数が多すぎて昔のようににはなりえない事ですが、何年歳を重ねようと家政大の卒業生は女性らしく行儀がよいとの評価を受けられ続けられること |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 出発点が女性の裁縫学校ですから、現在軽く見られる（裁縫）、人間が存在する限り必要なものです                       |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | おなつかしゅうございます。私の事覚えて下さっていらっしゃるでしょうか。やはり水曜講演ですね。家政大学は発展しておりますよ！       |
| <p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学制改革により、専門学校が大学に昇格され短大が設置され、草分け時代でしたので、学生数が少なく、学部に至っては1学部10名位。短大ですら30人クラスが3クラス。先生も友人も他のクラスの人さえ全部覚えられる位の人数でした。</li> <li>・ したがって、非常に家族的。学長先生が学長室に座っていらっしゃる、と云うより常に私達の中へ入って来て下さる先生でした。他の学校は知りませんが、とにかく「家族的」な暖かさに満たされた特別なものがありました。</li> <li>・ 助手2年間務めさせて頂きましたおかげで、職員旅行（軽井沢の別荘・那須岳と）の折、4～5名に分けて先生のお部屋に招かれて閑談をさせて頂いた。そのようにいつも身近に呼んで私達の声聞いて下さいました。</li> <li>・ 授業で遅刻して、のこのこ入って来る学生にはきびしく注意され、そうでない私達も背すじがのびる位でした。</li> <li>・ 私事、自分の出身校に誇りを持っていますが、他の学校を見る事も一つの生き方として現在、聖心女子大学カトリック研究所主催の講座に通い始めて14年が過ぎました。宗教（キリスト教）、哲学、その他ですが、いつも思っていました、学長先生はクリスチャンではなかったかと。学びの中で先生のお話と思ひ当たるふしが多く、いつも思っていました。</li> <li>・ 水曜講演では、当時助手を務めておりました吉野美恵子（旧姓古宮）氏が貴重な原稿をお持ちで「若い女性（ひと）」青木誠四郎著を自費出版され、一部、私も手元に頂きました。</li> <li>・ 現在、マンモス校的な感があるのですが、学長先生の意志は受け継がれていると思った事。娘の子供が受験の時、まわりのお母様方の評判で、家政大学は躰が行きとどいて、とても良いという事で子供を入れていると云う人が多いのよ、と聞かされました。因みに孫はキリスト教の学校へ行っているのですが・・・。</li> </ul> |   |
| <p>後日、私信を受領。青木先生からのカーネーションカードとクリスマスカードの計6通同封：「先般、青木前学長先生に関するお知らせを頂きました一卒業生でございます。その節のアンケートには、充分、主旨にお答え出来たか心もとない悔恨が残ります。私事、78歳の高齢に達し身の整理の中から貴重ななつかしい学長先生からのカードが出て参りました。記憶とは、不確かなもので、処分してしまったと思ひ込んでおりました。</p>  |   |

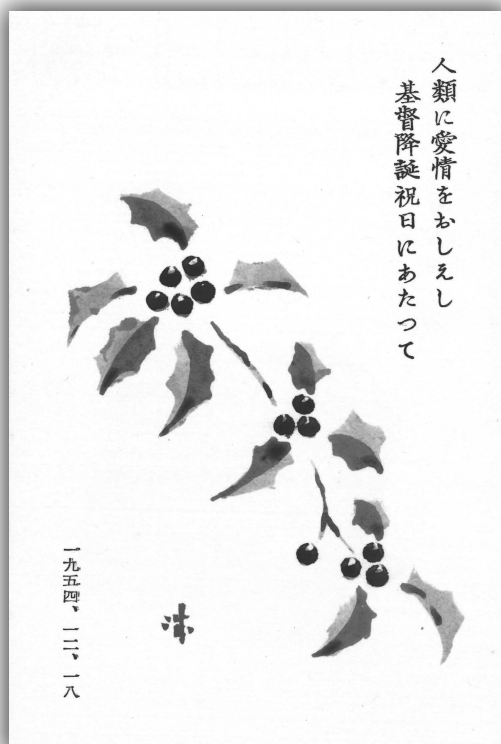
この夢の様な学長先生との再会のような感動を覚えました。この先私の保存は限界、故に関根先生にお預けする事が最良と思いお送りさせて頂く事にした次第でございます」  
～後略～



「クリスマスカード(1951)」



「クリスマスカード(1952)」



「クリスマスカード(1954)」



「クリスマスカード(1955)」

～ 上記カード、昭和28年短大卒(被服A) F. N様提供

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | K. Tさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時自宅から学割で30時間要しました。帰省上京が大変でした（北海道）                                  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 卒業生の先輩にすばらしい先生がいらっしゃいました  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 地方の世間知らずの私が少しでも社会の役に立ち自立出来る女性になりたいと、又父の仕事の手伝いが出来たらと考えました            |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 当時の日記に書いてありましたが、家の建て替え時、解体の方の手違いで成績表もすべて失ってしまい残念ながら覚えておりません         |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年生 6月、10月   |
|  | ②内容   | 「困難に対する心」忍耐と努力といつも明るい希望をもって一歩前へ出る。それ以外には道がない。このような言葉でした              |
|  | ③感銘を受けた点  | 卒業後はしっかり仕事をしようと、あの頃が人生で一番希望にみちていました                                  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ほんの少し低音で魅力的なお声。時には「それはだな」と云う男らしいお言葉もお使いになりました                       |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ①   | クリスマスカードとカーネーションのカード。色あせてはいますが、いまだ額に入れて大切に持っております。キャンプファイヤーも楽しい思い出です |
|  | ②   | 卒業の時、青木学長ご夫妻から茶話会にお招き頂き、クラス全員、この愛情を身をもって実現された事に深い感銘をおぼえ大変嬉しゅうございました  |
|  | ③   | 北海道に講演にいらっしゃいました折、卒業生数名とお食事を共にさせて頂きました。時々写真を見てなつかしく思います              |
| 9. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか             | 成人してから出合った人達に対して自分に出来る事は努力して来たつもりです。豊かな人達より自分を必要としている人達との接点が多い人生でした |  |
| 10. 学生生活の思い出                               | 青木学長の心理学の答案を返して頂いた時、「頑張ったね」と云って下さった時、嬉しゅうございました                     |  |

|  |  |
|--|--|
| 1 1. 他の先生の思い出  | 寄宿舎におりました時、私が三木テイ先生のまねをしておりましたら、後ろにいらして聞いていらしたのも知らず、とても恥ずかしい思いをしました。後日、卒業パーティーで三木先生が私に、自分のまねをして下さい、と皆さんの前で云われた時、赤面の至りでした |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 以前雑誌で下記の事が書かれていました。「板橋には女子大が他にもあるが、名門東京家政大学の女性はやはり品格がある」と云うような言葉でした。すばらしい先生方のたまものです。よろしくお願い申し上げます                        |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | プライドをもって行動して頂きたいと思います  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 心からの感謝の気持ちをお伝えしたく思います  |
| 別紙：<br>この度の企画 感謝致します。定年退職後何十年振りに板橋方面へ散歩に娘と出かけました。すっかり様変わりし感慨無量でございました。 |  |

|                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 卒業年                           | 昭和28年：短大（被服科B）卒           |
| 氏名                            | K. Kさん                    |
| 3. 本学を選んだ理由                   | 祖母が卒業生であったから              |
| 4. 入学のときの希望や夢                 | 夢も希望もない                   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等 | やさしい声、やさしい口調、やさしい表情       |
| 8. その他の行事に関する思い出              | キャンプファイヤー                 |
| 1 1. 学生生活の思い出                 | 寮生活の夕食で、アジの塩焼きが出たことが悲しかった |
| 1 2. 他の先生の思い出                 | 東大から来られた英語の先生の授業が楽しかった    |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと    | 可愛がっていただいたことに感謝します        |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服B）卒   |   |
| 氏名   | Y. Tさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は通学生でした。朝早く夜遅くで、宿題を仕上げるのが大変でした  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験に英語がなかったので</li> <li>・母（明治30年生れ）が本郷にあった学校に通っていて母及び先生に勧められて</li> </ul>   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 「ただ何となく」で申し訳ございません   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | <p>大変申し訳ないのですが入学式の時のお話は思い出せません。ただ、卒業式の時のお話は一部ですがおぼえています。「女子の大学、短大（専門学校は除いて）の進学率が、今年やっと3%になりました。それもやっと、やっとですよ、3%になりました。100人のうちの3人ですよ。皆さま方はその100人の中の3人です。きょう、この卒業証書を持って帰られたら、ご両親、ご家族の皆さんに、よくよく感謝の言葉を伝えて下さい」とお話なさいました。話は違うのですが、後年、消費税が3%（今は5%ですが）かかるとなった時、人々はエーそんなにたくさんとられるの・・・と声を大きくしました。戴く3%はちょっぴりわずかと感じ、出す3%はそんなにたくさんと思う人の心に、卒業式の3%を思い出します</p> |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | やや太めで、温厚な笑顔を絶やさない、優しい眼差しの先生でした   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 学園祭と思いますが、先生方が総出で「老稚園」の舞台を見せて下さったのを思い出します  |   |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | ①楽しかったこと   | 通学生は通学生同士仲良くなり、遊園地や埼玉県の方迄、よく連れて行っていただき楽しかったです |
|  | ②つらかったこと   | 大学1年間は板橋駅から歩くので40分はかかり往復が大変でした                |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 「色彩学」だったと思います。もも色、うすもも色、鮭の色、サーモンピンクなど8つ位あったと思います。描いてくるようにと宿題が出ました。私は絵心もなく途方にくれました  |   |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | この色が出せたら私は一流の画家になれます・・・そんな思いで描いていったのを懐かしく思い出します。先生はどんなお顔で私の宿題をご覧になったのでしょうかね |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 今の学生さんはずっとしっかりした考えを持っていてうらやましいです  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 感謝の心を忘れずに、責任ある態度で青春を謳歌してください  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 今、それなりに幸せに、元気に暮らしております。ありがとうございます   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服B）卒  |
| 氏名   | E. Tさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 何にもなくて大変でしたが楽しかった   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 東京に出たかった。友人のお母様の出身校でしたから  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | （以下、先生の思い出一般）恰幅のよい先生でした。青年心理学の先生で有名でした。その先生が学長先生で自慢でした。やさしく、だれにでも好かれる先生で、卒業の時などスナップ写真に入れて下さいました |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | 楽しい思い出ばかりです。何もない時代でしたら勉強出来るだけでも有難いと思ってました   |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | ずい分昔の事で忘れましたが、皆立派な先生でした。その頃の事が土台になってると思います  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | 有難うございました。楽しかったです。もっとしっかり勉強しておけばよかったと思います   |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭28年：短大（被服B）卒   |   |
| 氏名   | N. Eさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 上京・帰郷の際、約24時間の満員の列車内。まだ急行しかありませんでした   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家政大の「学校案内パンフレット」によって、高校の先生に家政科の実績を知らされた。又青木誠四郎学長の心理学の知名度が高い事も知りました                                |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家政科の教育を受けたい位でした   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 水曜講演のリストを読んで内容は全く思い出せませんが、大きな宝を頂いたのだと思いました。しかし、あの講堂から清々しい感動をもって出て行ったことははっきりと頭に描き出されます。水曜講演は楽しみでした |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 柔らかい声、穏やかな口調、優しく温かい表情で、殆ど学生の方を向いて話されました   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① キャンプファイヤーで、青木先生から進んで「『花』を歌いましょう」と言われて、「春のうららの隅田川・・・」とみんな合唱しました                                  |   |
|  | ② 入学当初、三木テイ寮監長先生と各室を訪問され、一同に出身県など尋ねられました  |   |
|  | ③ 学長室で模造紙に線を引く、わずかな作業をしました。青木先生が飴玉の入った大きな丸缶を「どうぞ」と差し出されました。一つ頂くと「もう一つとりなさい」と。私は学長と飴が全く想像外で緊張しました  |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 楽しい年間行事が学校や寮生活に組まれていた事  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 教職に就きましたが、「愛情」の教えはしっかり自覚していたと思います   |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 寮生活です。一部屋に13人でした。北海道から九州まで、方言、食物、生活の様子など知りました |

|                                |  |   |
|--------------------------------|--|---|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ②嬉しかったこと   | 寮生活で室長（上級生）さんの温かい態度と、友達が仲良く過ごせた事。教え合った事です |
|                                | ③つらかったこと   | つらかった事、悲しかった事は特にありませんでした                  |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 長谷川秀子先生は学生一人ひとりによく気を付けて、声かけをしてくださいました                        |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 私達の在学当時からは随分拡大発展しています。「愛情・勤勉・聡明」の生活信条は継続してほしいです              |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 家政大学で学ぶ事に誇りをもって下さい   |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 私の人生の中で家政大で教育を受けた二年間は私達の磨かれる素晴らしいものでした。今も感謝致しております。有難うございました |   |

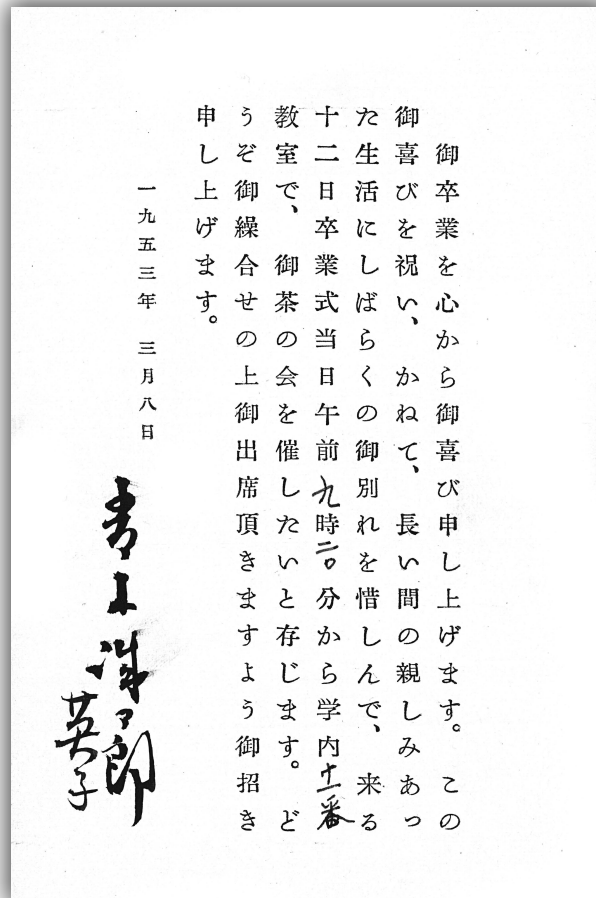
|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服B）卒  |
| 氏名   | K. Iさん（写真3枚、青木先生からの葉書8枚、クリスマスカード3枚、他先生からの葉書9枚寄贈）  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | <p>「私は、昭和7年生まれ、戦時一色に彩られた少女時代を過ごしました。手旗信号、モールス信号。また、竹槍、なぎなたなど訓練され、軍歌を歌い、慰問袋を送り、勤労奉仕に明け暮れ。それが一転。英語を習い、西洋の美術、音楽学習へと急転。26年入学当時の東京、大学の状況は今でも目に焼きついています。新宿駅付近には露店が連なり、傷痍軍人がアコーディオンを弾き、物乞いを。大学の周囲には鉄条網が張られ、入り口には青い目のMPが立ち、地方では見られない光景に、戦争に負けたのだの実感がわきました。</p> <p>私の進学上京は、はじめて親元を離れての生活。叔母の下宿。そして電車通学。何もかもが新しいこと。しかも、高校では家庭科を選択しなかったのに被服科に。初めのうちは心身ともに本当に大変でした」</p> |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 進学された高校の先輩の方々を聞き歩き、また、母が渡辺裁縫女学校出身の先生に教えられたこと、また、学長先生が長野県松本市御出身と言うことで、父が決めました  |



|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 4. 入学のときの希望や夢                 | 私の郷里での女子の大学進学は極めて少ない時代でしたし、入学を認めてくれた親や、進学のために熱心に教育して下さった先生方や、下宿させてくれた叔父、叔母のことなど考えて、努力を誓いました。同時に、都会での青春をと言う憧れもありました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容              | 私は何か夢中で、学長先生のお言葉、今思い出せないのですが、同席の父が非常に感激していたこと、今でも鮮明に私の記憶にあります   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演       | 60年ほど前のこと、記憶が定かではないのですが、27年1月、2月、4月のお話。「一つの生活をもゆるがせにしない。他を愛する生活。人の美しさは、心の美しさから発する」こうした青木先生のお言葉は、先生の信条、信仰心からなのか、幾度かのお話の中で常に私の心に響くものでした   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等 | <p>(以下、同封の写真やお便りなどの説明も兼ねた回答)</p> <p>写真3枚、先生からのお便り11枚同封します。</p> <p>写真1は、26年4月入学式、被服科Bクラス父母と共に。前列向かって右から担当の石田清子先生。前列右から2番目私。最上段右から5番目父。</p> <p>写真2は、27年5月5日、緑窓会卒業生母校に帰る日。3列目向かって右から6番目が私です。恐らくホームカミングデーの最初の企画かと思います？</p> <p>写真3は、27年8月、長野県諏訪市の旅館で。夏休み帰省中連絡があり、岡谷、諏訪の学生と親が先生を囲んで、昼食をとり、先生からの学校での教育方針などのお話しや、親子との楽しい会話の時間もたれました。向かって右2列目の端が私。向かって左から3番目が母です。</p> <p>28年卒業後の夏休みにも諏訪で同様の会がありました。先生はご予定が変わりお見えにはなられませんでした。学長先生とか、心理学の学者とか、そういった堅苦しいものは無く、アットホームな雰囲気。よく学長室に招かれ、お茶を頂いたり、帰郷しても親子で直接お話しあいができたり、大学とはこういうものなのかと思ったりもしました。(子供たちが大学生となり、中々そういうことは無いということ分りましたが。)</p> <p>(同封の) お便りは私の手紙には必ず先生からの温かいお言葉のご返信ありました。30年7月の、私の結婚へのお祝いのお葉書が最後です</p> |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 私は卒業後二年で、結婚しました。夫の両親と共に住み、三人の子育て。今振り返れば、大変なこともあったと思いますが、私のような、若い嫁、妻に理解ある指導の手を差し伸べて頂き、結婚後55年となりました。私からの愛と、それ以上に私の周りの方からの愛。それによって、現在の私があると心から感謝しております。そうした思いになることは、何と言っても、若い吸収力旺盛な時期の教えの浸透によるものなのでしょう   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 楽しかったこと：<br>北から南、全国の友が出来たこと。付属の中学で教育実習（編み物）で教えることの楽しさ、難しさを経験しました  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 9枚のお葉書同封します。<br>畑井新喜司先生—ご丁寧な返書を頂きました<br>石田清子先生—和裁の教え厳しく、他人にやってもらったものが見抜かれて「お直し」をさせられる友もいました。私は叔母に手伝ってもらった時など、ドキドキしていたことを思い出します（卒業前に他校に転任されました）<br>松垣静子先生—手芸。先生のお部屋に伺い、個人的にも教えて頂きました<br>宮下孝雄先生—色彩学。風景に対しての見方などを。お葉書にもスケッチが<br>東 昇先生—被服原料学を教えて頂きました<br>村上ハルヨ先生—調理実習を教えて頂きました<br>青木みん先生—染色を教えて頂きました<br>阿部よし於先生—「楽しい休み明け、九月にはいやでも上京」とのお便り<br>先生方の個性あるお便り、必ずご返書があったこと、誠に嬉しいことでした |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 先生と生徒の関係が濃密な学園。それには、あまり、規模大きな大学で、多くの学科、多くの生徒はどうかなと思います。経営の点では、問題あることでしょうか。夏休みに生徒が手紙を出せば、すぐに先生からもご返事のある関係。若い私はどんなにか、教えられたことか   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 人を思いやり、外見よりも、心を磨くことお忘れなく。新しい時代に即応しての新しい自分の生活改善に意欲的にお進み下さい   |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| <p>15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと</p> | <p>若い多感な時代に、対人関係で人への接し方、他を愛すことのありようを、お教え下さり、そのこと私の心に染み込み、その後の私の人生の歩み方となりましたこと、ありがとうございます。ただ、私には先生への感謝の思いのみであります、と御礼を申し上げます</p> |
|----------------------------------|--|



「青木先生ご夫妻からの卒業ティーパーティへの招待状」

～ 上記招待状、昭和28年短大卒（被服B）K. I様提供

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒   |
| 氏名   | T. Mさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学ではなかったこと   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木先生の知人の進めによって   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | デザイナーの夢  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 細かいことは覚えておりませんが、はじめてのお話を聞き、良い学園に入れたのだと緊張しました                           |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 青木先生は、お背は高くはありませんでしたが、少し太めでいらっしゃって、近寄りがたいお姿でした。お声はお病気のためか嗄れておられました     |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 母の日のカーネーションのカードを戴き、郷里の母に感謝の言葉を書き添えて送りました。母はそのハガキを小さな額に入れていつまでも飾ってありました |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 他人を愛することができなければ自分自身も幸せにはなれないと思います                                      |
| 11. 学生生活の思い出                               | 家族と離れての寮生活でした。当時は大部屋に十数名が一緒の生活でした。大変でしたが人の立場を考えることも教えられたように思います        |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 「愛情、勤勉、聡明」の生活信条は大切にいただき、長い伝統のある学園の発展を念じています                            |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 卒業後、数十年が過ぎました。生きることは小さな努力の積み重ねかと思っております                                |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 二年間の学園生活ではありましたが、今までの私の生活の基礎となるものであった事をお話ししたいと思います                     |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒  |   |
| 氏名   | F. Aさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 思い出しますとあまりにも質素な寮生活でした（お部屋、食事など）。電話も無かったのでしょうか。家族との連絡は手紙のやりとりでした。寮にはミシンが無いため、被服室からミシンの頭だけを借りてきて、はずみ車を手でまわしながら宿題を致しました                      |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の洋裁の先生が自分の母校が良いからと学生祭に連れて行って下さったり進学を熱心に進めていただきました   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 1.教職課程をとりたい。2.将来良き家庭人になるための知識を身につけたかったからだと思います  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 具体的には覚えておりませんが、いつも本当にあたたかいものが伝わって来て、卒業後もずっと尊敬できる最高の先生だと思っております  |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | お声、語り口、表情。今でも忘れられません。ふっくらとした声、ソフトなお話しの仕方、目を細めながらいつもにこやかに慈愛のこもったお話し振りでした   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 手作りのクリスマスカードを学生全員に下さったこと、感激でした。今でも引き出しに大切にしまっております（たしか学長先生がサンタさんの服装で配った気がする）  |   |
|  | ② 田舎者の私。はじめてのキャンプファイアー（クリスマスの夜）。それはそれは楽しいものでした。事前にわら半紙の謄写版のクリスマスソングの歌詞が配られ、あかあかと燃える火のまわりを学生、先生方共に肩を組んで歌いおどり、忘れられない思い出です。それから讚美歌が大好きになりました |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 「むさし野の木立も深く・・・」とクラス会の度に口ずさみたくなります。大好きな校歌です。青木先生のお心がすべて含まれていて、お友達同志一つ心になれたような気がいたします   |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 楽しかったことはクリスマス会。お休みに友人と池袋・新宿などの町に出て23円のきつねうどんのおいしかったこと。尾道の友人のお家から鯛の浜焼き、生ガキ、ハッサク等が送られてきて最高においしかったこと |

|                                |          |  |
|--------------------------------|----------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ②つらかったこと | 洋裁和裁の宿題が多く、寮生なので親のお手伝いなどしてもらえないため、1人でがんばったことが結果、自分の身について現在の自分があると、それは感謝しております                    |
| 1 2. 他の先生の思い出                  |          | クラス担任の長谷川秀子先生のきびしかったこと。児童心理学の山下先生のやさしいお顔。三木テイ先生の家政学の講義の寮長としてのきびしさ。青木みん先生の染色、村上ハルヨ先生の調理実習の楽しかったこと |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         |          | 個性を生かして世の中で求められる人間の育成が大切かと思えます   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと |          | 愛情・聡明・勤勉を生活信条に、良き社会人、良き家庭人となってほしい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     |          | 「心きよらかに深い愛をもって進め」というような人生の指針を頂きました。本当に本当に感謝のみです。ありがとうございました                                      |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒   |
| 氏名   | O. Eさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時1年位は食料事情が悪く、食券がなければ街の食堂で食事出来ない状態で、寮の設備も悪く、一部屋に10人以上の人数でプライバシーもなく、食事が粗末でお腹が空いたのを覚えています                      |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 大学など行くと嫁の貰い手が無くなると言われた時代でした。もう少し身に着ける資格を欲しいと思っていた時、高校の家庭科の先生が熱心に進学を進めて下さり、両親も納得してくれたのです。その先生は家政大の卒業生であり先輩でした |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 最高学府で学ぶことの喜びと新しい世界を知ることの好奇心、東京の生活、友人との出会い等   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | あまり覚えていませんが、戦後本郷の東京女専の校舎が焼失し、第2造兵廠に移り、校舎もととのっていないけれど、これからは必ずもっと発展し設備が良くなるとは仰っていました。その中での勉学の意味と校訓についてのこと      |

|                                 |   |   |
|---------------------------------|---|---|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年生   |
|                                 | ②内容   | 学生の皆さんが人生とは、とか、将来の在り方とか考え思い悩んでいること。それは白昼夢のようなものだ。実際の社会、人間の生活は生易しいものではない、ということに仰言っていたと思います |
|                                 | ③感銘を受けた点  | でも、やはり教養を積むということはその人の人格、幅広い視野、考え方を養い、品格が自ずとついてくる、備わってくるのだということ                            |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 静かな口調、やや低音で聴き易い。右手をテーブルの端に置き目じりは下り気味。おだやかに説得力ありましたが、その頃から、のどに多少のしわがれがありました          |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 学生全員に手描きのカーネーションを描き、母の日に感謝の気持ちを書き送りなさいと言われ、今も保存しています                              |   |
|                                 | ② 校庭でのキャンプファイアー、皆で歌いゲームをした楽しい思い出があります。又クリスマス会の（学長が・・・）サンタクロースの格好で楽しかったこと。家庭的な雰囲気でした |   |
|                                 | ③ 緑の木立の中、レンガの校舎が散在していましたが、木もれ日の中を授業で教室を移りゆく学生達を見渡せる学長室の窓からきっと御覧になっていたことでしょう         |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 質素、和気あいあい、自然体で清潔。慈しみの心、謙虚であること  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 目先の事にとらわれず、広い視野で物を考える思いやり、やさしい心。学生時代のことが自信につながった                                    |   |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①嬉しかったこと  | 染色でバックを作り学生祭に展示されたこと。学生祭で自作のドレスでファッションショウに出場したこと  |
|                                 | ②楽しかったこと  | 箱根の乙女峠のハイキング  |
|                                 | ③つらかったこと  | 大島の旅行で船酔いしたのはつらいことでした   |

|                                |          |   |
|--------------------------------|----------|---|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ④悲しかったこと | 音楽室が空いていたのでピアノを弾いておりましたら三輪先生におこられたこと。科と名前を言え、と言われ、なぜだと思ひ悲しかった                               |
| 1 2. 他の先生の思い出                  |          | 早稲田大学の法学部の外岡先生の講義は楽しく豪快で笑いがありました。たった2年の短大などは上級の花嫁修業だ、とか仰言ったりして。宮下先生も素敵な芸術家でした。卒論で御自宅にも伺いました |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         |          | 学校の先生の資格を取ることも大事ですが、生活の基礎となる衣・食・住の知を深め、良き日の本の母になることも大切ではないかと思ひます。国の力になります                   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと |          | 与えられたこの勉学の期間を悔いなく努力し励んでほしい。学生生活を楽しみ良き友人を得てほしい   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     |          | 学生時代、思い描いていた理想や夢、悩みなど今考えれば白昼夢のようであったかも知れないけれど、それも又、人生の一ページなのでしょう。生きるという事は大変ですし、人生あつという間です   |

別紙：

東京の大学という夢を描いて来て見れば、レンガ造りの兵舎のような埃り臭い校舎とも言えない建物が木立の中に点々とありました。入学式の時の青木学長の熱情溢れる訓示に感動し、しっかりやろうと言うような気持ちになりました。やはり箱物がどうであろうと、全国から若々しい輝く瞳を持った向学心に燃えた人々のエネルギーが集まると雰囲気は変わるものです。武蔵野の木立の中、行き交う友、楽しげな笑い声、鳥のさえずり、血が通って来たのです。一年生の前期、寮に入っていたので、当時食糧難でお腹が空いたのを覚えています。お風呂にも助教授の先生方とも皆一緒に入り恥ずかしかったのを思い出します。でも東北地方の生徒の実家からお米を、北海道の方からは鮭を頂き、皆で焼いて食べたこと、一人一帖位の割合の寮で12人位同室で点呼の時、代返しても判らないこと等あつたりと懐かしく思ひます。

二年生の頃だいぶ慣れて下校の時、友と三人、青木学長と高橋先生と門の所で出会い、話しながら十条の駅まで行き、そのまま池袋で下りて喫茶店で御馳走になったのも懐かしい思い出です。高橋先生が「学長はすぐゲンをかつぐから、夜寝れなくなるんじゃないですか」なんて仰言って、学校のことに關してのことらしいのですが、将来の学校のことを心配なさってられるようでした。これからどんどん学校も大きくなると言われていましたが、「母校へ帰る日」、久し降りの学校は見違える程、立派になり、学生もあふれるように大勢で、発展し変わった様子に誇りに思ひましたが、思い出の場所はどこにもありませんでした。なんとなく淋しく思つたりもしました。家庭的で温かい校風は今も健在だと思ひますが、青木学長の面影は心の奥深く、あたたかに私達を愛し、いつくしんで下さつたという想いで今も胸が熱くなります。素晴らしい方でした。



|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒   |   |
| 氏名   | Y. Sさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 衣・食・住（寮）に不自由さはあったが、当然と。鹿児島から一日がかりで上京した時の大変さ。すべて懐かしくよい経験が出来、幸でした            |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 一年先輩（高校時）にいろいろ様子を伺って、両親も友人とも受験でき賛成。その当時の大学の様子がある程度知り得ていて何よりもよかった           |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 先の見えにくい戦後時のこと、よりよい女性のあり方を求めているようです   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 内容ははっきりしませんが、温かな先生のお心にふれさせていただいたこと   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 入学して早々の頃（26年入学）   |
|  | ②内容  | 時間の使い方を学んだ。親元をはなれた私に一番に課せられたことでしたから。生活（寮）を大切に、他人に迷惑をかけないように |
|  | ③感銘を受けた点   | 学生生活を誇らしく語られる為に、他の学びの場でも多くの感銘を受けました                         |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつも笑みをたたえ、穏やかな口調で話され、一同を温かく包んでおられた。心地よい場でした                                |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日のカードをいただき、先生の自画の花、可愛いカーネーションにふれて遠くにいる母（鹿児島）を思い浮かべる好機となった              |   |
|  | ② クリスマスカードも先生の描かれたひいらぎの葉が印象的で、サンタさんになられて大きな袋から取り出されたその一枚一枚のカードにふれ幸せな私たちでした |   |
|  | ③ あの校庭内の一隅でのキャンプファイアー。私たちの輪に入って山下先生共々手をつなぎ合い歌をうたったシーン。青木先生のやさしさにふれた        |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 寮生活の中で先輩を立て、友人共々共同生活のあり様が育って、トラブルもなく楽しくすごせたことは学長先生、三木先生方のご指導のおかげでした        |   |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか   | 私は教職に就くことはなく、母校の生活信条をモットーに今日まですごしてきたように思います。遠方の学友と、同窓会（愛媛で35年、鹿児島で11年）のみなさまとふれあい、心が豊かになるきっかけともなり得ました                  |   |
| 11. 学生生活の思い出  | ①楽しかったこと  | クラスの一同と鎌倉、箱根に。金時山登山。伊豆にてあんこ踊りを楽しんだ。寮生と外出。文化祭で先輩とふれ合った |
|   | ②嬉しかったこと  | 卒後、クラスメートと会う。後輩に恵まれた                                  |
|   | ③つらかったこと  | 被服の製作に辛い思いをした。寒い校舎の試験勉強                               |
| 12. 他の先生の思い出  | 担任の佐々木先生に正確さをきびしく学ぶ。三木先生は厳しい存在でしたが、長崎の女子高へ推薦いただくもお応え出来ませんでした。寮のお風呂で背を洗ってあげたこともあり                                      |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 母校の教授の名前がテレビ・新聞に登場して、そのご活躍ぶりにふれる。卒業した後、居住地の同窓の輪に加わっていただく、その温かな絆にふれ合えること   |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | ある程度、恵まれた学生生活をお送りでしょう。その環境の中で許すかぎりエンジョイされて、良い思い出をたくさん作って、学んで、心に豊かなものを持って会社へ巣立ってほしい。出来上がった学風を大切に、よりよい人間関係が保てるように努めて下さい |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 私の心に先生の思いは生きています、と。先生に出会えたことにいつまでも感謝してまいります、とお伝え申し上げるつもりです。当県の同窓の方々、温かいの方々です。前向きにふれ合えて幸せです、と。鹿児島より                    |   |
| 別紙：<br>五十七年も昔のことですが、青木先生のことをお偲びいたしつつ柔和なお顔が浮かんでまいります。やさしい学長さまでいらして不安いっぱい入学した私には大変ありがたい存在でございました。水曜講演懐かしゅうございます。私は、鹿児島県の志布志より一日がかりで上京。不自由なことも多かった中で、多くの師・友人に恵まれ、寮生活にもトラブルもなく温かな学風の中でいろいろと学ばせていただきました。短期間ながら貴重な体験に感謝しています。結婚した後、夫の仕事と都合で愛媛県に住むことになり、昭和39年より35年間、松山市にいらっしゃった友人（寮で同室でした方々と）又、先輩・後輩の方々との交流も得られ、楽しい同窓の集いには、心はいつも満たされてきました。 |   |   |

また、家政大の築かれた絆のすばらしさを実感してまいりました私。そして11年前には、その親しくしていただいていた同窓の方々との別れを惜しみ、当地へ移り住んでまた新たな出会いが待っていました。鹿児島県の同窓の輪に加わって、今又多くの恵みに触れています。外西支部長さまはじめお若い方々と母校を語り、共通の思いにも浸りつつ、進学を許してくれました親たち、お導き下さいました先生方の顔が蘇ってまいります。あのような時代でしたが、厳しい中で縫い上げ、被服科で得たことも多く、後々に役だっていました。そのクラスメートとも今尚、交流が続いておりますことも幸に存じています。この機会に母校の誇り、ありがたみを実感できて、関根先生はじめ関係者の方々に心より感謝申し上げます。ここに青木先生の偉大さにふれながら母校のすばらしい伝統が立派に受け継がれてまいりますよう祈念して止みません。

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒  |
| 氏名   | T. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 通学時間約2時間のため（朝2時間、夕方2時間）   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家庭科の先生の紹介   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 勉強のできるうれしさ  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 2年生 青年心理学の講義  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 温和な態度で説明されておりました。レポートのみで単位をいただいたように覚えています   |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | つらかったこと：<br>一番つらいと思った事は自分の技術の未熟さのため皆様に追いつく事が大変でした   |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 長谷川先生は非常に厳格で何回もなおされました。そのため、学校教育にかかわっている時に、技術的に追いつかない生徒には放課後、何日にも残して指導しました。それは自分が下手だったので、生徒のくるしみが分かったからです |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 教育現場で他の先生方におとらないような多方面で活躍できるような教育をお願いします  |

|  |  |                                 |
|--|--|---------------------------------|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒   |                                 |
| 氏名   | F. Yさん   |                                 |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 食料事情のきびしさ  |                                 |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の教師が先輩であり、これからは何かを身につけていないと女性も時代から置いて行かれると進言がありました         |                                 |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 本校の伝統の技術を身につける事  |                                 |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生??                           |
|  | ②内容  | easy-goingについて                  |
|  | ③感銘を受けた点   | 易きに流されてはいけない                    |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 時々咳払いされ、合間に「エー」と云う言葉を入れて話されました                               |                                 |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日には、先生御自筆によるカーネーションの絵のハガキを一人ひとりに下さいまして本当に嬉しく思いました        |                                 |
|  | ② 夏休みのキャンプファイヤーなども忘れられない思い出です                                |                                 |
|  | ③ 学長室へ遊びに行き、助手の古宮先生をまじえて楽しいしゃべりをしました                         |                                 |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | ①楽しかったこと   | 田舎（秋田）から出て来ての学園生活は本当に満ちたりていました  |
|  | ②嬉しかったこと   | 先生の御自宅へ遊びに行った事                  |
|  | ③つらかったこと   | 寮生活で消燈のあった事（特に試験中は懐中電燈を机の上に置いて） |
|  | ④悲しかったこと   | 先生の訃報に接した時                      |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | コーラスを三輪先生？と共に早稲田の大隅講堂で発表した事。洋裁の長谷川先生に、「はい、お直し」と云われる度に落ち込みました |                                 |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 先生のお教えを守り、真面目に生きて来ました |
| <p>別紙：</p> <p>水曜講演は、今でもなつかしく胸がキュッとなるほどです。特に今でも時々夫と話をしますが、easy-goingのお話は私の強い衝げきを与えました。秋田から出て来て夢中で生活してまして、自分の事を省みる余裕もなく過ごして居りました。「人間は、ともすれば易きに流されやすいが、それでは自己の成長は無い。常に自分を高めるために努力してほしい」という云う内容だったと思うのですが、50年以上前の事なのではっきりとは記憶しておりませんが、“易きに流されるな”と云う事だけは座右の銘として生きて来た積りです。今度のアンケートで若い時の事がふつつつと思い出され、三番教室の前列に席を取って受講した事、又この度のことで昔の同級生と電話などで旧交をあたためたりしました。校舎は第二造兵廠の粗末な建物でしたが、私達には薔薇色の学園でした。現在の校舎はよくわかりませんが、学生達が実りある人生の糧として日々学ばれる事をお祈りいたします。</p> |                       |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒  |
| 氏名   | Y. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京まで急行で24時間かかった事。方言がつい出て恥ずかしかった事                            |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の家庭科の先生が家政大卒で、学園の話を聞いて、本学を選びました                           |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 高校の家庭科の先生になること  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 年は重ねたくありません。覚えていません。元気でアンケートに答えられるだけで幸せでございます               |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 2年間、講演聞きました。どの講演も身について、これまでの生活の中にかかれて来ました。感謝の気持ちでいっぱいでございます |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | ソフトな声、おだやかな口調、つい、話にひきこまれ、時間のすぎるのも忘れるほど                      |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① お忙しい毎日の生活の中で母の日のカーネーションカードをいただき、母に発送した時のよろこびは格別でした        |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 8. その他の行事に関する思い出                | ② キャンプファイアも一緒に楽しんでくださいました<br>③ 写真にも気軽に入って下さいました                 |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 放課後、管理人さんに、教室のかぎをかりて、勉強していました。めんどうがらずに気持ちよくかぎをかして下さいましたこと感謝してます |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 高校の先生になって、常に「愛情」を忘れずに教え子達にも接しました。73才になった最初の教え子達、今でも交流があります      |
| 11. 学生生活の思い出                    | 楽しかったこと：<br>1. 箱根金時山登山<br>2. 伊豆大島旅行<br>3. 寮生活                   |
| 12. 他の先生の思い出                    | 長谷川先生、「いつも身だしなみをきちんと」とおっしゃってました                                 |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 世界に羽ばたく学生を期待してます  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 学生の本分を忘れないで欲しい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 「先生に出会えたこと、ほんとうに幸せでございました」と申し上げたい                               |

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 卒業年                           | 昭和28年：短大（被服C）卒  |
| 氏名                            | K. Mさん  |
| 3. 本学を選んだ理由                   | 第二期新制校より  |
| 4. 入学のときの希望や夢                 | 明治生れの両親はこの大学を出て結婚してくれればの願いでしたから、良かったと思います。一男二女が居ります   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容              | 水曜講演（のリスト）を戴き、青木学長を偲びたいと思います                          |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等 | 青年心理学。恥ずかし乍ら、授業内容は忘れましたが、ユニークで、しかもそれを実践された愛のある大尊敬の方です |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 8. その他の行事に関する思い出                | <p>① 「母校に帰る日」という5月3日だったでしょうか、大変ユニークな日と思います</p> <p>② 学長が赤いサンタの服装で見えられ驚きました</p> <p>③ 卒業の日、あのまだ食糧不足の時に、サンドイッチを一人一人皿に、テーブルセッティングで祝って下さいました。今でも忘れられません。学長の自費だと思います</p>  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | リヤカーに自分の蔵書を持たせるのを見ました  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | これから結婚されるでしょうが、「スタートはチャブ台一つより始めよ」というのが心に残ります   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 私は勉強は好きでしたが、被服科へ入った為に毎晩裁縫に追われ12時前には寝られません故、退学しようと思いました。そこへ、青木学長より一通の葉書、「私は元気」と浅間山を書かれた絵。感激で、それから9月期試験勉強。でも間に合わず60点以下で、恥ずかし乍ら追試を受けました。追試後、2年卒業時には母に担任の先生が、よい成績です、と云っていました故、事務室に聞きました。86点で優等生とのこと、青木学長のあの絵葉書は宝で、永く箱に有ります |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 2年前、50年後に、私達短大生は母校に帰りました。涙がこぼれる程、青木学長の愛に、私も救われました。母校が増々の発展あれ、と切に希念申し上げます   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 50年前、青木学長という、青年心理学を教えられ実践なされたご立派な方が居られたことを伝えます   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | まさか私の卒業後すぐにお亡くなりになったとは！ 青木学長の愛に答えて生きたと思います   |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒  |   |
| 氏名   | C. Sさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 広島から東京へ上京する安芸号に乗って13時間の長い旅でした   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 伝統ある学校で恩師にすすめられた様な気がします   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教師になる夢でした   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年生。27年5月9日                                       |
|  | ②内容   | 母の日について。離れて寮生活をしているので母の日のお話を今でも思い出します             |
|  | ③感銘を受けた点  | 人間性の尊重を思い出しました                                    |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 大らかな学長先生を思い出します。お逢いしたら、どこから入学したの？ 優しい言葉でした                                  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 写真を出して見ますと校門の前で2、3人で写っています  |   |
|  | ② 父の様な気持で何でもお話しする事が出来ました  |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 60年近い前に卒業しましたが、寮での生活は青木学長先生、三木先生、その他の先生方の指導が如何に素晴らしかったかを思うと涙が出てきます。有難う存じました |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 愛情・勤勉・聡明の三つの言葉がこの年になって、初めて思う事ばかりです。孫達に教訓として伝えたいものです                         |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 箱根の寮で皆様方と床を一つにして話し込んだのを覚えています                     |
|  | ②他の思い出  | 沖縄、北海道あたりからこられた人はあまりにも遠いので帰省されないで寮で過ごされたのを思い出します。 |
| 12. 他の先生の思い出                               | 長谷川先生の被服の授業はきびしい中にもあたたかみがありました  |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 後続く家庭科の先生をたのしみをしています  |   |



|                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 社会に出て大いに活躍して戴きたいものです      |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 又学生に戻って水曜講演を始めから聞きたいと思えます |

|  |  |                        |
|--|--|------------------------|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒   |                        |
| 氏名   | O. Mさん   |                        |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 食糧事情も悪かったので、下宿せず、成田の田舎から片道2時間弱でしたが自宅通学でした。色々、学びたいので、苦労とは思いませんでした |                        |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 昔から、女性の教育に熱心だったから  |                        |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性の自立  |                        |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 田舎からの上京につき、まわりに気が行き、はっきりはおぼえていない                                 |                        |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 2年生で10月頃               |
|  | ②内容  | 困難に対する心                |
|  | ③感銘を受けた点   | 自分の人生は、自分で切りひらいて行くしかない |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とても誠実な方で、やさしくて、理想的な男性でした   |                        |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 自宅からの通学で時間的余裕がなく、寮生とも、交流がありませんでした                                |                        |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういふ点で感じ取りましたか            | 世の中を変えるのは女性だ。子供を生み育て、しっかりした家庭、国を作るための女性教育を実践された                  |                        |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 青木先生は勿論のこと、他の先生方の教えが実社会において、リーダー的な役割を実行できました事は、家政大に学んだ事を誇りに思います  |                        |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 被服科のため、作品を仕上げるため、遊びは出来ませんでした。アット言う間の2年間でした                   |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 男の先生達はやさしい先生が多く、女性の先生方は、とてもきびしい授業でした                         |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 世の中はまだまだ男性社会です。女性の聡明さで、この生き苦しい社会を変える、変えられるよう、女性の自立を希望したい     |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 現代は高学歴の女性でも、とても生きづらい時代です。自分の信念をもち、(生活信条)を常に頭の中に入れ、力強く、生きてほしい |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 若い時に先生にお逢い出来ました事は本当にありがたく、感謝のみです                             |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和28年：短大（被服C）卒                                 |  |
| 氏名   | H. Mさん<br>(新聞記事1枚寄贈)                           |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京出身でしたが、毎日満員電車の通学でした。地方出身の方が多く、とけ込む迄時間がかかりました |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木先生との御縁で、先生のお人柄にひかれて                          |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                                  | 二年生の五月   |
|  | ②内容  | 母の日について。「いとけなき頃より母の胸にすがりしわれ 今もなおわが胸に通うその思い 母よ 健やかにあれ 幸にあれ われひとすじに祈る」。水曜講演の学長のお言葉です |
|  | ③感銘を受けた点                                       | 親の愛、感謝   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とても静かにやさしい口調でした。水曜講演の時は学生達は前方の席を取り合っていました      |  |

|  |                                   |                                       |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 8. その他の行事に関する思い出   | ① 母の日の自筆のカード                      |                                       |
|  | ② キャンプファイヤー、フォーダンス                |                                       |
|  | ③ 母校に帰る日にやさしくむかえて頂いた事             |                                       |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 学長室への学生の出入りもにこやかに迎えて下さったのを覚えています  |                                       |
| 1 1. 学生生活の思い出  | ①楽しかったこと                          | キャンプファイヤー、フォークダンス。教室の周りの草取り等、楽しい思い出です |
|  | ②悲しかったこと                          | 卒業式のお別れの言葉は悲しかったです                    |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 誇りと自信を持って学生生活を送ってほしいです            |                                       |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 先生のお教えを守って今まで生活出来た幸せを御報告したいと思います。 |                                       |
| <p>別紙：(写真付き新聞記事同封)</p> <p>学長先生にはいつもやさしくお心にかけていただきまして、結婚式には仲人をお受け下さり、先生の「誠」の一字を頂いて長男に「誠一」と名付けました。あまりに早い御病氣、御逝去と悲しい出来事でした。今でも深く心に残る思い出ばかりです。</p> <p>(写真付き新聞記事) 朝日新聞 (年月日不詳) の「戦後60年 戦跡は語る」シリーズの9回目として「名残の赤れんが3棟」のタイトルで、元陸軍東京第二造兵廠跡の赤れんがを活用した生活科学研究所、ナースリールーム、学生寮の調理師らの控室の3施設を紹介。赤れんがの壁面の写真付き</p> |                                   |                                       |

## 昭和29年 短大卒業

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養A）卒                                     |
| 氏名   | T. Rさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 陸軍第二造兵廠跡の寄宿舍でお風呂も宿舎より下の方のある所迄行くのが大変だった               |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 実家が保育園していて保母になって手助けしたいと思ったから                         |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 学長先生のおっしゃった愛情勤勉聡明、まさにそのお言葉でした                        |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 感銘を受けた点：<br>お互いが他の人の心になってその人の心をいたわる気持ちをもっていきたい       |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 力のこもったわかりやすい時間がすぐ過ぎてしまい、人をひきつける力がおありだった              |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 同窓会盛岡で青木先生がいらしてくださり、やさしいお言葉をいただいた事をおぼえている          |
|  | ② どんな人にも公平に愛情をそそがれた事                                 |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | ① 試験のある時夜おそく迄玄関の椅子、机に向かって勉強した事が思い出されます               |
|  | ② 朝食の時にひるのパン（ジャム、バターつき）が出るのでそれを朝のうちに食べた事等楽しい思い出が多かった |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 英語の先生、授業でなく雑談が多く、一時間終わってしまう事もあった                     |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 善い伝統を、歴史をずっと守って、りっぱな家政大学にする事、期待します                   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | この時期しか勉学にいそしむことは無いのですから一生懸命やっていただきたい                 |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | 先生に御礼の言葉を申し上げたいと思います                                 |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | I. Sさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 下宿生活で学生寮に入ったがすぐ飛び出し、自分でさがし、二年間は難なく学生生活が続けられたと思います  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木学長のもとで心理学を学べると思ったから。入学前、高校での恩師で広島文理大の心理学の方から縁あって数学を学んだ時、青木学長のことを聞かされ、君がうらやましいとまで云われました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | とにかく心理学を勉強したかったから  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 或る日のこと、学長が私に「〇〇君、意外に背が低いんだね」と云われたことが忘れられません。私は大変チビです。横によほど背の丈の長い方がいたかも知れません  |
| 8. その他の行事に関する<br>思い出                       | 卒業論文を何人かの方と学長に学びました。私は「青年期の教師観」と云う研究題目でした。どうにか仕上げ、卒業間近に、学長と三木先生、高橋先生、私共数名で伊豆半島を当時タクシーで旅をしました。学長の友人宅と云われる陶器会社の社長の別荘で海を目の前に1千坪の芝生の庭園、みごとな別荘で一泊させて頂きました。その他ホテルで一泊し、今思えば大変お世話になり感激一杯です |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか    | 短大卒業後、幼稚園1年間、小学校8年間、中学校1年間、教職につき、その間大学で学んだことが根底に、勿論、学長の教えも大変影響があつてのことです。無事、務めることが出来ました   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 組の中で五人仲良しのグループが出来、現在その中の三人は私が上京した折、時々逢っています。良い友が出来たこと、一時期、彼が現れ、楽しい思い出、別れの悲しさを味わったこと。卒業後50年目のホームカミングデーに卒業後初めて母校へ行き、すごい発展ぶりにびっくりさせられました  |
| 12. 他の先生の思い出                               | 中国料理の先生。いつもチャイナ一服で、とてもすばらしかったです  |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること                  | 生活信条をしっかりと守り、夫々が有能な社会の一員となって、多くの場で活躍されますよう   |

|   |  |
|---|--|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 人様の役に立つ人間に育ってほしいです                       |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 学生時代の学長のお教えが私の人生に大きく影響し、支えになりましたことを感謝します |
| <p>別紙：</p> <p>青木学長とのなつかしい思い出：カーネーションの色紙を頂き、今も大切に持っています。卒業式の前日頃でしたか、学長御夫妻のパーティに招かれ、卒業生全員だったと思います。本当に家族的にお優しい学長先生でした。卒業後、私は九州へ帰り就職の道をさがしましたがなかなか見つからず学長へお手紙を出したりもしました。そんな折、高校時代の例の恩師が、K幼稚園へ紹介して下さい、教員生活の第一歩がはじまりました。今回は思いがけず学長先生のことに関していろいろ思い出させて頂き、本当に有難うございました。</p> |  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | H. Y   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 下宿の家族との折り合いが悪く今でも深くきずついています  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の担任教師がぜひ卒業した学校への希望でした  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 勉強がしたかった   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 穏やかで淀みない口調でした  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 入学早々、学長と校内の通路ですれちがった時、友と2人コチコチになっていました。その時の授業ですぐこの事を話題にされびっくりしました。「気をつかわずゆったりしなさい」と、これは50年たった今でも映画でも見る様に覚えています |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 青木先生の授業で今までにないおどろきや輝きがあった事は覚えています。自分の人生の変革があったことは事実です。すばらしい事でした  |

|  |   |
|--|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 18才から20才の2年間で今76才の人生の大きな基盤です。卒業後、愛知・長野の県境の山村で中学教師になりました。20才の教師に重い仕事でした。全力で努力しました  |
| 11. 学生生活の思い出   | 下宿の虎の門から通学しました。池袋の乗り替えのホームで痴漢に会いました。まばらな人達の見られている中を全力で逃げ反対ルートで登校しました。水曜講演のガラス戸を力いっぱい開け大勢の人の目も意識なく入室しました。誰にも話せない全身の表現でした。先生、皆さんには申し訳なく思います |
| 12. 他の先生の思い出   | 栄養学か化学の先生と校内を歩きながらカルシウムのお話をしました。自由に会話することは少ないことですのでよく覚えています   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 18才で入学時、40才くらいの方が勉強していました。そんな年令でよく入学したと思いますが、今76才でも近くだったら勉強したいと思います   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 強い体とゆるぎない心。勉強を受ける体は若い時が一番。図書館へ行くと宝物がいっぱいです  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 小・中・高で、子ども、生徒が好きという教師に出会えませんでした。青木先生の講義で新しい世界が開けた思いです   |
| <p>別紙：</p> <p>お手紙懐かしく戴きました。58年とはあまりにも長い時間でしたが青木先生の様子は思い出します（心理学という新しい学問に）。夏休みに愛知に帰ったころ、入学式のあと4カ月で全く変わった人になった程でした。2年とはあまりにも短い時間でした。父は103才で一昨年亡くなりましたが、今でももっと学校に行けなかった事が許せませんでした。</p> <p>東京はホームレスも暮らせたし、大金持風の人と一緒に生きている不思議な特別な国でした。下宿から15分もすれば日比谷公園や大使館風の建物がありました。日比谷で暴動があった事も思い出します。学校はほとんど出席したと思います。青木先生へは愛知と長野の県境の中学校へ勤務して生徒の事でお手紙を出したところ、ていねいなご返事を戴きました。学校の職員も青木先生の教科書で勉強した人もいて皆で青木先生の手紙を読みました。大切な手紙も青木先生の本も大火事にまきこまれ失いました。</p> <p>学校の勤務は忙しく教科も2つ3つ持たなければならぬ小さな中学校でした。家庭科主任は国語の先生、私は音楽主任でした。明日の教材に全力をつくし職員の茶、宿直の洗たくと今とは想像も出来ない程の日程でした。それまで男女平等の教育を受けて来ましたが、24才で中学校卒業写真を見ても涙が出る程です。中央は村長などの村役・校医、担任は端に丸い顔をして若々しく写っています。その頃家政大付属で出版している教科書（家庭科の）を送ってもらいました。もっと文通して教えてもらえればよかったと思っています。</p> |   |

その後小学校へ転勤。実家から通いました。T大の通信生になり町田へテストを受けに行った事も思い出します。21年勤務した小中学校で立派な管理職にも出会いました。夫の両親を看取るまでも弱音を出さず頑張りました。その後、民生委員 児童委員など町内のボランティアで児童生徒の不登校児やシンナー中毒の子を持つ母親と仲良く話し合ったり地元の学校へ度々出かけました。施設に入った中学生徒は保育園時代から見てましたが、小学校中学校でも救えず殺人事件に巻き込まれ可哀想な事でした。学校の担任もその児の両親も誰も止める事が出来ず、その件では精神科医の同級生がまとめていた勉強会で発表した事があります。今はすっかり役職がなくなり楽になりました。その精神科医の同級生は90才まで現役と計画していて元気さをもらい毎月会っています。

76才今、身の回りの整理にとりかかっています。体力も心も力がなくなりました。映画を見たり本を読む事が楽しみな日を送っていますがこの手紙も読みにくい事でしょうね。

青木先生の講義、細かく覚えていませんが両親には申し訳ない程反抗していた事が解かりました。(水曜講演の) 講義の内容を読んで十分な教育をして戴いていたんですね。この手紙も3日程かかりました・・・楽しかった事もつらかった事も思い出しました。

|  |  |                                      |
|--|--|--------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養A）卒                         |                                      |
| 氏名   | M. Rさん                                   |                                      |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 衣・食・住、すべてが大変でした                          |                                      |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代の恩師の進めと青木先生が松本の出身でしたのでいろいろ御尊敬申し上げます！ |                                      |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士の資格をとって将来の食育問題にたずさわりたいという夢            |                                      |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・聡明・勤勉という三文字が心に残っております                 |                                      |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                            | 昭和27年5月ころ                            |
|  | ②内容                                      | 母の日の講演で母への感謝を忘れない様にする事と言うお話が心に残っています |
|  | ③感銘を受けた点                                 | 毎週水曜講演で素晴らしいお話をお聞きして人間的にも成長した様に思う    |



|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等 | 静かな低いお声でやさしくしっかりと、じっと私の顔を見つめ<br>ながら貴女は最近随分大人になりましたねと言われました |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出              | 夏休みは長野県人会で先生を囲んで楽しい会を時々催しまし<br>た。その折に私の実家にも寄っていただきました      |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養A）卒  |   |
| 氏名   | T. Sさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、<br>大学・短大への入学、<br>特に上京しての入学で<br>たいへんだったこと | 戦後間もなく物資も少ない中、女性が社会（小さな家族）を守<br>るために自分の視野を広めて自分の生き方を定めたいと思って<br>上京した                  |   |
| 3. 本学を選んだ理由  | 青木学長が軽井沢に夏期講習に見え、その時に私の父が教育会<br>で参加してこの大学に女性として娘をお願いしたら女性の生き<br>方として良かろうとしたこと・今想えば・・・ |   |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 女性として家庭管理が認めて下さるような社会人になろうと思<br>い、深い意味なく広く社会に飛び出した                                    |   |
| 5. 入学式の青木学長訓<br>示の内容                                   | 東京に出てうれしかった中、苦しみも多く、寮生活の苦しさで<br>記憶うすいが、この齢になって生活信条は私の糧になって続い<br>ております                 |   |
| 6. 一番印象に残ってい<br>る感銘受けた水曜講演                             | ②内容   | 青木学長、山下先生が幼児は白紙の状態、親が<br>色をつけて言葉を模倣して行くから大人は毎日<br>の生活が大切と思いました。年令と共に指導者<br>になる努力はしたいと思っています |
|  | ③感銘を受<br>けた点  | 家政学は職業人と一緒。その家の主婦によって<br>家の区分は当然あってよいかと思う。主婦業を<br>おろそかにして社会は良くなならないと今だ思っ<br>ています            |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等                      | 言葉は静かに無駄のない調子で、格調高い行動力は今だに忘れ<br>ません。ご挨拶の訓練まで教えてくれた品格は私にとって生涯<br>の宝です                  |   |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                                   | ① 寮生活で一片のパンの話で、泣くも笑うも自分の受け止め<br>方、物の大切さを知りました   |   |

|  |   |
|--|---|
| 8. その他の行事に関する思い出   | ② 他人にやさしくする心がけ等を常に持っていることの指導者であったが、殺伐とした時代には大変困難を伴うと考える。質実剛健を心に持って生きてこられた基礎作りをして下さった学園のモットーに感謝します   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 学園生活で学んだ時は幼少の頃の学習に対する意欲が少なかった時代に育て上京させてくれた両親に感謝して、楽しみ苦しみを同時に共容した生活であったが、年代を重ねるごとに、教えられた生活信条は私共の基本であると思います                                       |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 指導者たる姿は自分で行動を示してこそ。社会に生活すると特に開放された自分に愛情を持ってこそ出来ることである。云っている事と行動が伴はないのは真実でない。平凡でよいが皆様に愛される家庭を望みたい。幸福と云うことは皆さまから戴ける言葉と思って77才まで生きて来ました             |
| 11. 学生生活の思い出   | 生きる過程で喜怒哀楽があればこそ生甲斐があると云うこと、この齢になって理解出来ました。学生生活時代育った環境が異なっていて居りながら一つの目標に向かって生きる姿勢（社会）を、自分を置いて協同生活が出来た結果は、結婚して子孫を残してそれぞれの姿を見て自分が満足できることの喜びは格別でした |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 家政学を職能化して行く女性向上の大学であって欲しい（家族管理に秀でる女性）   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 現代社会に機会少ないので、私の生活から皆様にお目にかかって静かで安心して老いを迎えたと云われたい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 感謝いたします   |
| <p>別紙：</p> <p>久しぶりに森緑多かった学園を思い出し、懐かしく感じながら半分記憶が薄れて居りながら、当時のアルバムを出して青春時代を思い出しました。田舎より上京して卒後故郷に戻り浅間を見ながら教師生活五年過ごし、縁あって主人と共に関西で住み五十年過ぎます。信州にも住家を持ち、時折帰りますが年代と共に変化多く、現在の私の考え方は過去型になりましょうが、心の中の基本は変わることなく育てられた子供は親の背を見て育つものと信じます。私も両親にこの齢を迎えて感謝いたします。両親は独立と云うことは経済的だけでなく、人の道理（子育てをして）もしてこそ独立出来たと云えると結婚も進めました。今になって子育てもして彼等なりに独立して社会で活動している姿を見ることの出来たことに親として頼もしく思います。卒後学園には一度も伺ったことないですが、学園で育んだことは私の身から離れることなく今に続いて居りますこと感謝して居ります。</p> |   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養A）卒   |   |
| 氏名   | Y. Sさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は秋田から上京して入学致しましたが、大家族の末っ子で何の心配もなく、暖かく幸せな生活があたりまえとっていましたので、突然、寮生活にはなかなかなじめず、他人との協同生活になじまず、大変でした    |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母の女学校時代の先生が渡辺学園卒業の、きびしい先生から教えていただいて感謝と尊敬をしていたこと。又私のK校の恩師のおすすめとがあり、家政大の短期に進学致しました                   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女子もこれからは高等教育が必要と、東京に出て少し広い視野と教育、教養を高めたいと希望を持って入学致しました  |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入学出来た喜びと同時に、これまで育ててくれた両親に感謝しなさいと云うお言葉にハットし、あらためて両親に感謝の念を持ったことを、おぼえております                            |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性は清楚で美しくあること。ズボンをはかないこと</li> <li>・スカートをはくこと</li> <li>・アルバイトはしないで、勉強すること。アルバイトをしなければならぬ人は、働いてお金をためてから大学に入るべきとのこと</li> </ul> |
|  | ②感銘を受けた点   | 愛と勤勉と聡明についてのお話  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 卒業式にお話になったと思いますが、人間、自殺してはいけない。人生は自殺する程、苦しい、つらいものではなく、又思っている程楽しいものでもない。絶対自殺してはいけないと云われたことが、心に残っています |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | キャンプファイヤで曲に合わせて楽しくホークダンスをしたこと   |
|  | ②つらかったこと   | 寮生活の門限が早く、外出しても早く帰らねばならなかったこと。しつけが（寮の）きびしかったこと。でも今は感謝しています  |
| 12. 他の先生の思い出                               | 青木先生、三木先生の講座は、家政大そのものと云った内容とプライドが感じられるものでした  |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 各分野で、卒業生はご活躍していることと思いますが、家政大学の卒業生からもNHKの今日の料理などの番組などに出て指導して下さる方が出ても良いのではないかと期待しております               |   |

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと | 自分の日常生活でも、家政大の愛と勤勉と聡明をモットーにして、生活の信条にして生きていると感謝の気持ちを伝えたいと思います |
|---------------------------|--|

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養）卒  |
| 氏名   | （無記名）  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 終戦後7年、東京の大学へ行く人は1人2人くらいであり、特に女子にはあまり教育は必要ないのではないかと云う田舎の風潮があった。又交通も不便で大変でした |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代の家庭科の先生の母校であり、すすめられました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教師を希望していました  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 全てです   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | パイプのような物を手にして低い声で話されました  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学園内では親しみをこめて声をかけて下さいました。ありがたいです  |
|  | ② いろいろの行事の際には輪の中へ入り、クリスマスにはサンタの姿で楽しかったです                                   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 講義とことなり、社会人として生活していく中で必要な内容で勉強になりました                                       |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 生活信条   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | N. Hさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 満州からの引揚げ者でしたから今にして思うと両親に大感謝。生涯の宝です。ひとりっ子とは云え育英会よりの育英金？で雨具を求めたのが忘れられません  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校で当時の担任の恩師・現 藤田恵美子先生のつながり？で同期生3人が入学。帰鉤したのは私だけでした   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 明治生まれの母が小学校の教師だった（私が生まれる前だった由）のと藤田先生への信頼だったと思います  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 温和なやさしくわかりやすいお話をゆっくりなさる学長という憶い出があります  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | おだやかな表情のやさしいゆっくり（ゆったり）お話をなさる先生（学長）という思い出があります。まるやかなお声だったと   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 80（やそ路）を前に本書の青木先生の「ひとを愛せよ」心にしみて憶い出しています   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | この便りにと、2年間の短大生とはいえ学べたことの出会いの感謝を・・・  |
| 11. 学生生活の思い出                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学した時初めての寄宿舍生活。点々とコンクリート路でつながる煉がの教室。十人余の大きな部屋の寮。ひとりっ子の私にはどれも新鮮な体験でした。支部長代理で数年前に会議で上京。より充実した学びやに、磊びと感謝でした</li> <li>・当時、新年度はじめに舎監室で各部屋毎に招かれ茶会があり、その折聞かれるままに私が「満州新京のS高女一年八月頃終戦で」の話に三木先生は「S高女勤務で当時上級生と朝鮮の方面に勤労奉仕を」にお互いにびっくりした憶い出があります</li> <li>・日曜日の寮は誰もいなくなり、よく上野の美術館や博物館で時間をすごしました</li> <li>・当時の舎監室の並び？少し低い部屋に10人近く枕を並べて夜、月光を眺めてホームシックになり、しのび泣き。その連鎖反応でしくしくの伝染（コーラス）</li> <li>・浅井戸の様なのがあり誰かスイカを冷やして部屋で食べた思い出</li> </ul> |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 児童心理の山下先生？ ひとりっ子の私としてはひとりっ子自体が未熟？と謙虚にならねばと思う心に |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 両親とも今は仏様になりましたが進学させてくれたことに大きな愛情と、感謝しています       |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 「感謝の心」   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 温かい大きな愛をありがとうございました。なつかしい思い出が持てた人生、今も宝物です      |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | K. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活でしたが、食生活、共同生活になれるまでが大変でした  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代の恩師の紹介  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性の地位向上と児童の生活向上   |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | クリスマス会で青木先生がサンタクロース姿でキャンプファイアーで席をまじえて下さった事が、一番印象に残っています。四国の田舎から出て、すべてが、新しく、輝いてみえました |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | いつの時代にも聡明な愛情が基本だという女性教育をめざして下さい   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | 手にとって尻ごみせず、料理でも、物作りでも一つずつ完成して下さい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | すべてをつつみこんだ教育者らしからぬ最高のほほえみに、又であいたいです   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | O. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京出身ですので自宅に友人があつまり家の人が大変だったと思います  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女子聖学院の家庭科の先生にすすめられ、父親が家政科ならとゆるしてくれました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性も自立して一人でも生きていける様になりたいと思っていました   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 講堂の後ろの方であまりよく聞き取れませんでした   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 水曜講演のお話しかどうかわかりませんが、先生のお話で今までも心にのこるのは学習指導をしていく上には先生と生徒の関係は権威と服従がなければ進めて行くことは出来ない。しかし権威は生徒を支配的な独裁的なものであってはいけない。真に生徒の個性を理解し、愛を理解し、その個性を生かして指導して行く様にとおっしゃった事が心にあり、子育てにも大変たすかりました |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 学長としてというより人間として先生のように大きな心と愛をもった人になれたらと思っていました   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | クリスマスの時司会をいたしました。大きな木を講堂の真ん中にたて、いろいろかざりつけ、皆さんがいろいろと（歌やおどりその他）最後に先生がサンタクロースになって後の方から出てこられ、皆さんびっくりとよろこびで大変でした   |

|  |                             |
|--|-----------------------------|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒            |
| 氏名   | S. Tさん                      |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 阿波池田駅よりの行き方：土讃線・宇高航路・岡山―東京駅 |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 徳島大学の野口教授（実姉の友人）のお話による      |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 不安ばかりです                     |

|   |   |
|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | おだやかにゆっくりと話をされていましたネ  |
| 8. その他の行事に関する<br>思い出                    | 3月3日の学長の誕生日に校舎の庭で立食パーティーをすることになり、その準備に出かけようとした時東京都教育委員会から速達が届き、教員試験合格。よろこんで通知書を学長に見せにゆき喜んでいただきました。その時に学長御夫妻と友人達とで写真をとってもらったのですが、年月がたつと行方不明となる |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | S29卒業して東京都台東区立R中学の教師になりました。子供が好き、学校が好き、朝早くから夕方おそくまで子供としゃべり、先生方と話し合い。安保闘争のあった時期です  |
| 11. 学生生活の思い出                            | つらかったこと：<br>親元から離れているから。寮生でした。食事がまずい（徳島で、昔は納豆は食べたことがなかった）   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 人の話に耳を傾けよ。その後で自分の話をされよ  |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 水曜講演を伺いたい   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | O. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、<br>大学・短大への入学、<br>特に上京しての入学で<br>たいへんだったこと | 特になし。今思えば当時なりの衣類、食品等出回っていましたので不自由なく過ごせた様です              |
| 3. 本学を選んだ理由  | 栄養科があったので   |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 栄養士になる事   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等                      | 常に笑顔でやさしさのある会話されました                                     |
| 8. その他の行事に関する<br>思い出                                   | 現在からくらべますと、ファッション等と云う言葉が頭になかった様に、父の古いコートを仕立直して洋服を着ていました |



|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 8. その他の行事に関する思い出                | 学生祭の時芝生に座り10名ぐらいでしたか、笑顔でやさしさのある心から「いいお洋服だね」と声をかけて下さいました。忘れられない思い出です。愛情が一杯感じられました |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 家族間及び町会等にも愛情を持って、が生かされています   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 当時の学園内の整備が悪く、藪の中のぶよにさされますと赤く腫れ大変困りました。現在如何ですか？                                   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 先生の青年心理学の本、理解しやすい良い本でした  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒   |  |
| 氏名   | N. Aさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | お米が統制で帰省の度に幾ばくかお米を下宿へ運んだ。基礎学力が不足していたので目白で特訓してもらった。洋服が買えなかったが、父の着物でパンツ、女のコートでスーツを作ってもらった  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木先生は長野県内へ時折講演においでになった（主として教員対象）。父の学校へもおみえになり（父は当時校長）、女学校の担任（女高師の方）、中学の家政科の先生（長野女専）、大勢の方からの推薦  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 職業人として生きていきたいと思っていた。勉強は好きだった。全国へ友達が出来るという希望。都会への憧れ   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入学3年前に講演を聞いているので、わかりやすいお話をしてくださる先生だと思った。すべてのことがらに感謝すること。学生の本分は勉学というようなことを言われた。哲学者と聞いていたが、おおらかな学者だと思った。父母への感謝。大学教育を受けることができる者は5%それ以下（地域により）かもしれない。心して過ごすように |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ① 内容   | 人権教育というようなこと。男女の差なく相手を尊重。エスケープ、休講でよろこぶ私たちの姿に心を痛めていらっしやったのか、I時限休むと、何円になる。そのお金は父母の労苦の賜であると言われた |

|                                 |  |   |
|---------------------------------|--|---|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ② 感銘を受けた点  | ひとことで言えば、諸々のことはヒューマニティというのでしょうか。具体的に例をひいてのお話でわかりやすい |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 今時の先生方は手振り身振りなど交えて動きまわる方もいらっしやいますか？ 青木先生はゆったりしていてあまり動かなかつたし、板書もあまりなさらなかったの、みんな耳をすまして聞いた。私語はなかった。心の中を読まれている感じがした。<br>(ガタピシ あのような講堂なのに、入っていらっしやってもわからないくらいでした)   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 困ったことがあったら相談に来なさい。助手の先生でも私と同じように対応できますよ。夏休みは追分（軽井沢）の別荘にいるからお友達を誘っていらっしやい。しかし私は貧乏で軽井沢までの電車賃がなかったし、休みには兄弟の課題もみなければならなかつたし、家の手伝いもあったので、どこへも行けなかつた   |   |
|                                 | ② お友達と大塚仲町のご自宅へお伺いしたことは、大切な思い出。書齋のものすごい大きい机のまわりを感心してうろうろして迷惑をかけた   |   |
|                                 | ③ 母の日やクリスマスのカードは宝物。長生きしてよくわかる  |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 他学部の学生でも、通学生は同じ電車に乗るので、いろいろ話しかけて交流できた。田舎から出てきて方言も気づかず使ったが、下宿で直してくれて標準語で話すことにあまり年月はかからなかつたので、生活はエンジョイできた  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 卒業後も研究授業の教案づくりにとまどうこと多く、教えを乞うと、趣旨など訂正の朱を入れてもらった。2校目は文部省の産業教育指定校となったので、広域の研究発表などのとき、自信を授けていただいた。転勤のとき、青木先生の教え子ならと校長に言われた。出張で長野県へおいでになったときは事前に連絡をいただけたので卒業生3人で宿泊先へお伺いした（学校の話、家庭科の教科書のこと、家族、夫や父の話をした）           |   |
| 11. 学生生活の思い出                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒論の資料作りのとき、あこがれの東大の図書館のこういう本を参考にしなさいと、紹介状を書いてくださった</li> <li>・ 下宿は母の友人の家でお世話になっていたので帰宅時間が厳しく、駅へ迎えに来てくれるので、道草はむずかしかった</li> <li>・ 休講のときは上野、新宿を歩いた。謡曲を習いはじめた</li> </ul> |   |

|  |  |
|--|--|
| 1 2. 他の先生の思い出  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品学。化学の亀の甲が好きで必死で暗記した(マルアンキ)。</li> <li>・母性衛生のとき、子どもは絶対生まないと思った</li> <li>・小児科学は好き。八幡学園や孤児院の実習は心の中にたくさんものを授かった</li> <li>・工学のレポート。洗濯機のしくみなどは閉口した</li> </ul> |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 研究室へ行って、何でも悩み、喜びを話せる雰囲気があると救われる  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 私たちは、アルバイトは禁止でしたが、仕送りのお金を感謝し、今の立場を幸せと感じてほしい。同じ学問を追求しているお友達といっぱい話をする。学生の本分は何か。常に自戒してすぞす。人生は長いけど、この幸せはそう何年も続かないのだ  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 先生、いっぱいいっぱい、ありがとうございました。人生 100 年の長さのたった 2 年でしたが、先生のお話が私の生きてきたバイブルの如く宝を授かったのです。人権を尊重してくれている夫にも出会い、只今も元気です   |
| <p>別紙：</p> <p>青木学長と聞いただけで、学生を親以上に大切に思ってくくださったことがよくわかっていますので、その思いがふつふつと湧いて来て嬉し泣きをするくらいです。もう卒業後 50 余年（56）になりますのに、同級の方々とミニクラス会も開いていて、その友達も異口同音、親や先生方に感謝よと言う言葉を発するのです。</p> <p>それから県内の教員は青木先生の児童心理や青年心理の本、山下先生の環境学で学習をしました。過去のことで・・・。信濃教育会で[若い女性（ひと）]を出版するにあたって松本の（旧）開智学校（旧有形文化財）を会場にして信教会長、主事、卒業生その他の皆さんが集い青木先生の思い出を語ったことがあります。不肖私も呼ばれ参加いたしました。</p> <p>このアンケートに書ききれない程の幸せを一生持ち続けています。私と出合った頃の夫は宮坂哲文先生のセミナーを受けていた頃で哲学のテの字も知らない私は、青木先生は哲学科のご出身なのと言っていました。夫のほうが、青木先生を研究していたようです。</p> <p>青木先生の三十三回忌の法要が卒業生その他の方々に営まれました（松本）。その時おいでになった男の方々は内留の先生や、県内のご指導を受けた教育長さんなどでした。</p> <p>青木先生の[若い女性（ひと）]信濃教育会出版部。表紙タイトルー愛情・勤勉・聡明の再発見ー 400 円</p> <p>再販もされ（昭和 41）計 10 冊以上購入して、当時の学生知人に配りました。其の後、吉野美恵子先生（当時助手の先生）が自費出版なさったので、字も大きく読みやすくなり感謝しています。</p> |  |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒  |  |
| 氏名   | W. Kさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 会津の山村より上京したので言葉がうまく通じあえず、友達づくりに苦労があった   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 父が病弱だったため、栄養学を学びたい。学費が他の短大に比べ少なかったため  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養学を修め、郷里の食生活改善につとめたいと考えていた   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 昭和27年4月入学、昭和29年3月卒業  |
|  | ②内容<br>③感銘を受けた点   | 五反田駅より通学しておりました。いつも仲良しグループ4人で行動でしたので、全員が都合のつく限り講演はきいておりました。先生はいつも女性の自立という点に重点をおいて話されたことを記憶しております |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学内でたまにお見受けした折はいつもにこやかな表情でおられました。時々付属幼稚園の子どもと散歩されたりしておられたようです  |  |
|  | ② 私は2年生の時に、会津若松の県立病院で栄養士課程の職場実習で栄養士の立場のむずかしさをつくづく思い知りました。栄養士の方も教員の道に進むよう本気ですすめて下さいました。中学校、小学校で40年間、勤務することが出来たのも短大の先生方の教えがあったためと考えます |  |
| 12. 他の先生の思い出                               | 三木テイ先生のクラスでした。服装などについて、いつもきびしく学生に指導されていたことを思い出します   |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 職業人として社会に生きるためには何か一つ自分でほこれる技をもつこと。自分にきびしく   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 考えるためのかてを授けて下さったことに感謝申しあげたいと思います  |  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | K. Sさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | はじめての寮生活で、しかもコンクリートの軍の払い下げとかの場所での生活は非常に印象深いものがありました   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女学校時、旧渡辺学園卒業の先生に出会ったのがきっかけでした   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 学校の家庭科の教師になろうと思っておりましたが、今で考えると非常に幼稚だったと思っております  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | その都度感銘を受けましたが、もう古いことなので具体的には憶えておりません。申訳ありません。（送られてきた水曜講演リストと概要から）水曜講演の内容を改めて拝見しどれもみんな改めて私共が考えて見る必要があると深く感じております。あの当時もっと真剣に拝聴すべきだったと反省しております |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ちょっと、しわがれたような声の感じでした。今でもそのお声は耳のおくにひびいております  |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | 仙石原の宿舎に行ったこと。金時娘に会ったことなど、おぼろげながら心に残っております。そして、つい最近まで利用させていただいて白色の温泉が懐かしく思っております   |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | いつもチャイナ服をお召しでした調理の先生（大島先生？）に魅力を感じておりました。成城学園にお住まいで友達とお宅に伺ったこともあります  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 母校が成長することはこの上もなくうれしいことです。成長してほしいと思います   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | 校舎・施設・設備もよくなりましたから、その中に住む学生諸子も大いに成長していただきたいと思います  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | お世話になりました、と申し上げたいと思います。もう一度、講義を伺えたらどんなにいいでしょうか  |

別紙：

私は29年に短大を卒業し厚生省擁護局に務めましたが、半年たった頃、四国の田舎の高校で家庭科教諭の空席があるので帰るよと言うので帰り働きはじめましたが、1年位たつといろいろ不安になり四年制の学部に戻りたく思い、青木学長に相談のお手紙を差し上げました。学長からはすぐ返信をいただきました。「就職難の折、たとえ四年制を出たとしても、理想的な職場が得られるとは限らない、今の所にふみとどまり通信教育で資格をとってはどうか」という意味のことを本当に詳しくていねいに書いてくださいました。私はその教えの通り、或る大学の通信教育をうけ、高校普通免許を取得し、そのうち上京し、都立高校の家庭科教諭を20年務めました。それにしても単なる一生徒の手紙に本当にやさしい愛情あふれる返信をくださった青木学長の思いやりのある人間性にあらためて尊敬と感謝の念をいただいております。

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 卒業年                           | 昭和29年：短大（被服A）卒                         |
| 氏名                            | M. Kさん                                 |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 人の気持、相手が何を考えどうしてほしいかが考えられる、わかる人になってほしい |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 女の為に女性もがんばりました。日本も今に女の首相が出来るかも知れません、と  |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服A）卒  |  |
| 氏名   | S. Sさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私自身はたいへんなことはありませんでした。両親は娘を上京させて苦勞したと思います  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 担任（家庭科）の先生から、先生の母校をとご指導を頂き、また父からもこれからは資格をもたねばと、渡辺学園の由来を聞かされておりました   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 両親の願い通りに必ず自立できるようにと思いました  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 50有余年の事ではっきり覚えてはおりませんが、生活信条についての訓示であったと思います   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 短大2年の頃からと思います  |
|  | ②内容   | （関根）先生のご提示下さったリストのどれに当たるかわかりませんが、ただいつの時から1人っ子は1人であるということが病気であると話されたことがありました。<br>私はその該当者であるので反撥を覚えたことがあります。しかしそれは自分の来し方を見ると思い当たること多々ありで、その後の人生では常に心して過ごしました |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 立派な体格に反してやさしい声で、学生にわかり易い言葉で話されたことを覚えて居ります   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | クリスマスカードを頂いたような気がします  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 校歌にあるように武蔵野の木立の中に校舎があり、心を落ちつかせる風景でした。先生方は皆立派な方々で、時にきびしく時にやさしく楽しい2年間でした。今でも木立の中に点在する学園を懐かしく思い出します                |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 幸いにも高校教員となり40年間務めることができました。新任の折には生徒から教えられることが多々ありました。家庭の事情や親子関係など私の知らない世界がありました。その都度学長の著書、青年心理学を読み返し私の糧としておりました |  |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 嬉しかったこと：<br>長い年月が過ぎると、すべて浄化され、何もかもただただ懐かしさのみですが、記憶にある嬉しかったことは、卒業式の時、式が始まる前に両親を含む学長招待のティ・パーティがありました。父も初めて学校へ来て、大変嬉しそうでした。その事が何よりの親孝行だったかなと思います。学長の細かい心遣いに感謝しました |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 担任の丸岩先生はどんなに暑い日でも和服をきちんとお召しになり厳しい先生でした。私は被服科を選んだにも関わらず手先が不器用で何回もお直しを命じられた記憶が鮮明です。それが以後の教員生活に役立ちました   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 生活信条「愛情・勤勉・聡明」を守り自立した人生を送れるように、また大らかな気風をもった学生を育てて欲しいと思います  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 群馬県には家政大の卒業生が数多く教員をしております。生徒と接することで様々な状況を知ることができ、自分の人生にも有益かと思います   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 先生の訓導により、大過なく歩めたことに心からお礼を申し上げたいと思います   |

|   |   |
|---|---|
| 卒業年                                     | 昭和29年：短大（被服A）卒  |
| 氏名                                      | Y. Aさん  |
| 3. 本学を選んだ理由                             | 高校の時クラスで家庭科が何でも素晴らしくお出来になる方が志望すると云うので、私も選ばせて頂きました                         |
| 4. 入学のときの希望や夢                           | 家庭科、特に被服の高度の学びがしたいと思いました  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等           | いつも温かい雰囲気だったこと位しか覚えておりません   |
| 8. その他の行事に関する思い出                        | 母の日があり、カーネーションを贈られることを初めて知りました。私共の時は生花1本宛でしたが、白いお花を頂く方がおり、改めて郷里の母に感謝致しました |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 子供（女兒2人）に手作りの服装をさせておりましたが、子供達も崑んでいたようです                                   |



|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | つらかったこと：<br>寮生活を致しましたが、寮にミシンもアイロンもなかったことがつらかったです         |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 丸岩ツヤ先生、長谷川秀子先生にお直しで厳しく教えていただいた事が役に立っております                |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 最近の母校の発展を大変嬉しく思うと共に、更に伝統をふまえながら時代を先取りした大学・短大であって欲しいと思います |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 伝統に恥じない、そして個性も発揮した学生であって頂きたいものです                         |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 「愛情・勤勉・聡明」を守るよう努力した結果、主人が上場1部会社の社長を勤めさせて頂きました            |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服A）卒                              |
| 氏名   | A. Tさん                                      |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活で部屋がせまかった事                               |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 洋裁の勉強がしたかったからです。今も時には自分の着るものは作ります           |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時は東京に出る事が夢でした                              |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 内容：<br>自分を大切にすること                           |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | ゆっくりとした口調で、本当に慈愛に満ちた表情で、お声が低音で、今でもそれは思い出せます |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学内のキャンプファイヤーが思い出されます<br>② クリスマスパーティ       |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 人としての思いやりを持つ事                               |

|               |  |
|---------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出 | 昭和27年まだ戦後間もない時代に東京に出て勉強させてもらった事、今とても感謝しております。たった2年間ではありましたが、今だに友情もつながって毎年2人位に逢えております |
| 1 2. 他の先生の思い出 | 和裁の羽織の早縫きょうそうの事  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服A）卒   |  |
| 氏名   | N. Eさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 終戦後のたいへんな時に大学迄行かせてくれた親は経済的にもたいへんだっただろうと今になって思います。上京には24時間座席のない時は新聞紙を引いて通路に座って行きました |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 先輩の家庭科の先生のおすすめ、新しいホームプロジェクトの研究など、物を作ることが大好きでしたので被服科を選びました                          |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | たのしみだ！ 東京の生活を  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 内容は記憶にないのですが、とても温かい素晴らしい学園だと感じました  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 昭和27年4月。1年生の時  |
|  | ②内容  | 美しさについてのこと。母の日について                                       |
|  | ③感銘を受けた点   | 母の日に感謝してとカーネーションを描いた葉書を母に贈りなさいと一人一人に描いて下さいました。今も大事にしています |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつも同じ目線で温かくお話しして下さいました。心理学を勉強したいと思う様になり、色々な本を買いました。教師として7年間の基本となりました               |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 夏休みには軽井沢から素敵な絵を描いた自筆の暑中御見舞をいただきとても嬉しかったです  |  |
|  | ② 学生祭委員をしていたので、たびたび計画や打ち合わせなど親しくお話しし、キャンプファイヤーの楽しかった思い出は忘れることが出来ません                |  |
|  | ③ 木々の中を兎の走る板橋校舎の黄金の時代です。出来ればもう一度お目にかかりたい人生の師です                                     |  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服B）卒   |   |
| 氏名   | S. Rさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 裕福な家庭でないのに、よく上京させてくれたと思い、親に感謝です  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の担任教師、私の出身校に学んで、と進めて頂いた事でした  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 夢や希望より不安だらけでした   |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 温厚な笑顔の素敵な学長先生でした   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 母の日。学長先生より1人1人にカーネーションを頂きました。その折、私には母が死亡していたため、(昭和25年)白いカーネーションを頂きました。赤レンガの大部屋(8人)に帰って来て1人で涙したのをこの年になっても思い出します。<br>「母の日の 白いカーネーション 大粒の涙あふれさす 柳行李の思い出」こんな歌を作っています |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 家庭裁判所(I支部)の調停委員を31年間務め、75才で定年になりました。本当に愛情の基礎を教えて頂いたお陰です。<br>平成10年藍綬褒章、平成17年瑞宝双光章を頂きました   |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 全国からの友達と一緒に生活出来、今でも交流が続いている事                      |
|  | ②嬉しかったこと   |   |
|  | ②つらかったこと   | 日曜日の昼食(白菊寮)パン二枚にジャム、お腹がへって駅前のうどんやに食べに行った事、つらかったです |
| 12. 他の先生の思い出                               | 長谷川秀子先生が仙台で家庭をお持ちになられ、県の集りでお目にかかれ嬉しかったです   |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 女性の強さをはき違えないような女性に成長して欲しいと思います   |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 本学に学んだ事を幸せに思います  |   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | N. Mさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後まもない世の中も不安定な時代。兄弟姉妹も多く高卒以上の教育は経済的負担も大きく、全部の子供に平等に高卒以上は無理な様子でした</li> <li>・一人で娘を上京させることに不安の様子。幸い寮生活で規則正しい生活が心のささえでした</li> </ul> |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子教育の最高学府と思っていた。仲間同志の話し合い等より</li> <li>・寮生活もきびしい。外出しても門限までに帰る、遅刻は許されない</li> <li>・地方出身の生徒が比較的多く、お互い話し合い助けあった様子等より</li> </ul>      |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 卒業後就職を考え地方公務員になりたかった  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入学の喜びをふまえ勤勉にいそしむ覚悟が大切。生活設計を立てるなど（よく覚えてないが）  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 感謝の心、学生としての努力・・・？   |  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物しずかで、真の強い先生</li> <li>・大声を出して話すなどのない、おだやかな姿勢</li> </ul>   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 全体で話されること以外、個人的な話は覚えていないが、おだやかな真の強い先生であることは今も強く感ずる  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 短大は勉学することには短かすぎ、なれた頃は卒業ということになる。じっくり楽しみ勉学にはげむには四年位必要（最低）  |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 卒業後、教職生活40年。家政大で学んだことが役立ちました。定年後十数年が過ぎました   |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 地方より上京された仲間。地元の仲間。なつかしく今でもおつき合いしグループ等でも年に一回位の集いがある |
|  | ②嬉しかったこと  |  |
|  | ③つらかったこと  | 教科の先生にまずい処はやり直しを受けた時はせつなく苦しかった。今となってはそのことが生きている    |

|  |  |
|--|--|
| 1 2. 他の先生の思い出  | 当時の担任の先生はやさしく、母親のようになって何でも相談出来た                    |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 勉学はどここの学校でも簡単ではないが、専門学校ですから技術を身につけ、一般教養を身につけられたと思う |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 学生として、学長・諸先生方の信条をくみとり、勉学にはげみ将来に夢を持ち卒業後に生かしてほしい     |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 健康に充分気をつけ今後も頑張ってもらいたい                              |
| <p>別紙：</p> <p>私は短大卒業後、新潟県の地方と最後定年は新潟市で平成四年三月三十一日で定年退職を致しました。県内の中学校を転々と短大で学んだことを参考に約四十年務めました。在校生の皆さんは勉学に精出して将来就職した場合の参考に日々頑張ってもらいたいと願っています。</p> |  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和29：短大（被服B）卒  |   |
| 氏名   | U. Kさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 両親とはなれ、初めての寮生活。淋しかったり楽しかったりよい思い出。人との出会い、友人両親に感謝で一杯です。田舎者で言葉が大変 |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生に進められた。渡辺学園は有名な先生方がいられる。木曾山先生、岩井先生、高橋先生、松井先生              |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 無我夢中。小学中学の免許を頂く事。少々都会の空気にあこがれた事                                |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明の言葉だったと思う。あとは憶えていない。青木学長ふっくらな顔、笑顔                      |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 昭和27年4月入学<br>29年3月卒業                                      |
|  | ②内容  | 人を愛する。友情について。私達の時代、水曜講演をたくさん聞いているのに残念ながら忘れていきます。申し訳ございません |

|   |   |  |
|---|---|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | 笑顔。目もとのやさしい学長。お写真をみてもわかる様におだ<br>やかな話。お顔                                 |  |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | ① あの時代サンタさんの洋服で赤い帽子、フクロにプレゼン<br>トの品物だと思う。何を頂いたか忘れまして                    |  |
|   | ② 夏休みの前、キャンプファイヤー。寮生には楽しい思い出<br>がありました。何にもかもめずらしい事ばかりでした                |  |
|   | ③ 校内が広がったのでぼんぼん火を燃やし歌をうたいながら<br>すごした事                                   |  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 利他愛の心、感謝、ありがとうという言葉   |  |
| 11. 学生生活の思い出                            | ①楽しかった<br>こと  | 箱根旅行2泊3日。金時山に登り金時娘と逢っ<br>た時  |
|   | ②つらかった<br>こと  | 和裁で着物を縫って提出した時、お直しで返さ<br>れた時   |
|   | ③思い出すこ<br>と   | 付属中学の生徒達と学習教育で千葉県銚子に<br>遠足に行った事。教勉した事。<br>今思い出すと私は寮生だったので、遠足に行く<br>のに弁当パン2切れ、ジャムをつけて持って<br>行った事。寮生の昼ごはんは食パン2切れ、<br>ジャムかバター2cm四方1ツでした |
| 12. 他の先生の思い出                            | 児童心理学の山下先生あこがれでした。木曾山先生、甘い声で<br>個性のあった先生でした。私達の寮母さんでもあった                |  |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 55年前の学生。現在の学生時代があまりにも変化。常識ある<br>利他愛、感謝を忘れない学生であってほしいです                  |  |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 同上。いつの時代でも同じだと思う。今でも愛情・勤勉・聡明<br>の言葉が継続されていると思います                        |  |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 昔にかえられるなら、もう一度青木学長の教勉を聞きたいです。<br>感謝、ありがとうの言葉をお伝えしたいです。笑顔が今でも忘<br>れていません |  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服B）卒   |   |
| 氏名   | I. Mさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 通学に2時間かけて自宅から通学  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 祖母、母からすすめられる   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 昭和28年9月頃  |
|  | ②内容  | これからの女性は、社会に通用する人になるように                         |
|  | ③感銘を受けた点   | 花嫁修業のつもりで家族の云うなりに短大で勉強していた私でした                  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長室の玄関の前で、穏やかなお顔でお声をかけてくださいました</li> <li>・すべてを受け容れてくださる暖か味のある先生</li> </ul>      |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマス。太ったサンタクロースのお姿が印象的でした   |   |
|  | ② 卒業式の日。大学祝典序曲に合わせ、先生を先頭に構内を行進した時のお姿は威厳に満ちあふれるものがありました   |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私たちのクラスは昭和58年に第1回目のクラス会を開き、それ以来毎年4月第2週目、2泊3日のクラス会を逗子で行っています。九州から、東北までの方々が15人前後集まります。このことから、家政大学がどれほど素晴らしかったか、誇りに思っています |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 夏季講習会に通学生数人が木曾山先生の助手をし、沢山のことを学びました              |
|  | ②嬉しかったこと   | 意匠学で美術館に絵画の見学に行きましたので、以来、現在も上野や六本木の美術館に足を運んでいます |
|  | ③つらかったこと   | 宿題にいつも追いかけていました                                 |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 種々なことを経験して来ましたが、家政大学で学んだことは、無意識に身につけております。そのことを先生に報告し、感謝したいと思っています   |   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | N. Sさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 伝統ある大学で学ぶことのできる喜びが大きく、特にたいへんなことは感じませんでした  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代の家庭科教師及び東京在住の叔父の推薦です（先生は家政大の前身、東京女子専門学校の卒業生）  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 大学で知識・技術をしっかり身につけ立派な教員になりたい、という希望でした  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 大学とはどんなところか・・・何を学ぶか。親への感謝の心をもつ・・・という事等  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年の終わり、2月～3月頃？   |
|  | ②内容   | 先生が水曜講演の朝、大学に向かっている途中の路上での光景・・・雪どけの間から顔をのぞかしている野草について・・・このことを題材にしての講演でした |
|  | ③感銘を受けた点  | この講演から当時、忍耐・努力がいかに大切なことか、又、このことがいかに人を勇気づけることになるか、という考えを強くもったことを思い出します    |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 学生全員が水曜講演をたのしみにしていたと思います。早く行って前の席をとることに懸命でした。ゆったりとした口調。多くの人を包みこむ音声。一人一人に話しかける様に部屋の端から端まで顔を動かし、その風格は愛に満ち満ちておりました   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 水曜講演以外に特別にお話をする機会はありませんでしたが、校庭で時折お目にかかることができました。必ず会釈をかえして下さったこと。ゆったりとした足の運びが印象にのこります  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 各教科、特に専門教科で担当して下さった先生方の愛情あふれる熱心な御指導。これは、教師の道を選んだ私にとりすべてを教えて下さった2年間でした。当時先生方は、4年間で学ぶことを2年間で指導するという内容でした。そのありがたさを身に感じ感謝の気持ちをもって日々を過ごしました。（青木学長先生の生活信条が教職員全員にゆきとどいた結果だと思います） |  |



|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 感銘を受けた水曜講演は、引用させていただいたこと、しばしばです   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 2年間の寮生活で思い出に残ること：寮の生活は1日の生活時間（起床、食事、学習、入浴、消燈）をきちんと守ることでした。10時消燈のため、テスト中はトンネルの中に座布団をもちこみ厚着をして勉強したこと（トンネルは通路のため、1晩中電灯がついていましたので）。とてもなつかしい忘れられない思い出です。・・・楽しかった事と言えましょう |
| 12. 他の先生の思い出                    | 常に帽子をつけての英語の授業。外国にいている気分を授業の中にかもし出してくれました。菊地先生です。当時英語の授業だけはクラス分けで私のクラスからは2名、Aクラスに入りました。他の学部の人達とのつながりも持つこともでき専門科目以外の教科で熱心に学びました                                      |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 生活信条である「愛情・勤勉・聡明」を基本にすえての学園経営であればいつの時代にも揺らぐことはありません   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 授業をしっかり受け、自ら学ぶ力をつけること   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 人としての生き方を教えていただきました・・・と、伝えたいです  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 平成29年：短大（被服B）卒   |
| 氏名   | K. Aさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 戦後の物資不足が未だ続いていた事。田舎者が東京に出て行き、二年ではあまりにも短かく東京になじむ間もなかったことです                        |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 本学が東京女子専門学校と言っていた頃、姉が卒業した学校だった事です  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 良妻賢母になることです。今の女の子が聞いたら笑うでしょうね  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 水曜講演の内容だったかはわかりませんが、私が一つだけ頭に残っている事は「母はインテリジェントでなければならない」と言うことです                  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 誠四郎先生のほんわかとした優しい印象はよく残って居ります   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 先生から戴いた白の角封筒に入ったカードを後生大事に持っておりましたが、ぼつぼつ身辺整理のため、つい数年前に処分してしまいました                  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学校の徽章は「愛情・勤勉・聡明」を表したものと聞いておりました。私はその徽章をお裁縫の時の針山に50数年ずっとつけたままで、常にこの言葉を思い乍ら生きて来ました |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 主婦として、母としての私の身体を中心をゆるぎなく通っていたと確信して居ります   |
| 12. 他の先生の思い出                               | 木曾山かね先生から頂いた、座右の銘にすればいいような名言集（和とじの手作り品）もこの間まで大事にしていたのですが                         |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 日本を背負う子供達を育成する女子学生達、青木誠四郎先生の心を伝えて行って欲しいと思います                                     |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 心より有難うございましたと申し上げたい  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和29：短大（被服B）卒  |
| 氏名   | E. Hさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 宮崎から東京まで汽車は1日1本。午前に出発して翌日の夜8時頃の到着。車内は大変な混雑でした  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 明治3年生まれのお祖母が、渡辺学園の先生に教えを受けていて、その大学であればと入学を許してくれた。そして今からの女は自立出来る技術を身につける事といわれた  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時は東京へ行ける事が非常に嬉しくて、勉学の外に何でも経験してみたかった   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① おだやかでやさしかった先生で、ある時、ゲーテの詩をあげて、人へのやさしさをいわれた事<br>② お友達と車で旅行を度々しましたが、宿泊先に困った時は先生が個人的に持っておいでの軽井沢の別荘へ行こうと。今思うと大それた事ですが、友人との相言葉でした  |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | 昭和27年入学した私は当時新築されたばかりの芙蓉寮に入寮しましたが、言葉のナマリが消えてない田舎者だとよく寮長さんに叱られて悲しい思いをしました。只、当時一緒の同室の四人とは、卒業後一度もお逢いしていない二人もいますのに、60年近く年賀状のやりとりをしています。被服科B級の皆様とも、年一度の級会。今年も4月12日から3日間。横浜でお逢いします |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 名前は思い出せないのに英語の先生。お帽子をかぶって学校においでで、自分達の作ったドレスを着て、ファッションショーの真似をする時は、かの先生を真似て、帽子をかぶり優雅に歩く事を皆でしました  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 女性でも自立出来る事。でも女性としてのやさしさは失わない事  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | 卒業生としての誇りを持って下さい。私は卒業後、まだまだいい大学があったのにと、母校の名をあまり口にしませんでしたが、そこで生活出来たこと、沢山のすばらしい友人を持てた事、感謝しています   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | 来てもいいぞーとおっしゃって下さった軽井沢。後年孫達を連れて、毎夏過ごし、別荘はどのあたりだったのでしょうか。こんな幸せな生活をしています。ありがとうございます   |

別紙：

何年か前に緑窓会宮崎県の副支部長として緑窓会館に泊めて頂きました。私共が過ごした芙蓉寮は無く、新しい鉄筋の大きな寮になっていました。青春の日を過ごした場所は本当になつかしく、緑窓会館を級会の宿泊にも何回か利用しましたが、お食事の件でお当番さんがお困りで、変更になりました。言葉のなまりが汚いと笑われて、部屋の隅で泣いた事。新築なったばかりの部屋で梅雨時には衣類にカビが出て困った事。夜の点呼に遅れて、叱られた事。三木テイ先生はとてもこわい存在でした。寮母の本郷先生は、おやさしかったけれど。お遊びが過ぎて、芙蓉寮の不良寮といわれた事も。今年の級会ではこのお便りの件も話題になると思います。

|  |  |            |
|--|--|------------|
| 卒業年  | 昭和29：短大（被服B）卒                              |            |
| 氏名   | A. Sさん                                     |            |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 食糧難の時代で（パン食で）ひもじい思い出が残っています                |            |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 教養と技術を身に付けたいと思いました                         |            |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 上記の通りです                                    |            |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | よく覚えていませんが、おやさしく愛情あふれていたと思います              |            |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                              | 1年生、5月     |
|  | ②内容  | 感謝の言葉      |
|  | ③感銘を受けた点                                   | 忍耐と努力をすること |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつもおやさしく、ゆったりとした口調と笑顔です                    |            |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 先生のご自宅で夕食をいただいた事があります。今でも忘れられない懐かしい思い出です |            |
|  | ② 感謝の気持ちです                                 |            |

|                                 |                        |
|---------------------------------|------------------------|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 上級生、下級生共に仲良く楽しい2年間でした  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | どんな人にも挨拶と愛情を持って接すること   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 楽しかったこと：<br>箱根の寮での楽しみ会 |
| 12. 他の先生の思い出                    | 先生達はみなさん親切でした          |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 実力をつけること               |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 何事にも努力をして前進してほしいと願います  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 感謝の気持だと思えます            |

|  |                         |                |
|--|-------------------------|----------------|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服B）卒          |                |
| 氏名   | S. Sさん                  |                |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 被服科につき教材の品物が少なかった。主に生地等 |                |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 学長の青木誠四郎先生にあこがれて!!      |                |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 素敵な女性になろうと思いました         |                |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 女子学生としての心がけの様な気が致しました   |                |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃           | 2年生の時。28年7月10日 |
|  | ②内容                     | 夏休の過ごし方        |

|                                 |  |                                    |
|---------------------------------|--|------------------------------------|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ③感銘を受けた点   | 帰ったらすぐにも母校に行って、かつての担任の先生や校長先生に挨拶せよ |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | ずんぐりした体格全体が笑顔の様にあたたかかった                              |                                    |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 学園祭などの時バザーのお手伝いをしていたりすると、ニコニコ話しかけて下さいました           |                                    |
|                                 | ② ファッションショーの時も、みに来てくれました                             |                                    |
|                                 | ③ 学食を食べている時なども、いつも笑顔で!!                              |                                    |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 広い敷地で緑の多い学園で、何か私は地方から上京して、外国に留学した様な気持でした             |                                    |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 県の更生保護女性連盟会長と云う大役を「愛情」をもってつとめる事が出来ました。約7000人の会員がおります |                                    |
| 11. 学生生活の思い出                    | やさしい先生方に恵まれ多くの友人が出来た事でした                             |                                    |
| 12. 他の先生の思い出                    | 青木学長の大きなえびす顔で、時々、楽しいエピソードを入れて笑わせて下さいました事             |                                    |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 社会人として大学に恥じない人格を習って下さい                               |                                    |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 人間として正しく生きる事をお願いします                                  |                                    |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | お蔭様で豊かな人生が送れました。ありがとうございました                          |                                    |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服C）卒   |  |
| 氏名   | M. Sさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 四谷の自宅通学だったので、親は経済的に大変だったと思いますが、私は充実した2年間でした  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 2、3校廻って見て、一番庶務の方の対応が親切だったので決めました   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 被服科へ進んだので、何でも自分で作れるようになりたいと思っていました   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 2年生の後期だったと思います                         |
|  | ②内容  | 高校卒の5%しか大学には進んでないのだから、しっかり勉強するようにと云われた |
|  | ③感銘を受けた点   | 5%というところ、それしか居ないのかと心がひきしまりました          |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とてもやさしい声。ゆっくりした口調でお話されます   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学長先生に頂いたカーネーションのカード、今でも持っています  |  |
|  | ② 学生祭の最後のキャンプファイヤーの時、学生と腕を組んで唄って居られたと思います。楽しかったです  |  |
|  | ③ 洋裁研究室（木曾山先生、荒井先生）の助手を2年半位やらせて頂き、その時青木学長が亡くなられたので、目の前真っ暗になりました。職員旅行も御一緒させて頂き、お部屋に夕食後邪魔して小うたを一ふし教えていただきました。嬉しかったです |  |

|  |   |           |
|--|---|-----------|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服C）卒  |           |
| 氏名   | O. Tさん  |           |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | うれしくて父母に感謝でした   |           |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 教師になった場合、家政科は男子の入ることが困難だったから（不可能）   |           |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | あお空の様に大きな心になりたかった   |           |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | とにかく何もかも先生の御教えいただくので飛び上がって居りました。失礼！   |           |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 昭和27年4月   |
|  | ②内容   | その度毎でしたから |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 低い声でゆっくりお話しなさいました。松本御出身の方には信州松本弁とちがったやさしさがありました（私同郷）  |           |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 合格した際、姉と一緒に保証人になっていただきたく学長室へお訪ねしました。二つ返事でなさって下さいました   |           |
|  | ② 夏休みにはいつも御帰省になり、浅間温泉へ同郷の方々と御話にあがり、学園の中とはちがって勝手気ままな甘えをしました  |           |
|  | ③ 母の日の絵葉書は大切に文庫本にはさんでありました  |           |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 卒業後は教職につき、結婚してからも生活の信条として、心の糧として居り、娘達にもその様に育てました  |           |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 自己の生活。特に卒業したら郷土にもどり、つくす様に言われておりましたので郷土にもどりました   |           |
| 11. 学生生活の思い出                               | 毎日毎日が楽しく、又寮生活でしたので一部屋5人（上級生2名、1年生3名）種々の規律もあたり前の事、和気藹々の生活でした。級もとても良くまとまって友達同志が教わったり教えたりの日々でした。今でも年一度の級会をしております |           |



|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 実技で何度もやり直されました。私は普通高校より入学したので実技の時は先生に御迷惑をお掛けしました。丁度就職難の時でしたので教師になっても家庭科は男子が就職できないので入学したのです |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | よく学び、よく遊ぶ  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 「愛情・勤勉・聡明」   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 御元気で長寿を御祈り致します   |

|  |   |                                       |
|--|---|---------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和29年：短大（被服C）卒                          |                                       |
| 氏名   | K. Yさん （カード一枚寄贈）                        |                                       |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 静岡県磐田市（旧中泉）から女子で上京して短大・大学に行く人は少なかった     |                                       |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家庭科の先生が卒業した学校であった事。おぼが卒業、いとこと一緒に入学しました  |                                       |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | とにかく、東京に出たかった。大学で学ぶこと、そのものがどんなものか希望があった |                                       |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明をよくおっしゃいました                     |                                       |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                           | 1年生の頃                                 |
|  | ②内容                                     | お互いにいたわり合い親切にしようという心                  |
|  | ③感銘を受けた点                                | 常に愛情を持つという事<br>家族を大切にする事<br>友人を大切にする事 |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等  | がっちりした体格で、品があり、とにかく立派な方（先生）と<br>いう印象  |   |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出   | 母の日のカーネーション。一枚ずつの手づくりには本当に感動<br>しました。今年は満77才の（4月）を迎えます。一応元気で<br>おりますが、身の廻りをすこしずつ整理しようと思って、アル<br>バム等も大切なものだけと思って整理した折にこのお知らせ、<br>驚きました。先生のカーネーションとってありましたのでお送<br>りします。私の分は心にしまっておりますので差し上げます |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどうい<br>う点で感じ取りましたか  | とにかくすばらしい先生でした。大学は違うなあーという印象<br>です  |   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか  | 私の短大のクラス。一昨年荒井純子先生が亡くなりましたが、<br>卒業後、みんな幹事を交代でクラス会をやっています。今8人<br>位になってしまったが、みんな協力し合って東京でやっている。<br>みんな愛情のお蔭かと思えます   |   |
| 11. 学生生活の思い出   | ①楽しかった<br>こと  | 寮生活。学長先生を囲んでのキャンプファイアー  |
|  | ②つらかった<br>こと  | 寮生活で朝食で納豆が多く出たこと。どうしても<br>きらいで…ふりかけですませる事多かった。<br>ヒル食は食パン2切…寮の火鉢で焼いたこと<br>もあります |
| 12. 他の先生の思い出   | 東京工大から講師できていた東昇先生・・・卒論で世話になり、<br>その後、先生のお世話で就職一研究室で主人と出会い、東先生<br>が仲人して下さいました  |   |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること  | 外からみると、何か元気がないように感じます。女子のみのた<br>めでしょうか？   |   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと  | 先生にお会い出来、指導受けた事はうれしい感謝です。卒業し<br>て田舎に帰った折、青木先生の青年心理学、教育心理学の本が<br>本屋さんにある、うれしかったです  |   |
| 別紙： （学長自筆のカーネーション・カード同封）<br>・先に述べたように東京工大の繊維工学の東先生（死亡、家政大講師）の教えを受け、卒<br>論でお世話になり、それを縁で染色会社の研究室に。そこで主人と出会い、東先生の仲<br>人で結婚。現在に至っています。 |   |   |

- ・東京家政大でししゅうの教授の松垣先生（死亡）が大学を退職されたあと、家政大のOB数人と先生のお宅でししゅうを勉強。東京で（銀座）作品展に参加（手工芸協会の会長。ししゅうの本、数々発表）。お陰様で作品（自分）も数残っています。
- ・私は結婚してからですが、ちょうど名簿を作る折、千葉県の上野、松戸地区を担当しました。
- ・担任だった荒井先生（死亡、被服）が、大学で活躍の頃、学外代議員をたのまれ、家政大の厚生部（学外）のお手伝いをして来ました。それをご縁に、もう20年近くなりますが、主人と共作の手づくり木版画のカレンダー、一筆箋を販売しており、文化祭（緑窓会）に2日間、毎年参加しています。今年は77才でどうかと思いましたが、10月末の緑窓会に向けて製作中です。
- ・お陰様で、この年になっても大学に足を運び、後輩の皆様と昔話をしながらバザーを楽しんでいます。これも愛情と勤勉のせいでしょうか（聡明さはないですが）。
- ・東昇先生、松垣先生、荒井先生。それぞれの先生も青木先生をしたっておりました。



「母の日のカーネーションカード」

『いとけなき頃より 母の胸にすがりし我  
 今もなお わが胸にかようその想ひ  
 母よ すこやかにあれ 幸にあれ  
 我一筋に祈る』

との青木先生の言葉が添えられている

～ 上記カード、昭和29年短大卒（被服C）K. Y様提供

## 昭和30年 短大卒業

|   |   |   |
|---|---|---|
| 卒業年   | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒  |   |
| 氏名  | S. Jさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと  | 九州からの上京は大変でした   |   |
| 3. 本学を選んだ理由   | 将来的に女性も自立する事を目標に勉強したいと、学校も栄養士、家庭科の教師となると云う思いで入校しました     |   |
| 4. 入学のときの希望や夢   | 当時はめずらしかった栄養士になろうと思いました                                 |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容  | 婦人が生活権をもちうるのは自身の実力である                                   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演   | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年生4月   |
|   | ②内容   | 働くことは人間のもつ大きな宝である                                   |
|   | ③感銘を受けた点  | 労苦に耐える、労苦の価値。（両親の働く姿をみて私も一生目的をもち楽しみながら生活、働く、労働、行動力） |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 暖かいまなざしで生徒に心理を教えていました。<br>分りやすく、そして暖かな言葉で講義をされた姿を思い出します |   |
| 8. その他の行事に関する思い出  | クリスマスに赤い帽子で生徒一同と遊んだ事を思い出します                             |   |
| <p>別紙：</p> <p>3月で75歳を迎えます。久し振りに青木誠四郎先生のお名前に接し、私の青春時代を思い出しました。大きなお体に目が象さんのように細くやさしく、お姿に接するだけでホットしたものでした。戦後両親が一生懸命働く後姿を見て育った私は、働く事の大変さ、そして大切さを十分に自覚していました。商家の生まれの私は、働く楽しさを感じ21歳で結婚して現在も現役で会長として頑張っています。人間関係が一番難しいのですが、相手の身になってお話ししたり行動を起こす様に心掛けて生活してきました。両親からの遺伝子もありますが、多感な年頃の学生時代、もしかして青木先生の心理学、水曜講演が、無意識の中で私の心を育ててくださったのかも知れないと今日のお手紙を拝見して思いました。本当に有難うございました。ぜひ関根所長先生の思いが届き若い学生さんたちの指導や教育にお役に立ちますよう祈念いたします。</p> |   |   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒  |  |
| 氏名   | K. Fさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 選択の範囲が狭かったこと  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 子供を育てることが人間を育て、国を形成する基だと思って居りまして本学の学科を選びました   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 人と接する現場にいられたらと思っていました   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 年月日は忘れましてのでリストを参照させていただきますと、29年11月10日                    |
|  | ②内容   | 服装について   |
|  | ③感銘を受けた点  | 戦後、間もなくの頃でしたので、清潔な美しさ、明るさについてお話下さったことがとても嬉しく明るい気持ちになりました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | でっぷりとして柔らかく、優しさそのもの。気持ちが溶けていくような静かな口調で話されました  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 何といいましてもキャンプファイアーが忘れられません!!   |  |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | 当時は校舎が一つずつ離れていましたので、授業のたびに移動して居りました。でもその大変さも一つずつ乗り越えて明るい喜びに向かえるのだと思います              |  |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | たくさんの先生の思い出がありますが、特に幼児心理学の山下先生の「3才までは厳しく躾ける。そしてその後はその子の人格を尊重して自由に」とおっしゃったことが忘れられません |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 専門的分野を追求してスペシャリストを教育して世に送り出していきたいと思います  |  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | 学問。苦勞を避けずに身につけ、又世の中にも広く眼を向けて下さい   |  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | 東京家政大学で学んだことを誇りに思って居ります。青木先生のお姿は目に焼き付いて居ります。深く敬愛申し上げて居ります                           |  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | I. Sさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | 苦しい時世にもかかわらず学ばせてくれたことに、教育に熱心だった両親に対して、今になって感謝しています                                   |
| 3. 本学を選んだ理由  | 父親からの「ひとこと」：これからの女性は資格を得て自立することだ、と云われました   |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 先生になるか、栄養士になるか、両方の資格を取得しましたが、栄養士を選びました   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容   | 愛情・勤勉・聡明。女性らしく生きること  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等   | 夢中で学びましたので、水曜講演についてはうすいのですが、生徒一人一人に笑顔で接していただきました                                     |
| 8. その他の行事に関する思い出   | 青木先生を囲んでの集い、キャンプファイアは、一番印象に残っています。忘れられません。その時のお写真は今手元に持ち合わせていませんが、同期生はいただいていると思っています |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 授業以外での学園生活（キャンプファイア）などの表われであり、今になっても友情の絆は続いています                                      |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 他の学校にみられない、生活信条「愛情・聡明・勤勉」を永久に忘れることなく、いかなる道を選んだとしても人間形成に役立ててほしいと強く思います                |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 自立の精神を抱き、強い女性として人生を歩んでほしい。自分らしい生き方の育成に惜しむことなく  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 学び得た生活信条が、今迄の仕事に生きています。ありがとうございました、と   |
| <p>別紙：</p> <p>～思い出されるままに～：</p> <p>「青木先生が入院されたとのこと、のお呼び出しに、お目にかかるまでドキドキしながらお部屋をお尋ねしましたことを覚えています。目ざす食事療法すら身につけていない頃でしたから。当日の特室は離れの建物の細長いお部屋だったかも知れません。</p> |  |

体形はお肥りぎみでした。やさしい笑顔の先生が思い出に残ります。料理はオムレツ？お花を花瓶に生けお持ちしたように思います。生け花の心得もないままに生けた記憶が残ります。その後のこと。先生の死因は心不全？腎不全？お見送りは出来ませんでした。当時のこととて、職場は人手不足で穴をあけられる状態ではなかったことです。奥様からは、ご丁寧なお手紙をいただいた事もありました。ご自宅は病院の近くと聞いていました。知人の医師の方（故人）から、青木先生には教えをいただいたとちよっぴりお話をしてくれました。（平成18年頃だったかも知れません）」

～卒後支えてくれた言葉（愛情・勤勉・聡明）～：

「当時、I大学付属病院に勤務する栄養士は、長を除いて、16名の栄養士の出身校は別校でした。（上司の考え方は片寄らない仕事出来るようにとの事でした）。他校ではみられない母校の生活信条に気づいた事です。社会に踏み出してから少しでもこの言葉に近づきたいと努力したことが、インターン後の採用に決まったものと思っています。就職難の苦境の中を乗り越えられたこと、今の幸せがあることに感謝いたしております。新しい職場、長年の栄養指導、その他、私自身の間人形成にとっては、この言葉は必須条件でした。特に悩める病人、福祉分野に於いては、この生活信条は全てです。福祉科一年生（短大）には、最初のオリエンテーション、事あるごとにこの言葉を話して来ました。この現役のまま、残りの人生をこの言葉に支えられながら生き抜きたいと思っています。

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | N. Mさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 母親（男尊女卑の思想の持ち主）から進学の許可をもらう事、一年がかり。許可の条件、短大家政科                                  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 私立で一番良い家政科。資格が沢山取れる事。資格：高校の仮免許、中学2級家庭科・保健免許、栄養士、保育士受験資格                        |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 講演の内容は記憶にありませんが、遅刻が出来ない事が頭にこびりついております  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日、クリスマスのカードは大切にしております<br>② 青木学長がサンタクロースになられ、カードを手渡して下さった事。キャンプファイアーなどのゲーム等 |
| 11. 学生生活の思い出                               | とにかく忙しい学生生活でした。資格を取るために夏休み、冬休みなしでした（実習が多いため）                                   |
| 12. 他の先生の思い出                               | 一番楽しかった授業は栄養素分析  |

|   |   |
|---|---|
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 生活信条を基本に日常生活が出来る事。特に女性は聡明（勉強が出来るのとは違う）でなくてははいけないと思います |
| 別紙：<br>55年も前の事。75才にもなると頭の方も少し？ 学生時代はまだまだ女性差別があり、我が家では学校を卒業しても就職は駄目。学生課の紹介で受けた会社も父の許可があり受験が出来るような状態でした。その後は両親の思うようにはならない娘でした。でも家政大に進学させてもらった事はとても感謝しております。家政大も2年間でしたが、私の人生にはとても大切な事です。思っている事は沢山ありますが、文字にする事はとても駄目です。 |   |

|   |   |
|---|---|
| 卒業年   | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒  |
| 氏名  | H. Aさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと                                      | 九州からの上京で汽車での長い長い時間。寮生活も12人室。もやし、食パン、納豆と粗食で今でも忘れられません                                |
| 3. 本学を選んだ理由   | 歴史のある学校   |
| 4. 入学のときの希望や夢   | 東京での生活、栄養士の勉強   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容  | 校風の愛情、勤勉、聡明についてお話をなさったと覚えております  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等   | お顔はいつも思い出しています。忘れることのないお顔でした。青年心理、教育心理等、講義も取りましたが、トツトツと話された様に思いました。お声は普通のお声だったと思います |
| 8. その他の行事に関する思い出  | ① 寮生活の中でのキャンプファイヤー。寮室ごとの仮装行列。先生をかこんで楽しい思い出でした。御一緒に学校の木々の道を歩いたこと懐かしいです               |
|   | ② 学長夫妻招待パーティー。クリスマスの宵、写真も残っていますが、暖かい楽しいものでした  |
| 別紙：<br>長野からのお友達が、青木先生がいらっしゃるからこの学校に入学した。両親もすすめてくれたとの事でした。長野県ではとても尊敬された先生との事でした。 |   |



|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | I. Tさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京は遠く物心共に大変でした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 神野先生（生物）が高校に来られ、お話を聞いて、そして東京家政卒の先生（2名）がりっぱであった事です  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 学校とちがい、専門的な事が習えると思っておりました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 先生のニコニコ顔しか覚えていません  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 笑顔と真剣な顔。時には高校で先生をまかした事等です  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 私は赤いカーネーションでした。家に届いた葉書はアルバムの一頁に貼っております<br>② 学生祭の準備を見てまわっておられた先生は、ツルツル頭を私のノースリーブの腕にツルとあてて笑って私もびっくりでした |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 考えてなにごともやる   |
| 11. 学生生活の思い出                               | キャンプファイヤー、学生祭、寮の生活（地方から来てますので色々な方言を聞く事がたのしみでした）、調理実習、心理学など、楽しい思い出です                                    |
| 12. 他の先生の思い出                               | 長野の話がよく出ました  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 大学がいつまでもありますように、そして家政大らしくあってほしいと願います   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 愛情、学習、時代を読む、等でしょうか   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 先生、お元気ですか。私も元気でおります。家庭を守り、家政大の事も思い出す事もあります。主人と二人で主人の田舎で笑顔の多い日を過ごしております                                 |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | T. Rさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 住宅事情悪く、下宿など部屋を探すのが大へんだったと思います                                  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 卒論が必要だったこと。資格も取得できること。教員免許の資格も取得できる                            |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 低音で、ゆっくりとにこやかな表情で話されたのを覚えています                                  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 夏休み前のキャンプファイヤー<br>② 母の日のカーネーション<br>③ 庄内地区の生徒を自宅に招待され大変感激しました |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 育児中に先生の児童心理学の本をひもといてみました                                       |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | ご自宅に招いてもらったことがとても嬉しく思っています                                     |

|  |                              |
|--|------------------------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養A）卒             |
| 氏名   | O. Tさん                       |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | はじめて親元から離れ寮生活に入って他者と共同生活すること |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女専卒の先輩の進め                    |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京と云う都会で1人自立すること             |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 豊かな人生を送るためには趣味をもつことが大切だと云うこと |

|   |  |          |
|---|--|----------|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                 | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1、2年頃    |
|   | ②内容  | 愛情・勤勉・聡明 |
|   | ③感銘を受けた点   | 他者を思う愛情  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | ゆっくりと判りやすく愛情をもって伝えられていたこと  |          |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | ① 先生の講演は味のある表現でした  |          |
|   | ② とっても平等精神を持っておられ、青春時代、先生が私の家<br>まで来てくださり（四国）、心やすく家族と同じ視点で話し<br>てくださり愛情あふれる先生でした |          |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 愛すること、夢をもつことなど   |          |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 人を愛すること。友愛精神   |          |
| 11. 学生生活の思い出                            | 学生時代、合コンで他の大学校の生徒とキャンプ。学生運動で<br>他の学生とディスカッションをしたこと                               |          |
| 12. 他の先生の思い出                            | 寮母の先生（三木）。学生運動にたずさわってたと云うだけで、<br>「赤」呼ばわりされたことなど、なつかしい思い出です                       |          |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 自由平等な校風と愛情にみちあふれた学校であってほしい   |          |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | やりたいことを思いきりやってほしい  |          |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 青春時代をふりかえってよい師に出会えたことは何よりの宝と<br>思います   |          |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養B）卒  |   |
| 氏名   | Z. Tさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京の生活になれるまで淋しかったです。信州の方言が出てあまり話せなかった。今はそれも個性で良かったと思う  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の時、青木先生の講演を聞きまして  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立した女性。生き方と資格をとりたくて   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 良き社会人、よき家庭人、愛情を持って  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ① 何年生の頃<br>何月頃  | 1年生   |
|  | ② 感銘を受けた点   | 毎回期待を持って聞きました。どれも感銘しました。じっくり、わかりやすく、したしみ深い講演でした |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 笑顔でゆっくり、わかりやすく  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマスの時、角砂糖をいただきました。角砂糖は甘い。その心は、角があっても甘い。ママの小言  |   |
|  | ② 青年心理。子育てに大変役立ちました   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 家政大で学んだ事が家庭生活のもとになっています。苦楽はありましたが、ぶれる事なく一生懸命に生きてきました  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 子供の教育に役立ちました  |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 当時、時代で現在の学生のように遊ぶという事がなかったです  |   |
| 12. 他の先生の思い出                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・三木先生の家政学</li> <li>・宇留野先生の小児学：？母性衛生、子育て、出産は病気ではない。自信を持って育てなさい</li> <li>・美術を深めておけば良かった</li> </ul> |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 時代も、環境も変わって来ましたが人間生きて行くのには丈夫な体と精神を教育で学ぶ   |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 学生時代、学び、良き友を得ること。自信を持って、明るく生抜くことを学ぶ   |   |

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと | <p>兎に角一生懸命生きて来ました。先生の教えが身にしみています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青木先生の青年心理。小さい時にきちっと人生の基本的なしつけをする</li> <li>・食事には気をつけて丈夫な体をつくってやる。何でも食べる様工夫する。生活の基礎を作ってやる</li> <li>・男児4人を育てましたが、自立して生活しています</li> <li>・子育ては親の責任</li> <li>・自信を持って子育てをしました</li> </ul> |
|---------------------------|--|

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養B）卒  |   |
| 氏名   | Y. Yさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 荻窪から乗り替えて十条までの通学（満員電車）。又初めての1人ぐらし。自炊生活でスーパー、コンビニもなく不自由でした。当時道路の整備などなく泥んこ道でした  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 他の大学に入れなかったため、伝統ある本校の事は、何も知らずに入学致しました、又栄養士課程があったからだったと思います                    |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京での就職、栄養士になる事  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 昭和28年 1年生の始めの頃（4月か5月）                       |
|  | ②内容   | 社交ダンスはまだ日本ではその域に達していないので本校では禁止する、とのお話がありました |
|  | ③感銘を受けた点  | お顔はよく覚えて居りますが、お話の内容まではよく覚えて居りません            |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつもお優しい笑顔で、優しいおだやかなお声ははっきり覚えて居ります   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日は母のいない学生に白いカーネーションを渡されてお話なさいました。又赤いカーネーションカードを配られて故郷の母に感謝の気持ちを送るよう申されました |   |
|  | ② 水曜講演を始めとして、いろいろな学園の行事に（クリスマスパーティ、キャンプファイヤなど）参加なさせて学生との交流を深めていらっしゃいました       |   |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | いつも「愛情・勤勉・聡明」をかかげてお話をなさっていたと思います  |
| 1 1. 学生生活の思い出                   | いいお友達に恵まれた事は良かったと思います。オペラや音楽会など、東京での生活を楽しみました。又栄養士、教職課程など、2年間では学びきれない程忙しく、あわただしく過ごしていたと思います |
| 1 2. 他の先生の思い出                   | 児童心理学の授業（青木先生か？）を受けました。とてもすばらしい授業だったと思います   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること          | いい伝統を守り、いつまでも存続していただきたいと思います  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと      | どうもありがとうございました  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | S. Fさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮がありましたのでその点はとても助かりました。食事も戦後でしたので大へんでしたが、寮ではおいしい食事だったとおもっていました。体重も3kgふえたのを思い出しました             |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 東京の女子大をめざし又私は福島の会津でしたので、今考えれば遠くて大へんだったのをおぼえています。友達のお父さんが、青木誠四郎先生が学長の大学だからいいだろうということで、二人で受けました |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | その当時でしたので東京にとっても興味もあり、東京の会社で働きたいと思っていたのですが、親のすすめで田舎にかえり教員になりました                               |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 大学の時のノート等もとっていましたのですが、10年前に子供のいる松戸にこしましたので全部すててしまってきたので？                                      |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 先生の授業の時は静かによくきこえたので、みんなよく聞いていたのをおぼえています   |

|   |   |
|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | とても温厚で聡明で、顔のいい先生でした   |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | 寮のクリスマス会とかのもよおしにはいつも顔を出し、みんな<br>と話をしたり写真もとっています   |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 寮生活はとてもきびしく私には大へん勉強になり、友達もたく<br>さんでき、楽しい日々だったことを昨日のように思います  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 卒業してすぐ教員になりましたので、その時は先生の教えのせ<br>いで大へん自分でいうのもへんですが、研究授業等はいつも私<br>で、全国の研究授業もしました。10年で教員生活は退職し主<br>婦として今日まで生活しています |
| 11. 学生生活の思い出                            | 寮生活でしたので友達がいっぱいでき(全国)、その人達とは今<br>もつき合って子供の嫁の世話とかいろいろとしていたりしま<br>す。私は音楽をしていましたので、大学のコーラス部でコン<br>クール等にもでていました     |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 今までどおりでいいと思いますが？孫は日本女子大学に行っ<br>ています   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 今の大学生は私達の頃とちがって遊ぶことに忙しいようで、い<br>つもびっくりしています。私達はいつも勉強ばかりしていたよ<br>うな時代でした   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | とても楽しい大学生活だったことを伝え、話もしたいです  |

|  |                  |
|--|------------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養B）卒 |
| 氏名   | A. Mさん           |
| 別紙：<br>このたびはなつかしい母校よりの、しかも大変権威のある関根先生よりの通信、ありが<br>うございました。要旨はわかりました。しかし何分にも五十数年の年月が過ぎて居ります。<br>お応え出来るようなお返事が出来なく申し訳ございません。唯、大変感激したことは、初<br>代学長先生をこのように尊敬して居られる平成の家政大学の教授が居られることです。そ<br>して数多い卒業生に、家政大学を思う情熱をお届け下さる教授が居られることです。頂戴<br>しました文書（アンケート用紙も含めて）は、卒後五十数年を経た一卒業生の大切な宝物<br>にさせていただきます。東京家政大学に益々その発展あれ、と祈りつつ。 |                  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養B）卒                                  |   |
| 氏名   | K. Mさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京出身で自宅通学の為、困難はなかった。但し、電車の混雑が凄かった                 |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 幼稚園教諭免許   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立して、社会に役立つ人になりたい                                 |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情をもって人に接し、最も大切な勤勉に努め聡明である為、日々勉学に励むように説かれた        |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ① 内容  | 若い女性のあるべき姿                                      |
|  | ② 感銘を受けた点   | これからの人生を如何に歩むべきかの指針を示して下さい                      |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 穏やかな表情、穏やかな口調、一言一言を丁寧に説明して、わかりやすく話すことに心を砕いて下さった   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学校行事に必ず出席下さり、学生に親しく接して下さいました                    |   |
|  | ② 手書きカーネーションカードを全学生宅にお贈り下さったのは本当に感激でした            |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学長の指示に従って、右往左往しながら、教えを自分のものにして努力していた助手の方達を思い出しました |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 自分を考えずに、人に良い様にと考えることが少しできたように思います                 |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①嬉しかったこと  | 単位が全部取れて、教員免許、栄養士免許が取得できて、卒業できることがわかった時、ホットしました |
|  | ②つらかったこと  | 2年生になって、毎日の様に実習に出なければならず、学校に通って授業に出られなかった事      |
|  | ③悲しかったこと  | 青木学長がご病気で体調が悪いと聞いた時                             |
| 12. 他の先生の思い出                               | 授業内容がコンパクトに纏まっていて頭に入り易い先生がいらっしゃいました。塚田先生？（産婦人科医）  |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 確かな技術を身に付け、自分の考えを持ち、協力して事にあられる人材の育成               |   |



|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 勉学に励み、協力し合って、充実した学生生活をおくって欲しい      |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 人生どう生きるか、自己確立の大切さをお教え頂いたことを感謝している事 |
| <p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後、民主主義が叫ばれ、今迄とはまるで違う世の中となり、女性の地位が上がる中、何事も試行錯誤を繰り返していました。新制大学として、女子大として、教育理念を確立しなければならない大切な時期に学長として青木先生に導いて頂きましたことは幸運でした。何も知らないで入学し、黒いガウンに菱形に房の付いた帽子をかぶって現われた学長を目にした時、私はヤンキーゴーホームと考えていたので、アメリカの物真似をする大学に入ってしまったと思ひ落胆しました。教務からの今後についての説明も、狭い部屋に大勢が詰め込まれ聞き取り難い上に、やたらに英語が多くて何を言っているのかさっぱり分らず、やる気がすっかり無くなりました。</li> <li>・教員免許と栄養士免許を取得するための教科・単位の多さに驚きました。時間表を作ってみると朝から夕方までぎっしり詰まってしまって、勉強づけの見本のようなものが出来上がりました。これでは体が持たないと考えていると、クラスの皆も同じような時間表で、「この学校は、勉強は大変だけれども、免許が取れるのでとても評判が良い」「せっかく入れたのだから頑張ってみる」と話しています。「皆が頑張る」と言っているのに私だけがしないと言うのも変なので頑張ってみることにしましたが、化学の講義の多さに疲れ果て必修科目以外出席する余裕を無くして、青木学長の水曜講演は朝寝のできる日にしていました。クラスメートの会話の中で「青木先生の水曜講演は、為になる内容だから聞くようにと先輩から言われている」と話しているのが聞こえてきました。そんな時担当の助手から直接「貴女は一度も出席していないが、出席するように」と言われ、起きられたら出席しようと決めました。眠い目をこすり、半分眠りながら教室に辿り着きました。</li> </ul> <p>先生のお話は、其々の教科も多く慣れない生活の中で大変だろうけれども、これから就職して勤める職業の基礎になるものだからしっかり勉強してもらいたい。それと同時に人間として、職場の同僚として、妻として、母としてどう生きていくのかをしっかりと考えて行動してもらいたい。新聞を読んで世の中の動きを知り先輩の知識を吸収して考える人になってもらいたい。若い女性に向けて「考え方」「人生の歩み方」など、「目から鱗」の感じで話に引き込まれたのを覚えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「若い女性」を先日少し読み返して驚きました。女性も従順さを要求された時代は終わり、物事を計画し段取りよく処理する判断力を養うように書かれ、自分を考え自分の個性を活かす充実した生活をするように諭されています。読んでいくうちに私が今まで生きてきた間に自分で考えて勤めてきたと思っていたことは、全てが先生に教えて頂いたことだったと気付きました。考え方の基礎は学んだものでした。青木先生に学べた巡り合わせに感謝しています。</li> </ul> |                                    |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養B）卒   |
| 氏名   | S. Tさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京という初めての地、家族と離れて何もかも自分一人ではなければならなかった事、初体験ばかりで大へん心細かったことを思い出します  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家の近くに旧渡辺学園を卒業された方が居りまして、その方が活やくなさっていた事が親も許してくれたこと。私自身も社会に出ても家庭に入っても両立出来るのではと思ひまして・・・   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 学業をしっかり学び身につけ、出身地に帰り一教師に、と思ひました。都会的なセンスを身につけることが夢でした   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 本学の生活信条を学び、身に付け、一社会人となれる様、だったと思ひられますが・・・   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 感銘を受けた点：<br>人としての生き方、自己の形成に常に高い理想を持って、その目標に近づける様、日々の努力を忘れない心の持ちよう・・・(相手の気持ちを常に考えた行動が出来る人間形成)   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 講義の時には、黒ぶちの眼鏡をかけられ、音声は、言語がとても愛情こもった明りょうな話し方。聞き易かったことを思い出します。学者らしいというのは、こういう方を云うのだろうと・・・人格者でした  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① サンタクロースにおなりになり、クリスマスカードをいただいた事（自筆の心のこもったものでした）。とてもにこやかなお顔が今でも目に浮かんで参ります<br>② 女性は、いつでも常にお花を愛し、たやさない様、うるおいのある生活・・・卒業記念にクリスタルの可愛らしい花びんをいただいたこと、現在も大切に使用いたして居ります<br>③ キャンプファイヤーの時の学長先生も生徒一人一人に愛情を注いで下さいました |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 現在も半世紀近く家庭生活が続いていることが教育のお陰ではなかろうかと・・・(円満)  |

|                            |  |
|----------------------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出              | 嬉しかったこと：<br>寮生活でしたので、通学生の方と親しくなれ、その家に泊まりに行ったこと。ちょっぴり、自由な生活空間が持てたこと。同郷の下級生のお父様のお世話で、就職出来たことは、大へんうれしかった事です |
| 1 2. 他の先生の思い出              | 当時は、教授では児童心理学の山下俊郎先生が居らして、結婚してから子供の進路についても相談をお願いしたことなど懐かしく思い出されます（小金井の貫井のご自宅に伺って）                        |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること     | 社会の変化に伴っても、常に対応が出来る実践力・応用力を身につけて立派な社会人・家庭人に、更には子供の教育をしっかり出来る人になって欲しいと思います                                |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと | 東京家政大（短大）で先生にお逢い出来たこと、ご指導いただいたことに本当に有がとうございましたと感謝の気持ちをお伝えしたいと思います  |



「学生たちにカードを配る青木先生」

～ 東京家政大学博物館より提供

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒   |   |
| 氏名   | A. Yさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私の場合は自宅からの通学でしたので、進学が可能でした。サラリーマン家庭で姉妹四人。経済的にも大変だったと思います                     |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 児童心理学を勉強したいと思っていましたが、結果的には栄養（食物）の方に進むことになりました                                |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 大学生として自覚をもって4年間又は2年間を過ごすように  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 水曜講演は大変楽しみで校外実習などの時以外は必ず出席しましたが、「一番」の答はむずかしいです。愛情についてよく話されましたが、奪う愛ではなく与える愛を、と説かれました |
|  | ②内容  | 一日一日の積み重ねが大切である。語学を身につけるのは「朝顔」を育てるのと同じ（一日水やりを忘れると枯れてしまう）。一步一步が人生を築く                 |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 腰かけられたまま原稿を読みながら、ゆっくり解説されたと記憶しています   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 卒論のご指導を頂きましたが、学長室に集うのが楽しみでした。時には当時では貴重だった羊羹などもご馳走して下さいました                  |   |
|  | ② 私は板橋方面から都電で通学していましたが、途中、歩いている私を見つけられ、お車を止め大学まで乗せて下さったことがありました              |   |
|  | ③ クリスマス、母の日のカードは勿論ですが、お出しした暑中見舞などにも、水彩で花の絵を添え、必ず返信を下さり、今も大切にしています            |   |
|  | ④ 卒業証書を一人ずつ授与されましたが、その時の先生のお顔（目）はしっかり覚えています                                  |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 青木先生が常に学生を思い、学生と共にありたいと考えられていたこと。キャンプファイアの家族的雰囲気など。温かい先生のご人格を身近で感じる事が出来幸せでした |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 生かされた、と言うこととは異なるかもしれませんが、恵まれない人、弱い立場の人々に何か出来る事があれば、と常に心にあります（白い杖で歩いている方には「大丈夫ですか？」と声をかけたり）                   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 児童・栄養科で栄養士、教職の資格を取得する為、非常に多忙で（夏休みには夏期講習、又校外実習も多く）、学生生活を楽しんだと言う記憶はありませんが、教育実習、病院実習、乳児院実習など苦労もありましたが、楽しくもありました |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 学業に専念することは勿論ですが、その前に礼儀正しい人であってほしいです。どんな職業についてもその人の人柄が大切です  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 先生に頂いたお葉書は今も大切にしています。そして再び水曜講演をお聞きしたいです、と  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 卒業年                             | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名                              | I. Mさん  |
| 3. 本学を選んだ理由                     | 児童心理学に興味があったと思います                                       |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | むずかしい表現はなさらなかった   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | 軽井沢の別荘に伺って、森の中を散策した思い出。その日は長野県人の集まりというわけでしたが、出席者は私1人でした |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 卒論の御指導を受けました。その時の先生のお話しが、今でも役立っているように感じられます             |
| 11. 学生生活の思い出                    | 都会の中央には無い緑の小道を歩く時大変嬉しいでした                               |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 健康な身体と心を養って頂きたい   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 感謝の気持ちです  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名   | T. Sさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 家政大付属高校よりお世話になりましたので特にございません  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつもにこやかに話された記憶がございます  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学期末の頃と思いますが、夕暮れの頃キャンプファイヤーでその回りでフォークダンスした記憶があり楽しい一時でした<br>② 年賀状を青木学長先生にあげたところ、手描き絵と自筆のご返事を頂き恐縮した覚えがあります |
| 11. 学生生活の思い出                               | キャンプファイヤーの行事はすばらしいと思います   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | ますますの御発展を望みます   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 青木学長先生のお心を受けついでほしい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 現在不自由なく教養を身につけた御蔭と、青木学長先生はじめ御指導をいただいた先生方々に感謝する毎日です  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒                             |
| 氏名   | M. Mさん                                       |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 電車通学でしたので慣れるまで満員と車酔いがした。京王線の布田から今は時間が短くなりました |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 叔母のすすめでした。食物科が理系に近かったのです                     |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 友人と教職、栄養士がとれたことです                            |

|   |  |
|---|--|
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容  | 人数が多くて、殆ど聞こえていなかったと思います  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演   | あまり熱心な生徒ではなかったようで、思い出せません。役に立たなくてすみませんでした  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | おだやかな先生でした   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか   | もっと勉強しなくてはと思って、卒業後2年して日本女子大の通信の食物科に入りました。卒業してからやはり家政大の同期の人達との集まりの方が、気持ちが休まるような会になりました。多分青木先生の愛情のお話が心に入っていたのでしょう      |
| 11. 学生生活の思い出  | つらかったこと：<br>暑くて寒い教室です。栄養学などで実験の道具が少なくて殆ど先生のなさることを見学しているだけでした。しかし、高校の時に思っていた家庭科を充実させなくてはと思わせて貰いました。家庭科は総合化学、科学と云うことです |
| 12. 他の先生の思い出  | 体育の寺島先生。真面目に出席していて体育は姿勢が基本であるということを学びました。高校まではいつもC点でしたが、98点を貰いびっくりしました   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 地域と共存していくことと思います   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 創業（学）の渡辺辰五郎先生のことから、ここまで発展したことを学生に伝えて下さい  |
| <p>別紙：</p> <p>2月に上京した帰りの新幹線で隣に座っていた女性とお話をしましたら偶然、家政大4年の方で静岡に就職の為面接に行くと言う方でした。少しお話をしましたら、学校の昔のこと、創業の話は聞いたことがないということでした。私も通学していた頃はあまり気にしていなかったのですが、地区の同窓会に出席して年配の方々から戦時中のこと、戦後今の場所への移転のお話などを聞きました。多分、校報には時々昔のお話が出ているのですが、折にふれて気がつくようにお話をされたいかがですか。もう昔のことを御存知の先生方もいらっしゃると思いますが、私も青木先生の講演をあまり憶えていない生徒でした。青木先生の作詞の校歌は良く憶えていて、同窓会ではいつも一緒に歌って先生のことを思い出します。</p> |  |

|  |   |                  |
|--|---|------------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒                                  |                  |
| 氏名   | K. Yさん  |                  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 社会状況が良くない時代でしたが、たいへんと思った事はなかったと思います               |                  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 長野県の出身です。故青木先生のお名前が有名の為                           |                  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 青木先生のもとで勉強出来る事                                    |                  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明についての様な気がしますが、はっきりと覚えて居りません               |                  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 毎回楽しみに講演を聞きましたが、どの回も感銘したのを憶えています。どれと云われてもお答え出来ません |                  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 抱擁力のあるお人柄、やさしい目、おだやかな口調、何でも相談できるお伯父様的な人           |                  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 1953年3月。先生の自筆でゲーテのことばを誌したハンカチ大の巾に藍染したものを頂いた事    |                  |
|  | ② 結婚を相談した事。その為に私の両親に会いに来宅して下さいました事                |                  |
|  | ③ 卒業論文を青木先生にご指導して頂いた事                             |                  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 人間関係  |                  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 人と人とのつながり   |                  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと                               | 良い友達にめぐり会えた事     |
|  | ②悲しかったこと  | 青木先生がお亡くなりになられた事 |
| 12. 他の先生の思い出                               | 卒業論文のご指導を受けた時、論文の他に雑談をした事                         |                  |



|                               |                              |
|-------------------------------|------------------------------|
| 13. これからの大学・短大に期待すること         | すべてのものに愛情をもつ事                |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 人と人とを大切に                     |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | ありがとうございました、と感謝の気持ちをお伝えしたいです |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名   | S. Nさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | 半世紀も過ぎ、ほとんど忘れた感じもいたします。田舎から上京し、まだ物のない時代。大部屋で寮生活を過ごし、このことが今になっても私の人生に有益であったとつくづく思うことが沢山あります。例えば、人との協調性、物の大切さ、がまんできる等 |
| 3. 本学を選んだ理由  | 九州の片田舎に育ち、女の子一人で、結婚には大切な料理の勉強も必要かということで、東京の親戚の助言もあったので入学を選ぶ   |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 一人の女性に成長していきたい  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等   | 生徒に語りかけるように、左右に顔を動かされて笑顔まじりに話されていた様子が浮かんできます  |
| 8. その他の行事に関する思い出   | 東京で生活している学生時代、お父さんといった感じであったと思い出しています。二年間の短期生活だったので、せめてもの四年間であればもう少し思い出があったのではないかと、余りご希望にそうすることが出来なくて申しわけございません     |
| <p>別紙：</p> <p>青木誠四郎先生の水曜講演の一覧を読ませていただいて、何かしら五十年前のことがうっすらと浮かんで参る様です。概要を次々と読んでみて、この五十数余年の間に過去二年間において先生のお話し下さっていることが、全部その通りというまでもございませんが、少しはお話しになられていることが役立ち、それなりに生きていっていること（短い二年間の学生生活であったけど）本当に今迄生きた上での盾になってたのだなと感じ入りました。すばらしい先生に御指導いただいたことを誇りに思いました。</p> |   |

|  |   |                 |
|--|---|-----------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（児童栄養C）卒                                    |                 |
| 氏名   | F. Mさん  |                 |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親戚の家に同居   |                 |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母から青木先生の事を聞いていた                                     |                 |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                                       | 1年の時の始め頃        |
|  | ②内容   | 何を、と具体的には憶えていない |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 対人をじっと見て話される  |                 |
| 11. 学生生活の思い出                               | 母から青木先生が学長だからとこの学校へ入りましたが、今となっては何もかも薄ぼんやりとしか思い出せません |                 |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 今になってあの水曜講演を伺いしたいと思います                              |                 |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服A）卒  |  |
| 氏名   | N. Kさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 2年に編入学でしたので特にありません                                    |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 被服関係の勉強がしたかったので                                       |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 高校の教師になることでした   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 編入学生ですので参加しておりません                                     |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 1年間の在籍で半世紀以上たっていますので忘れたことも多く、お答えがはっきりできないので申しわけございません |  |

|   |  |
|---|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | 落ち着いた熱のこもった口調で話されました。学生は皆シーンと集中してお話を聴きました  |
| 8. その他の行事に関する<br>思い出                    | ① グリーンのかわいらしい一輪ざしをいただきました（卒業の前かと思います）<br>② 母の日のカーネーションのカードもいただいたと思います<br>③ 1人1人の生徒を大切にされる先生でいらっしゃる嬉しく感激致しました   |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 寮生活でしたが、同室の人達とみんな仲良く楽しい日々が過ごせました   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 家族、同じ職場の人達、生徒にも折にふれ実践できたと思います  |
| 11. 学生生活の思い出                            | 私と同年の編入学生が居り親しい友人になれたことは、とても幸せだったと思います。その人の名は〇〇さんですが、現在同窓会名簿に住所が無いのが残念です   |
| 12. 他の先生の思い出                            | 尾中明代先生、生田光子先生、東昇先生、御指導がきびきびして居られよく理解できました  |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 戦争と平和。人間の幸福とは等、考えられること。世界を知り、自己が確立できること  |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 学生は目標を持ち、よく研究して欲しいと思います  |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | おかげ様で高校教師を定年まで楽しく勤めることができました。更に勤めて欲しいと高校3校、短大1校から依頼されましたが、家庭の都合でおことわりしました。家庭では、教えていただいた被服関係のことやその応用を沢山生活に生かすことができました。又、愛情・勤勉・聡明を生活信条としております。よい教えを賜り有難うございました。感謝申し上げます。今後も向上したいと思っております |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | Y. Yさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学。秋葉原→十条  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 姉達が東京女子専門学校時代に卒業。両親の希望もありました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 高校時代は普通科を卒業。家庭科をとっていなかった為、洋裁・和裁を自分で仕立ててみたいと思いました   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 卒業して50余年たちますが、授業の時「これからの一生の計画をたててごらんなさい」とおっしゃったことが、今だにただ一つ思い出しております。あの時しっかり計画を立ててれば良かったなと思っています                              |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とても親しみ易く、いつもおだやかな表情だったと思います  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマスに白い髪の子サンタクロースの青木先生を思い出しています<br>② 文化祭の後、キャンプファイヤーは楽しい思い出です<br>③ 卒業の時グリーンの一輪ざしをいただき時々思い出しております                          |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 卒業して家庭に入ってしまったましたが、現在、ボランティアで老人ホームに行き、傾聴活動をしております  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 嬉しかったこと：<br>高校の時、裁縫の時間を選択していなかった為とても苦勞致しました。特に宿題が多かったと思いますが、外国のスタイルブックを見て洋服を縫って出来上がった時、うれしかったと思います。私の学生時代は今の様に洋服は売っておりませんでした |
| 12. 他の先生の思い出                               | 卒論を書く時、染色の青木みん先生のご指導をうけ、夏休みに1ヵ月間、先生のお宅にまで伺ってご指導を受けました  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服A）卒<br>（昭和24年東京家政大学入学、2年で休学、その後同短大再入学）   |
| 氏名   | Y. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 周りの人は家政大学に入るために生まれてきたような人ばかりで劣等感になやまされて来た   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 父の妹が石川県立I高等女学校（五年制）に行つて一度もお裁縫を仕上げた事がなかった。私の母が全部仕上げたそうです。私の父母がそれを心配した  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 小学一年の五月一日から日本史を読み始め、四年の十一月末には徳川幕府の大政奉還まで読んで居りましたので、京都奈良に行きたかったのです   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 青木誠四郎氏は東大の名誉教授であった事しか覚えておりません   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | （以下、思い出や青木先生への感謝の文章がつづられています）<br>（昭和24年）新制大学一年に入学してレクリエーションだと言って学長と手をひいて鬼ごっこをしたり、或る時、私が指されて、どうして良いかわからない私に誰かが「投げキッス」を教えてくれて私はその真似をして拍手喝采を受けた。私は後に、Tに勤めた（30数年。この時が初めて一般社会とは、こんなものか、さんざんな目にあいました。この時に青木先生の偉大さをつくづく思い感謝し、頑張つて来ました） |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 私の父よりも優しくかった。父は永田町の話と石川県議会の話をしてくれた  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 入学して最初の母の日に出す「ハガキ」に一人ずつ絵をかいて配って下さった<br>② 秋田県出身のS.Sさんの母上が感激の御礼状をすぐ出して下さって級に廻していただいて涙をながした事があります<br>③ 大学一年の入学式は昭和24年4月24日で、私はそれに間に合うように出て行きました  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | クリスマスにはサンタになって赤い服を着て、いろんな物を講堂の壇上から投げ下さり、まるで小学生のようにそれを受け取り、思い出しゃべり合いました。（別紙に書きます）  |

|  |   |
|--|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 私は誰の話でも好意的に信じてしまうので、同情して信じて金を差上げた方も居りました。その方に私の恋人を奪われて、その上に毎日私の家(次兄と二人住まいの家)、私から離れないので辛くなって大学二年の九月から休学しました        |
| 11. 学生生活の思い出   | (ご自身のことがつづられています)休学中に石川県立Y高等学校に助教諭として勤めました。それは私の父が産みの親とかで、これ大変憎まれて、そこを止めて復学して短大の卒業にして頂き、卒業証書と高等の仮免と中学の二級免をいただきました |
| 12. 他の先生の思い出   | 美学の黒田朋心、意匠学の宮下孝雄、文学の阿部よし於先生に大変可愛がられました。ほめていただいた先生は文学の先生だけでした  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 家政大学でも実技だけではなく、図書館を利用して読書される事を望みます。世界を大きく見ていただきたい   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 常に自分を反省していただきたい。これは自分の我儘だとか、嫉妬だとかを  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 学長先生に御礼申し上げたい事は先見の明があって、その事に一番感謝しております  |
| <p>別紙：</p> <p>T大学へ行ったのは昭和39年3月21日でしたが(丁度、東京都がオリンピックを開催した年)、(それ以前に)一般的に募集して居た「クイズの解答者」に応募したり(TBSでペーパーテストで何点から合格だったか知りませんが、東京都からは私一人、日本で5~6人だけ)、その前にはNHKの「私は誰でしょう」にも出ていましたので、T大の方から憎まれ皮肉を言われたこともありました。こんな時青木先生だったら誉めて下さるのではないかと思います。その時の学長は文部事務次官有光さんでしたが、肩書が60以上持って居られて半日に一カ所と回って一ヵ月で回り切れない。三木テイ先生が学監で、その先生の授業を受けて居りましたが、東京家政大学では、クイズで選ばれたことやテレビ出演したことを皆さん喜んで下さると思いました。</p> <p>私は小学校一年の五月から何十万冊の本を読んで居たから、これを活かすことが良いのでは、と思い、東洋大学で司書の資格を取り、T大学に行きました。此処で青木先生の教えを実行して来ました。この時ほど東京家政大学の偉大さを有難く思った事はありません。やる事はきちんとやり、不言実行、相手は理事長であれ、学長であれ、きちんと、言うことは言い、拒否する事は拒否し、司書の仕事は全うし、大学では正規に一年延期してくれて、次は再雇用として二年間、研究所で紀要に提出した文章を訂正する役目をやりました。満68才(昭和4年、1929生)の翌年の3月31日の夜の8:30まで、公開講座の案を作成し、30数年世話になった大学なのに誰にも挨拶する暇もなく、図書館で下さった花束を研究所長に差し上げ親友と帰宅しました。</p> |   |

30数年、パパも息子も犠牲にして校務を全うして来た事を今も誇りに思っています。その中には最高裁に上告する裁判も自民党総理を相手に七年間、斗い続けました。その間、青木学長の顔を思い出して、姿勢を正しくやって来ました。青木先生には感謝し、母校の名誉を汚さないように頑張ってきました。自慢ばかりして居るようで申し訳ございません。只真剣に生きて来た、と言うことを申し上げたかったのです。青木誠四郎先生の「愛情・勤勉・聡明」をモットーにして生きて来たことを御報告申し上げたかったのです。

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服A）卒   |   |
| 氏名   | S. Cさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 通学に時間を要するため早く家を出なければならず、又満員電車での通学でしたので、今思うとよく通ったものだと思います   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 教育の目標というか、校舎は不足に思ったが子女を育てる学校の考えが気に入りました  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自分の好きな事を習得し将来につなげたいと思っていた  |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 黒いマント姿、学帽に目をうばわれていたような気がします  |   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 壇上のテーブルに着席され、テーブルに肘をついて手を前で組んで話されました   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 教授お一人おひとりが学生に接する時の眼差しが温かさを感じていました  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 水曜講演の内容はおぼえておりませんが、講演を聞いているうちに自然に培われたものだと思います。それが自分の歩んで来た小学校の教諭としての糧になったように思っています（鎌倉の国大に通い小学校の免状を取得） |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 楽しかったのは、友人がたくさんでき、話をすることでした               |
|  | ②嬉しかったこと   | 製作物が出来上がるのはとても嬉しかったと思います。苦勞が実ったからだと思っています |

|  |   |                                 |
|--|---|---------------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出  | ③つらかったこと  | 被服科でしたので製作物が多く、休むひまなく夢中で取り組みました |
| 1 2. 他の先生の思い出  | 和裁の先生のきびしかったこと。少しでも縫目が曲がったり指示通りではない場合、容赦なくほどかれたこと。せっかく時間をかけたにもかかわらず無駄になってしまったのは本当に残念に思った。少々ぐらいゆるしてくださいとたのみたい気分でした |                                 |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 他の大学・短大では習得できない内容の教え。教授ひとりが演説するのではなく、学生がとびついて来るような教育の方法   |                                 |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 人としての基本をしっかり習得しながら専門的なキャリアを積んでほしい。学生として悔いのない日々を送るように  |                                 |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 青木先生が意とした事は貫けたと感じています。定年退職後は、民生委員、児童委員として12年間になりつつあります。これも、いつの間にか身についた先生の教えだと感謝申し上げます                             |                                 |
| <p>別紙：</p> <p>おわび：水曜講演があったのはおぼえていますが、内容はまったく思い出すことはできませんでした。あまりに年月が過ぎ去り多くの事柄を経て今があります。少々無理がありました。しかし少しずつ昔を思い起こす事ができました。ありがとうございました。ふり返ると、とても幸せな日々を送って来たことに家族に感謝したいと思っています。最後に学校の発展と、先生方のご健康をお祈り申し上げます。</p> |   |                                 |

|   |                |
|---|----------------|
| 卒業年   | 昭和30年：短大（被服B）卒 |
| 氏名  | N. Tさん         |
| <p>別紙：</p> <p>学園生活がなつかしく思い出されます。水曜講演は校門を入れてすぐの左側に有りました講堂（今、思えば質素な建物でした）でした。青木誠四郎学長先生のお姿を、はっきり思い出します。小肥りでいらっしゃって、少し高音のお声で、いつも温かさをお持ちでした。</p> <p>講演の各項目の記憶は薄れておりますが、全て「愛情・勤勉・聡明」という生活信条に通じるものと思います。この生活信条は年令を重ねるにつれて理解が深まる思いです。どの様な時代でも大切な信条ですが、殊に現在の社会状況からも痛感致します。</p> <p>短大卒で短い学園生活でしたが、時代が漸く落ち着いてきた頃でしたので、「学ばなければ」という思いを学生が皆、自覚していたように思います。校内は青木先生の“学園づくりの夢”を実現しつつあったような和やかな雰囲気だったと、ふり返っております。東京家政大学の益々の発展を祈念致します。</p> |                |



|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服B）卒   |
| 氏名   | T. Nさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 初めての東京での生活。言葉のカベ、食べ物、人の多さ、とまどうことばかりでした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 戦後の女の自立を考えてのことでした  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 先生になること！！  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | ふっくらとしたお顔の先生だったこと、印象に残っていますがお言葉まで覚えていません   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | にこやか、やさしいまなざし、ふっくらとした体格を思い出します   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 終戦後でしたのでまだその様な行事はなかったと思います   |
| 11. 学生生活の思い出                               | (楽しかったこと)<br>寮生活でした。大部屋で10人程。北海道から熊本まで各地からの人の集まりで、言葉も異なり、楽しい2年間の生活でした。寮監長の三木先生のかんだかい声が耳に残っています |
| 12. 他の先生の思い出                               | 台風前でしたが、大島に旅行に出かける前、ミキ先生に行かない様に注意されましたが・・・出かけてしまいました   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 世界の人々との交流もよいかと思います   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 大分支部で大学の活躍を1年に1度伺うことができます。めざましい活躍をされていると喜んでいきます  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | もう一度ご講義が聞きたいです   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | U. Mさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京のいちばんはずれの田舎ですので、西八王子駅へも遠く、その上、中央線も高尾発も少なく、通学には家を出てから2時間30分位かかりました。特に帰りの道は暗いのでキャンプファイヤーやその他の行事には参加できませんでした |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 両親のすすめもあって、家から通学出来る家政科のある大学を自分の足で一校、一校見てまわりました。その結果家から一番遠かったのですが、みどりが多く広々していてとても気に入りましたので受験は本校一本に決めました      |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 将来結婚して子供ができれば可愛い服を手作りしたいと思っていました。出来たら自分の服も作ったり、他人にも教えてあげられるようになりたいと思っていました                                  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | これからの時代は、女性も社会に出て働くのもよし、家の中で家族の為に家事をするのも立派な仕事であり、豊かなくらしが出来るといえる時代がやがて来るであろう。(例えば食後にコタツにあたりながら、アイスクリームを食べる)  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1、2年（昭和28～30年）の講演のある時はいつも。講演をきく態度について、遅れて入って来るのは講演している人、又それを聞いている人に対して失礼に当たるので窓の外できくのがマナーであると云われたと思いますので、今も何の時でも少し早めに行くように心がけています            |
|  | ②内容   | 具体的には、いつ、何と云うのはノートがもうないのでわかりませんが、これからの新しい時代に女性として、社会人としてどう生きるべきであり、ひいてはそれが将来の自分の幸福につながり、広くは他の人の為に何かが出来るといえる人間になる、その為のマナーや他人への思いやりについて説いて居られた |
|  | ① 感銘を受けた点   | 私が小さい時から、いつも両親がよく云っていた事と同じようなことでしたが、両親が云うのはあまり聞く耳を持たなかったのに、先生の口から云われるとよくわかり、その上、遠く何十年先を見越したお話だったので、今、思い出しても少しも時代を感じません                       |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | 明るい紺の背広で、いつもにこやかなお顔で椅子に座って話され<br>ました。時々立たれるとお顔の割に背が低いなと思っていま<br>した。私は水曜講演がある日は、いつも家を6時に出ていま<br>したので前の方の席をとることが出来ましたので先生の角ばった<br>大きい柔和なお顔が目にかかびます  |   |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | ① 学生祭のキャンプファイヤーなどの行事は、時間の都合で参<br>加出来なかったので友人からその時の写真など見せてもら<br>い、その時ばかりは、寮生活の友人達がうらやましかった   |   |
|   | ② 卒業式の時に、先生が1人1人にていねいに証書を手渡し<br>て下さったのは今でもうれしく、他の大学にはないことだ<br>ろうと思っています。今はなき父も一緒に参列してくれた<br>ので、とてもよろこんでいたのを思い出します   |   |
|   | ③ 式後のパーティで、入り口に先生ご夫妻が両わきに立た<br>れて、あのせいじ色の小さな花びんを、1人1人に手渡し<br>て下さいました（後にも記入しましたが、今も毎日庭の草<br>花を活けて楽しんでます）   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 入学時クラス委員でしたが、私としては時間がなく、あまり皆<br>さんのお役に立たないと思っていましたが、よく協力してくれ<br>て、実になごやかなよいクラスでした。いくら思い出しても、<br>いやな思いをしたことがありません。それどころか、私が電車<br>に遅れそうになると、皆で後始末などかわってくれて、早く帰<br>してくれました。高校時代に経験したことのないことでした   |   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 自分のまわりの人々に感謝すること。この年令になって元気に<br>過ごせるのは、すべてまわりの方々の力があって、生かされて<br>いるのだとつくづく思います。家政大学で学んだことを、だれ<br>かに教えたいと思っていましたので、結婚後3年ほど、中学校<br>で家庭科の先生になり、楽しい思いもしましたし、その後、友<br>人や子供の洋服など縫ってあげました。それからの20年は、<br>身内の人達のお世話を次々としました。私にとって一番苦しい<br>時期でしたが、今思うとすべて愛情から出来たことで満足して<br>います |   |
| 11. 学生生活の思い出                            | ①楽しかった<br>こと  | 学園祭の時、自分の作ったドレスを着て、ファッ<br>ションショーに出たこと                             |
|   | ②嬉しかった<br>こと  | 家政大学1校のみの受験なので、合格は本当に<br>うれしかった。又遠い通学なので、1日も休ま<br>ず卒業出来たこともうれしかった |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 1. 学生生活の思い出   | ③悲しかったこと  | 2年生の時、私の和裁の宿題をよく手伝ってくれた祖母が亡くなったこと   |
|   | ④つらかったこと  | 寒い冬の日など中央線が帰りは高尾行が1時間に2本しかないので、駅のホームで30分近く待つ時があり、時間のロスが多く、家に帰って宿題をする時間が足りなかった |
| 1 2. 他の先生の思い出   | 和裁の早縫競争（たしか藤本先生と思います）の時、私は指をけがして、一番後になってしまいましたが、先生がやさしく、ずっと私が出来上がるまで待っていて下さいました   |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること  | 家政を通して女性らしさを失わず、しかし自分の考えをしっかりと持ち、心やさしい人に育ってほしい                                    |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 学業に専念するのはもちろんですが、人間としても他人に対するやさしさ、ありがとうが云える人に育ってほしい                               |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 卒業式の後、一人一人に手渡された小さい花びん（20cm位のせいじ色の1りんざし）、今も大切に、毎日、洗面所の近くの棚に我が家の庭の花（今は、つばき）を活けています |   |
| <p>別紙：</p> <p>卒業後、約55年ぶりに学生時代を思い出すチャンスを作っていただきありがとうございました。その間何度か、クラス会はしたのですが、ここ20年位がそれでもありませんでした。約5年前、卒業生母校に帰る日の招待をいただき、主人と娘をつれて参加させていただきました。当時と比べものにならないほど交通の便もよくなり、軽い足どりで門をくぐりました。新しい教室はもちろんですが、みどりも多く、学生さんの作品をみたり、クッキーをいただいたり、バザーで買物をしたり、楽しいひとときで、主人と娘も来てよかったですと大よろこびでした。会場では、クラスの友人は5、6名でしたが、色々な方々のお話をきいたり、話したり、その中で一番印象に残ったことは、今の学生さんの学園に対する満足度がこの何年もの間、1位や2、3位でいつも上位である（アンケートによる全国の）と云うことで、本当にうれしく、多くの関係される方々の努力と先生方皆様のご指導のおかげと、ありがたく、自分のこととしてうけとめました。最後にもう一つ。私共夫妻が仲人をつとめた花嫁が同じ短大、被服であったことです。それから30数年、いつも二人で家政大学の話をしています。今の私の幸せは、家政大学の二年間がとても濃いものに思えます。庭の菜園で無農薬野菜を作って、近所の方々にとてもよろこばれています。その他、手作り出来るものは、子育ての頃から何でも作りました。つつましい生活ですが、今があるのは、私をとりまく多くの人達のささえがあったからこそと感謝しています。</p> |   |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服B）卒   |
| 氏名   | N. Tさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時女性は大学へ行くと生意気になるとか云われ、やっと短大に入れてもらいました。又八戸↔上野まで13時間以上もかかり、混んでいて降りる迄立ちっぱなしでした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母の友達が本学校の卒業生であり、本当に良い学校だからと進められて、母もそこだったら行っても良いと云ってくれた   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 学校の先生  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明と鳩のマークです   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 何年生の頃、何月頃：<br>1年生、4月頃  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | にこやかで、青木先生が講堂に入って来られると場内がシーンとなり、ユーモアをまじえての講演はいつも笑いがありました。声はひびいて信州なまりの様でした  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 学園祭の終わりのキャンプファイヤーを囲んでのフォークダンスは、当時の私にとっては、とても新鮮で楽しいものでした  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 何となく家族を思わせる、何か困った事があっても母校に相談出来ると思わせる何かがある様な気が致します  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 家庭を大事に、友達を大事に、一生懸命に生きております。よく校歌を口ずさんでいる事があります  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 楽しかったこと：<br>家から離れて、寮生活をした私は、全てが新鮮で楽しい事でした。お友達と、今日は豪華な食事にと、エビ天を買ってそば屋でかけそばをとり、天ぷらそばにして食べた思い出があります。お友達と榛名湖にスケートに行った事、高尾山に行き馬に乗った事、諏訪根自子さんのバイオリンを聞きにいき、寮の門限に間にあう様にと走った事、チゴイネルワイゼンの曲を聞くと寮の食事で石の階段を下りて食堂へ行った事 |
| 12. 他の先生の思い出                               | 木曾山かね先生が私の担任で、卒業製作のドレスが中々きまらず、ずい分先生の所に相談に行ったものです   |

|                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 13. これからの大学・短大に期待すること         | やはり愛情・勤勉・聡明の精神         |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 校風を身につける               |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 私は先生のお教えを基点にして生きて参りました |

|  |  |                                       |
|--|--|---------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服B）卒   |                                       |
| 氏名   | S. Kさん   |                                       |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親の方が学費出費大変だったと思いますが、親は経済面のことは何も私には知らせず、今になって感謝しているところです    |                                       |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生が渡辺学園の卒業生で、その先生に推められて（親が）、受験することになりました                |                                       |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京で生活すること  |                                       |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明について話して下さったと思います                                   |                                       |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①内容  | 明確には憶えていませんが、とにかく知性・理性を持つ人間になろうと思いました |
|  | ②感銘を受けた点   | 青木先生の外観、内面、話し方すべてを尊敬していました            |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 角ばったところが全くなく、おおらかで微笑みのお顔しか記憶にありません                         |                                       |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 四国（高知）の田舎から上京して来た者にとってキャンプファイヤーは楽しかったです                  |                                       |
|  | ② 母の日のカーネーションカード一枚一枚、先生直筆でとても感動しました                        |                                       |
|  | ③ 寮生でしたが、足繁く高橋敬三先生と巡回して下さり、部屋に居て先生と目が合うこともしょっちゅうあり嬉しい思い出です |                                       |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 75才の今にしても愛情を受けて来たことが多く、与えたことが少なく、未だ人格的には劣っている自分を感じています。子供2人素直に成長してくれた事は有難い事です |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと  | ロードショーを友人と観に行き、銀座でウィンドショッピング、ホットケーキ食べ比べ        |
|                                 | ②つらかったこと  | 入学して1ヵ月位の間寮生活（早起き、寮の掃除）。洋裁・和裁の宿題を寮で必死の思いで行ったこと |
| 12. 他の先生の思い出                    | 授業ではありませんが、三木テイ先生と寮でよく御一緒に入浴した事   |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 知的でやさしく、実力を持った女性が世に出てくれること  |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 品格を持って欲しい   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 子供や孫の成長をお話しし、安心して頂きたい   |  |

|  |  |             |
|--|--|-------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服C）卒                             |             |
| 氏名   | H. Kさん                                     |             |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 学ぶ喜び。衣服材料の不足に悩みました                         |             |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 自立心と①家庭生活に必要な知識を得ること、②技術を身につけること           |             |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 男女平等に生活出来る未来のため                            |             |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 人間らしく、そして女性らしく、強く、思いやりのある人として生きる自分を築き上げること |             |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                              | 入学時         |
|  | ②内容  | 真の美しさ、善意の解釈 |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ③感銘を受けた点   | (水曜講演の日時が羅列されている) 30年<br>7月9日、9月12日、10月14日、11月20日、11月16日 |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | お話はゆっくり、思いある一言一言がすばらしかった                                       |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① キャンプファイヤー  |  |
|                                 | ② 職員旅行   |  |
|                                 | ③ ことばをかわす。研究生活では現実とはほど遠い生活でしたが                                 |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 人を愛すること。人を愛する事が出来ない事は、生きられないという事を知らされました                       |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 愛の道は教師である、家庭を守る基礎です。それも愛です。家庭の破壊は国の破壊でもある。愛することの出来る人間に育てて欲しいです |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①悲しかったこと   | 人の死  |
|                                 | ②楽しかったこと   | ありません  |
|                                 | ③つらかったこと   | つらい毎日の努力でした(仕事には自由がないのか?と常々思っていました)                      |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 社会に出て人のために働いて欲しいこと。役立つ社会人に                                     |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 思いやりあつての同窓会を築き上げて欲しい   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 先生ありがとうございます。ここまで生きて参りました。感謝申し上げます                             |  |



|  |                                       |                             |
|--|---------------------------------------|-----------------------------|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服C）卒                        |                             |
| 氏名   | T. Tさん                                |                             |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 交通の面                                  |                             |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 叔母が学んだから                              |                             |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 良い教師、賢い女性になるため                        |                             |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明                              |                             |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                         | いつ頃だったか忘れました                |
|  | ②内容                                   | 母への感謝について。生活と理想。学生の本分       |
|  | ③感銘を受けた点                              | すべてに毎時間感銘し、現在もあの頃と先生を思い出します |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 静かな口調でうたえられる様                         |                             |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 母の日のカーネーションのカード。母のタンスの中に大切に残されていました   |                             |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | すべての生活に                               |                             |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 長く福祉の仕事をしております                        |                             |
| 11. 学生生活の思い出                               | 被服科なので作品の製作は大変でした。友達（全国の人々）がたくさん出来たこと |                             |
| 12. 他の先生の思い出                               | 学長先生と被服整理（染色）の先生、美学の先生、料理の先生          |                             |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 夢を大きく。益々の御発展をお祈りします                   |                             |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | まじめな学生                                |                             |

|   |  |
|---|--|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 愛情・勤勉・聡明を思い出し、水曜講演が私の人生をささえています、という事です |
| 別紙：<br>学校を卒業して50年以上もたちましたが、学校の事、先生方の事、友達の事が思い出すことが出来まして有難うございました。 |  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服C）卒   |
| 氏名   | N. Iさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 経済的にも物もお金もなく、寮生活で食料も十分とは云えず、大変でした  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代の先輩にすすめられて   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立した女性になる  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 大変やさしい、暖かいお人柄でした   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | キャンプファイヤーの時、クリスマスの時等、学生の中に気軽に入られて私達とたのしくすごして下さった。私達学生も夏休み等、先生に御手紙をさし上げたりしました。クリスマスカードをいただき、そのお言葉メッセージに「全人類に愛を教えて下さったキリストの誕生日・・・」というような事が書かれていて、本当の愛とは？と考えたような記憶があります。勿論先生御自身の手がきのカードでした。今、思い返すと一番多感な青春時代に愛情・勤勉・聡明を御教えていただき、私の原点になっているように思います |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 青木先生のおっしゃっていらした愛情・勤勉・聡明を心に、よき女性として、人間として、成長して行って欲しい  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（被服C）卒  |   |
| 氏名   | T. Mさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時直行便は一便しかなく宮崎～東京間は30～32時間。年末年始は座席すらなく立ん坊状態。上京そのものが大変だった                            |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女性が自立して生きていく為に教職につきたい。男性と比較されない立場でありたい等考慮した上で・・・                                    |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 人として自立したい。その一歩を踏み出すこと   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 人間として自立した生き方をみつけること。教養を身につけ自分をみつめ磨くこと等・・・   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年生。昭和28年7月   |
|  | ②内容   | 夏季休業の過ごし方。初めての帰省時、お世話になった母校の校長先生、諸先生方へご挨拶に行くよう・・・                     |
|  | ③感銘を受けた点  | 人様に対する礼儀。これが社会人としてのマナーなのだと・・・礼儀を重んずることが社会人として生きる大切なルールなのだと気がついた       |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 低いお声ですが穏やかな話し方、表情。学長という厳めしいものではなく慈父そのものでした  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① サンタさんに扮した学長先生を囲んでのクリスマスパーティ。プレゼント交換。学長室での昼食会                                      |   |
|  | ② 母の日に手描きのカーネーションの絵をいただいたこと。この絵がいつまでも我が家に飾ってあった                                     |   |
|  | ③ 卒業記念にいただいた一輪差し、高さ11cm、色は翡翠。五十数年たった今も愛用しています                                       |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 「我が道を行く」という強い生き方ではなく、その時々で私を必要とする人の為に柔軟に対応してきたこと。こういう生き方が抵抗なく出来たこと。家政大で培われたものだと思います |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと   | この時代、この東京で共に学び共に遊ぶことができる同じ志を持った友達が大勢いる。このことが楽しく嬉しいことであり、毎日が希望に満ち溢れていた |

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出   | ②つらかったこと<br>悲しかったこと   | つらい悲しいことなど微塵も感じていなかった |
| 1 2. 他の先生の思い出   | 藤本先生（被服和裁）。この上なく優しい笑顔、お声で接して下さるのに提出日など延期の願いをしても唯一言「駄目」。毅然とした態度はお見事でした |                       |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること  | この大学、短大で学んだことを社会にでて生かせるような教育を望みます                                     |                       |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 愛情を持って人に優しく接することが出来る心の豊かな人に育ってほしい                                     |                       |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 先生の教えが私の人生の中で随所に生かされていたことへの感謝の気持                                      |                       |
| <p>別紙：</p> <p>卒業して50数年。今改めて青木学長先生の偉大さに触れ、私達はなんて幸せな時を過ごすことが出来たのだろうと感謝の気持で一杯です。学長先生が入ってこられるとその一挙一動に喰いいるように見つめていました。しいんと会場はまるで水を打ったように静まり返り、暖かい空気がすべての人を包み込むようでした。そしてあの笑顔、あのお声でお話が始まります。今の時代ならすべてビデオテープに残されているでしょうに・・・と残念です。</p> |   |                       |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和30年：短大（家庭科）卒   |
| 氏名   | Y. Fさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 入学式前日にやっと上京しました。本人より後に布団等の荷物が届きました                                   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 県立高校の進学コースに席をおき、それなりに受験勉強をして居りましたが、受験直前に父の反対に逢い進路はメチャクチャ。破れかぶれの入学でした |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 意気消沈の状態にあり、しかし高校の時全然学んでいなかった「被服コース」。何の夢も希望もありませんでした                  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                | ただ出席しただけでした  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | 多分、自由参加だったのだと思います。一度も拝聴した記憶がありません  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | このアンケートを戴いて、あざやかに先生の笑みをたたえた優しいお顔。物静かなおだやかな口調がよみがえりました。お姿すべてが優しかった  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① キャンプファイヤー。多勢で火を囲み、青木先生から発した友情のサインと愛情のサインを送って感激したことをなつかしく思い出します。スクエアダンスに興じた楽しい1夜でした<br>② クリスマスの夜。先生の温かいお話を聞きクリスマスを祝いました。私は「箱入り娘」をプレゼントされました |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | あれ程落ち込んでいた時期。一年間ではありましたが、よくも横道にそれることもなく無事学園生活を終えることが出来たと思います。まさに学園全体に「愛情・勤勉・聡明」の空気が漲っておりました  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 日常生活で人との対立に何時でも相手の気持ちを考えられるのは、あの年令の時の空気が教えて呉れたものと思います  |
| 11. 学生生活の思い出                    | 種々ありました。多感な時期です  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 丸岩先生が担任でした。私は運針の一針も運ぶことが出来ずに入学しましたが、先生の優しさが救いでした。卒業の時は、先生にローケツ染めのバック（和装用）を喜んで戴きました   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | やはり「愛情・勤勉・聡明」  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | どのような環境にあっても夢を失わず、思う存分自分も生きる人間になって欲しい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | ありがとうございました。私はあれから栄養士の国家試験に合格し、私なりに仕事を全うし、今幸せです  |

## 昭和31年 短大卒業

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒  |
| 氏名   | K. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 田舎から大都会へ出てわからない事が多くとまどいました。下宿からの通学や友達との接し方など  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代に本学卒業の先生にめぐり会ったこと。又母からも伝統ある学校だからよいのではないかということでした  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | これからの女性は教養をたかめ技術を身につけて社会に進出し、よい家庭を作らなければならないと思いました  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とても誠実で学生に親しみのあるやさしい先生でした。机にひじをつけてゆっくりとした口調で話され、一方的でなく話しかけられる講演でした   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① いつも学生に話しかけられ、やさしい笑顔が印象的でした<br>② 夏の学園でのキャンプファイヤーの時など、学生の中にとけこんで話かけられました。先生といっしょに写した写真もあります   |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | 緑豊かな学園で学べた事は本当によい環境でした。木々の間を通りながら友達と語り合った事を思い浮かべます。一方、短大の二年間で教職の免許と栄養士の免許を取る事は二年生の夏休み返上の実習で大変でしたが、今となって職場で家庭で又子供の教育にも多少なりとも役に立ったと思います。色々学んだ知識が役に立っている事を感謝しております |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 女性らしさを失わず、教育の土台をしっかりと作り上げてほしいと思います  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | 女性の社会進出も結構ですが、やはり家庭を守り、よい子供を育てる事が大切だと思います。しっかりした家庭が土台になると思います   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | すばらしい講義をもう一度聞きたいですね   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒   |  |
| 氏名   | S. Mさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親は地元の進学を希望し、私は上京したい気持で、結局、資格を得て帰って来ることで進学出来ました。学寮が完備していたことも選んだことになりました   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の担任が「短大で2年間だけなら大先輩で立派な青木学長のもとで学びなさい」、栄養士だけでなく、中学教免、高校仮免許までとれるからと教えられたことです                                    |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京に進学したことがうれしかった。資格を取得して病院、保健所、学校の栄養士として働くことでした  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | はっきりとおぼえていないのですが、学問は教えてもらうだけでなく考えることを学びなさい。母の愛を知りなさい   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1学年の夏休みの前。29年7月10日頃かなと思います                         |
|  | ②内容  | 両親を大切にしてください。手紙を出してください                            |
|  | ③感銘を受けた点   | 今までこうしたたぐいのお話はあまり聞いたことがなく、特に母親のことを考えてみるようになったと思います |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 声は大変ソフトで優しく、解りやすいお話でしたが、椅子にかけて視線は低く、話の内容は学問的でした。「諸君は僕がこう云うと、少女趣味だと云うんだね」が口ぐせでした                                |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 県人会の組織があつて、先生は長野県出身なので、長野県人会で一緒でした。東村山貯水池に行ったことがあります   |  |
|  | ② 学生祭のファイヤーストームではクラス毎に踊りや歌が出て楽しく、学長は気軽に写真に入ったりしました   |  |
|  | ③ クリスマスのキャンドルパーティでは学長がサンタクロースの姿で大きな袋をかついで現われ、学長から先生手書きのクリスマスカードをいただき、うれしく思いました                                 |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学長に呼ばれて学長室に行くと、壁に学生の写真が貼ってあつて、不思議に思ったが、高橋敬三先生と学内を歩いていて学生を見ると、〇〇さんで〇〇県だろうと云いあてていたのは、大人数であっても一人ずつを大切に下さったのだと思います |  |

|  |   |
|--|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 長年栄養士として勤務していた時も、後年学園事務職で勤務した時も、対象は人だったので、一人ずつ大切に相手の立場に立って接したことです。心理学や学習心理学が役に立ちました                       |
| 11. 学生生活の思い出   | 青木先生が大学に進むようにと、松本の父に会ってくださったことがありました。先生は児童、父は栄養と進む方向も異なっていて、父は即座に断ってしまったことは大変申し訳なく、自分のふがい無さに加えて、今も後悔しています |
| 12. 他の先生の思い出   | 中華料理の大島先生は、当時まだ普及していなかった手作り餃子を教えてくださって、私はすっかり好きになってしまい、ずい分作って家族・友人によるこぼれました                               |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 時代の変遷をとらえながら、学生、教職員に母校の建学精神を理解する機会を与えていただき、よき社会人を育てて欲しいです   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 学生時代は親に感謝して、よく勉強すること。卒業後も仕事と、家庭・子育てを両立するように努力をすること  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 青木先生の教えを守り、家庭と仕事の両立を続けて来て、今幸せに暮らしていることを報告し、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います   |
| 別紙：<br>「青木誠四郎先生の事（思い出すままに書いてみました）」<br>1. 青木先生と突然にお別れしてから54年も過ぎてしまいましたが、今でも優しく微笑みを絶やさない先生のお顔は臉に浮かびます。先生は62歳で亡くなられて、私は今先生よりも12年も長く生きています。先生の62年間になさったお仕事や研究・ご執筆された本などに接する時、ご立派な先生だったんだと頭がさがります。私は、卒業後は栄養士の資格で病院・会社・商社で勤務して、結婚してから大阪・九州と転勤して24年ぶりに東京に落ち着くことになって、44歳で学園の総務部に事務職員として就職し、65歳の定年退職まで勤務しました。家庭生活や子育てと仕事を両立して続けることが出来たことは、青木先生の教えのお陰だとありがたく思い、今もこのご恩は忘れたことはありません。<br>2. 私は長野県立M高校3年の担任から、「短大2年間ならば大先輩で立派な青木先生のもとで学ぶべきだ」と教えられ、栄養士・中学教免・高校仮免・保母（あと1教科）・調理士と資格が沢山取得できる事、当時学寮が完備している事で昭和29年に東京家政短期大学家政科児童栄養専攻を受験合格しました。<br>3. 当時のキャッチフレーズ「短大で大学なみの授業を」は、大変魅力でしたが資格を沢山取得するので非常に忙しい2年間でした。実習も多くて授業に追いつくので精一杯、当時は短大でも卒論（青木先生に指導を受けました）があるので時間も少なく、提出間際になると学寮は10時消燈の為に懐中電燈のあかりで書き上げました。 |   |



4. 大学で学んだことを出身地に帰って、資格を生かして職業に就きなさいと云う使命感を常に先生方から教えられ、学生はそうするものだと思っていました。
5. “母の日”を大切にしなさいと青木先生手書きのカーネーションのカードをいただき、私も母に初めて送りました。こうして繰り返し先生は母の愛、両親の愛を語り、自ら実践して私たちに教えてくださいました。
6. 水曜講演は、先輩からとてもよいお話だからと教えられて行きましたが、席取りが大変で立つのは当たり前でした。今になって思うと、常に“青木先生の理想の女性像”を熱く語っていた講座だったと思います。
7. 学寮生活は初めての経験でした。生活のきまりごとが多くて反発することもありましたが、先輩から細やかに教えられて学ぶことが多く楽しい2年間でした。先生は夜の自習時間を高橋敬三先生と見に来られて、あるお部屋に焼き芋を差し入れたこともありました。寮監長の三木テイ先生は、常に和服をお召しになっていて優しいけれど厳格で、それは貫禄がありました。
8. 学内には県人会の組織が既にあって、先生は県人会をととても大切にしていました。全国から学生を預かって教育しているのだと云う大きなお気持ちを感じました。
9. クリスマスのキャンドルパーティでは、先生はサンタクロースの扮装をして大きな袋をかついで現われるのです。学生祭のファイヤーストームは、クラス毎に踊ったり歌ったりと楽しい夜でした。先生は学生の行事を大切に、学生時代に楽しい思い出を沢山作りなさいと、自ら率先して楽しみを盛り上げて、学生に求められると気軽に写真に入ってくださいました。
10. 「諸君、僕がこう云うと君達はすぐに少女趣味だと云うんだらう」これが先生の口癖でした。でも云いながら嬉しそうな顔でした。私達は、また出た～と思うのでした。
11. 校内に紙屑などが落ちていることを大層に嫌いました。一つでも落ちていると授業が始まらないこともあり、学生達はすぐに拾うようになりました。
12. 高橋敬三先生とよく学園内の道を歩いていました。学長室の壁には学生一人ずつの写真が沢山貼ってあり顔と出身地を覚えていて、君は〇〇さんで〇〇県だらうと云い当てていました。当てられた学生は嬉しかったと云っていました。まだ学生数が少ない頃ですが、学生一人一人を大切に下さっていることを実感したのです。
13. 先生が小学校の教員だった頃、子供はなぜじっとしてられないのか、なぜ云うことを聞いてくれないのか、などを疑問に思ったことから、児童心理学の研究に向かい、それから子供を育てる母親の教育、女子の教育が必要になったと云うお話をきいて、私は学問の研究はこうして進めるのかを知り、成る程と思いました。
14. 戦後の新しい教育は、日本国民を育てる母親の生活水準を高め幸せにならなくてはならない、将来母親になる女子学生の教育が日本の将来に重要だと考えて講義の中でよく話していました。
15. 敗戦後の日本を甦らせるには、「新しい次の時代をつくる人」を育てることだと考えられて、子供を育てる女子の教育のために女子大の学長になったと話していました。先生の作詞した学生歌のなかにある「よみがえる祖国のゆくて」には先生の大きな大きな志を感じるのです。

16. 私は、学園を定年退職してから9年が過ぎて、現在は緑窓会東京支部（会員 13,150人）副支部長として中里喜子支部長と共に続けています。青木先生とのご関係が深い吉野美恵子先生、久保麗子先生にお会いすると、関根先生が青木先生の研究をされていることをありがたく感謝し、協力しなくてはとお話ししています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒  |
| 氏名   | S. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 高校から1人上京で右も左もわからなく不安でした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 先生（高校）の紹介   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 上京（東京）できること。資格を取ること   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 自分自身勉学にはげまなくては・・・と云う気持ちがわいたことはたしかです   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 感銘を受けた点：<br>労苦の価値。自己表現  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ゆっくりと、にこやかに話し下さったように思います  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 寮生活でしたので行事の時は皆で輪になってファイヤーストームをしたことを思い出します<br>② 個人的にお話をしたことはありませんでしたが、先生のお姿がみえますと心暖まりました |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 大勢の人と人との愛。心づかい  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 常に団体生活でしたので楽しくもあり、自由がきかなく悲しかったこと、いろいろでした。毎日がめずらしく緊張しました                                   |
| 12. 他の先生の思い出                               | 三木先生はこわかった  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 個人的にお話がしたかったです  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒  |   |
| 氏名   | A. Yさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 埼玉県大宮に住んでいました。父親の知人が教授をしていて迷うことなく入学しました   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女は結婚する、家庭をもつ、大事なことは料理家事のできることという母親の考え。父の知人も教授をしていた関係で入学しました。大変な財産を身につけたと思っています                          |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時高校を出ると勤める人がほとんどでした。大学に行く人(女の人)は、先ず少ない時代でした。大変幸せな人生であったと思います。結婚して何の不安もなく家庭をもて大変ありがたかったことたくさんあります       |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 何十年も昔のことです  |
|  | ②内容   | 先生のお話をうかがい幸せに暮らしている、それがすべての答えであると思います   |
|  | ③感銘を受けた点  | 私は、家庭を大事にすること、料理をして家の中をきれいにして主人の帰りを待つこと、主婦母親ということをきちんと身につけること、子供を育てること、それが女の幸せであることを自然に身につけました。短大で学んだこと、先生のおだやかな表情と声がいまでも耳元に聞こえてきます |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 先生はいつもにこやかにあいさつを返して下さいました。おだやかな表情でじっと顔を見てにこやかにあいさつを返して下さいます。うれしかったです。安心しました。お父さんの様に親しみのある先生でした          |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 私には3人の子供がいますが、上の子が高校、真ん中が中学、下の子が小学6年という時、西ドイツに転勤で行きました。青木先生の本をもって行きました。どんなに安心して本を広げ目を通したことか。今でも思い出します |   |
|  | ② 校門に入って先生と並んで歩いたこともあります。朝学校に行く時間で、校門に入る時、いつも同じ時間に先生と合いました。今思い出して、なつかしいなとしみじみ思います                       |   |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 8. その他の行事に関する思い出                | ③ 一緒に並んで歩いて下さったのです。ほんとにお父さんと並んで歩いている様でした。ずっとずっと昔のことなのに、まるで昨日の様に思い出されるのです  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 大変居心地のよい学園であったと思います。青木先生の本をドイツに転勤の時もっていきました。学校でつかっていた本です。今でも思い出します。暖かい父親の様な大きな大きな味方であると身をもって感じ、ドイツの生活をして来ました                |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 3人の子供を育てました。長女が大学、中の子と下の子が日本人学校に転校し、3年生活しましたが、何の不安もなく育てて生活して来たことを大変ありがたく思います。短大での生活があったことが何よりの強い味方で身についていたこととありがたいかっただと思います |
| 11. 学生生活の思い出                    | 短大での生活はあっという間のことだったのでしょうか。いいえ、あの時はほんとに充実していて、以後結婚生活も安心して生きてきました。西ドイツでの生活を3年過ごし、3人の子もみな立派に育ちました。短大での下地があってこそその生活でした          |
| 12. 他の先生の思い出                    | 私はいつも時間が早く1番先に教室に入り、一番前の真ん中の黒板のまんまえに席をとるのが好きでした。先生と1対1の教室での毎日であったと思い出します  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 先生に教えて下さったことを大事に生きて来ました。ありがとうございました。毎朝又お目にかかり並んで歩きたいです。あの時の昔の時代の様に!!  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | T. Hさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 家庭の事情等により、同級生より3年年上ということが始めは気になった                              |
| 3. 本学を選んだ理由                                | ①家庭の事情で知人の家に寄宿しなければならなかったこと<br>②子供時代、上十条に住んで（疎開する前）造兵廠を知っていたこと |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立した女性になりたいと思っていました（結局、就職はせず。いわゆる自立は？）                         |

|                                 |  |   |
|---------------------------------|--|---|
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                | これからの女性としての心構えや考え方の大切さを伺ったと思います  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ① 何年生の頃、何月頃  | 1年生の4月                                    |
|                                 | ② 内容<br>③ 感銘を受けた点  | 「愛情、勤勉、聡明」の本学の根本の理念に精神的にショックを受けたことを覚えています |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 一言で言えば、「布袋様」の感じ。いつもゆったりとした印象を受けました   |   |
| 8. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 各教科の先生、事務室の方達、皆心やさしく暖かく接して下さったと思います。それに縁が多かった  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 地域の仲間とボランティアで児童文庫（土曜日午後）をやったこと。その時、読み聞かせやクリスマス会（手作りのプレゼント、紙芝居、人形劇。全て手作り）等で生かされていたと思います   |   |
| 11. 学生生活の思い出                    | ① 卒後50年以上経っても、幾人かの当時のお友達と交流があること。人生で一番多感な頃の人間の交流の大切さを今になって宝物と思えること<br>② 寮生活からクリスマス会等々の話を聞くととても羨ましかったです   |   |
| 12. 他の先生の思い出                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・和裁の浴衣を縫う時、新しい反物が持って行けず、ほどいたものを持って行った時、悲しかったが先生が暖かく接して下さったとき</li> <li>・料理実習（村上先生）で、餃子を作った時。私は初めて「餃子」を知った</li> </ul> |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 現代、競争社会で、皆心が荒んでいる。本学の精神に基づいて、少しでも気持にゆとりを持った母親が増えてほしい   |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 本学の精神を本当によく考え、理解して欲しい。そして、少しでも多くの人がある理念を心して実践して欲しいと思います  |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | この年（現在77才、すぐ78才）になって、本当に先生のお教えがいかにかに有難いものであったか、お礼を申しあげたい   |   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒  |  |
| 氏名   | K. Uさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 学生寮（白菊寮）に入寮し、6畳部屋に6人。共同生活に慣れる迄（学生の縦割りで新入生は私のみ）大変でした（話に聞いていた軍隊生活そのものでした）   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 同郷の一年先輩の父上からの薦めでした  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士の資格。女性としての得が度い資格だと考えました。当時、県内に有資格者が3名程度しか居ませんでした。家庭医師としての主治医の推薦時の擦り込み方が良くて、大なる理由に成ったと考えられます。でも頑固な父親が秘蔵娘の私を、職業人として就職させてくれるとは思っていませんでした。短大卒業前に4年制度の大学への進学が出来る旨手紙で知らせてありましたが、女性が大学に進学して婚期が遅れるとの理由で、連れ戻しに上京してきた程の父親でした   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 日本女性の徳と大和撫子とはかくあるべしとて女性の徳を積むようにとの訓示されました。渡辺学園として東大赤門前に創立され、以来の教えと聞いて納得しました  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 毎週水曜講演時、全てと思います  |
|  | ②内容   | 特に人間愛（リストを拝見して、現在の自分に置きかえると、全ての講演が当てはまるものばかりでした）           |
|  | ③感銘を受けた点  | 学長自らの講演でしたので、全ての講話に感銘を受けましたので一つあげよと申されても困ります。古き良き時代の最高の師です |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 毎水曜講演時は講堂の壇上からの生の声でした。大きい声ではありませんが、両腕を机の上に置かれ本を広げノート（多分）に目をやり、私達にやさしいまなざしを向け、納得出来る音声と美しい日本の言葉（君達ではなく、あなた方でした）で教えて下さいました。リストを頂いて、あの日、あの時の教えが再度おもい出され、熱いものが頬を静かに伝わって行きました。広い講堂の中では私語を発する生徒は一人もなく、鉛筆の走る音とノートをめくる音ぐらいで、先生の言葉を一言も聞きもらす事の無いように、頭に、胸に心に目に刻みこみ、終了ベルが鳴っても先生が立ち上がり、一步机の前から離れようとなさる迄、不動の姿勢で生徒全員でお見送りしたものです |  |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| <p>8. その他の行事に関する思い出</p> | <p>① 其の期、母の日の集いは無かったと思います。でもクリスマスの時は、学長先生がサンタクロースに変装され、クリスマスカードを頂くと奇声を発する学生にとり囲まれ、おしゃべりをなさり、楽しい時間を過ごされた上、全員での記念写真の中に納まって下さいました</p>  |
|                         | <p>② 故郷の地では、娘が数えの19才の厄年に自髪で島田を結び上げ、大振袖を着て神社に参り、神主様に祝祓をあげて頂くという風習があります。その為、私も正座して髪が畳についてもお余りある程伸ばしていました。前髪も同様です。登校する時は頭の中央を分け三つ編みして頭部にグルグル巻いていました。ようやく学生寮生活に慣れはじめた4月の終わり、洗濯物を干すのに時間が掛り、髪の手入れが出来ず、仕方なく両耳に髪をかけ登校しました。途中、後部より声がかかりました。振り返ると何とまあー“学長先生様”。“おはよう御座居ます”と、頭を下げて挨拶すると長髪がバサッとばかり地上のコンクリート道を叩いて居りました。(余談：造兵廠の道は、各部屋への通り道になっていて、3～4月時は桜並木の桜吹雪で桜の花びらの絨毯が出来、乙女心をウキウキさせてくれたものです。5～6月は葉桜となりました。木洩れ日に手を翳したものです。でもイモ虫よりでっかい毛虫が、ポトンポトンと落ちて来るのでキャーキャー声を張り上げて走り抜けたものです)「あっ ごめんなさい。驚かせたなー、貴方の髪があまりにも素敵なのでつい声を掛けてしまいました」と一礼され、「チョット触れさせて下さいませんか」との事。学長先生のお声掛け、吃驚仰天、無言、赤面、硬直、頭をコクン。「お名前は？」直立不動、返事も出来ない。ニコリされて、私を一周。再度のお尋ね、「触ってもよろしいですか？」再度私も頭をコクン。「戦後、貴方のような漆黒の髪を持ち主に出合った事が有りません。私は日本女性の三大要素は、黒髪、黒い瞳、白い歯並びだと思っています。素敵だなあー、直毛だなあー」と、2、3回髪を触れられた後、「今日は佳き日でした。本物の日本女性に会えて、こんなに嬉しい事はありません。有難う御座居ました」と深々と頭を下げられ、「願わくば卒業する迄切らずに、私が学園生活を心豊かなものにする為に御協力下さらないかなあー」と呟かれたのです。再々度私は頭をコクン。学長先生はもう一度頭を下げられると「校内で、又お目に掛り度いと思います。その節はよろしくネ」と</p> |

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 8. その他の行事に関する思い出                 | 軽く右手を挙げて、振り返り振り返りその場を去って行かれました。私は夢見ごこちでその場に座りこんでしまいました。だって相手は学長先生ですよ。水曜講演にお話されていた、人間関係、相手への愛情の深さを哺育育てよと教えて下さっている学長先生が自ら学生へ歩みより、話し掛けられ、笑顔を与えられ実践されたのですもの・・・  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか？ | 入学し、入寮し、共同生活を送りはじめた時、周りの人達が皆旧知の人、親類縁者というように、学年に関係なく、とても親しく自然体で会話をしているのです。中々他人に、ましてや九州の人間です。とても不思議な光景と雰囲気を目にして何故!! と考えこんでしまいました。私にも同様の態度で和気藹々なのです。女子大故か、新入生への労り方が深いのか!! 自分なりに納得して皆さんに接していました。一ヵ月程経って納得。入寮生の大半の方々が祖母、母、姉ら代々、渡辺学園時代より今日に至る迄、脈々と学長先生、その昔の諸先生方が築かれた愛情・勤勉・聡明が根づいていたのです。我が青春に悔いなしの想いが、現在も続いた宝です  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 昭和四十二年、東京日比谷公会堂で全国栄養士学会が開催されました。その折12分間の持ち時間で、壇上で発表（スライド2分間、論分10分）する機会を得ました（九州代表、宮崎縣）。“栄養士として、理解出来る活動をどの様な形で施行しているのか”との現況発表をしなければならなくなりました。当時縣内に6人しか栄養士の免許を持っている（届け出のある方）方のみ。月一回の病院給食の献立表と、実施後のカロリー計算を提出する（報告）義務が有りました（食事加算点数の為）。縣庁の栄養士が一番若手の私に白羽の矢を立てられました。私も若かったのですネ。当時、農業縣で有るにも拘わらず、山間部での食事情は最低でした。故か、縣庁に購入されていたキッチンカーで、各農村部の保健関係人と婦人部会を通じ、保存食の作り方、如何に栄養分を摂取すれば良いか等々を一緒に学んで行きましょと、一地域一ヵ月に一回の割合で講演実習を施行していました（今風のボランティア精神実施決行でした）。山村の人々の素直な人間性が私達の大なる励みと成った事は申す迄もありません。三年間続きました。三年間の実績とデーターの基での発表でした。 |



|  |   |   |
|--|---|---|
| <p>10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか</p> | <p>私の発表が終了して程なく壇上の左下のスクリーンに“宮崎県代表の〇〇様ロビー迄お出で下さい”との呼び出しが写し出されました。何事ならんとロビーに行くと、栄養士会報の記者の方でした。本大会が終了しましたら、会合に出席して頂き度いとの事。否応無しに承諾させられました。大会終了後にタクシーでのお迎え。山の上ホテル（御茶ノ水）での会合。北海道、東地方、西地方、四国、九州代表者によるものでした。豪華な御馳走と金一封迄頂きました。翌月、栄養士会全国版での会談内容が記載された小冊子が送付されて来ました。その本を目にした時程、学長先生の教えがズシンと身に響いた事は申す迄も有りません。</p> <p>労苦の価値、生活の転換、行動の実現、知的感覚<br/>学長先生の教え、教訓、全ての面です</p> |   |
| <p>11. 学生生活の思い出</p>                    | <p>①楽しかったこと</p>   | <p>仙石原（私達は箱根の別荘と呼んでいました）の寮で一泊し、金時山に登り、金時娘（茶店で働いていた方）と語り合い、眼前の富士山のでっかさに驚き、皆して大声を張り上げて富士山に挨拶した事です</p>   |
|  | <p>②嬉しかったこと</p>   | <p>卒業後、後輩の便りで私の卒業論文が展示されているとの知らせでした</p>   |
|  | <p>③つらかったこと<br/>④悲しかったこと</p>  | <p>二年の2学期より本学の幼稚園、附中に教育保育、教育実習に出る事に成りました。三つ編姿で附中の教室に行くと、生徒の幾人かが三つ編姿で実習に来るとは、田舎者は困るのよネ、散々、耳に届く様に言われました。附中でしたので2週間、ガマンしました。当時、教育実習は附中のみでなく池袋にある立教大学の幼稚園と附属中にも行かなければならなくなりました。本校の附中で散々田舎者あつかいされた苦い言葉が又もや繰り返されるかと考えると我慢出来なくなり、パーマを掛けるため長髪をカットした事です。栄養士と教師の免許を取る事にしたので、外出遊興の時間は皆無でした。他に日赤病院での育児実習。お茶ノ水附属病院での調理実習にも出されました。赤羽線と丸の内線の地下鉄に2度乗り換えての実習は、満員電車での通勤も体験しました。丸の内の地下鉄は池袋～お茶の水迄しか出来ていませんでした</p> |

|                                |  |   |
|--------------------------------|--|---|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ③つらかったこと<br>④悲しかったこと   | 卒業旅行に御神火（三原山）の大島行きでしたが、急性虫垂炎の手術で行く事が出来ず、とても悲しくて病室で泣きの日々を過ごしていた事です |
|                                | <p>山下俊郎先生：ダンディーな先生。階段教室で受講。子育て中に先生の教えが大きく役立ちました。（当時、育児書なんてありませんでした）</p> <p>神野節子先生：級担任でとても熱心なよき師でした。（卒業後も幾度となく同窓会（Aクラスのみ）が有りました。</p> <p>スマートな容姿端麗な中国料理の教師（名前は残念ながら判りません）：チャイナドレスで北京料理（宮廷料理）を幾品も教わりました。</p> <p>三木テイ先生：寮監長先生で、とても厳しい。寮生活の共同生活の躰をうけました</p> |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 教授と学生が教室内で、ただ単に学問を教え、学ぶという関係だけでなく、一歩ふみこんだ精神力を養う場所だと言う事を肌理の細かい指導を呈して頂き度いと思います。教育を掘り下げた実践哲学、実践理性を切望致します  |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 眞の日本女性の姿を在学中に学び取って欲しいと切に願い度いと思います  |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 学長先生、すっかり白髪のお姿に成りましたよ。先生の手に触れられた黒髪は、カットした後紅白の水引きに結ばれ、桐の箱に大事に入れて保存してありました、が一昨年実家がもらい火で全焼。焼滅してしまいました。実家に思い出の品がたくさんありましたが、煙となってしまいました。残念です。ヤマンバ姿でさぞ驚かれた事でしょう  |   |

|  |   |                                   |
|--|---|-----------------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養A）卒  |                                   |
| 氏名   | I. Aさん  |                                   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 経済的にも、女性が自立していく為にも勉強したいと願っていましたが、両親に理解してもらった事が大変でした   |                                   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女子高校の先生のすすめ   |                                   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 勉強したいとの思い。資格を持って自立した女性になる事  |                                   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 29年4月、29年11月                      |
|  | ②内容   | 服装は、人格そのものを表すもの。いつも知的で清潔に学生らしい生活？ |
|  | ③感銘を受けた点  | 女子学生としての生き方、学びの心、努力する事を気付かせて頂いた事  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 慈愛に満ち溢れていらっしゃいました   |                                   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日のカードを頂いた時の感激。母はずっと大切にしておりました   |                                   |
|  | ② 夏休み前、キャンプファイヤーをかこみ、全員でドボルザーク「新世界」から「家路」をハミング？した事。思い出すたびに懐かしく涙が落ちそうになります   |                                   |
|  | ③ 希望と夢いっぱいの子学生生活でした   |                                   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか        | 学生全員だったと思いますが、草取りをしていた折りに青木先生が優しく愛情溢れる表情で歩いていらっしゃった事  |                                   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか    | めんどろな病気をし、久しぶりに学生時代を思い出して、私なりに学長先生の教え（愛情、勤勉、聡明）をいつも心してその教えを守りたく努力したいと思っておりました。清潔に、純粹に生きたいと思いつつ、拙い無力な自分に深く反省の老いの日々です                     |                                   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 短大でしたので、朝9時から夕方4時40分迄びっしりと授業があり、夏休みも沢山の宿題、レポート等、とても大変だった事を懐かしく覚えています。一生懸命勉強させて頂き、本当に良かったと思っています。2年生の後半は一日一日が大切に、過ぎて行くのがもったいないように思う日々でした |                                   |

|                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 13. これからの大学・短大に期待すること     | 学生時代を大切に      |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと | 心から感謝いたしております |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 平成31年：短大（児童栄養A）卒  |
| 氏名   | F. Eさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 戦後をひきずって日本中が貧しかった。経済的に苦しい中を、短大に出してくれたことに感謝しています   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代、勉強していなかった。尚、青木誠四郎先生の生地でしたので（松本）  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 親元をはなれ、自由になりたかった。又、東京への憧れ   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 卒業式の時、学長先生がおっしゃった「周囲の人達を幸福にしてください」のお言葉が忘れられません  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 2年間の寮生活で沖縄から北海道までの人々と共に暮らしたこと。みんな優しかった。今考えるとみんな平均よりよい家庭で育った人だったからでしょう。家政大は、割合地味で学業に励む学校でした                                  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | あの頃は、日本中民主主義を唱えていましたが、青木先生はそれを愛情、誠実、勤勉という側面からお教え下さいました  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 楽しかったこと：<br>新宿、池袋に出掛けたこと。沢山友達が居て。舎監の先生も親切でした。短大は2年になると実習や（教育実習も）忙しく、最後に卒論もあり大変でしたが、そのおかげで少し勉強できたかな……。卒業後6～7年栄養士（病院）として働きました |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | たった2年間の家政大の生活でしたが、今まで生きてきた基盤になっていると思います。少し自信をもって生きてこれたかも知れません   |

|  |   |                            |
|--|---|----------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒  |                            |
| 氏名   | O. Sさん  |                            |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 静岡県は近い方でしたでしょうが、新幹線も無い時代、東京迄六時間かかった事です  |                            |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生が志望からみて示して下さい下さった二・三校から選ばせて頂いたわけですが、学内の体制が何となくしっかりして居る様に思えたことです  |                            |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家政、特に食物の方に進む事（結果は主として児童の方を生かすことになりました）  |                            |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 多勢の中から選ばれて入学した誇りを持つこと。聡明な人間になること  |                            |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 一年生夏季休暇前                   |
|  | ②内容   | 両親に孝養を。学生たる者勉強が義務          |
|  | ③感銘を受けた点  | 知性を重んじること。そして勉強を義務と位置付けたこと |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 優しい落ち着いた声。そして何時も穏やかな表情で決して突き放すのではなく包み込む様な物言いでした   |                            |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 何ととっても学長を囲んで写真を撮ったり、親しく声を掛けて下さった事です（キャンプファイヤー）  |                            |
|  | ② 何のカードかは定かではないのですが、一度いただいた覚えがあります  |                            |
|  | ③ 寮生活での日常諸々の楽しさは忘れることが出来ません   |                            |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 寮と学園が地続きであったことで、一層楽しく学べる雰囲気味わって居りました  |                            |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 両親を看取る立場となり看病や病人食など、その大変さを経験したことで、以後の人生に自信が持てる様になりました。先生の労苦の価値・労苦に耐えるを正に実践させて頂きました。以後は人間のめぐり合いの大切さを痛感して居ります。つくづく介護保険という制度が出来たことは有難く思います |                            |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 親が厳しかったからか、私にとりましては学生生活全てが楽しい事で埋め尽くされ、つらかった事、悲しかった事は一つも浮かんで参りません。友達のことにはしましても、楽しい学園生活が若かりし頃の輝きとなって、今でも良い思い出として胸にとどめて居ります |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 体育の授業は出席した事の証に紙に名前を書いて出すことになって居り、私が一度だけ休んだ折に、次の授業で名前が複数出ていた人として呼び上げられたことです。友達が気を利かして名前を出して下さっていたのです                      |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 時代に即した堅実さ  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 主に学園としては施設の充実に力を入れて来られた事を思えば、今の環境を当たり前でなく少しは感謝の念を持ってもらいたい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | どんな場合にも先ず自分が身をもって示すことの大切さを学んだ様に思います  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒   |   |
| 氏名   | I. Kさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時住んでいた杉並区で近所に家政大に通っている方に“良い学校”と進められ、家政大だけ（1校のみ）受験した。（当時は、数校受験は不可能で落ちたら働くという条件だった） |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 化学が好きだった。栄養士か先生になりたかった   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立した女性！  |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | あまりにも遠い過去のことによく覚えていないが、聡明・愛情・勤勉についての話だったと思うが・・・                                    |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 短大なので2年間の中で以下の内容  |
|  | ②内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の人生は自身で作る積み上げていく</li> <li>・日々の努力をおしまない</li> <li>・他人のいたみが分かり、人に対して思いやりの気持ちを大切にする、など</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | 第一印象は、温かみのあるお人柄。やさしい語りくち、体格もよく頼りがいのある感じでした  |
| 8. その他の行事に関する<br>思い出                    | クリスマス会で青木先生がサンタさんに扮装され、うたったり踊ったり、と一緒に写真を撮ったりして楽しかったことはしっかりと覚えている  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園<br>づくりをどういう点で感<br>じ取りましたか | 講義が階段教室だったり、すこしはなれた教室だったりと移動して歩いたが、どの先生方、助手の方々も熱心に指導して下さいました  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 学園の目標—愛情・勤勉・聡明—を少しでも実践することは人生を有意義に過ごせる。私事であるが、卒業、しばらくして結婚。2人の子どもに恵まれ平和に暮らしていたが、30才を目前に“このまま主婦で終わるのか・・・”と思いはじめ、まず公立中学校講師を経て小学校教諭として定年まで勤めた（同僚に家政大卒がかなりいました）。退職後もPC学校支援、町会ボランティア等、皆様の役に立つよう心がけている |
| 11. 学生生活の思い出                            | 友人との語り合い。実験・実習。テストで遅くまで勉強。試験が終わり貧血で倒れたことを思い出した。悲しいことはなし   |
| 12. 他の先生の思い出                            | 当時の学生はわりに真面目だった（今もカナ）ように思う。体を動かす実験、実習、体育のダンスなどの方がよく覚えているが・・・  |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 学園の目標・・・3つといわず1つでも2つでも実践し、家族からも友人からも愛される人がいいが・・・  |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 自己中心的でなく家族や他人の気持ちが分かり、人の役に立つ人が望ましいが・・・  |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 当時は若かった。今お話が聴ければしっかり受けとめることだろう。“ありがとうございました”の感謝の言葉につける。青木先生も関根先生という立派な研究者・後継者がいることで（他の先生方も）感謝し、きっと満足されることでしょう。ありがとうございました   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | M. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 戦後の経済がやや安定して来た時代でしたが、やはり大変な出費だったと思います   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 栄養士の免許証が取れること   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養になり、食の方から医学に携わって行きたいと思っていました  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 講演で「時間について」話されたことがあります。長時間の講演会では、聴く方達も、話をされる人も疲れて来て、最後はダレて来る様になる。青木先生は御自分の講演の時、内容と時間を計り、簡単明瞭に聞かせるには、15分と考えましたとのことのお話で、水曜講演は15分に丁度終わる様なお話をなさいました。タバコについても話されました。やめたいと思い、火をつけたタバコを消して灰皿に入れた時には、もう片手に新しいタバコを持っているのに気付いたとのこと。身についた習慣は、中々直せないと話されました |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 穏やかな、はっきりした口調でお話をされました  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | <p>① 柔らかなパステル色のカーネーション。花の色はピンクと記憶しています。1年生は1本、2年生は2本、描かれました。母に渡したと思います</p> <p>② 夏休みに入る前日の夜、ファイアーストームのまわりを先生と全学生が輪になって、歌ったり、ホークダンスをしたりしました</p> <p>③ 寮生にも気を配り、寮の行事がある時はおいでになり、夕食と一緒に学生の中に入って召し上がっておりました。寮歌の作詞も学長先生がお作りになりました</p>                  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 家政大学が胸に付けている「バッチ」の意味を教えられた時の感動は忘れられません。かがり火で行く道を照らし、盾で身を守り、鳩は平和の象徴と教えられました。敗戦国の日本にこれから希望を求めて出発、との思いがありました。三木テイ先生と共に忘れられない先生です   |



|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒   |  |
| 氏名   | S. Sさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 食糧が配給制で、米穀手帳を持って入寮した。昼のパンは色が黒くて、バターはカチカチのマーガリンで月に数回の配給でした。自分で十条の店で納豆など買って栄養の補給をしていた                              |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 敗戦後にはめずらしく新しい寮だったので決めました。祖父、父母共に東京で勉学をしていたので自然に上京した（白百合寮）  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 食生活の研究が好きだったから知識を吸収したいと思った。卒論も「そ菜におけるビタミン」でした  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | よく憶えていない。姿や声のみです   |  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 先生の姿、声はよく憶えています。いつもやさしい暖かい感じがする方でした。寮の行事にもよく出て戴きました。キャンプファイヤーの写真にはいつも一緒に写っています                                   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 自分の母親から青木先生の人柄をほめられて進学をすすめられた。母は直接は知らないのに高名は聞いていたらしい   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 自分は75才まで我ながら大家族の長男の嫁としてよく頑張ってきたと思う時があるが、これは人間の根底の優しさと女性の誠実な愛情がいかに家庭と子供の育成に大切かと学生時代何回も受けた講義を身につけていたから出来たのではないかと思う |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | （寮生活なので）クラスで伊豆大島方面へ旅をしたことは数々のスナップ写真を見る度楽しく思い出している        |
|  | ②つらかったこと   | つらいことは冬に手で洗う洗濯が大変だったこと。それも早いもの順に場所をとるので日曜日少し遅く起きると、大変だった |
| 12. 他の先生の思い出                               | 三木テイ先生の家庭管理の講義は今も美しい先生の姿と声も時々思い出し、その内容も女性の家庭における大切さの話は忘れられない   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | すっかり人間（女性）が変化してしまった今どうあるべきか、又子供にどう対処すべきか、お聞きしたいものです  |  |

|   |  |
|---|--|
| 卒業年   | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒   |
| 氏名  | S. Mさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと        | 六帖に5人入居して狭くて大変だった  |
| 3. 本学を選んだ理由                                       | 田舎の高校からもらったパンフレットだけで選びました。第1希望を落ちて第2希望でしたので英語がなく入試がやさしかったので選びました                         |
| 4. 入学のときの希望や夢                                     | このまま東京に残り栄養士として病院か学校給食で働きたいと思った  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                                  | ゆっくり話をされ、この学校に入学できて良かったと思いました  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                           | 特に愛について話されたことに感銘を受けました   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等                     | 甘い声で、ゆっくりとやさしく説得されるように話されました。今の有名人にたとえようがありません。当時はこのんびりとした時代だったのでしょネ                     |
| 8. その他の行事に関する思い出                                  | ① 母の日にカーネーションを描いて1枚、1枚配られていました<br>② クリスマスにサンタクロースになり皆と一緒に写真を撮りました（田舎から出てきた私には珍しく思ったものです） |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか                   | 常に愛情を持って他の人に接するよう心がけてきました  |
| 11. 学生生活の思い出                                      | キャンプファイヤーが楽しかった  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                             | 良き管理栄養士を育てて頂きたい  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと                     | しっかり勉強を頑張っって常に愛を持って他の人に接してもらいたい  |
| 別紙：<br>希望に燃えて学んだ日々と青木先生と食堂の歓迎会に参加したことを懐かしく思い出しました |  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒   |   |
| 氏名   | K. Rさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 交通が不便で、宮崎から32時間の長旅で大変でした。言葉に方言が出て、アクセントがうまく出来ず、困りました。友人が出来るか心配でした        |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 勉強した学科で受験出来た事。先輩が二人入学していて大学の話を聞かせてもらった                                   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士の資格、教職員の資格が取得出来る。免許状を取得して病院で働きたい                                      |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 覚えておりませんが、愛情・勤勉・聡明の3語は今でも記憶しております  |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 声は弾力のあるバリトン調。口調は固さがなく、まろやか。説得力のある、まるで神父さまのようでした。表情は穏やか。いつもにこやかなお顔。慈愛深い印象 |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 夏休み前、校庭で学長を囲んでのキャンプファイヤーはフォークダンス、ゲーム等で楽しみました                           |   |
|  | ② 12月のクリスマスは、学長みずからサンタクロース姿で登場され、学生はびっくりしたり、喜んだり、一緒に写真を撮るなどして、夢の様でした     |   |
|  | ③ 地方出身の90%は寮生活でした。寮にも学長御夫妻はお出かけ下さり夕食を共にいたしました。その時木曾節を歌われ楽しく拝聴しました        |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 一番先に感じたのが温室の花園だなあーと思いました。先輩がやさしく姉妹のようなまなざしで接してもらった。同期の方とすぐ友達になりました       |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | くやしい時、相手を責めず自分が反省して先に謝るように心がけてきました。いつも明るく前向きに生きています                      |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 入学してすぐ箱根寮や村山貯水池へ親睦旅行に行った事。実習で乳児院、病院、施設等で実習した事                   |
|  | ②嬉しかったこと   | 全国に友達が出来た。先輩と外泊して日光旅行へ連れて行ってもらったり、有楽町の旧日劇の観劇会、銀ブラ等へ連れて行ってもらいました |

|                                |  |                              |
|--------------------------------|--|------------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ③悲しかったこと   | 先輩の卒業、自分達の卒業で皆と別れるのがつらく悲しかった |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 三木テイ先生。この方には家政学を学びました。声を体の底から発せられ熱心に講義されました。学園内で又寮内で、女性らしく生きて行く事を説かれました。母親のような存在でした    |                              |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 女性の自立をめざされた学園として、先見の明があったと思います、頭が下がる思いです。この精神を後々まで貫いてほしいと思います                          |                              |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 愛情・勤勉・聡明。この言葉は年令を重ねていくうちに理解出来るようになると思います。心のささえとして一生の宝物です。恵まれた環境の中で学園生活が出来た事を誇りに思ってください |                              |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 心理学と云う勉強を通して人々の心を豊かにし世の中が安穏になるよう、愛情に満ちた世界をこの学園から広めたいと考えておられたのかな。今は有難うございました、とお礼を申し上げます |                              |

|  |                          |                           |
|--|--------------------------|---------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養B）卒         |                           |
| 氏名   | O. Aさん                   |                           |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活を通して多くを学びました（三木テイ寮監長） |                           |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家政学を（広く）学びたく思い選びました      |                           |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性らしさ                    |                           |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・勤勉・聡明                 |                           |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃            | 愛情 30年11月2日<br>礼儀と愛 31年5月 |
|  | ②内容                      | 真の愛情は相手をいたわり自らを高める        |
|  | ③感銘を受けた点                 | 生涯、あらゆることに心にきざみ、心しております   |

|   |   |
|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | 馥郁としたものを感じながら受講致しました  |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | <p>① 卒業論文につき、学長宅にも伺いごちそうになりました。<br/>小風呂敷（手描き文字と絵）、グリーンの一輪ざし、カード</p> <p>② 県人会、Xmas 会など、多くの思い出があり、県立深志高<br/>校の誌にも先生の思い出の写真をお届け致しました</p> <p>③ 31年12月9日。ご逝去に接し上京。告別式に伺い、其の<br/>後奥様と多く接して参りました</p> |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 学長室をお訪ねする機会が度々あり、学長先生と古宮先生の笑<br>顔が忘れられません。今でもほのぼのとして参ります  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 卒業後病院栄養士4年（松本）、結婚して（東京にて）38年（保<br>健所補助栄養士）、松本へ本拠を移し13年（栄養と料理教室担<br>当）。東京在任中、市及び県知事賞、日本栄養士会賞、厚生大臣<br>賞を受賞。75才です。卒業し年を重ねる中に青木先生のお教<br>えを生かし、継続できたよろこびを感じております                                   |
| 11. 学生生活の思い出                            | 長野県人と言うことで、青木学長先生及び学生部長の高橋先生<br>には接する機会に恵まれ楽しかったことが多く想起されます   |
| 12. 他の先生の思い出                            | 小児科学（宇留野教授）   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 自らを磨いて卒業し、社会人となって欲しいと思います   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 学園を散歩される笑顔に接し、今の自分を見て欲しいと思いま<br>す   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒  |  |
| 氏名   | I. Mさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 小さな島でのんびり育ち、高校での勉強も遅れていたもので、学期末試験一ヶ月前から心配でたまりませんでした   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | O 高校の先生が家政大を出られてて、とても立派な方だったのであこがれ、ぜひ受験してみたいと思いました。父は京都までと、遠いので反対でしたが、母が良いと云ってくれました   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士免許、教員の免許をぜひ取りたいと思い、何とか実現し広島県の県病院で40年間病気もせず務めることが出来、喜んでいます  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情と勤勉と聡明。学問の勉強。素直な心。心構え   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年後期1月頃  |
|  | ②内容   | らかなことを求める生活は学校生活という将来の生活を無にすることになる                                     |
|  | ③感銘を受けた点  | 田舎から東京に出て、見るもの、聞くもの、学校生活とても楽しいけど赤点だけはとらず、試験の科目多いけど必死でがんばらなくてはいけないなと思った |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 良くひびくやさしい声。いつも目は笑っている。さすが心理学の先生、水曜講演が楽しみでした   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマス会。写真をとる時、急いで学長先生のそばにぴったりひっついて取ってもらった。あつかましいと思ったけど良い思い出になった   |  |
|  | ② キャンプファイヤーの経験もなかったし、めずらしいのと、フォークダンスも楽しく、うれしく興奮したことを覚えています  |  |
|  | ③ 生口島はみかんが多く、親元からりんご箱で良く送ってもらっていた。めずらしい時期、早生みかんを青木学長に持って行ったところ「ボクはあまり食べたことないのにあまりにおいしく3ヶも食べたよ」とおっしゃって下さり、それがとてもうれしく両親に手紙を書き、卒業しても再々思い出しうれしきでいっぱいでした |  |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういふ点で感じ取りましたか | 附属幼稚園の施設も園生もすばらしく、付属中学校もすばらしい。特に高校生は明るく上品で可愛らしい。先生方の愛情が溢れていたからだと思います   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 3月10日に卒業して3月21日に結婚し、4月1日から県病院の栄養士として働き、夏に県の試験を受け、新聞等読まず、教養科目が出来ず失敗して、泣いて、仕事を止めると病院の院長先生、事務長に云いましたが、来年も試験あるのだから、がんばりなさいと励まされ、翌年、妊娠していましたが毎晩、新聞を読み、80人程受けて一次で10名受かり、二次で3人だけ採用され、私は運よく受かりました。一次試験の時はあまりに多いので、とても駄目とっていました。それでも24才で2人目が生まれ、これで子育てに専念しようと思っていました、仕事にもやりがいが出来、実家の母が「子供を見てあげるから、がんばりなさい」と云い、主人もそんなに務めたいのなら、いいよ、と云ってくれました。昔は11時間から12時間病院におり休みも少なく、昼休みは2時間ありました。産休は3日のびても働いていたので明日から休みなさいと云われ、次の朝生まれ、産後の休みは42日間でした。親元も近く、出勤するまで親元でたいくつする位、ゆっくり休みました。主人がよく協力してくれ、私がくたくたになって寝ているものですから、夜のオムツかえ、風呂入れは殆どしてもらい、私は掃除機も持ったことない位です。勤務中もあの人ばかりと思ったのは一人だけでした。でもその方が退職してから役場の保健婦さんになられ、子供や孫が良く可愛いがられているのを知り、誤解していたと、とても反省しています。私はたまたま病気もせず30代と40代、とても頭が痛くて泣いたことがありましたが、午前中休めば午後からは出勤出来たので40年間休まず勤務出来ました。55才の時、病院で立派なコンピューターを買ってもらえたので定年まで無事務められました。東京家政大学で学んだこと、学長の水曜講演、学校の先生方、先輩にもめぐまれ、本当に東京家政大学を卒業出来たこと、一生の幸せと思っています |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①つらかったこと   | 化学の試験になやまされました   |
|                                 | ②楽しかったこと   | 寮生活。2年間一番古い白萩寮で過ごし多勢の仲良しが出来、74才の今も10人位仲良くおつき合いしている。北海道、富山、千葉、福島、九州、徳島等です |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 中国料理の大島先生。おばあちゃんでしたがとてもお元気で目も口もかがやいていました。抹茶を毎日飲んでいるとのこと。病院につとめて、ギョーザ、わんたん等良く手作りしました   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 卒業して50年祭に出席して立派な学校、明るい学生さんに会い、とてもうれしく思いました。伝統を受けついで明るい清潔な学校を守って欲しい  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事に就いたら3年間はずらいことがあってもがんばる</li> <li>・ 結婚したら夫を愛する</li> <li>・ 子供が出来たら、小さい時はきびしく、学校へ行けばのびのびさす</li> </ul> |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 卒業後、先生がお亡くなりになった後、弟が高校で絵を習った先生が青木学長の甥、岩田先生。主人も絵を書くので時々学長先生をなつかしみながら岩田先生が亡くなるまで親しくおつき合いしました。両先生がお元気な時にお会い出来たらどんなにか嬉しかったのに・・・と思います              |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒                              |   |
| 氏名   | S. Mさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | あまりたいへんと思ったことは無く、東京の大学で学べると云う、喜びの方が大きかったと思います |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母校（T女子高）にお二人の家政大卒の先生が居られ、本学をすすめられました          |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 資格取得。中学教諭になり二年間勤めましたが結婚退職いたしました               |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・聡明・勤勉が本学の精神と語られ、そういう女性になりたいと胸に刻みました        |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                                 | 2年生の7月頃：母親の有難さ、尊さ<br>1年生の11月：この頃の若い人は服装が派手になっている。日本人は黄色人種なので赤は似合わない |
|  | ②内容   |   |



|                                     |   |   |
|-------------------------------------|---|---|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演             | ③感銘を受けた点  | 故郷のお母さんに送るようと、手描きのカーネーションの絵はがきを、一人一人学長室で手渡して下さいました                      |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等       | とてもやさしく、諭すような口調で話して下さい、冷静、沈着という言葉が当てはまると思います  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                    | ①   | クリスマス会の時、講堂に入る時に渡されたカードで聖書が当たり、学長先生から、にこやかに“おめでとう”と云って渡されました。一番の当りくじでした |
|                                     | ②   | 母はカーネーションのカードを見た時には娘を良い学校にやっって良かったと安心したそうです                             |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか | 卒業後、初めてのクラス会で、集まった皆様の持つ雰囲気、街に居る大勢の女性と何か違って、それは家政大の「愛情・勤勉・聡明」をかかげた校風が身に付いたものだと思います。(良い雰囲気です) |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどの<br>ように人生で生かされましたか | 卒業後、(今も) つつましやかで、綽名をつければ「やまとなでしこ」だね、と云われます。これは「愛情」の教えと異なるかと思いますが、家政大で学んだことの影響だと思います         |   |
| 11. 学生生活の思い出                        | ①楽しかったこと  | あの頃はあまり旅行もしませんでしたので箱根の寮に宿泊した事でしょうか                                      |
|                                     | ②悲しかったこと  | 特に思い出せませんが、もっと良い成績が取れたらと悩んだりもしました                                       |
| 12. 他の先生の思い出                        | 順天堂大学からお出でになって居られた阿部先生が「母性衛生」の授業をして下さいましたが、静かで素敵で憧れました。早くお亡くなりになられたとお聞きし残念でした               |   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること               | 世に誇れる、賢く、礼儀をわきまえた女性の教育を实践して、さすが家政大の卒業生と云われるように  |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと       | 今の時代の悪い面を取り入れず(例えばセックスの経験がないと恥ずかしいとか、電車の中でお化粧をすとか)大学の精神を身につけて、自分を誇れる女性になって下さい               |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと           | 先生に教えを受けられ、本当に倖せでした。家政大で学んだ事を誇りに思っています  |   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒   |   |
| 氏名   | U. Yさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 父が公務員なのに兄は関西の大学、私は寮生活と大変でした。教科書の購入や机など、生活用品の購入で大変でした                                 |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家は農村地帯でしたので生活は極めて貧しく、まず窓を開ける生活改善をしたいと思います  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 資格をとって女性が独立できる、という思いがありました   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 申し訳ないですが、ノート等は昨年処分しましたのであまり記憶がありません  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生の頃   |
|  | ②感銘を受けた点   | あまり内容を憶えておりませんが、「今、私の話を聞いて故郷を思っている人が多いのではないか!」と言われました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 感情を出すことなく、いつも静かによく響く声でしっかり話されていました。いつも腰かけて全体を見渡して・・・                                 |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① カーネーションのカードを母に送り、どうしても取ってほしいと思いました   |   |
|  | ② いつも手描きのカードがうれしく昨年まで全部とっておりました  |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | あまり深く考えていないのですが。   |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 長い公務員。37年でしたが、国の資格をとるため努力して勉強したことだったと思います。大卒15名の所属長もつとめさせてもらい、職員には愛情をもって接し、慕われたと思います |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 学園祭   |
|  | ②嬉しかったこと   | 県人がまとまって出席できた学園                                       |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                                    | ③つらかったこと   | 資金は毎月貰っていたのですがお金が足りなかったことです                |
|  | ④悲しかったこと   | 試験勉強している夜、寝てしまい、上級生が布団をかけてくれたので朝まで寝てしまったこと |
| 1 2. 他の先生の思い出                                    | 化学：実験が面白かった。調理化学：一つ一つ新しい料理実験がよかったです                      |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                           | 今、家庭生活の乱れが多い。やはり家政をもっと大切にして、家庭まで浸透してほしい                  |  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと                   | 夢ははっきりもって実現させてほしい  |  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                       | 最後の葬儀に出席することができ、偉大な先生だったと思います。現代と違って気軽に話すことができなかったのが残念です |  |
| 別紙：富山県支部長Sさんが青木先生は竹林堂のまんじゅうが大好きでよく持参されたと聞いております。 |  |  |

|  |                  |
|--|------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒 |
| 氏名   | M. Sさん           |
| <p>別紙：</p> <p>お便りを戴き改めて短大に学んだ事を思い卒業證書を開きました。各質問にはお答え出来ませんが。まだ戦争が終り穏やかになったとは云え、親は一生懸命子供を可愛がり学費を出してくれたのだと思います。親の気持が理解が出来感謝しております。私は自宅通学でした。学内では寮の方の和やかで、家から通う私には羨ましい存在でした。青木先生の教育方針の表われだと思いました。校内では青木先生を良く遠くから、お見掛けしました。学生との触れ合いを大切になさっていらっしやっただと思われまます。私達は乳児院の実習がありました。実習で、子供には一ぱい愛情を注がねばいけない事を感じました。弱い立場の人達には微力でも、力になればいいと思いました。その気持を結婚してからボランティアに係わって来ました。青木先生のお話が、私の体に浸透し現在の私があるのだと思います。学校の繁栄をお祈り申し上げます。</p> |                  |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒  |  |
| 氏名   | F. Sさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 家庭が低所得で経済的に大変でした。冬休みデパートでアルバイトをしたのも今になっては、いい思い出です   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 栄養士の資格がとれたので、山下（児童心理学）先生がいらっしゃるので選んだとおっしゃる方がおられカルチャーショックを受けました  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士として専門職で働く事でした  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 学生の本分である勉学に勤しむ様に話された事   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年生の時だと思います  |
|  | ②内容   | 「好きで好きでたまらん」なんていうのは一時の感情だから、そんな気持ちで結婚をしてはいけないとおっしゃられた事 |
|  | ③感銘を受けた点  | 人生の達人にしておっしゃられる事だと思いました                                |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 透明な声で自由闊達に話され、人の心を引き付ける魅力がありました   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 軽井沢からのつゆ草の絵付葉書をいただいた事   |  |
|  | ② サンタクロースに扮した先生の姿が今も目に浮かびます（よくお似合いです）   |  |
|  | ③ 温厚で抱擁力のある学長でした  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 事務局で応待して下さった職員の方のあの優しさは実に洗練されていて今も忘れる事は出来ません  |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 職場での人間関係に大いに役立ち、現在も同級生と年1回の旅行を共通の楽しみにしています  |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで狭山湖にハイキングに行った事</li> <li>・同じクラスの方が結核で休学を余儀なくされた事</li> <li>・2年生の夏休み、クラスメート4人で上高知でキャンプした事</li> </ul> |  |

|                                |                                    |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 三木先生の家政学原論で「職業に貴賤はない」と講義された事       |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 教養、技術をしっかり身に付け社会に貢献出来る人を育成してほしいです  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | どの分野でもいいから、その道でのオンリーワンになる様頑張ってください |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 先生にご指導いただいた事を幸いに思い深く感謝しています        |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒  |   |
| 氏名   | N. Sさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 山口県から上京するのに1日（汽車24時間）がかりかかりました                                |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木先生が学長であったこと。高校で先輩の先生がおられたこと。立派な先生方がおられたこと（山下先生他、三木先生、村上先生他） |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性としての教養を身につけ中学教師になること  |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | よく覚えておりませんが、愛情・勤勉・聡明という言葉内容にふれておられたように思い出しています                |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年生6、7月                                     |
|  | ②内容   | 質素な生活、両親への孝養                                |
|  | ③感銘を受けた点  | 自分自身の生活の意義を見出すように、その為にどうしたらよいか？・・・考えさせられたこと |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ユーモアがあり（口調）、おだやかな表情で優しいまなざしではあるが、芯のある方だと思います。（話術がすばらしかった）     |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマスにサンタになられクラスメイトとみんなで写真をとっていただいたこと                       |   |

|                                 |   |                     |  |          |  |
|---------------------------------|---|---------------------|--|----------|--|
| 8. その他の行事に関する思い出                | ② 新入したころ、寮生活にて楽しいおしゃべり会でなごやかな雰囲気をつくっていただいたこと  |                     |  |          |  |
|                                 | ③ 最初の頃先生のご自宅にて奥様とご一緒に食事をしながらおしゃべりしたこと。上京して久し振り家庭の雰囲気をあじわったこと  |                     |  |          |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 先生と学生が親しみやすく和やかな雰囲気を常に感じていました   |                     |  |          |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 公立中学校の教師として39年勤務しましたが、その間、先生の教えを、生徒とのかかわりの中で何とかいかしながら精進したように思います。又自分の子育てにも役立たせていただき、孫も大学を卒業して現在に至っております   |                     |  |          |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="528 819 746 1066">①楽しかったこと<br/>嬉しかったこと</td> <td data-bbox="746 819 1410 1066"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の大学ではないような先生方にお会いできご指導いただいたこと</li> <li>・立派な多くの先輩に出会えたこと</li> <li>・地方では経験できないことできたこと（音楽会、演奏会、美術鑑賞等）</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 1066 746 1211">②こわかったこと</td> <td data-bbox="746 1066 1410 1211">地震が多かったこと。つらかったこと、悲しかったことはあまりなかったと思います(時代的に現在とは違うので)</td> </tr> </table> | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の大学ではないような先生方にお会いできご指導いただいたこと</li> <li>・立派な多くの先輩に出会えたこと</li> <li>・地方では経験できないことできたこと（音楽会、演奏会、美術鑑賞等）</li> </ul> | ②こわかったこと | 地震が多かったこと。つらかったこと、悲しかったことはあまりなかったと思います(時代的に現在とは違うので) |
| ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の大学ではないような先生方にお会いできご指導いただいたこと</li> <li>・立派な多くの先輩に出会えたこと</li> <li>・地方では経験できないことできたこと（音楽会、演奏会、美術鑑賞等）</li> </ul>  |                     |  |          |  |
| ②こわかったこと                        | 地震が多かったこと。つらかったこと、悲しかったことはあまりなかったと思います(時代的に現在とは違うので)  |                     |  |          |  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 菊地先生の英語の授業。当時としては珍しかったと思いますが、ほとんど英語でしゃべられ楽しかったです  |                     |  |          |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 青木学長先生の信条を継続して活躍していただきたいと考えます。日本のいたるところで卒業生の先輩が学校をつくり、伝統がつながっているように思います   |                     |  |          |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 伝統のある家政大、短大に誇りをもって先輩の活躍に続いていただきたい   |                     |  |          |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | もう一度先生の講演をお聞きしてみたい！色々ご指導していただいたことに感謝申し上げたい気持ちで一ぱいです   |                     |  |          |  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒  |   |
| 氏名   | K. Tさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 叔母の家に就職しました。1年後、朝夕の家事手伝いをしながらの学生でした。(学習する時間の確保と友たちとのつきあい時間の確保)                                |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 「女子教育に力を入れている歴史ある学校」と知人の推薦でした   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 大学で勉強したいという意欲でいっぱいでした。2年に進級したときには将来は教師か栄養士になりたいと思いました   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 記憶がはっきりではありませんが、「本学で学ぶ意義と心構え」かと思います。未来が開ける思いと緊張して聞いたと思います                                     |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 昭和29年4月   |
|  | ②内容   | 「愛情と勤勉と聡明」記憶がうすれていて明解な答になっていませんが、現在でも私の生活指針です。心に強くのこっています |
|  | ③感銘を受けた点  | 全ての水曜講演は愛情・勤勉・聡明に結びつくように思われます。本校の教育目標・・・とっていました           |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 温厚・誠実・心やさしいあたたかい方でした。講話は、人として生きるには「こうあらねばならない」というものでした  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 卒業アルバムに学長先生と一緒にの学生時代の自分がおりました。サンタ姿の学長先生は私の人生に「幸せ」をくれたサンタさんでした                               |   |
|  | ② 学生寮で学長の「木曾節」を聞きました。感動で涙した思いがあります。「家郷を省みる」29年7月10日の講話と父母の苦労がしのばれました                          |   |
|  | ③ 「風しげき 空に翼をはらんとす 幸あれかしと祈る心か」卒業にあたっての学長先生からのことばだったと思います                                       |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学園内ではいつも学長先生を身近に感じていました。慈愛にみちたまなざしで学生の活動を見守っておられました。戦後の貧しい困難な生活のなかで、学園で学んだ2年は私の人生にとっても黄金時代でした |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 短大卒業後、中学校の教員になりました。「愛情・勤勉・聡明」がいつも心に生活していました。家庭でも仕事でも、特に教師としての姿にと心がけました（特に道德の授業に学長講話が生かされたと思います）        |
| 11. 学生生活の思い出                    | 通学生でした。しかも朝夕の家事手伝いをしながらの勉強でしたので友人が少なかったのが残念です。音楽の試験で問題の読みまちがいでやっと合格点だったことが思い出されます。今は全てが楽しくすばらしい学生時代でした |
| 12. 他の先生の思い出                    | 教材、教具の不足した時代に実習（調理、育児、被服）授業にとりくみました。先生方の工夫と情熱ある指導が思い出されます  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 歴史ある大学でも少子化の中で大学の経営は大変とされます。「愛情に満ちたよき伝統を引き継ぎながらも社会の多様化に応じた教育を」と母校の発展を期待しております                          |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 望んでも思うように勉強ができなかった戦中戦後の教育からすると、今の学生は幸せな時代にめぐりあえたのです。青春を楽しんでしっかり勉強してください                                |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 心からの感謝の気持で「お世話になりました。ありがとうございました」。今の幸せな生活は短大の2年間の生活があったからです  |

|  |                         |                                  |
|--|-------------------------|----------------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養C）卒        |                                  |
| 氏名   | S. Mさん                  |                                  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 食べる物がなかったのでいつもお腹がすいてました |                                  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 入試に英語がなかった事。寮が有った事      |                                  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士になりたかった事             |                                  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃           | 30年6月15日                         |
|  | ②内容                     | 一生同じ様には生きられなくても、その時その時一生懸命考えて生きる |



|                                 |   |                                   |
|---------------------------------|---|-----------------------------------|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ③感銘を受けた点  | 今迄生きてきて、青木先生のアドバイスが原点ではないかと思ってます  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 私にとっては祖父の様な存在。何でも話せていつもその答えを下さっていた様に思います                        |                                   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 寮生活の時、御一緒に食事をとり色々話を聞いて下さった事                                   |                                   |
|                                 | ② 学生祭のキャンドルパーティーで御一緒に写真をとって下さった事                                |                                   |
|                                 | ③ 学園祭ですれちがった時も手を上げてニコニコして下さった事                                  |                                   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 学園全体が家族だった様に思う。寮に帰るとホットしました。寮で同室だった方達とは今だに家族の様なつきあいです           |                                   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 茶道でお茶会の時など99%が準備であとの1%が本番だと思っていました。今考えると青木先生のアドバイスだったかなあと思っています |                                   |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと  | 東京中のロードショー映画を見て歩いた事               |
|                                 | ②つらかったこと  | 昼御飯がパン一切れと夏みかん1ケ。パンがきらいだったので大変でした |
|                                 | ③嬉しかったこと  | 栄養士の資格がもらえて目的が出来た事                |
| 12. 他の先生の思い出                    | 児童栄養科でしたが、洋裁の生田先生に良く出来たわネェーと云われたのがとてもうれしかったのを思い出します             |                                   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 女性としての本当の強さ。精神的に自立していただきたいです                                    |                                   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 知的な洗練された美しさ   |                                   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 75才まで生きてきましたが、先生のあの笑顔のやさしさのおかげで、くいのない一生が送れそうです                  |                                   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養D）卒   |   |
| 氏名   | M. I さん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 2年間という短い期間に多くの単位を修得しなければならなかった事です  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 自身の実力に合うかなと思い  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 学園生活と、将来に向け資格を取りたいと思いました   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 女性の生き方等・・・遠い昔のこと忘れませんでした。愛情・勤勉・聡明は常に心に残っております                              |   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | いつもにこやかに、一人一人に語りかけられる様なお優しい口調でお話された事を思い出されます                               |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 2年間の寮生活をさせて頂きましたが、寮のお誕生会にはご出席され、食堂で楽しくお話しされていた事など思い出されます。どんな事だったかは思い出されません |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 何かと制約が多かった時代だったと思いますが、自由に楽しく学園生活を送れて、あっと云う間の2年間でしたが、すばらしい大学生活でした           |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 人にやさしく、自分に厳しくとの教えが常に根底にあります  |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと  | 地方から出て来て、立派な先生方と出会い、そして大勢の友人が出来て今でも毎年クラス会でお会いして語り合っています |
|  | ②つらかったこと   | 校外での実習の多さ・・・でも今はいい思い出です                                 |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 卒業後、全員（就職希望者）就職出来る様にして頂けたらと望みます  |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 充実した悔いのない学生生活を送って欲しいと思います  |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 人の心理・・・心理学をもっと真剣に勉強をしておけばよかったと反省をしていますとお伝えしたいと思います                         |   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養D）卒   |   |
| 氏名   | H. Cさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学でしたが、当時、埼玉県鶴ヶ島に住んでいたため、通学時間にかなり要しました                 |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木先生がいらっしゃったから   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教養を高めたいと思ったこと。児栄科を選んだのは、これからの人生に役立てようと                   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 29年4月、入学式   |
|  | ②内容  | はっきりとは記憶していませんが、身を引きしめてこれからしっかり、という気持ちをもったことは憶えています。              |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ソフトであたたかい人柄そのままに、しかし心にしみる、胸にひびくお話し振りでした                  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日のカーネーションのカード、クリスマスカードなど、大切な宝物です                     |   |
|  | ② グリーンの小さい花びんは今も大切に使用して頂いております                           |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか        | 今の大学ではちょっと考えられないことですが、温かい家庭の延長のような感じを持ちました。青木先生のお蔭だと思います |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどの<br>ように人生で生かされましたか        | 2人の子供を育てましたが、子育て中、また現在でも、いつも身近に先生の教えが生きていることを時々感じます      |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①嬉しかったこと   | 昭和29年から31年の在学ですが、いろいろな行事、特に母の日のカーネーションのカードなどは全く思いもかけないことで嬉しかったですね |
|  | ②つらかったこと   | 栄養士課程であちこち実習に行き、実社会をみたこと。つらかったというより、考えさせられました                     |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 山下俊郎先生の「子供は大人の縮図ではない」。これは授業の最初に必ずおっしゃったお言葉 |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 専門知識だけでなく、一般教養も身につけたバランス感覚のある人になるよう期待します   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 学生の本分を忘れずに                                 |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | お蔭さまで充実した人生を送っております。有難うございました              |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養D）卒   |  |
| 氏名   | F. Tさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 四国徳島から上京するには、関西汽船（午前11：30発）で神戸港に着き、神戸発午後6：00の夜行列車銀河号で翌朝東京駅着（午前8：00）で、長旅は足が腫れて靴が履けない状況が辛かった |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 徳島大学 学芸学部の教授に本学出身の高名な方の存在が大きかった  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性の新しい職業（栄養士）を東京の地で学びたいと思った  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 記憶が定かではありませんが、良妻賢母を軸として女性の自立を促す内容であったと思う   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 29年11月10日  |
|  | ②内容  | リストにあります、服装についてが心に残っています。流行の波に乗って娼婦が履いているような赤い靴などは駄目。服装にも品格を持つように云われた事 |
|  | ③感銘を受けた点   | 専門科目を履修しつつ、教養が滲み出るような内的な向上を常に心に持つように云われた事                              |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 私は水曜講演は出来るだけ前の席に座れるように、先生のお優しい眼差し、語り口を肌で感じたいと思って楽しみに水曜日を待った事です                             |  |

|                                 |   |                                     |
|---------------------------------|---|-------------------------------------|
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 夏休みに入る前のキャンプファイヤーなどのスキンシップ  |                                     |
|                                 | ② 学生祭など一つ一つのクラブ活動にお声をかけて下さった事。父親の様な眼差しで   |                                     |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 私は学園の空気にどっぷり浸っていたので判らなかったのですが、娘が東京女子大生である時、私は自分の母校を見せたくて家政大を訪問したら、娘が私の大学にはない温かいものを感じたと言ったのが心に残っています |                                     |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 心の根底にあるものは、自分が職業で対峙する困難な問題にぶつかった時、心を開き、愛のある心で諸問題を解決したとき役立つ  |                                     |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①嬉しかったこと  | 全国から集った友達と卒業しても広くずっと付き合う事ができている事    |
|                                 | ②つらかったこと  | まだ配給米の時代であったので、何時もお腹が空いていた事かなあと思います |
| 12. 他の先生の思い出                    | 卒論で栄養化学の倉田先生にお世話になりましたが、温かい指導でやりとげる事が出来ました  |                                     |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 歴史と伝統のある大学を益々発展させリーダー的学園にしていきたい   |                                     |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 小さな世界でとどまらず、これからは海外も視野に入れて活躍して欲しい   |                                     |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 何時までも心の親でいて下さい  |                                     |

|  |                                    |
|--|------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養D）卒                   |
| 氏名   | O. Aさん                             |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 特にたいへんなことはなかった                     |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 当時の高校の家庭科教諭の奨め                     |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士になりたい、または教師にもなりたいとの職業の選択肢があったから |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | 水曜講演があったかも知れないという感じで講演をきいた記憶はありません   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | 青木先生のまわりの先生方、事務職の方は話し合いの機会は多々あったかも知れませんが。生徒個人のひとりとしては遠くから拝見しているだけでした。親しみやすいお人柄にみえました |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 青木先生のお人柄、生活信条のすばらしさが直接学生に接する先生方に徹底されていれば、大なり小なり学生に浸透されていると思う                         |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 自覚してはいませんが、自分の生活には留意して活動していた   |
| 11. 学生生活の思い出                    | 卒業後のための就職指導や相談の窓口がなかったのが、不安を感じながら卒業したような思いがある  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 先生のお名前は忘れたが、中国料理の先生は話題（授業以外、以内共）豊富で楽しかった   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 青木先生が私達のみじかに居られたということに、感謝します   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（児童栄養）卒   |
| 氏名   | （無記名）   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は自宅から通ってました  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 心理学科を希望してましたが、父親は女は学士になるより家庭を作るのだと云われ、今の様に公開・開放されていなかったのが色々調べて御校を受けました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | その頃は何をするのか見当もつかず、短大ってこんなに大変なのか  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 例えば人込みで子供とはぐれた時子供を叱るのではなく、第一感情を出して「あーあ良かった」と思い抱きしめて「人が多いのだから着物の袖でもつかんでいればいいわよ・・・」まさに私が求めていた心理学だと思いました。クラス会をして色々な話が出た時、こんないいお話は今も思い出し、「えー、それも応用して子育てをしていたの？」と云われます |

|   |  |   |
|---|--|---|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                 | ①何年生の頃<br>何月頃                                    | 30年11月16日。31年1月   |
|   | ②内容  | 自分自身をみがく事   |
|   | ③感銘を受けた点   | 自分の母親はオンバヒガサで結婚した時もバーヤさんと女中さんが付いて来たので、すぐ自分の感情を子供に押しつけましたので、青木先生の考えで、自分の子供を育てようと心に云いつけて今まで来ております。叱っていいがオコッテはいけない |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等           | 怒る時は、親の感情を第一にまる出しに、第一感情を出して叱りなさい                 |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                        | ① 今時こんな心暖かい先生を見つけたのはえらかったねーと母に云われた時              |   |
|   | ② おこるのとしかるのは違うと云う事                               |   |
|   | ③ 今の時代短大でも入れて下さった両親に感謝しなさい                       |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどうい<br>う点で感じ取りましたか     | その頃はただ先生のお話を確かとしか受けてませんでした、自分が大人になり、愛が付きまして      |   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 子供を大声でどなったりせずに育ててこられた事と自分は大学を出たと云う事を他人に云わずにいる事です |   |
| 11. 学生生活の思い出                            | ①楽しかったこと   | 35円のシナソバを食べた事です   |
|   | ②大変だったこと   | 2年間で4年間の授業、少なくとも3年間の授業を受けさせていただきました   |
| 12. 他の先生の思い出                            | 神野先生のカビの恐ろしさです                                   |   |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 多くの受験生が集まることを願います。大学の名だけで選択してほしい                 |   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 家庭を持ってよかったと思える学校だと思います                           |   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | ありがとうございました                                      |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | I. Cさん<br>(葉書3枚、カーネーションの絵1枚、告別式通知1通寄贈)   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 不況の時就職の為に九年年下の同級生との勉強。学校は戦後の為すっかり豊かに。よい勉強が出来ました  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 東京女子専門学校を終戦1ヵ月2年生の時に中退。再入学でしたが制度が変わり皆さんと思いがけない受験でした  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 社会に出て一人で生活したかった為。お蔭様で希望はかない、以後は幸せの日々でした  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 昔の事すっかり忘れてしまいましたが、自分と共鳴出来る生き方に嬉しくなりました   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | やさしい方でした。卒業の後お宅に伺った時会ってお話しする事が出来ました。とても学校を愛していらっしゃいました   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 母の日のカード。先生から頂いたおたより。暖かい愛情と共に大切にしております<br>② ぼんおどりに一生懸命うたっていらっしゃったのも思い出です<br>③ 先生の描かれた絵のお手紙と母の日に全員に下さったカーネーションの絵。コピー同封します。結婚7年目、1年生の時調停離婚。2年生の時は実家の「S」姓でした。その時から三木先生にやさしく心配して頂きました。今は83才でも元気に1人になった生活を楽しんでいます。市募集の里山ボランティアに入って6年。毎週1回は里山に。娘と夫の冥福を祈る写経は18年。ちりめん細工を楽しんでいます |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 先生のお話でなやんでいた事が解決。自分らしい生き方を安心してすごす事が出来ました   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 豊かになった時代にミシンも全員の分が揃い、同期の卒業生はミシン1台の教室の席とりで卒業していったそうです。もう一度学生生活を体験出来、同級生にしたわれ、今でも何人かの方とお会いしたり、おたより、電話があり、楽しい友情を続けています  |



|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 亡くなった松井和哥先生に入学・就職とお世話頂き、女子高から専門学校に入って初めての担任に卒業後もお世話になった。故生田先生には亡くなるまで手芸を沢山教えて頂きました |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | すっかり変わってしまい何も申し上げる事はありませんが、ますますの御発展を祈っています   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | よい学風を守ってください   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | お陰様で皆さんに慕われる職場を得て楽しくすごし、再婚、女子も生まれ、保育の道、人形の道と趣味が実益の中で楽しく過ごす事が出来ました。先生有難うございました      |



「青木先生の手描きの葉書」

～ 上記ハガキ、昭和31年短大卒（被服A）I. C様提供

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服A）卒  |  |
| 氏名   | Y. Tさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 栃木市の在より通学。片道2時間半の汽車通学でした                                    |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | T女子高校の受持の先生が先輩でした   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 良き何でも出来る家庭人になり、周りの方々に何かをして上げられる人になりたかった                     |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 友人を大切にすること、人を愛すること  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年生、2年生  |
|  | ②内容   | 少し覚えています・・・今の自分に大きな影響をあたえて居ます。家庭、夫婦の有り方、秘密について |
|  | ③感銘を受けた点  | 心を込めてうったえる様に話かけました。お母様の事をよくたとえ話に出されて居りました      |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 体型、ガッシリとしたお方。声はお年の割に高目の声帯でおだやかで。クリスチャンでした                   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 小さな花びん（小びんを皆に一ヶずつプレゼントしたはずです）。私はグリーン。（*花びんの図あり）           |  |
|  | ② 木曾出身とお聞きしています   |  |
|  | ③ 学生祭には皆して、キソノナーア、おんたけさんは・・・のおどりをジャンボリー（夜の火をかこんで）で歌っておどりました |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 色々な行事に生徒と一緒に楽しまれて居りました。私は先生、子供、私と文化祭の写真に並んで映っています           |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私自身、親、子の愛を大切に居ます  |  |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被服科は時間を必要とします。通学時間が多く、いつも提出時間に追われていました</li> <li>・心理学においては学問をしている実感がありました</li> </ul> |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 家政学の三木助教授の授業はとても大きな声でイサマシイお方でした   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 外に（都外）良き人材を沢山出してほしいです   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 大志  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 私の兄にアメリカ人が居りました。その子供達に先生の青年心理学を基に、皆、しっかりと参考にして育てて居りました。今でも男子（その子4人）が立派に海の向こうで生きて居ります  |

|   |                |
|---|----------------|
| 卒業年   | 昭和31年：短大（被服A）卒 |
| 氏名  | H. Rさん         |
| <p>別紙：（ちりめん細工作品集1冊同封）</p> <p>お便り有難うございました。五十年余昔の事です。日々の生活に追われ忘れてしまった気が致します。戦後まもなく物のない時代に父は首都で花嫁修業をさせて立派な方へ嫁がせたかったと思います。八人兄弟の七女の私をも良く東京へ出してくれたと（あの時代に）有難く思っております。私は入れ違いに卒業した姉の居た下宿（自炊）の部屋から十分ぐらい歩いて大学へ通い、寮生活をしてませんし、大分の田舎からでしたのでお友達も少なく、卒業後すぐ親元へ帰り、一年程で結婚し女と男の二人の子供を育て、両方の両親を送って、今主人と二人穏やかな暮らしをしています。</p> <p>青木先生は温厚な教育熱心な心から尊敬出来るお方で、私などは遠い存在の先生でしたが、庭で学生達との交流会の折、お声をかけていただき驚きました。和裁の先生、洋裁の先生、手芸の先生方、青木先生の教育方針もございましたでしょうが、人柄共に立派な先生方でした。今振り返って私が何を学んだのか良く分かりません。18、19未だ子供でした。私七十才の生きた証に作りました「ちりめん細工」の本に家政大での教育が見えるかと思えます。送らせていただきます。ちりめん細工の歴史にもとづいて作っております。大学の図書館にもございますが、私は古い人間ですが、人間の根本の考え方はいつも変わらないと思えます。お役に立てなくて申し訳ございません。家政大の発展を祈ります。</p> |                |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | T. Kさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は大分県の片田舎に住んでいましたので、朝、家を出て翌日の昼ごろ東京に着いていました。東京まで立って行った事もあります。今では考えられない事です   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生が卒業生だったから   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 先生の講演は毎回聞きました  |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | 私は寮にいましたけれど、ある夜の事、学校の方の物置小屋から火が出て、火事だ、と言う誰かの叫び声で寮生皆んなでバケツリレーで火を消しとめた事がありました。その時はこわかったけれど、今では皆んなで力をあわせてよくやったと思っています |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 角帽をかぶり正装した先生のお姿を思い出されます  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服B）卒   |
| 氏名   | T. Yさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 家族の理解（特に父親の反対）。当時の女性の進学について  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生の格別の推挙をいただく   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 上京へのあこがれ。家庭科の先生になりたいくて   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 田舎者の私共にとって学長の存在そのものがとても大きい心の糧でございました   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 年を重ねるにつれ、記憶がいろいろと薄れますが、壇上の学長の姿は今でも鮮明にあります  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 古い建物の中で時折（ごくまれに）すれ違った折、やさしい眼差しでお声をかけて下さり、そのことだけでも、今思うに、その日一日が跳ねる程の感情のたかぶりを覚えた記憶があります。細かい記述が出来ませんが、当時がいかに幸運であったか！ |

|   |   |
|---|---|
| 卒業年                                     | 昭和31年：短大（被服B）卒  |
| 氏名                                      | N. Tさん  |
| 3. 本学を選んだ理由                             | 高校の担任が東京家政大学卒業された方でお世話をいただきました  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | 青木学長に教えをいただくこと誇りでした。学生時代（50年以上前）にもとめた青年心理学の本。なつかしく手にしています。教育実践の折も読んだのでしょ、アンダーラインがあります |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 学園生活でも寮生活でも、きびしく、やさしく、親切に一人一人に接していただいた様に思えます。就職のお世話までいただきました。そのことが私の生活をささえていただいています   |
| 1 1. 学生生活の思い出                           | つらいこと、悲しかったこと思い出しません。楽しい毎日でした。特に寮生活。  |
| 1 2. 他の先生の思い出                           | 被服の技術指導はきびしかったが、現場で自信となり、活用、応用できた   |
| 1 3. これからの大学・<br>短大に期待すること              | 生活信条としている愛情（心の健康）。勤勉では五体五官をきたえ、技術知識を身につける。各自の特性に気づかせ生涯学習の基礎づくり                        |
| 1 5. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと      | 家庭教育、学校教育の指針を   |

|  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大(被服)B卒                      |
| 氏名   | T. Sさん                              |
| 3. 本学を選んだ理由  | ①高校の恩師の出身校でした、②母の考え、③親類に学んだ人がいましたので |
| <p>別紙：</p> <p>家政大学（短大）に五十年余前に教職への夢を持って入学した事を昨日の様に思い出されます（教員にならず、早くに家庭に入りましたが）。学生生活に入り、学長先生の講演でのおしえで、高校生から大学生になった自覚と誇りを持った記憶が御座居ます（講演内容の記憶を記せず申し訳御座居ません）。実技と教職課程の教科が厳しいのと緊張の学生生活の中、学長先生をかこんでの行事の中で、例えばキャンプファイヤー等を昔の校舎の木立の中で開き、感激した事を思い出します。友情が出来、卒業しても（私事で恐縮ですが）グループが出来、苦しい時は助け合い、嬉しい時は楽しみ合い、家政大学卒業後五十年余現在に至って居ります。これも家政大学で育った「きずな」「愛情」と思っています。</p> |                                     |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | O. Nさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅池袋より通学。戦災で家は焼かれ、家計も食糧も着る物も不自由な時代、短大へ進学させてもらい両親に感謝   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 教員免状希望（家庭科）   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立心を持ちたい、女性でも働きたい   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情勤勉聡明であれ   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年頃？   |
|  | ②内容   | 学生は勉学に励み、男女交際はタブー  |
|  | ③感銘を受けた点  | 31年「礼儀と愛」：時には憎らしいと思う人にもこやかに挨拶せよ、礼儀を守れ、そこには互いの尊敬と愛の心が必ず起こる。今も私は実行してます |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 心のやさしい中にも説得力のある水曜講演は、いつも私にとっての知恵袋、また人生の羅針盤でした   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学生食堂で顔なじみのおばちゃんに美味しいポタージュスープのレシピ内緒で教えてもらった事   |  |
|  | ② 私は附属高校から短大へと進学、しかも自宅通学。のんびりしてたので村中指導教授に、リーダーシップを取ってもっとしっかりしなさい、と説教（10回位）されました                               |  |
|  | ③ 母校に帰る日。イベントとして先生全員手づくり作品を地面のくぼみ、枯葉を掛けたり、木の枝に番号フダやら、宝さがしとても楽しかったです。今でもプレゼント作品（ビニールで編んだふた付かご、紫色）50年も大切に使っています |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 私の心の中には常に愛情、思いやり、サービス精神、心掛けて実行してます  |  |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 自立心と夢と希望<br>① 自立心：T（東京支店）家庭外商8年勤務。正田美智子様（皇太子様御成婚）のお買物のお手伝い出来た事<br>② 夢：60才の手習いでピアノ個人指導を受け14年、現在先生指導なしでクラシック～シャンソン、日本の歌など、近所の知人友人とのコミュニケーションに役立っています。ストレッチ体操もやっています<br>③ 希望：どんなつらいことや病気があっても希望を持って力強く生きよう、お互い助け合う事も大切 |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①つらかったこと  | 卒業旅行、盲腸で行けないのに（北海道）、アルバム委員になった事              |
|                                 | ②残念だったこと  | 土屋清一先生の葬儀に出席出来ましたが、青木学長の葬儀に出席出来なかった事はとても残念です |
| 12. 他の先生の思い出                    | 和裁の藤本先生の授業の時、一人の生徒が鼻から大出血。「私、何かお手伝いしましょうか？ 皆さん静かに自習して下さい、心配しないで」と先生は膝枕で甲斐甲斐しく手当してました。やがてお医者さんが来られタンカで運ばれて行きました。藤本先生のスカートは血に染まってました。私も何か事が起きた時、他人でも声を掛けたり手伝ったりしてあげたいと思いました   |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 少しの勇気と思いやり。小さな事でも親切心  |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 愛情と夢と希望、ありがとうございました   |  |

|  |                                 |
|--|---------------------------------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服B）卒                  |
| 氏名   | A. Cさん                          |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学で高崎線の本数が少なく家より片道2時間かかり大変でした |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 本当は都心の学校を選びたかったが一番近いから          |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家政科の先生になりたかった                   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | H. Sさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 四国からの上京でしたので交通が不便でした  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高等学校の恩師の進めでした   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 現代の若者と違いまったくのんびりしたもので良妻賢母を夢みて、尚教師の免状でもと思っていました  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 正直まったく覚えておりません。手元に資料もなにもございません  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 50数年も以前の事とて、いつの日か定かではありませんが、家政を学ぶことは家庭生活を作って行く仕事だから、苦勞があっても努力して自分を高めて行かねば自分自身の幸福はやって来ない |  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 青木先生のお声は男性としては、とてもまろやかなやさしいお声で、いつもにこやかにお話しされました   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 一番の思い出はクリスマスのキャンプファイアーの時だったと思いますが、真赤のサンタさんの衣裳で終始笑顔で学生と談笑し、写真に気軽に参加して下さいました            |  |
|  | ② 今、思い出しても男性であれほど慈悲深く温かい雰囲気の方に会った事ございません。ごく自然に！   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 寮生活でしたが、悲しかったり、いやな思いをした覚えはございません。なつかしく思うばかりです。今でも皆様とお付合しています                            |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 自分の人生は自分で、という先生のお教えを基本として生きてこれた事に感謝して現在を幸いに思っています                                       |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 北海道旅行が一番かしら。行事で方々に連れ出していただけたのはいい思い出です。遊んでばかりで勉強しなかったかしら！             |
|  | ②つらかったこと  | 同室の下級生と田園調布のコロシアムでのテニスの観戦の帰り、板橋駅の商店街で発作をおこし彼女が倒れた事。商店街の人達の助けで無事帰りました |
| 12. 他の先生の思い出                               | 宮下先生（色彩学？）が国立美術館等に連れて行って下さり、美術、芸術に少しは目が開いた事です。先生方はどなたも凛としておやさしかったです                     |  |



|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 13. これからの大学・短大に期待すること         | これからも発展して行って下さる事を期待します                              |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 少しでも社会に貢献出来る人になっていただければ。                            |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 先生のお教え通りに人としての道を通して歩んだことに間違いでなかったと満足しています。有難うございました |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服B）卒   |
| 氏名   | O. Tさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅からの通学でしたから特にありません。(横浜市磯子区より通学)   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 恩師が学ばれたので、是非私もと思いました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 母校の教師となって、恩返しがしたいと思いました。その夢はかなえられませんでした  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情・聡明・勤勉をモットウとする学園にて豊かに過ごして下さいとの事だったと覚えています  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | これだけ水曜講演は素晴らしいものでありましたのに、50余年を経て何を記述したら良いか迷います   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 温厚そのもので、きびしさの中にも大変わかり易くお話して下さいました  |
| 8・その他の行事に関する思い出                            | 自宅からの通学時間は往復4時間を要しておりましたから、直接お話しをする機会のなかった事を後になり大変残念に思いました。2年間（短大）の在学中は短いですが、青木先生に出逢えた事をほこりに思います。本当に楽しい学生生活でした |
| 11. 学生生活の思い出                               | 母の日、クリスマス、その他季節毎の行事は大変たのしいものでした  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | ありがとうございました、と感謝いたします   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服C）卒  |  |
| 氏名   | H. Mさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 通学生でした  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生の勧め。家政出身   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 30年後半～   |
|  | ②内容   | 鍛錬。知的な強さ。愛情。誠実   |
|  | ③感銘を受けた点  | 真の愛情は、その人の心をいたわり、その人を高めていこうとする心に見られる。親の愛、友達の愛を身近に感じました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | はっきりとした口調で、身にしみる内容だったと覚えています                              |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 青木学長の隣にいつもいらした秘書の先生の美しかったこと。あゝゆう女性になりたいと思いました             |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 二年間の短い学生生活でした。愛情・勤勉・聡明、なつかしい言葉です。遙か、50年も過ぎて親に感謝です         |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 多分、50年以上になりますが、良い人生だったかなと思います。先生の教えが生かされています              |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | キャンプファイヤー。通学生の楽しみでした。仲良く歌い、フォークダンスをした事です               |
|  | ②つらかったこと  | 被服科。無器用なのに何で入学したのかと、一生懸命、和裁・洋裁。お直して徹夜泣き、今では良い思い出です     |
| 12. 他の先生の思い出                               | 私も、子供そして今孫も大学生です。時代が変わりました。家政大の学生時代の、何ごとも一所懸命にやる精神を教わりました |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 大学時代に良い思い出をたくさん作って下さい                                     |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | また先生の声が聞きたいです。そして講演があれば飛んで行きます                            |  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服C）卒                           |  |
| 氏名   | N. Yさん                                   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 三人大学なので経済的にたいへんだったと思います                  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 地味な学校                                    |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 夢はあまりなかったが何となく入学した                       |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                            | 一年生、11月頃？                                  |
|  | ②内容                                      | カラーについて                                    |
|  | ③感銘を受けた点                                 | 朱色のカーディガンを買って着ていった時、めだつ色は良くない、と。とても恥ずかしかった |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 何時も笑顔、やさしい言葉                             |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 夏のキャンプファイヤー                              |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 教授、講師の方々のやさしい愛情にみちあふれた人柄が伝わって来ました        |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 無力な私ですが、まずは町からと思ひまして、体育推進員を11年やっています     |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 被服科なので自分でデザインしてのファッションショーが楽しかった          |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 出身校が発展して行く事はとてもうれしいことです                  |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 目標をもって学生生活を送って下さい                        |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 人生は人と人との出逢いとありますが、青木学長にお会い出来てとても幸せだと思います |  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服C）卒  |   |
| 氏名   | F. Tさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 下宿では石油コンロで煮炊きで、水道も1つ。トイレが家主と下宿人4組で総勢10人で1つしかなかった事   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 教員免許の取得が可能で資格をとっておきたかった   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 物は買った時から古くなるけど自分が勉強したことは生涯の財産になると思い大学に来た  |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 学生数も少なく、青木先生の方から気軽に声をかけて来てくれました。私達の氏名を御存知ではなかったが、本短大の学生でいとおしいと思ってくれていたと勝手に感じていました                                       |   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか    | 他人に対して、自分の主人に対して愛情をもって接する事が出来るのは、自分が強くなければ出来ないことだと思い到りました。つまり相手の立場に立って考えれば、自分のあり方がわかったし対処の仕方がわかり、云うべき事は云っても責めることは少なくなった |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかった<br>こと  | 東京の美術館に色々行けたことです  |
|  | ②つらかった<br>こと  | 暖房設備が少なく寒かったこと。生活費のかかり方が地方と都会では格差があるのに親に理解してもらえなかった事（仕送り額が少ない。兄2人も同じことを云っていました） |
| 12. 他の先生の思い出                               | 法律を教えて下さっていた大野先生(?)。死刑があるからこそ市民の安全な生活が保たれていると云う授業の言葉、重く受けとめ新鮮でした  |   |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること                  | 語学に力を入れてほしい。授業数とその環境を造ってほしい。地方の父兄は収入面で都会とは異なり外部に習いに行ける学生が少ない  |   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと      | すなおな事は大切。しかし理論的に反論できる人になってほしい。言い負かされることのないように。特に外国に行った時は生活面でも主張できるように   |   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと          | 学校は一口で言えば学長、校長先生次第で如何ようにもなる。偉大な青木先生に恵まれ感謝です。大学の基礎を築いた人の1人であったと思います  |   |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服C）卒  |   |
| 氏名   | Y. Kさん  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 大分から東京に行くことが今の外国へ行くようでした。それ以上でした。女が大学へ行くなんて笑った人もあるようでした。両親が進歩的でしたのでまよいませんでした  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家庭的な女性になりたかったからです   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学長先生の描いてくださったカーネーションは写真ブックに写真と一緒にあります   |   |
|  | ② 母性はズボンじゃなくてスカートをはくようにとおっしゃられたのをよくおぼえています  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | ふとん店へおよめに行きました。主人は教員でしたので、私は勤めをやめて商売を親としました。工場でのふとんの仕事でしたので綿ぼこりをかぶり大変でした。父も勤め人でしたので、母が主になって家の商売をきりもりしました。人の出入りが多くさぞ大変だろうとみんなからいわれましたが、家政大の寮生活のお蔭でやり通して参りました |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 東京近辺の旅行                                       |
|  | ②嬉しかったこと  | 卒業式に母が上京して日光へ行ったこと                            |
|  | ③つらかったこと  | 進学の高校でしたので裁目が中々遅くて一晩中電気のついてる寮の一室で裁目の縫いものをしました |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | もっと地方にしられる家政大にしてみたいです   |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 家政大のお蔭で75才まで困ることなくがんばることが出来ました  |   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服C）卒   |   |
| 氏名   | K. Mさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 都内在住。自分自身は特にありません  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 附属中高に在籍していました  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 職業婦人として何か資格を持ちたかったから   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 生活信条。学生生活等についてのお話しのようになっています   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 水曜講演は毎回受講したように思いますが、内容は定かではありません。ただお話しの仕方がわかりやすかったように思います                                    |   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | ゆっくりと噛んで含める(?) 様にお話しの仕方でした。いつも穏やかに   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 校内でお見受けした（擦れ違いでも）お声をかけていただきました   |   |
|  | ② 学生祭では、キャンプ・ファイヤーを囲んで合唱したり、フォークダンスが思い出されます  |   |
|  | ③ キャンドル・パーティでは、学長を中心に撮影会を行いました（アルバムを見ながら思い出しています）。クリスマスカードについては、あったようにも思いますが、記憶がありません        |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | いつでも学園内を歩かれる時は、にこやかに両腕を後手に組まれ、ゆっくりと周りを見ながら、我々学生にもお声をかけて下さったことを改めて思い出しております                   |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私は幸いにして卒業後も、学園に関係することが出来ました。就職後は、恩師や先輩との交流が出来、又いつも皆様に暖かく見守っていただくことが出来ました。これも青木先生のお教えの賜物と思います |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと  | 学園生活ではもとより、一日バスハイク、卒業旅行、前記で申しましたが、行事等楽しいこと、嬉しいことが思い出されます。なお卒業式には青木学長から直接証書を戴いたことがうれしゅうことでした |

|                                |   |                       |
|--------------------------------|---|-----------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ②つらかったこと<br>悲しかったこと   | つらかったことや悲しかったことはありません |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 故三木先生の授業に、授業開始時間になると、出入口のドアに鍵をかけてしまうこと。(教室の外で、ドアをがたがたしている仲間を耳にしていました) |                       |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | いわゆる学生らしさを忘れないで、“今しか出来ないこと”をしっかりと考えてほしいと思います                          |                       |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 社会に認められる学生であること   |                       |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 御教えありがとうございました、と申し上げたい  |                       |

|  |   |          |
|--|---|----------|
| 卒業年  | 昭和31年：短大（被服C）卒  |          |
| 氏名   | K. Sさん  | (写真5枚寄贈) |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 終戦後の混乱期でいろいろな面で忍耐強さが身に着いており、入学、上京した頃はあまり苦を感じなかった。両親には感謝でした    |          |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木学長であったことと教授者の魅力   |          |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 技術だけでなく教員資格を修得できるから   |          |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 角帽に正装された凛々しいお姿が懐かしく想い浮かびますが・・・                                |          |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 目が細く、大きめのお口から一言一言に愛を感じるご指導でした                                 |          |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 全学生に手描きのカーネーションをプレゼントして下さいました。今では色あせましたが、青春時代が沢山詰まっている私の宝です |          |
|  | ② 染色クラブに入部。文化祭の作品展示した田園風景のカーテンを褒めていただいた                       |          |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 学園生活で多忙な中、寮生のためにも特別のご講話をいただきました。寂しい陸軍造兵廠のレンガ造りの食堂で勇気づけられました  |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 愛情：慣れない新人教職時代、児童が下校後、空席になった教室で一人一人の名前一日でも早く覚えることに努めた。さらにその児童の行動が自分の中に印象付けられているか……。印象の薄かった子は次の日ひと言、私から会話し、先生と児童との間が自然となごやいだ生活が送れた |   |
| 11. 学生生活の思い出   | ①楽しかったこと   | 学園行事の旅行   |
|  | ②嬉しかったこと   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地方の寮生の実家から送られてくる名産にふるりの味を沢山知りました</li> <li>・家政大代表で第一回日本バレーボール大学女子大会に参加できたこと</li> <li>・素晴らしい人生の友人ができたこと</li> </ul> |
|  | ③つらかったこと   | 手仕事の多い被服科は夜でも縫い物に追われ消灯時間に悩みました  |
| 12. 他の先生の思い出   | 宮下先生、松井先生、東先生  |   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 「愛情・勤勉・聡明」を信条に永遠に願いたい  |   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 先生と握手をして、恩愛に感謝の一言“ありがとう”をお伝えしたいです  |   |
| <p>別紙：（写真5枚寄贈（青木学長正面笑顔、食堂で立ち姿の学長、食堂で高橋先生と一緒に、第一回全日本バレーボール大学女子選手権大会の整列及び行進）</p> <p>① 進学する頃：青木誠四郎学長は心理学者として日本を代表された方とは知っておりましたが、新教育制度確立の獅子奮迅の働きをされた事、さらには水曜講演を傾聴し、直接に声咳、暖かいお人柄に接することが出来た私たちが精神的に黄金時代であったと評価された関根靖光所長のお陰で、なんと素晴らしい青春時代を家政大で過ごせたのだと感慨無量でございます。</p> <p>② 学園と親子の絆：五十何年も前、進学するにあたり、概要で知ったのですが、家政大の教授者に宮下孝雄、東昇の両氏がおり、なんと父親が東京工業大学時代にご指導を賜った方々でした。子である私も宮下教授に色彩学を学び、東教授には被服学、そして卒論もご指導いただきました。父親は染色化学など工業の教員でしたが、家政大の先生方と専門的な資料の交換をしたり、私が卒業後も大変お世話になりました。</p> |  |   |



- ③ 先輩への恩：特別に技が優れていたわけでもなかったのですが、第一回日本バレーボール大学女子選手権大会、京都岡崎公園で開催され出場させていただきました。高橋敬三教授が団長で選手も十二名～十三名ぎりぎりのメンバーでした。青木学長の笑顔を背に勇気百倍で出発。試合の後に、関西方面で学園を創立された先輩が、いろいろとお世話を下さり、比叡山や古寺の御案内。さらに小船で川下りをさせていただいた楽しい思い出があります。親しみ、愛情の深い先輩に接し、自分の目標が見つかった気がしました。



「第一回全日本バレーボール大学女子選手権大会」



「食堂にて青木先生、高橋先生と並んで」

～ 上記写真、昭和31年短大卒（被服C）K. S様提供

## 昭和32年 短大卒業

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | Y. Tさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学でしたが電車の時間が長く大変でした。30分に1本と言う時代でした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 第一条件として自宅（所沢）から通学出来る範囲でした。その中で地味な学校で伝統のある学校と云う事できめました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | ただただ学校に行ける、学問が出来る事をうれしく思いました   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 先生のお声ははっきり覚えています。声は少し太く、ゆっくりとにこやかにお話をされました。背はあまり高くなく、少しふとっていらっしゃいました   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① キャンプファイヤーを校内でやりました。当時の校内はみどりの木が多く、レンガの教室やコンクリートの床もありました<br>② クリスマスにキャンドルサービスもあったと思います。50年以上前の事ですので忘れてしまいました。申し訳ありません |
| 11. 学生生活の思い出                               | 楽しかったこと：<br>調理の時間でした。インスタントの品のない時代でしたので作る楽しさと食べる楽しさです。単位（教、栄、調）が多く遊ぶ時間などありませんでした                                       |
| 12. 他の先生の思い出                               | 村上ハルヨ先生が汗を流しベシャメルソースを作って下さったこと（ニックネームがベシャメルソース）。大島はまこ先生の中華料理の春餅を忘れません  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 家庭生活が変わったと言えればそれまでですが、手作りの食卓を家族で囲む、そんな主婦を時代が変わっても、そうあるべきです   |
| 14. 本学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 子供を育てる女性として大切な役目を私達女性にだけ出来る（育む）特権として大切に思う女性になってほしい   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 覚えていなくて申し訳ないですが、私は家政大の卒業生ですと今も声を大にして言う事が出来ます   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | A. Sさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | 兵庫県北部の田舎から一人娘を東京に出すにはとっても家族に勇気がいったと思います。「短大にしか出せないから東京で学べ」と祖父が云ってくれました。ずい分理解のある人だったと今にして思います。手紙のみが家族との交信手段でしたから淋しかったと思います                          |
| 3. 本学を選んだ理由  | 母親がすすめてくれました。母が憧れていた東京女専が前身だったとわかったから  |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 地元に戻り栄養士として働きたい  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演  | 常に幸福になるには、日本の婦人が幸福になること。自分の人生は自分が作るもの・・・など   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等  | 温厚で、にこやかにわかりやすく信念を持ってお話をされていたのが伝わって来たのだと思います。自慢の「学長」と友人に語った記憶があります   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 寮生活でしたので、三木テイ先生もいつも学長と同じ事を云われるなーと思っておりました  |
| 1 1. 学生生活の思い出  | 学校の出来事より寮生活の思い出の方が多いです。火鉢1つで部屋の暖房を取り、数々の当番をこなして、外出も外泊もなかなか許されない時代でしたから、ずい分保証人の方にお世話になりました。北海道から九州の方まで友達を得、情報のない時代、言語、生活習慣等思い出される事が数々あります。十条が懐かしいです |
| 1 2. 他の先生の思い出  | 山下先生（児童学）、松井先生（寮監）、村上先生（担任）。どの先生も厳しかったです   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 数年前に同じ町に住む大先輩で女専の頃に学ばれた方（S様）の裁縫のヒナ形に出会い、無理を云って大学に寄贈して頂きました。現大学生の目に止っていましたら、うれしゅうございます  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 伝統ある大学です。重みを感じてほしいです   |
| 別紙：<br>私は34年間母校の高校に勤め、現在は茶道教室をもって、若い方々と日々接した暮らしをして居ります。おかげ様で、女性としての立場の話もよく出来、学長様のおかげ？と思う時も御座居ます。 |  |

|  |  |                                  |
|--|--|----------------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養A）卒   |                                  |
| 氏名   | W. Aさん   |                                  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 同郷の方が全くいなく、少々不安な時間もありました。親類の家からの通学でした  |                                  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 栄養士、教員の資格を取得できること。東京女子専門学校を卒業した先生が特に進んで選んでくださったこともある                                   |                                  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 親もとを離れての初めての生活や学園生活で感動(新しい発見)の毎日で、東京に馴染めることも夢だったかと思います                                 |                                  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | すみません。何か気持ちが高ぶっていたのでしょうか   |                                  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生の秋                            |
|  | ②内容  | とてもあたり前の内容でした(あたり前のことはなかなかむずかしい) |
|  | ③感銘を受けた点   | 自分の人生は自分の心がけ次第である                |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | どこか父に似た雰囲気がお持ちの方でした。持っていらっしゃるおだやかなお話のし方。むずかしい言葉でなく誰もが理解できる表現でした                        |                                  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学園が緑にかこまれ、それぞれの学習室迄は石だたみを通じて、学生どうしが行きかい、とてもゆったりおだやかな風景を思い出します                          |                                  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 卒業後、栄養士として34年間。その後地域の民生児童員として12年間。そして心配ごと相談員としての役目をまさに学長の教えを守り、思いやりや愛情をもって事にあたってまいりました |                                  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 箱根学宿。調理（特に）中華料理の先生に魅力を感じた記憶が残ってます。鎌倉（寺名は忘れました）の住職さんより自筆の色紙をいただき大切に時折飾っております（円相）        |                                  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 青木学長の精神を受けつぎ、ますますの発展を期待いたします   |                                  |

|  |                                    |
|--|------------------------------------|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 学園で学んだことを生かし、是非社会にてリーダーとなって活動してほしい |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | お陰様でとてもやさしいおばあちゃまになりました            |
| <p>別紙：<br/>         学校を離れ五十三年余の年月が驚く程の時の流れに時代を感じます。この度は大変なつかしいお便り。アンケートをなさる件、とても感動いたしております。日常生活の中で思いおこす機会もありませんでしたのでとてもうれしく感じます。</p> |                                    |

|  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養A）卒                    |
| 氏名   | S. Nさん                              |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | 大分から友人と2人で自炊を、世田谷の烏山で（井戸で）した        |
| 3. 本学を選んだ理由  | 父が、青木先生がいるから。父は東大で心理学を勉強していたのだと思います |
| 4. 入学のときの希望や夢  | （高校を）卒業して希望や夢は特になかった                |
| 11. 学生生活の思い出   | 悲しかったこと： 青木先生の葬儀                    |
| 12. 他の先生の思い出   | 山下先生の心理学の授業は受けましたが、青木先生の心理学は受けてません  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 自分の子供・孫を進学させたいと思う学校にしてほしい           |
| <p>別紙：<br/>         入学して青木先生によばれて「寮でないと勉強出来ないよ」と云われましたが、私は今も親しくしている友人との自炊で2年間を暮らしました。友人は別の学校でしたが。学校は授業に出るだけでした。2人共卒業して大分へ帰りました。私は当時結核療養所の栄養士として働きました。その院長のすすめで結婚しました。青木先生の思い出はあまりありません。寮生活していたらいろいろ思い出も多いのですが。</p> |                                     |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養A）卒   |  |
| 氏名   | E. Tさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私鉄での通学。当時、1時間に1本のダイヤ。朝6時半に乗り学校には9時の授業にすれすれ                   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 歴史のある家政科、自宅通学が可能   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士として少しは社会の為になり、やがては良い家庭人となるうと思いました                         |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 若いうちは勉学に励むよう   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生、10月  |
|  | ②内容  | 自分の人生は自分が作る。努力次第   |
|  | ③感銘を受けた点   | 長い人生。目的をもって生きる   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 身長のわりには比較的小顔が大きく柔和、角ばった小顔、声はやさしかったです                         |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 会食の時学長先生は健康を気づかい、故郷の信州りんご（ゴールデンデリシャス）を美味そうに召し上がっていらっしゃいました   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 私達は通学生だけのグループでしたが、卒業後も年に1度は必ずお会いしています。グループも2人他界し、墓参ツアーをしています |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | お陰様で子供達二人が思いやりのある素直な子供に育った事だと感謝しています                         |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | グループの1人のクルマで江の島、鎌倉、高尾山にドライブに連れて行って戴いた事。又県人会（埼玉）で金沢八景、狭山湖での交流が楽しかったです |
|  | ②嬉しかったこと   | 嬉しかった事は卒業式の日ショパンの別れの曲が流れている舞台上で1人1人証書を頂いた事                           |

|                                |  |                             |
|--------------------------------|--|-----------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ③つらかったこと                                     | つらかったのは通学で時間がとられ睡眠時間が少なかった事 |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 担任の村上ハルヨ先生のニックネーム（ベシヤメルソース）など                |                             |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 良き家庭人でもあり、社会の為にも役立って欲しいです                    |                             |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 時代は変わっても女性である事                               |                             |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 先生の理想とする教えにはほど遠いかと思いますが、日々、肝に銘じて努力はして来たつもりです |                             |

|  |  |                               |
|--|--|-------------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒                             |                               |
| 氏名   | I. Tさん                                       |                               |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮に泊めて頂けるとパンフレットに有りました                        |                               |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 2年間で児童、栄養両方勉強できる件                            |                               |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 寮生活。都会での勉学                                   |                               |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 女性としての生活態度（男性とのかかわり、忘れないように）                 |                               |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                                | 1年生の時                         |
|  | ②内容  | 社会に於ける女性の立場を理解せよ。男性には一線を置くように |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学生寮の行事にお出掛け頂いた折、お目にかかりました。寮祭には何度かお目にかかりました |                               |
|  | ② 長野県松本出身で有りましたので、何かと信濃の事が話しになり親しめました        |                               |
|  | ③ 抱擁力有り、人格が表われて居りました                         |                               |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 多くの学部が出来て嬉しいです。発展を祈ります                       |                               |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 卒業年                             | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒   |  |
| 氏名                              | T. Tさん   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                     | 学生寮があり、地味な学校であること  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                   | 教員   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ①何年生の頃<br>何月頃  | 2年生、6月   |
|                                 | ②内容  | 行動と自己表現  |
|                                 | ③感銘を受けた点   | 自分の知性をみがき、行動について考え、自分を見失わないよう、自分の精神を正しくしていくよう努力しなければならない |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 穏やかな口調で説得力がありました   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 学生祭のキャンプファイアーの時、学生と共に楽しまれておいででした   |  |
|                                 | ② 寮の食事会では寛いで、学生と会話しておいででした   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 愛情・勤勉・聡明は大切な生活信条です。学生生活や寮生活においても、先輩や後輩はもちろん同輩の愛に支えられ、先生方や寮の職員の愛を感じた学園生活でした |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 長い間の職場において、病院の患者、同僚、先輩、後輩、上司への心づかいに勤めた                                     |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | 楽しかった二年間。特につらかった事、悲しかった事はありませんでした  |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 経済学部を設置して欲しい   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 先生のお人柄に接し、水曜講演を傾聴出来た学生時代を誇りに思っています   |  |



|  |  |                                       |
|--|--|---------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒   |                                       |
| 氏名   | M. Sさん   |                                       |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 生まれて初めて親元を離れ、地方（四国徳島）から上京し、寮での集団生活もはじめて、言葉も異なり共同生活になじむまで大変でした  |                                       |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の家庭科の先生のすすめ。将来のために栄養士の資格をとりたかった  |                                       |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 技術を身につけ社会で役立てたいと思った  |                                       |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | やさしそうで人間味あふれる感じを受けました。内容は忘れてしまったが、よい学校に入学できたと感動したことが思い出されます  |                                       |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 2年生                                   |
|  | ②内容  | 愛情について                                |
|  | ③感銘を受けた点   | 人を愛するという事は、まず相手のよい所を見出し、心をいたわることから始まる |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 入学前の面接ではじめてお会いしましたが、緊張でカチカチの方言まる出しの私を、にこやかに気持をほぐして下さったことは今でも忘れません。あとで学長先生と知り驚きました  |                                       |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマスの時に寮にサンタ姿で見えられた。その時の笑顔とお姿（体型もぴったり）は今でも思い出されます   |                                       |
|  | ② いつも学生と共に、の印象があります。   |                                       |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか        | 行事、伝統を大切にしていること  |                                       |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか    | 45年間の仕事の人間関係を築く上で生かされたと思います  |                                       |
| 11. 学生生活の思い出                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短大で単位をとるために（教諭・栄養士）、月曜から土曜日の5時迄びっしりの授業でゆとりがなかったと思う</li> <li>・校外実習が多く、短い期間に多くの体験ができた</li> <li>・生涯お付き合いできる友人ができたことはうれしい</li> </ul> |                                       |
| 12. 他の先生の思い出                               | 青木先生の心理学の授業はいつも楽しみにしていました  |                                       |

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 13. これからの大学・短大に期待すること         | 伝統を大切に、誇れる母校として人間的にも優秀な人（心の育った人）を育てほしい                     |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 学生時代を有意義にいろいろなことを吸収して下さい。友達                                |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 講演のすべてが心に残ります。私の人生における道を教わった感じです。もう一度お話を聞きたいです。ありがとうございました |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | K. Rさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 経済的に二年の学業ならと許された上京でした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木先生の講演を拝聴した母のすすめ。長野の中学のPTAで講演をお願いしたと母から聞いています。当時PTAの役員をしていた母がすばらしい先生だったと話してくれたのを覚えています |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 「もう少し勉強したい」「東京に出てみよう」と漠然としたものでした  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 黒のガウンと帽子は覚えています、訓示の内容は覚えていません   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 下記「別紙」参照  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | ゆっくりと、かんで含める様なお話をされました  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 先生方と自然にお話できました  |

|   |   |
|---|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか   | はっきりと生かされた事例はありません。ただ人生をふり返って先生の教えが逆に今になって生かされていたことを知り驚きです  |
| 11. 学生生活の思い出  | 木々の緑の中ポツリポツリと教室があり、移動する心地よさを覚えています。やがて階段教室で栄養学を学び大学生になった実感を味わう。試験が終わった開放感は忘れられない。学生食堂ができてはじめてラーメンを味わう。「ラーメンの方!」と大声で知らせてくれた小柄の食堂のオバサンの顔を覚えていてなつかしい! 確か三十円と思いますが。お弁当の日と食堂の日とお財布の中と相談でした |
| 12. 他の先生の思い出  | 体育の寺島先生(男性)が姿勢よく歩く練習をリズムカルに教えて下さいました。「オヘソを中心に上半身を上に持ち上げるーオヘソの下は意識を下に下に持って行くこと。ハイやりなさい」ー今でも思い出して笑って実行しています   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 質実な校風は今もあると思います。社会に出て人格と共に評価されると信じます  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | よく学ぶことです。知識を吸収することです。社会の一員になるべく訓練をー   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 揺るがぬ精神的な人生の基礎をかためられたと思います。感謝申し上げます  |
| <p>別紙：</p> <p>水曜講演のリストを読み進めていく中、よい学生生活を送ったことに誇りを感じました。当時の年齢なりに理解を深めていたと信じます。卒後50余年、今改めて先生のご本をもう一度読み学びたいと思いました。32年短大児栄卒と言うことで(ミニ緑窓会)として殆ど毎年の様にクラス会を開いて交流しています。学長先生の目指された教育を二年間でしっかり受け止め、学んだからではないでしょうか。よい家庭を作り、よい年齢を重ねている皆様です。短い二年間でしたから勉強の毎日でした。授業の他に実習もあり栄養士免許の単位取得の不足を夏休み長野に帰って実習したこともありました。愛情、勤勉、聡明をモットーに励んでいたと思います。</p> |   |

|  |                                   |                      |
|--|-----------------------------------|----------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒                  |                      |
| 氏名   | M. Rさん                            |                      |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活は楽しくはあったが、貧しく、多人数の部屋だった        |                      |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 将来良い家庭人になる                        |                      |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 結婚しても迷わないように知識・技術を身につける           |                      |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 良妻賢母を育てる                          |                      |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                     | 2年生初め                |
|  | ②内容                               | いつも心おだやかに、にこやかに人に接する |
|  | ③感銘を受けた点                          | 言葉も表情もいつも温和          |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 温和な表情。おだやかな声                      |                      |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | キャンプファイヤーでのひとりひとりの写真を一緒にとってもらったこと |                      |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | いつもおだやかにさとされた                     |                      |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 人にやさしく接することに生かされている               |                      |
| 11. 学生生活の思い出                               | 中華料理を習った時のできれば今は今だ味わったことのない美味であった |                      |
| 12. 他の先生の思い出                               | 三木先生の寮生活での思い出多い                   |                      |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | ゆっくりとしっかりと教えを身につけてください            |                      |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 感謝：お会いできたこと                       |                      |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒   |
| 氏名   | S. Sさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 常磐線土浦から板橋まで列車通学でした。時間がかかって大変と云えば大変だったのですが、その頃は大勢通っておりまして、他の大学へ進学した人達と列車内の交流がたのしかったです   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家がゆとりのあるわけではなかったのですが、兄が短大ぐらい出ておけと云うので進学しました。私の学力で入学出来そうな（入試科目）ところ。入学金、授業料が少なくすんだこと   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 高校時代一番の仲良しが、保母さんを目ざしていました。いっしょの保育園（幼稚園）で働けたらいいね、と云って。  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とにかくゆっくりした（すべてが）お方だったと思い出しています   |
| 8. その他の行事に関する<br>思い出                       | ① 母の日のカーネーションカード。母が大変感激してました。それ以後、毎年母の日にはいろいろなカーネーションをプレゼントしました。ペーパークラフトを習っていた頃は紙細工。編み物の好きだった私は極細毛糸をつかった色々な色のカーネーションを何本もの大きな花束にしたりしました<br>② 入学式、卒業式の花いっぱい式場。これも母が喜んでいました<br>③ 生前の先生の思い出はあまりないのですが、ご葬儀の日、校門前の土手でお見送りをさせて頂いたことははっきりと覚えております。寒い日でした |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか    | 青木先生の講義を覚えていませんので、はたして先生の教えが生かされてこうなったわけではない筈なのですが、結婚後、点訳、音訳の世界を知り、点訳奉仕は36年続いております。音訳奉仕は一昨年まで17年やっていたのですが、両方というのは体力的にきつくなって来たので、現在は点訳のみ細々とではありますが続けています  |
| 11. 学生生活の思い出                               | 卒論は金野先生にお願いし、土浦市内の中学生の栄養調査をしました。卒業間近になって先生がその中学（3校）の生徒の体格を知りたい、とおっしゃられたと伺ったのですが、それにお応えせずに卒業してしまいました。お世話になったのに報えなかった事が胸にトゲがささってそのままの感じが残っています   |

|               |  |
|---------------|--|
| 1 2. 他の先生の思い出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の先生の授業はユーモアがあって楽しかった思い出があります</li> <li>・高校時代英語は苦手でした（成績も勿論よくなく）が、「チップス先生さようなら」を教材とした2年間は楽しくすごしました</li> </ul> |
|---------------|--|

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | E. Hさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 特別大変だったとは思っていません。その様な時代に上京して勉学出来たことに唯々両親に感謝いたしております   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校での親しい先輩のお話を聞いて受験いたしました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 将来に備えて資格を得たいと思いました  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 今日は学長先生の水曜講演よ、と学生みんな楽しみに出席させていただいております  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつもおやさしく、人間味あふれたお人柄の様に思いました   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 私は寮生でしたので、夜キャンプファイヤーの折、青木先生がサンタクロース姿になられ、それはそれは楽しい思い出として残っています  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学園が目指していたこと云々と問われますと自信がありませんが、五十余年、卒業してから過ぎていますが、現在までも毎年クラス会等をして、お互いに友情を感じあためあっていますのも、私達の心の中に学園の目指したものを感じとっているからではないでしょうか |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | クラス会に出席していつも思う事ですが、友人の皆さん真面目で、各々よき人生を送ってこられている様に思います。これも母校の教え、大なることと思っております   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 私は寮生活をさせていただきましたので、色々なことを体験させていただきました。八畳一間に五人で生活していました。現在の若い人達でしたらどうでしょう。そのおかげで友情は深いものが育ったのではないのでしょうか。厳しい規則でした            |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 私は卒論を神野節子先生にご指導をいただきました。現在も人生の師として親しくおつきあいをしていただいております。幸せで先生に対しては感謝の気持でいっぱいです |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 唯々母校が発展していかれますことを願っております  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 立派な社会人として成長して行って欲しいと思います  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 人間味あふれる、本当におやさしい先生に改めてお礼を申し上げたいと思います  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名   | T. Tさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 1年入学の折は目黒の叔母の家より通学してましたが、電車にうまく乗れず毎日の様に遅刻しますので・・・   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 祖父母に育てられましたので上京するなら女子大でないとダメと云われました。母も女子専門の時代本校出身でしたので                                      |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 何となくふわーっと。東京へのあこがれと祖父母が学問好きでしたので、るんるん気分で上京しました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 人にご挨拶する時頭を下げる、親しい友には自分の方から握手を求めるとか身体を寄せ合うとか、心理学の先生って面白いなあと最初に感じました                          |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | よく外国での生活の状況をお話なされた様ですし、修身のお好きな方だと感じてました。とてもなごやかでおだやかな先生でした                                  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学長先生はどちらかと云うとポツチャリとなされた大変おだやかで、いつもニコニコなされていた様に感じてました。私は校内でのフォークダンスの時、先生と手をつないで踊った記憶が御座居ます |

|   |  |   |
|---|--|---|
| 8. その他の行事に関する思い出  | ② 水曜講演はいつも講堂で満員でした。終わられてから何で？おそばに行ったのか解りませんが、先生の毛布がおひざから落ち、私は拾ってさし上げました。とてもはっきりおぼえております。「ありがとう。あなたはやさしいネ。これからもみんなにやさしくしてネ」とおっしゃり、手をにぎり合って笑いました                   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか   | とにかく毎日が必死でしたので、勉強も通学も楽しかったです。生活信条は忘れてました   |   |
| 1 1. 学生生活の思い出   | ①楽しかったこと   | 箱根の寮での合宿（31年）                                       |
|   | ②嬉しかったこと   | 箱根の富士屋ホテルでの会食。金野（コンノ）先生との上野の料亭でのおトーフ料理につれて行っていただいた事 |
| 1 2. 他の先生の思い出   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お裁縫が大きらいでしたので児童栄養科に入りましたのに。お裁縫の先生はみんなきらいでした（悪いです）</li> <li>・栄養学の先生（倉田先生）。黒板に下の字の上にもたお書きになるので、すごく近眼がひどくお気の毒でした</li> </ul> |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること  | やっぱり学生時代はしっかりお勉強をする事です。どうか自分のめざす目的に向かって頑張ってください  |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | ありきたりですが、私はやっぱり女性は家庭的でやさしい人を望みます・・・  |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | ありがとう御座居ましたと感謝のお礼を申したいです   |   |
| <p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私事のみで大変思いつきの事でお役に立たないと存ますが、私の級（昭和32年卒）児童栄養科（短大）C組は大変結束が良い（？）かと存じます。</li> <li>・平成20年6月、富山の方にお世話になり一泊で宇奈月温泉泊りでトロッコ列車に乗って参りました。16名の参加で楽しくつどう事が出来ました。</li> <li>・時々、卒業生母校に帰る日に本校に集まってきました。どなたかにお逢い出来てました。年に2～3度上京致しますので又母校に・・・</li> </ul> |  |   |



|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養C）卒   |   |
| 氏名   | K. Kさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親からの仕送りに感謝   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 地元の富山大学と東京ならば短大と云うことで家政大学に出願しました。その結果、富山大学を失敗しました。家政大学には富山県の先輩であるS・Hさんがおられました  |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 田舎者（農家出身）の私は、東京での大学生活で近代的で美しいマナーと教養を身につけたいと思っていました。緑の木立に恵まれたキャンパスに、心細い都会生活に安らぎをおぼえました  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 毎週あった水曜講演の一番印象に残ったのはどれと云うよりは、いずれも感銘を受けました。卒業後、今日まで生活に関する仕事を50年以上続けておりますが、水曜講演で培われた教養の蓄積が今日までの仕事に総合的に活用されていると確信しています  |   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 椅子にすわり、演台に手をおき、聞きやすいやわらかな低音でにこやかにゆっくりと話されていました   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 私は、下宿している通学生でしたので、決まったセレモニー以外は、余りふれあいはありませんでした   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | ゆったりと落ち着いたキャンパスの中で、地方出身の学生が多く、生活信条が優しく響いた。更に水曜講演でこの信条を説かれた。卒業後50年たった現在でもこの講演を聞きたいと思う   |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 家政大学卒業後、今日まで人を対象にした仕事をしてきました。その中で十分生かされています。（某職員38年間、調停委員11年、家庭裁判所参与員2年目）具体的には次のとおりです。栄養士—農村の生活改善・農村婦人指導—生活改善専門技術員—農業改良・生活改善（農業改良普及所長）—消費生活センター所長—調停委員（民事）—家庭裁判所参与員（成年後見人監督事務） |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地から入学された友との出会いと交流、共に学び語り合った。平成20年夏富山県宇奈月温泉で2泊3日で級会をした</li> <li>・栄養専攻だったので、調理学や実習、病院や学校給食の現地実習、ホテルでのテーブルマナーの実習</li> </ul> |

|                                |  |  |
|--------------------------------|--|--|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ①楽しかったこと   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉祥寺に下宿し、中央線、山手線、赤羽線での通学</li> <li>・冬休みに松坂屋、夏休みに羽田空港でのアルバイト</li> </ul> |
|                                | ②悲しかったこと   | 突然、学長先生が亡くなられたお知らせを聞いた時  |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 青年心理学—青木学長先生<br>児童心理学—山下俊郎先生<br>家政学概論—三木テイ先生（家庭は労働力再生産の場である・・・）<br>調理学、調理実習—村上ハルヨ先生  |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成7～8年頃のことだったと思います。家政大学の名称を変更するとしたら・・・とのアンケートを受けたことがあります。私はその時も今も、家政大学でこそ良いと思います。当時、消費生活センターで仕事をしておりましたが、PL法ができた折でもありましたし、家政学こそ女性にとって必要な学問だとの思いは今も同じです</li> <li>・青木学長先生の水曜講演にもありましたが、家政学を学ぶ学生は将来、家庭を総合的にマネジメントできる人になることを目指すべきだと思います</li> <li>・私はかつて（平成3年）富山県の「婦人の翼」（婦人リーダー海外派遣研修）の団員と共に北欧とイギリスを訪問しました。そこで婦人の生涯学習教育施設デンマン・カレッジ（イギリスのオックスフォード校外）で文化交流や意見交換をした時のことです。「女性が勉強することは国の繁栄につながります。女性が賢くなれば家庭経営や育児を通じて夫や子供に影響を与え、さらに次の世代の子供にも伝承されるから」とおっしゃった館長さんの一言が今も強く印象に残っています。女性が家政学を学ぶことの大切さと、家政大学の繁栄と発展を心から願っています</li> </ul> |  |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 新しい時代を担う女性として、家政大学に入学されたことは、素晴らしいことです。人間性をみがき心ゆたかに学んでください  |  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 学長先生の水曜講演の題目は、50年後の今日も必要なことばかりで、今も学びたいものです。もう一度お聞きしたいです  |  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名   | Y. Tさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時は不便もあたりまえでしたから・・・実家への学資負担。寮の廊下での電池の灯りの勉強  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生からすすめられて。(渡辺学園のころでられた方だと思いますが)   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 1人前の仕事につきたかったこと。大勢のお友達と接したかった   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 東京はもちろん、まわりもはじめての人々なので覚えていません   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 誠実でやさしく穏和な方でした。声は表現できませんが、いつもニコニコしてました  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 松本市で誠四郎先生を囲んだ会があって、大勢で写真を撮ったことを覚えています。どんなお話をしたかは・・・すみません  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 2年間の寮生活で、協調性等学び相手の気持ちになることなど学びました。卒業後は就職難で学んだ職にはつけませんでした。が・・・のちについた職が保母職だったので、心理学など役に立ちました。(30才すぎてなので、保母試験は大変でした) |
| 11. 学生生活の思い出                               | 楽しい生活でした。食事は納豆と・・・遊びすぎた人を寮の窓から入れてやったり・・・家に帰ると言ってへやの仲間とちょっとした旅に出たり・・・すみません   |
| 12. 他の先生の思い出                               | 階段教室でうけた山下先生の講義。しゃがれ声でしたっけ  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | いろいろとありがとうございました  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養C）卒   |
| 氏名   | J. Yさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学なので特になし  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 栄養士になりたくて歴史の古さで  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 高ぶらなくて温かみのあるお声が心に残っています  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 学生生活を楽しくとの学園の方針に心配りがあったと思います<br>② 自分達でコーラス部を作ってコンダクターを選び自由に活動した事が一番楽しい思い出です<br>③ 栄養士としての勉強が主婦として一番役に立っています |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | ・コーラス部を作って合宿、コンクールに出た事<br>・地方の学生が多くて都会に出て思いっきり遊んでいる学生がいて残念でした  |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 跡見先生の衛生生理学（?）。哲学の先生の無駄のない講義  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 社会人としての独立性   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | あたたかみのある言葉がなつかしいです   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養C）卒   |   |
| 氏名   | T. Mさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学でしたので特に大変さは感じた記憶がない。しかし池袋駅での人混みの中をガタガタ音のする板敷の乗換えは常に恐怖を感じていた  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家政大は最後に残っていた受験校であった事。国立系受験に落ちて落胆していたら、伝統ある良い学校であるからと教師にすすめられた。また母親の母校でもあったため   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 特になかった。地学（地質学）の方に進みたかったから。当時は夢や希望が全くない暗い気持で一杯であった  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 30年4月、1年生   |
|  | ②内容  | 学生の本命は勉強にある事。バイトは良いことではない。勉強に集中し、豊かな人間を形成すること                             |
|  | ③感銘を受けた点   | 当校とはかぎらず、緊急性のない人でもアルバイトをする人が出はじめていた。学生のアルバイトは良いことではないと厳命されたことに新鮮な衝撃を受けたこと |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | おだやかで、それでいてテキパキとした張りのある声でたんたんとした、それでいて力のある講義でした  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 校内を歩かれていますのお姿を良くお見かけしていましたが、先生と直接おはなしを受けたいと願いながら、何となく気おくれや機会がなかったことが非常に残念に思います   |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 進学校でガリ勉のみの高校生活から、いきなりぬるま湯に浸るような180°回転におそわれる感覚の校内雰囲気がとてもいやで暗い学生生活でした。しかし、その気骨はいかに未熟で幼稚であるかに気づかされたのが水曜講演でした。水曜講演を通して又、学校の教育信念（目標）が生きていく上での真の意味での大切さを知らされました（学びました） |   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 青木先生を中心とする学園の女子教育の方針の素晴らしさに家政大のすばらしさ（良さ）に、社会に出て改めてしみじみと気づかされました。何と云う立派な学校であったんだろうと一。   |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 長いこと私は行政マンや教育の立場にいたりしました。常に愛情をもって懸命に何事も接することにしていました。何年かたって、あそこでの実習はよかったと学生間で評判であったときかされたり、学生指導評価もよかったようなので、このことは学生時代の受けた教えが無意識のうちに生かされていたことを感じます |
| 11. 学生生活の思い出                    | コーラスクラブに入って、女子六大学の音楽祭で賞をとったこと等なつかしくたのしく思い出します  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 村上先生の力の入った調理の講義は印象が深い。期待していた経済学では、いねむり出そうな講義でがっかり気分を味わされたり、小笠原先生の講義は未来に夢を与えてくれるものでした   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 人にしたわれ、社会に役立つ、人間性の豊かな人に育つような立派な卒業生を輩出して欲しい   |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 学生時代、ガムシャラに勉強することの大切さ。このことがゆたかな人間性の醸成につながるから   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 人として生きて行くための土台づくりを養成していただき感謝です。いい学校を卒業したんだと改めて誇りです（思います）   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養C）卒                                  |
| 氏名   | S. Yさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 就職難であった。進学すれば何とかと思い短大へ入学                          |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 附属高校にいたのでそのまま進学                                   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士の資格がとれるという事で病院に就職したかった                         |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 大きな机を前にして坐って講義をした様に思いますが、ただスケールの大きな温和な方だなと印象しています |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 余り接点がありませんでした                                     |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | マナーを知る人間でありたい。常識ある人間でありたい |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 誠のあるお話をお聞きしてありがとうございました   |
| <p>別紙：</p> <p>昭和27年4月より附属高校へ進学したのですが、当時我々は中学校卒業で就職する人が多かった時代です。とにかく高校進学・卒業となりましたが、3年後高校卒業では就職難の時代であり、私の場合はそのまま短大へ進学した状況でした。学園は地味な雰囲気であたたかな空気のもとで勉学に力を入れておりました。短大であった為夏休み、冬休みにも講義をうけ多くの科目を頭につめこんでいたのを思い出します。教職用科目、栄養士科目と二つの専攻をした人が多かったのです。2年生になれば病院実習、小学校の給食実習と色々外部に出て行き多くを学ばせて頂きました。思い出せば、55年前になりますが、青木先生の教えがあり、生活習慣の中で今があるのだと思います。ありがとうございました。感謝しております。今の時代一般の若者は相手の立場を余り考えず利己的な人が多い様に見受けられますので、これからは思いやりの精神を身につけて頂く様、そして多くの社会の中で特に必要な一般常識やマナーを植えつけて頂ける様、家族、学校で望んで居ります。人間愛が消えてしまわない様心がけたいと願っております。</p> |                           |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒                             |   |
| 氏名   | S. Nさん                                       |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 下宿生活がはじめてだったので、周りの人達ととけ合う事が出来なく大変でした         |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 花嫁修業のため                                      |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 山口の田舎から東京に来たので見るものすべてが大きな希望と夢をあたえてくれました      |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 恵まれた環境の中で育った皆さんは教育を受けさせて頂ける事に感謝し、大きく育ててほしい!! |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                                | 30年10月                                    |
|  | ②内容  | 自分の人生は親や周りの人達がつくってくれるものではない。自分のあしでつかみとるもの |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ③感銘を受けた点   | 自分を生かす。それには常に勤勉でなくてはならない。(他の講演については)生活信条(愛情・勤勉・聡明)の講演を覚えています。やさしく、1人ひとりに判りやすくお話しなさっていました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 生徒1人ひとりに優しい眼差しを注いでいらっしゃいました  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | 講演以外では、あまり親しくお話しいたす機会がなかったように記憶いたしております  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 愛されることを望むならば、まず人を愛し、自分を高めてゆく。誠実で勤勉であれ  |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 忍耐と努力といつも前向きに生きて来た(例:25年前に三人の子供を残し、義母も残し他界した夫でしたが、三人の子を社会に送り出すことができたのも青木先生の教えがあったからだと思います) |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | 嬉しかったこと:<br>素敵なお友達ができたこと。現在も家政大でできたお友達とお付き合いをいたしております                                      |  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 丸山先生、中村先生、助手の先生(吉野・現在)等  |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 家政と言う名前を変えて、介護・医学等の学科ができるとよいのではないのでしょうか?10年先をみつめてほしい。誰もが家政大に行きたくなる学校になりますよう願っています          |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 自分の力で生きる人になってほしい   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 現在を生きる生徒たちに自信と誇りを与えるお話をしてほしい   |  |



|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒   |  |
| 氏名   | O. Yさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 生活面では兄と下宿していたので助け合って何の不自由もなかったです。郷里が四国松山でしたから上京するのに丸一日かかりました。今では考えられません  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の家庭科の先生が本校卒でした   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士になる事が夢でした   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 青木先生のお名前の通り、誠実に生きると云う事が一番印象にのこっています  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 30年11月16日  |
|  | ②内容  | 生きる心の大切さと真心のこと。何度も話されました   |
|  | ③感銘を受けた点   | この講演を聞いてから、これから先誠実に生きて行こうと思った。私の人生はずっと誠実をモットウにして来ましたので、今は友人や姉妹、知人、皆んなと仲良くいい人生を送ることが出来ました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | とても優しく静かな声でした  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 短大2年の時、新入学1年生のお世話係になり、先生と御一緒に写真を撮りました。その時「1年違っても先輩だから頑張ってください」と笑顔で云って戴きました                                   |  |
|  | ② 1年生の遠足の時もそれぞれのグループに入ってニコニコと嬉しそうに写真を撮られていました  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 高校まで男女共学でしたから入学した時、女性ばかりの教室がおだやかで優しく静かで、これが学校なのかしらと思いましたが、これが他に見られぬ生活信条だったのでしょう。先生方皆、尊敬出来て学生1人1人の事をよく考えて下さいました |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 結婚、子育て、地域の人との交わり、すべて青木先生の教えが生かされました  |  |

|                                |   |                             |
|--------------------------------|---|-----------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ①楽しかったこと  | 一杯あり過ぎて何を選んでいいのか迷ってしまいます    |
|                                | ②嬉しかったこと  | 2年間のハードなカリキュラムの中から単位が全部とれた事 |
|                                | ③つらかったこと  | 保健所、病院、学校の実習に行った事           |
|                                | ④悲しかったこと  | 在学中に青木誠四郎先生が亡くなられた事です       |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 教育実習の時、高校生（本学の）とおしゃべりをしていてホームルームが少し遅れました。高校の担任が入って来られ大変叱られました。公の場で叱られたのは（個人的に）初めてだったので、びっくりし反省の気持で一杯でした |                             |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 教養豊かに常識をわきまえた人間の教育がまず一番だと思います   |                             |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 卒業して本学は本当に素晴らしい学校だと思いますので、誇りを持って在学中真剣に勉学にはげんで下さい!!  |                             |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | まず感謝の心です。この時期先生のような方が大勢いらっしゃったらもっとよい世の中になってる事をお伝えしたいです  |                             |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒  |
| 氏名   | S. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 余り大変とは思わなかった  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 叔母、姉達が京都女専へ行ったので私も京都女子大へ受験行くつもりでしたが、父が東京へ転勤になり東京の大学を受験する事になり、東京女専がよいと云うので家政大を受験しました |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家庭科の先生位出来たら良いなと漠然と思っていた   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 選ばれてこの学校に入学したのだから、愛情・勤勉・聡明の生活信条を守り悔いのない学生生活送る様にとの事でした                               |

|   |   |  |
|---|---|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                 | ①何年生の頃<br>何月頃   | 30年7月9日。入学した年、一年生  |
|   | ②内容   | 夏休みの前で、夏休みの過ごし方についていろんな話をされたと思いますが、家政学専攻の学生は家庭全体のマネージメントをする事と、初めてマネージメントと云う言葉を聞いて家庭も会社と同様管理、経営をきちんとしていないと発展しないんだと感じました |
|   | ③感銘を受けた点  | 料理を作る事にしても、衣服を作る事にしても住居を掃除をするにしても、今ではそれぞれに独立した職業として成立していますね  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等           | いつも愛情を持って諭す様に穏やかな話し方でした   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                        | ① キャンプファイヤー。フォークダンスをしたり歌ったり楽しい思い出です   |  |
|   | ② クリスマスカードなど  |  |
|   | ③ 学園祭の時など、私は心理学を勉強して興味を持ちました。卒論に、同じ姉妹兄弟にしてもどうして考え方・行動が違うのかと疑問を持ち、先生に相談したら、よい課題だね、調べて見なさいと云われ、二度位お話をさせて頂きましたが、病気になられ、土屋先生が後任としていろいろとアンケートの中学校紹介とかお世話になりました |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか     | 短大でしたので二年間だけですが、栄養士の資格、家庭科の教員の資格、保母の資格など盛り沢山の勉強をしましたが、よい先生、よい友達に恵まれ楽しい学園生活が出来た事は生活信条があったからです  |  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 家庭生活に於いても、お互いに愛情と尊敬の念を持てる人でないと駄目だし、子供にしても、友達にしても、愛情豊かな礼儀正しい人（人間としての基本の事）でないと皆がついて来てくれないと思います。先生の教えも、父母の教えも同じでした。今は子供や友人に囲まれ幸せです                           |  |
| 11. 学生生活の思い出                            | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと   | 箏曲部で早稲田大の尺八部と組んで発表会に出た事。箱根仙台原の寮に行き足柄山にハイキングに行った事。富士屋ホテルでのテーブルマナー。県単位のグループに分かれ遠足に行き上級生と仲良くなった事                          |

|                                |   |                        |
|--------------------------------|---|------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ②つらかったこと<br>悲しかったこと   | 青木学長が亡くなり学園葬が行われた時 etc |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 卒論でお世話になった土屋先生です。又中村先生、村上先生、山下先生など。「家庭は生産の再生産をするところです」と云う事をよく話された先生（注：三木テイ先生）がどの先生だったか思い出せませんが、この言葉はよく思い出していました |                        |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 栄養科、児童科など頑張っている様ですが、他の学科も全体的に上位を目指して欲しいです   |                        |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 男子学生も入学している様ですし、家政と云う言葉は何となくイメージが古いし、新しい大学名を考えたら如何ですか？  |                        |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 「水曜講演」を見せてもらい、こんなに良いお話を下さっていたのかと改めてもう一度よく聞きたかったと後悔しています   |                        |

|  |  |                                     |
|--|--|-------------------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒                           |                                     |
| 氏名   | K. Jさん                                     |                                     |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 上京の度に特急の切符は大変でしたが毎度帰省し往復していました。寮生活も思い出一杯です |                                     |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生のお話で決めました。栄養士は当時新しい女性の仕事として魅力あふれていました |                                     |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京での生活、寮生活、大学のカリキュラム。あふれる新鮮な毎日であった気がします    |                                     |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 学長は写真の通り、おだやかでやさしいお声。父親のようなあこがれのお人でした      |                                     |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                              | 1年生の秋の頃                             |
|  | ②内容  | 忍耐と努力。いつも明るい希望を持って、というような話であった気がします |

|   |   |
|---|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | いつも原稿を持っておだやかにお話でした。学生との対話を大切にしておいででした  |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | <p>① 学生祭の後のキャンプファイアーは楽しい思い出です。学長は長野を愛しご自宅に白樺の木を植えておられました</p> <p>② 母の日のカーネーションのカードは母が大変よろこんでくれました</p> <p>③ 寮監長の三木先生はこわい思い出。ホームカミングデイに寮を訪問しあまりの小さい部屋にびっくりいたしました</p> |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 卒業後「楓会」というクラス会を作りノートをまわしたり集いの機会を持ったり、鹿児島から北海道まであちこち皆がんばっていますが、青春の二年間でしたが、こんなに友情が育っていることは敬愛の一念です。私は今体調をくずしておりますが、皆に力づけられて何とかがんばって行きたいと思っております                      |
| 11. 学生生活の思い出                            | <p>教育実習、保健所、病院実習と2年の間につめ込まれていました。階段教室も新鮮でした。寮生活の門限もきびしかったし、学生ホールの追分だんごはなつかしい味です。十条商店街も帰りの道の遠かったこと</p> <p>学長とのお別れが一番悲しいことでした。校門に並びお見送りしたこと、昨日の事のように思い出します</p>      |
| 12. 他の先生の思い出                            | 児童心理学で山下先生の、生まれた時から一つの人格を持ち成長していくという講義は残っています。村上先生の料理実習でのベシヤメルソースは新鮮でした   |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 食の大切な時代、家政大学に求められるものは大きいと思います。どうぞ研究に力をいれて下さい  |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 全国から集まった学生さん達に、青春を大切に、二年は短いけれど貴重な日々であることを伝えたいです。発展をお祈りいたします   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 全国に住む学友達と集う楽しみを大切にしています。「愛情・勤勉・聡明」は生き続けていることをお伝えしたいと思います  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒  |
| 氏名   | T. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時谷中に住んで自宅通学でしたが、栄養士の資格と教員免許を取るのに沢山の単位取得の為夏休みも殆どなく通学が大変でした  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 兄嫁が女専の卒業生で素晴らしい人（旧姓M・M）だったので母が推せんしてくれたのと、学長と山下先生の名声にひかれました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 児童心理を勉強して立派な教師となる事を夢見てー   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入学式当日新入生歓迎で、上級生が壇上から投げたりんごが私の目に当たり、古〜い学生課に寝かされていてお話は伺えずとても残念でした   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 誠実に真面目に生きよとのお言葉がその後の私の生き方のバックボーンとなりました  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 一寸鼻にかかったお声で細い目で慈愛に満ちたお話ぶりは今でも鮮明に覚えています。（その他、内容や講義について）良妻賢母になるべく真面目に勉強する様に、と。私語が多い時非常に怒られ講義を中止された事が印象に残っています       |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① キャンプファイヤーとフォークダンス・学生祭でのケーキ作りと販売・コーラス部の箱根合宿<br>② 講義と校外の実習に明け暮れて学長先生とは個人的にお話しする折もない儘お亡くなり本当に残念でなりません（畏れ多いことありまして） |
| 12. 他の先生の思い出                               | 青年心理学は我が身に照らし、又その後の子育て（一女二男）に大変参考になりました   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 情報が溢れている現代、料理裁縫家事等の基礎は高校時代に学ぶべきで、大学はもっと専門的なプロを育てるべきと思います。伝統ある家政大、どうぞ新しい事（介護等）にもチャレンジして輝かしい学園にして下さい                |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 人間一生勉強です。在学中に吸収出来る事を食欲に!! 卒業してどうしても就職して腕だめしをしたく栄養士として二年ばかり給食会社で働きましたが、中途半端な知識と腕で調理師にしごかれ泣く思いをしました                 |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 学長の理想の学園を実現出来ぬ儘逝かれてさぞご無念だったでしょう。私達生徒の質が余り低かったのを申し訳なく思っています  |

別紙：

私は高校迄を東伊豆で八人兄弟の七番としてのんびりと過ごし、決して勉強は嫌いではなかったが熱心でもなく、中・高とコーラスに楽しみを見付け、3月31日生まれのせいから、私は同級生と比べとても幼く休み時間は遊び呆けていました。優秀な兄弟に対しいつしかコンプレックスのかたまり、どうせ私なんかーと進学級にも入らず高卒でこれで試験から解放!!と、お茶・お花・お琴等々お稽古事に朝夕明け暮れてその日暮らしの生活を送っていました。隣家の小学校の事務長（元校長）がそんな私を見兼ねて（?）、当時急増した児童に対し教師が不足した事もあり、同級生二人と市内のマンモス小学校に中途採用となり、二学期から俄か先生となったのです。女学生の儘の三つ編みのまま朝礼で全校生徒に紹介されたのを今も赤面して憶えています。一年目は学年主任について見習い（授業や採点の仕方、その他雑務）、春・夏の休みには三島のN大の分校へ教諭資格取得の為通い、児童・青年心理、教育原理等々の単位をとりました。その時青木・山下両先生を知り大変感銘を受け、私の様な不勉強な者が子供の教育なんて大それた事をしてはいけない、心理学を勉強しようと日に日に強く思う様になりました。でも言い出す勇気が無くその中、二年生と翌年は四年生を受け持たされ益々自信を失ない、進学の見途も立たず悩んでいました。そんな折、職員旅行で男性教諭のイヤな面を見てしまい、聖職と信じていた私には堪え難く辞める決意がつかしました。学校側も家の者も「今更？」と驚きましたが、初めての私の決心にシブシブ許してくれました。丁度その頃、兄嫁が来て母があんな素晴らしい人が出た学校ならば、と家政大受験を許可してくれ、又折よく父が谷中に住む事になり私もお手伝いさんつきで住める幸運に恵まれました。でも受験の自信がなく母も婚期が遅れるとの理由で、当時あった別科（一年制）へとり敢えず入学しました。丸岩先生に可愛がって頂き楽しい一年でしたが、まるで花嫁学校の別科はアツという間に過ぎもの足りなさだけが残り、親を説得して更に短大へ進みました。心理学だけを、と思いましたが、当時は児童科となっていて栄養士と教職と二股が出来たのです。—中略— 短大一年の夏休み、三木先生の命に依り軽井沢で学長助手の広居さんと学部の黒木さんと共に、学長監修で中学校教科書作りの為「双葉社」が各教科の有名な先生方を集めて泊まり込みで一夏来られるので、三人でハウスキーピングの実習のつもりで頑張ってきた様にとの事で、兎に角訳も解らず軽井沢!と言うだけで引き受けました。青木先生は星野辺りに別荘がお有りです。時々お見えになりました。家庭科は本校の先生が。音楽は芸大の先生方が、という具合に後で有名な先生方ばかりに驚きました。八月の終わりにこの仕事も終わり、学長先生の別荘へご挨拶に伺いねぎらいのお言葉を戴き奥様ともお目にかかりました。学者の奥様の鑑のような地味な凛とした御方で後に大塚の御自宅へも伺いましたが、学長先生の理想の女性を見た様な気が致しました。

（追伸：卒業と同時に父と共に河口湖のお寺へ移り、暫くすると学校から電報で呼び出され、舎監と助手をやる様云われましたが、寮生活の経験もないのでお断りしました。これで私の人生も大きく変わったと思います）

|   |  |
|---|--|
| 卒業年   | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒   |
| 氏名  | N. Hさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと  | 宮崎県小林市から東京迄の距離（所要時間）は30数時間。殆ど2日がかりの長旅でした   |
| 3. 本学を選んだ理由   | 高校時代、偶然出会った先輩（本校卒業生）との出会い  |
| 4. 入学のときの希望や夢   | 当時恵まれない食生活の中、地元に戻って栄養指導者になることでした   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 先生のお人柄だったのでしょうか。数百人の中の一人、私共に迄とてもおやさしい親しみ込めた口調で接して下さいました  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか   | 寮での生活です。狭い8畳間に5人同室という生活でした。丁度その頃「女の園」という映画がありまして女子寮は話題になることも多く不安でしたが、家政大の寮はとても家庭的で全然ホームシックにかかることもなく、先輩方にも良くしていただきました。皆仲良しでした |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか   | 今明治生まれの98才の実家の母の面倒をみています。その時々でくじけそうになる私の気持ちを支えてくれているのはやはり愛情だと思います  |
| 11. 学生生活の思い出  | 楽しかったこと：<br>入学時の新入生歓迎会、小旅行、寮での歓迎会等、田舎から上京の私にはホームシックを忘れさせました  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 素晴らしい青春時代を過ごさせていただいた学園での生活、青木学長に唯感謝の言葉です   |
| 別紙：<br>青木学長の作詞の寮歌は私達が2年生の時に出来たものでした。その少し前、先生の体調は余りおよろしくなかったのでしょうか、白菊寮の入口に先生が腰をおろしていらっしてお話しをした記憶があります。その時の青白いお顔がいつ迄も頭を離れませんでした。その寮歌「ゆかしき花の名にちなみ・・・」今は寮も1号館、2号館と呼ばれる様になっているとの事。少し寂しい思い出でした。母校家政大の発展をお祈りします。 |  |



|  |  |                           |
|--|--|---------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養D）卒   |                           |
| 氏名   | Y. Sさん   |                           |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 家族の反対。経済的が大でしたので、お嫁にいかないから道具等のかわりに進学させてほしいと頼みました。現実には結婚しましたが                             |                           |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青年心理学の学長に教えて頂きたい。田舎者ですから、都心よりも板橋の方が安心。家があったから  |                           |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 料理学校の校長になる事。現在杉並でNPOをみんなで立ち上げ、料理教室やイベントで講師をしており、希望がかなったと思っています                           |                           |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入試の面接が学長先生でした。式のときはうれしさのあまり、あまりおぼえていませんが、地方の人は地方へかえって地方の教育に力を注ぐよう・・・というような               |                           |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 29年7月10日                  |
|  | ②内容  | ふるさとの両親に感謝しなくては・・・と思いました  |
|  | ③感銘を受けた点   | はなれて初めて知る両親、兄弟、友達の事を考えました |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | やさしくて、ゆっくりと1人1人にわかるようにやさしく語られました。つややかな声でした   |                           |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 入試の面接のとき「出来ましたか」と聞かれ、「あまり出来ませんでした」とお答えすると、「そういう方が合格していますよ」とおっしゃりうれしくなりました              |                           |
|  | ② 水曜講演で講堂へ行くのが楽しみでした   |                           |
|  | ③ 学長がなくなられたと聞いたときのおどろきとかなしさ。人の死にはじめて接して、生きる事と死ぬ事の意味をはじめて考えました。学園葬の時のさびしさ、かなしみは今でもおぼえています |                           |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 2年間寮生活。上級生と下級生と同じ部屋で楽しかったです。Xマス会等はじめての事ばかりでした  |                           |

|                                 |  |                          |
|---------------------------------|--|--------------------------|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 現在では年賀状だけになりましたが、北海道のDさん、広島のYさん、仙台のKさん等と交信しております。Yさんらは先日国立近代美術館に書道の入選作を見にゆくように入場券を送って頂き、拝見にゆき写真をとって送ってさし上げました。大変な力作で良かったです |                          |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと   | 寮生活                      |
|                                 | ②嬉しかったこと   | 女子6大学バレーボール大会で2位になった事    |
|                                 | ③つらかったこと   | 試験の時の消燈で、前の水道局の外燈で勉強しました |
|                                 | ④悲しかったこと   | 青木学長の突然の死                |
| 12. 他の先生の思い出                    | 三木先生のはじめての授業で、「私の幸福論」というレポートを書いて、良い点を頂いた事。中華料理の渡辺先生(?)の鯉の料理  |                          |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 数年前ホームカミングデイに行ったとき、伸び伸びと学園祭をしていました。時代にやはりそった学生であってほしいと思います   |                          |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 愛、夢、希望をもって生きてほしいと思います  |                          |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 卒業して地元にかえり、小、中の先生とみじかい時間でしたが、先生のおっしゃる通りにしました。管理栄養士の国家試験を第4回目にとり、その後は栄養士として30年勤め1男1女を育て、現在はNPO法人の副理事をしています                  |                          |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（児童栄養）卒   |
| 氏名   | （無記名）   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 当時は進学する人も少なく、しかも私は七人兄弟という中で短大に行き、感謝の気持ちで在学していました。むしろたいへんなのは両親の金銭的な事だったと思います                   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | たまたま家政大の資料があったので・・・   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 卒業したら栄養士か教員になりたいと思い、卒業後は教員採用試験に合格したので35年間教職につけた事はよかったです                                       |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 内容は覚えていませんが、本当にあたたかく、やさしい人柄であった事は今でも覚えています  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 落ち着いてゆっくり、人をひきつけるような話し方をしたと思います   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 確か母の日だと思いますが、先生自ら描いた絵ハガキを全員がいただき、大変感動した事が思い出されます<br>② 校庭でキャンプファイヤーを全校？全寮？でやった事、楽しい思い出の一つです  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 寮（2年間寮生活）も学校もとても家庭的だったと思います   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私は教職を35年間経験致しましたが、児童、生徒には常に愛情を持って接していこうと努力はして来つもりです   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ・寮にいたので友達が沢山出来たこと。最近でも寮の人と会って、又今年も会いたいと計画しています<br>・歌唱クラブでコンクールに参加した事、楽しかったです                  |
| 12. 他の先生の思い出                               | 小児科の先生で（名前は忘れましたが）授業内容がとてもよかった事。子供を産んでわからない事があって手紙を出したら2～3枚も返事が来て大いに嬉しかった事、役に立った事で、今でも感謝しています |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 先生の教えを心にきざみながらこの年になるまで元気でこられたこと→「ありがとうございました」といいたい  |

|   |  |
|---|--|
| 卒業年   | 昭和32年：短大（児童栄養）卒  |
| 氏名  | （無記名）  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと  | 合格通知を親戚からTe1で伝えられて上京する際、さぞや経済面で大変だった折、5万円の入学金は大変と思いました     |
| 3. 本学を選んだ理由   | 高校の担任の先生が親に推薦して下さったと・・・将来有資格は必ず役に立つという親のすすめもありました          |
| 4. 入学のときの希望や夢   | 地方から上京した時、生まれたふるさとが東京でしたので、東京にでてこれたこと大変嬉しいことと思ひ寮生活はあこがれでした |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演   | 具体的な授業の内容は覚えてませんが、椅子に腰かけられて静かにお話なさるあの印象はいつまでも脳裏にやきついてます    |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 上記にも書きましたが、多分、亡くなられる前半でしたのでお体もきつく椅子に座っておられたのだと・・・          |
| <p>別紙：</p> <p>母校に帰る五十周年記念を先年参加させて頂きまして、本当にたのしく学生気分ひたりにまして、友も九州、北海道からも参加されて五十年ぶりの再会は本当に有意義でした。おかげ様で今だにその余韻が脳裏にやきついております。こうしてペンを走らせる気になったのは、関根先生が哲学の専任教員をされていると自己紹介された事が私の個人的にとっても胸うつことでして、実は私の父がある大学で哲学・倫理・社会学等を教えていたのです。が今はこの世におりません。家政大を推薦して下さった担任の先生と父がある時街の一角で偶然お逢いしたのだそうです。父は、これからは女性も自立する意味でも将来役立つ為にも、資格をとることだといってまして、先生にそのことを申したと後から先生に聞きました。二年間の寮生活も世間知らずの私にとっては、その後の人生においても未永く今でもルームメートとして交流がありまして、又クラス会も二年に一度は続けております。短大生活の二年間は、田舎では考えられないほどのカルチャーショックと申しましょか、そして何よりも目黒で産声をあげた私は都会の水が性に合っていたのでしょうか。それはたのしい二年間でした。</p> <p>父は可愛い子には旅を・・・と思っていたと今思います。父のことについて触れること紙面を使うことお許しください。青木誠四郎が学長ということも父にとっては魅力だったと今思います。正直申して、青木先生の経歴を今回拝読して、父との共通点を興味深く思いましたのも、実は父は文部省にいた人、大学も同じ東大でして、入官した当時、修身の教科書作成をしていたと聞いてます。戦争のはげしくなる直前に、地方から大学に転職して参りまして、名誉教授として教員生活をしました。今考えますとこういうご縁もあったのか？と鈍の私はそのつながりを思います。実は結婚して丸五十年になりますが、右左もわからぬままに、いつの間にか三人の子の母となり、孫も五人となりまして、過去ふり返った時に父が申した教養ということの重要さがわかる気がいたします。人間形成の上にやはり学生時代があって今があると思うからです。</p> |  |

青木先生が壇上で大きな椅子に腰かけられながら静かな中にも力強い講義だった？との印象が残ってます。一年間は、死去されたという訃報は学生にとっての最大のショックでした。忘れもしない雑司ヶ谷の墓地に、長蛇の列で、学生全員？がお参りした時の光景は、脳裏にやきついてまして、かつてこれほど慕われた恩師が日本の大学におられるのでしょかと、深く深く思いはつります。そして今回の関根先生のこのアンケートを作成されたことと思いますと、さぞや学長さんも草葉のかけで崪んでおられると存じます。おかげさまで卒業後、国立病院で栄養士として、未熟ながら子が生まれるまで勤めました。主人の両親、自分の親そして母方の両親、自分の親、そして母方の伯母・・・の介護生活がつづき、今は八十一才になった主人と二人、ほとんどボランティアの毎日です。独居老人宅数軒に配食、主人共々寺で写経会に参加。老人ホームに為にさせて頂ける喜びの原点はやはり博愛精神を教えて頂いた恩師からの宝と。－中略－

つれそって五十年の歳月は山あり谷ありでした。親の介護で田舎と都会の別居生活は、思春期の子供を犠牲にする未熟な親でもありましたが、介護保険の今の時代を思う時に、心の通う介護は、今や危機的と、むしろ心と心の触れ合いのうすれる親子関係がとても悲しくもあります。青木先生の青年心理学の教科書が手許にないのが残念ですが、今孫の為に一から勉強したいと思うこの頃です。－後略－

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 卒業年                             | 昭和32年：短大（被服A）卒  |
| 氏名                              | H. Kさん  |
| 3. 本学を選んだ理由                     | 女性にとって家政科で学ぶことは必須だという考え方  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 今でも時々思いだすことが一つあります。それは、学園の中は今と異なり、教室と教室が離れていてコンクリートの小路でつながっており、普通はまじめにその路を通って歩くところ忙しく急いでいる時は、近路してそのコンクリートの上を歩かずに斜めにつつきってあるくということが生徒の間にはよくありました。そのことを先生は、近道をしてはいけない、というような表現で指摘されました。<br>何故か日常生活に於いて道を歩いている時等よく思い出すことがあります。今思うには、近道をしてはいけない、ということ。この言葉には深い意味がある、と考えられます。勿論、単純に時間短縮の為に近道をえらんで目的地に着く、というこの「近道」とは意味合いが違うのであり、その点が重要なのだと思えるのです |
| 11. 学生生活の思い出                    | お裁目に追われる毎日で、教養科目の方はどうしてもおろそかにならざるを得ないというような学生生活でして、残念だったと思います   |

|  |  |                       |
|--|--|-----------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服A）卒                                     |                       |
| 氏名   | M. Cさん   |                       |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 被服科（短）でしたので、荷物が多く又宿題が多く大変でした。古い校舎でしたので（倉庫）すべて大変でした |                       |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 埼玉県より近い事。祖母の母校（渡辺学園）                               |                       |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 良質の家庭管理  |                       |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 他を愛する生活？   |                       |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃                                      | 1年の頃                  |
|  | ②内容  | 知的な強さ。家庭生活の中での知的生活の向上 |
|  | ③感銘を受けた点   | ゆったりした姿、ゆったりした話し方     |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | あたたかな口調。聞く人は聞きなさいの感があったような気がします                    |                       |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 誠実であること  |                       |
|  | ② 生活を愛する   |                       |
|  | ③ 鍛錬   |                       |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 各クラス（被2A）全体が家庭的であった事                               |                       |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 隣人を愛すること   |                       |
| 11. 学生生活の思い出                               | 楽しかったこと：<br>全体の学生のコミュニケーション。上級生と下級生、各クラスの横のつながり    |                       |
| 12. 他の先生の思い出                               | 松井先生（和裁教授）   |                       |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 家政学のオーソリティを育成すること                                  |                       |

|                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 家族的であること        |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 愛とは何かをお教えいただきたい |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | N. Kさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 食糧難の時代でしたので、叔母の家に下宿。当時は今の様にお米が送れず、学校の休みが終わって上京する時、母と持てるだけのお米を（60kg位）持って行きましたが、勿論見つかりますと捕われてしまいますので、役場から証明書を頂き、母の懐にはいつも証明書を忍ばせていました   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生に勧められ、自分自身も家政の勉強がしたかったので  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教師を目指していました  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 愛情・聡明・勤勉の校訓と、皆が幸せになるためには女性の力が大きいと、例をあげておっしゃっていた事を覚えています  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 先生の優しいお顔は浮かんでまいりますが、何分、年を重ねてしまいましたので、思い出せず申し訳ありません   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | <p>① 母の日、クリスマスには手書のカードを全校生徒に頂き、家に送ったのを覚えております。先生の優しさに頭が下がりました</p> <p>② 夏休みに帰省する前は、愛情の火、勤勉の火、聡明の火と三つの火を灯しキャンプファイヤーし御馳走して下さり楽しい思い出です</p> <p>③ クラス会の度に話題に出るのは、物のない時代に東京の学校に出してくれた両親の苦労話や感謝を、誰彼となく言います</p> |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服A）卒   |  |
| 氏名   | K. Aさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活13名で一室と言うことに驚きでした   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 音大に入る予定でピアノの練習明け暮れの私が父の事故で（12月）病院看護しながら3年生の冬はピアノなど出来る筈もなく                              |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 姉が青木誠四郎先生の大学が良いとすすめてくれて、とりあえず受験したのでした  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 姉のあこがれの先生はおだやかな気品あふれる方だったので、良かったと思いました   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ① 何年生の頃<br>何月頃   | すべて良かったのですが、心理学はもっと深く勉強したかったと思います                          |
|  | ② 内容   | 知的な強さは社会に出て重要な事です  |
|  | ③ 感銘を受けた点  | 中・高のS学園は「愛徳・勤勉・従順」だったので家政大の信条を本当に素直に受け入れられ、学長のお言葉一つ一つ感動でした |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | ハイバリトン？（テノールに近い）お声でした。いつもおだやかに聞きやすい温かいお話でした  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① クリスマスにはサンタクロースになってとてもすてきなサンタさんは忘れられない思い出です   |  |
|  | ② 合唱部で三輪先生とおっしゃったのでしょうか、ときどき学長がおいでになり張切って歌いました   |  |
|  | ③ 学長がまさか在学中に天国へ召されるなんて考えられないショックで、葬儀の時合唱部は歌いましたが、泣けて泣けて歌えませんでした（現在、私は歌の講師をしております）      |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 先生に対しては尊敬の念を、上級生先輩達にも礼儀を忘れず、学則をやぶらず勉強出来たことは苦しいことも楽しい思い出です                              |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | S学園中学、高校そして家政大学と、共通の「愛情」は人生に於いて一番役に立ち、何に対してもどんな人にもやさしさと思いやりを持って生きて来ましたし、友人も皆さんいい方で幸せです |  |



|                                |  |                                       |
|--------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | ①楽しかったこと   | キャンプファイヤー、学生祭、音楽部、寮生活のお部屋会等、楽しい思い出です  |
|                                | ②つらかったこと   | 洋裁、和裁のお直し。時間が足りなくて、消燈後、廊下で宿題。つらい思い出です |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 松井先生。女性の鑑のような貴品ある美人で、私もそうゆう大人になりたいとあこがれておりました  |                                       |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | せっかくすばらしい大学なのに、世の中にまだまだ知らない人が多いことは残念です。もっと宣伝をして下さることを希望します。私達も頑張らなければならないことです            |                                       |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | プライドを持って活動してほしいです  |                                       |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 本当にもう一度、お目にかかりたい。そして沢山講演を受けたい。(近年中に三木ホールをお借りしてコンサートをして、青木学長に聞いていただき、その収入を母校にお返ししたいのが夢です) |                                       |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服A）卒  |   |
| 氏名   | F. Sさん (カード一枚寄贈)  |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 田舎から上京したので、何もかも驚きで雰囲気にも馴れる事。寮生活の規律になれる事。短大の実習（洋裁、和裁、手芸）がたいへんでした |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 当時教授だった跡見一子先生と知合だった叔父から、大学の評判を聞き選びました                           |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家政全般を身につけたいと思いました。家庭科の教師になることも思っていました                           |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 壇上の学長先生のお姿きり覚えておりません  |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 1年生（31年）  |
|  | ②内容   | 忘れておりましたが、表を見て10月24日の講演だったのではないかと思います。内容は覚えておりません |

|  |  |
|--|--|
| <p>7. 水曜講演の青木先生<br/>の声音、口調、表情、態<br/>度等</p> | <p>テーブルの上に両腕をのせ、指を動かしながら、ゆったりと静かな口調で、説得する様な話し方でした。声は低かったですが、やわらかな声だった？と思います</p>  |
| <p>8. その他の行事に関する<br/>思い出</p>               | <p>① 昼休みに何人かずつ学長室に呼ばれ懇談があり、学長先生とお話をしました。出身地を問われ、私の田舎を知っていらっしゃって駅を通る鉄道の路線を云って下さって、やさしく田舎娘をいたわって下さって感激したことは一生忘れません</p> <p>② 母の日があることさえ知らなかったのですが、大学からカードを頂き、早速母に送りました。もちろん母も知らなかったので大変喜び生涯大切に米寿で亡くなるまで持っておりました。遺品の一つです。今回関根先生のお便りで、カードを出して見ましたら印が「誠」に見え、学長先生が書かれたものと思います。頂いた時はきっと学長先生からと説明があったのでしょうか…。私の字がなかったら母も残さなかったと思います。同封いたします。お返し下さらなくて結構です</p> <p>③ 学長先生が亡くなられた時、校門の前に全校生が並びお見送りしたことを覚えておりました。大学3、4年生が泣いておりました。記憶力が乏しいので、覚えている事少なくすみません。アンケート用紙を頂き、学長先生を思い出すことが出来ました事、お礼申し上げます</p> |



「母の日のカーネーションカード」

～ 昭和32年短大卒  
(被服A) F. S様提供

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服B）卒  |  |
| 氏名   | T. Eさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親が経済的な面での負担が大きかった。昔の女、そのままの心だったので「真面目に生活せよ」の親の言葉が重荷だったし、生活の中での行動をはばまれた  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 青木誠四郎先生へのあこがれ。高校の先生のすすめ。以前信大の教師の方が青木先生の事を話して下さった事があったので   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 家のあとを取らずに、逃げ出したいそのチャンスが欲しかった（二人姉妹の為）。自由な雰囲気の中で教員をめざして勉強したかった  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 一年生の時、若葉がそよぎ校舎の窓の外が素晴らしかった   |
|  | ②内容   | 知性的な美しさ、精神的な向上のお話をされ、自分はそうならなければいけないと心にちかった時が忘れられません   |
|  | ③感銘を受けた点  | 先生と同県である事がほこりでした。学長先生のお話は説得力がありました   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | お顔に笑があり、やさしい目をしておいででした  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか        | 級単位の生活で他の級との交流はほとんど無く、寮生活と行動範囲はせまく、短大は短か過ぎました。三木先生が厳しく恐かったと覚えています。（乙女心の偏見が多かったと思います）  |  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか    | 私自身の生き方が青木学長のお考えに真面目に添うことを目標としてましたので、50才過ぎ迄はその生き方に苦しさもあり、葛藤もあり、でも悔いの無い生き方でした。親が死に、見えないものの呪縛から解放されてから、時代の流れにも目覚め、のびのびと今、生きています |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかった<br>こと<br>嬉しかった<br>こと   | 仙石原の寮への遠足（一昨年、級会で再訪できました）。寮生活の仲間との交流。その時の友人が今もほとんどおつきあいしています。今考えて、少女から青春時代へ移行する時で、すべて友人あつての青春でした。良い思い出のみです |
|  | ②悲しかった<br>こと  | 長野の田舎から出て来た娘なので、人前で自分を表現する事など、ほとんど出来ませんでした   |

|   |   |
|---|---|
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 人生の中のほんの一瞬のような貴重な学生時代を軽率な行為に流される事なく、自分を大切に出来る芯のしっかりした人間教育をお願いしたいと思います。青木学長の意志をそのままについてほしい。自由をはき違える事なく |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 古い言葉でしょうが、節度をわきまえる、道徳的なことを考える。今、うすれ行くこの言葉の意味を知る若者になってほしい。この時代の先駆者になってほしくない                            |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 本当に有難うございました、と御礼を申し上げたいです   |
| 別紙：<br>この度は有難うございました。50年も昔の事で忘れた事が多く残念です。私、戸隠で坊から旅館に移る歴史の中で旅館業を昔から営んでいる家をついで（嫌で嫌で何とか運命から逃れる方法をみつけたくて家政大に行きましたが）30年になります。お時間をさいてお出掛けになって下さいませ。 |   |

|  |   |                               |
|--|---|-------------------------------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服B）卒  |                               |
| 氏名   | K. Tさん  |                               |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生でしたが、材料費がかかるので親はその都度送金が大変だったと感謝しています  |                               |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 母の友人の姪が家政大卒業生で、とても落ち着いた良い大学だと進めてくれました。中学担任だった先生にも家政大進学の話をしたら青木学長のことは知っていて喜んでくれました |                               |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 人間の根本である家庭生活を充実できるように学びたかった   |                               |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入学の喜びで胸いっぱい、すばらしいお話を聞いたのに具体的に覚えていません  |                               |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年？                           |
|  | ②内容   | 子供は真の愛情を注げば必ず良い子に育つ           |
|  | ③感銘を受けた点  | 近い将来母になる？と思う者にとって忘れられない言葉であった |

|   |  |
|---|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | ゆったりとした風情、いつもおだやかな笑顔で、お会いしてい<br>るだけで心が和んできました  |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | ① 寮を訪ねて下さった時は、一人一人とお話をして下さり、<br>本当に満足したのを覚えています<br>② 初めて親元から離れ、ホームシックの頃カーネーションの<br>カードを戴き、母へ泣きながら手紙を書いて一緒に送りました<br>③ 何と云っても学園葬の悲しみは忘れられません。まだまだ<br>私達を見守ってほしかった。今でも長野と云えば学長を思<br>い出します |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 特に寮にいたせいか、家庭的な雰囲気、一緒だった部屋の方<br>とは学年を問わず今もおつきあいを頂いています  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 子育てではいつも先生のお言葉を思い出しながらも無事に<br>育てることができました。卒業後2年程教職についたが、ず<br>っと続けていれば、たくさんの子供を育てられたと思います   |
| 11. 学生生活の思い出                            | 楽しかったこと 嬉しかったこと：<br>キャンプファイヤーや箱根寮の旅行が思い出されます。3年前<br>にもクラス会で箱根寮に泊りました。きれいになっていま<br>したが、当時のおもかげはたっぷり残っていました。07年には<br>50年目のホームカミングデーに招かれ、卒業してもずっと<br>ずっと続いていると実感しました。ありがとうございました          |
| 12. 他の先生の思い出                            | 和裁・洋裁・手芸ではお直しが出ないよう、時間をかけてがん<br>ばりました。和裁：藤本先生、洋裁：荒井先生、手芸：村中先<br>生  |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | その時代、ニーズに合わせて、多方面で活躍されていて嬉しく<br>思っています   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 今は就職難の時代で大変と思いますが、二度とない学生時代を<br>満喫して下さい  |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 学長の愛に接することができまして、ありがとうございました   |
| 別紙：<br>この度はお便りを頂き、久々に学生時代の気分になりました。     |  |

|  |   |          |
|--|---|----------|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服C）卒  |          |
| 氏名   | K. Sさん  |          |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 田舎からの上京で環境の大きな違いとか、両親とはなれての生活等だったでしょうか  |          |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 子女教育に長い伝統があること。当地での評価など   |          |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 都会への憧れ半分、女としての知識を多少なりとも身につけること  |          |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 入学出来たという喜びでいっぱい、あまり記憶しておらず、ただとても暖かいお人柄を感じた記憶があります   |          |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 二年生、11月頃 |
|  | ②感銘を受けた点  | 人の心について  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 定かな記憶ではありませんが、いつお会いしてもおだやかな表情、講演は語りかけるようなとても理解しやすい、なごやかな雰囲気につつまれていたように記憶しております                      |          |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 私の学んだ頃の学園は木立の中に校舎が点在しているような、教科によっては教室を移動することもありました。そんな雰囲気の中でお会いする学長先生は、笑みを含まれたお顔で親しげに声をかけていただきました |          |
|  | ② 入学してまもなくピクニック（金沢文庫）でお願いして写真をいっしょに。当時を思い出してアルバムをなつかしく見ました  |          |
|  | ③ 卒業して半世紀以上過ぎましたが、先生の面影は今もその当時のままに心にあります。お声が聞こえるようです  |          |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 学園の中のだれかれなく、いつも笑顔でだれとでも話し、語りあえたことだと思います   |          |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い心で人に接する。人との出会いをたいせつに</li> <li>・学ぶ心を失わないように</li> </ul>     |          |
| 11. 学生生活の思い出                               | 青春真只中の学生生活は、ただそれだけですべてだったと思います。楽しくもあり、嬉しくもあり、辛いこともありました   |          |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 悲しかったこと：<br>学長先生のご逝去でした。11月晩秋の学園葬は今思い出しても胸がつまります      |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 講演中にたまたま地震があり、学長自ら避難の指示をされました。東京の地震の多さにびっくりした思いがありました |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 時代は変わっても青木先生の生活信条「愛情・勤勉・聡明」学んでいただきたいと思います             |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 学園に学んだことを感謝し、ご健康とお幸せをお祈りします、とお伝えしたいです                 |
| 別紙：<br>「思い出をあらたにいたしました。」       |   |

|                          |   |                              |
|--------------------------|---|------------------------------|
| 卒業年                      | 昭和32年：短大（被服C）卒  |                              |
| 氏名                       | T. Sさん  |                              |
| 3. 本学を選んだ理由              | 家政学を学んで立派なあたたかい家庭を作り、教員になりたい為を選びました                       |                              |
| 4. 入学のときの希望や夢            | よい友達をつかって一生付き合っていける友達を持ちたい希望が実現出来ました                      |                              |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容         | 人間は、人を尊重しあい知的な強さと誠実のある婦人になって欲しい、その為に教養を身につけてほしい、学問を学んでほしい |                              |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演  | ①何年生の頃<br>何月頃   | 2年生の5月頃                      |
|                          | ②内容   | 礼儀と愛                         |
|                          | ③感銘を受けた点  | 先生の人がら、人となり、誠実さに感銘を受け尊敬出来ました |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等 | 先生は聞きやすい声でていねいに、やさしい表情でお話し下さいました。真けんに聞きたいふん困気でした          |                              |
| 8. その他の行事に関する思い出         | ① 母の日のカーネーションのカードは頂きました                                   |                              |
|                          | ② クリスマスカードは残念ながら頂けませんでした                                  |                              |

|                                 |  |                  |
|---------------------------------|--|------------------|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 寮生活を体験して非常に上・下級生の関係も楽しい思い出としてなつかしく思い出せます |                  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 人に接する時は常に愛情と誠実さを心がけております                 |                  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと                                 | 先生の講義を聞いたこと      |
|                                 | ②つらかったこと                                 | 作品を完成するのが大変だったこと |
|                                 | ③悲しかったこと                                 | 先生が卒業前に亡くなったこと   |
| 12. 他の先生の思い出                    | 本郷先生の授業。時にはユーモアもあって非常に楽しい授業が受けられました      |                  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 知性ある女性になってほしいと思います                       |                  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 恥を知る女性になって欲しいと思います                       |                  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 先生、本当によい教訓を教えてくださいまして有難うございました           |                  |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服C）卒  |
| 氏名   | N. Yさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸から学校まで（寮）八時間以上かかった事</li> <li>・冬、寮に暖房は「火鉢」で手がつめたく、シモヤケで指が腫れ（被服科で）作品を作るのに大変でした</li> </ul> |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生（北山先生）家政大卒（昭和3年卒）の方が私の母と同じ女学校で同級生でしたので進められて入学しました。母曰く「女は家庭に入るので家政科に」と云う事でした  |



|  |   |  |
|--|---|--|
| 4. 入学のときの希望や夢  | 両親より少しでも知識を広め、成長した人間にならなければと考えていました。両親はとてもきびしく、叱られてばかりいました  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容   | 忘れましたが、とても解りやすく話され、納得して「そうだ」「そうか」と聞いていたように思います  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出   | 葵寮におりました時、窓から顔を出してにこにこしてふつうに声をかけて下さって、親類の立派な「おじさま」のように親しくお話して、大変うれしく興奮して何を話したか忘れしました  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか  | 生活、学寮に於いて、先生方とてもきびしく、すべて家庭であれば躰と思っていました（私の家でもきびしいものでした）   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか  | 愛情・勤勉・聡明・努力が私体にしみ込んでいるようで、どんな事があっても（夫、夫の両親、親類の・・・）今1人になりましたが、幸せを感じています。（夫の両親は土農工商を大切にされる方々で、私の家は「商」でした。「土」の家に来ましたので、とても大変でした。精神的苦勞多く体調をくずし、目も弱くなり、小さく書く事が出来なくなりました） |  |
| 11. 学生生活の思い出   | ①楽しかったこと  | 寮生活。上級生の方と外出したり、おしゃべりしたり、又地方の美味しいおやつを知る事   |
|  | ②つらかったこと  | 寮の生活で消灯があつて、毎日お部屋の前の廊下へ机を出して懐中電灯のあかりで作品を作ったりして、和裁、刺繍に繊維1、2本に針を動かすのでとても目が疲れたものでした。いい作品を作ろうと頑張りました |
| 12. 他の先生の思い出   | 育児学の宇留野先生の授業は、とても解りやすくアクセントがとても楽しく、お蔭様で子育ての際は頭に入っていましたのですぐ役に立ちました   |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること  | 日本人としての伝統を大切に!!   |  |
| <p>別紙：</p> <p>みちのく八戸にもやっと春が来たようです。関根先生のアンケートには、驚きましたが、お陰様で自分をふりかえって見る事が出来ました。ありがとうございました。七十四才の私、今までいろいろな事があつて「講演」「授業」は、ほとんど忘れておりましたが、青木学長・三木先生・又寮の先生・そして上級生の方々のお導きにより、私頭が悪いのできっと体で勉強して来たのでしょう。現在、親類・知人・友人に恵まれ感謝の毎日でございます。これも一重に家政大のお陰でございます。</p> |   |  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服C）卒   |  |
| 氏名   | S. Tさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 今思えば楽しかった思い出だけで、大変とは思わなかった   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生のすすめです  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京へ行けると云う事と卒業したら家に帰り指導者になると思ってました  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 昭和30年～31年頃と思います                                |
|  | ②内容  | 心理学と云う授業と思いましたが、人の心と云うもの又（自分）もそうですが、分った様な気がします |
|  | ③感銘を受けた点   | お話がじょうずで心がひきこまれました                             |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | たんとんとお話しをされ、それが私達のふんいきを見乍ら話された様な気がします  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 先にも書きましたが、母の日にさっそく手紙を出しましたら卒業した後母から、あんなにやさしい手紙をもらったのははじめて、先生はどんなお話をされたのかしら、と云ってました。母も今は天国にいます。心やさしい一人の社会人に、とお話されたのだと思います。母は良い大学に入れてよかったね、と云ってました |  |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | ①楽しかったこと   | 寮に入りきびしかったです、お友達がたくさん出来た事                      |
|  | ②悲しかったこと   | 悲しかった事はやはり学長が亡くなられた事です                         |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 母の日の前の授業、先生のお話を聞いてたら自然になみだが出てきました。今の気持を故郷のお母様にお手紙を出して下さいと云われ書きました  |  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | ふるいかもしれませんが、良き家庭をつくる。守ると云うのは一番大切な事と思います  |  |

|                               |                                    |
|-------------------------------|------------------------------------|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 在学中はしっかり学んでほしい。バイトは次と思います          |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 青木先生の講座を聞く時代に家政大に学べて有難うございましたと云いたい |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服C）卒   |   |
| 氏名   | T. Eさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 夜行で13時間1人で上京する事でした   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の先生が卒業生で本当によく出来ててあこがれでした   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 高校の先生の様にあこがれの先生になりたかった   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 被服科と栄養科の学費の違う事でした。そして母が「月に八千円以上は送金しないで下さいと云われました」と云ったのが今でも頭から離れません |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生の五月末頃か六月初め   |
|  | ②内容  | 学校生活に慣れて来ると色彩がはでになって来ると、服装について色々と例を上げてお話しして下さいました   |
|  | ③感銘を受けた点   | 学生は学問を忘れずに。服装は黒か紺のスーツを出来るだけ。それがなれて来ると、色彩ゆたかになって来るのです。アアこれは、と思う事に注意。<br>五月三日は母校に帰る日、11月3日帰って来るのだよ、天気はいつも晴れてるとおっしゃいました。本当に天気がよかったの。そのお言葉が嬉しくて、もったいなくて泣けました。今でも帰りたくなるのです |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 先生は常にやさしさと、きびしさを忘れず、やさしい口調でお話してでした。その中でも注意する時は、きびしく守らねばと常に思いました    |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 8. その他の行事に関する思い出                | 先生はお天気の良い日に散歩に、寮の庭に手を後ろにくみ、お部屋に居ますと、どうしたと声がかかりました。アッ学長先生、今昼食が終わってふとんを入れる所です。午後学校は、とおっしゃって、6畳に5人で机と本箱なので押入れに1人分入らず、天気の日には1人干す事になってますと云うと、ニコニコあの笑顔、すばらしかった。押入れをあけるとまくらかふとん落ちて来ますと申しあげました。そうなのか、と又ニコニコしてゆっくりと帰って行きました。私も今学長先生の年になったのかと今ふと思いました。私は先生に寮でふとん入れる所を3回ぐらいお逢いしています。幸せでした |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 愛情、聡明、勤勉をモットーとして卒業して50年以上頑張ってきた様に思います。社会に出てつらい時も、家庭に入っても色々とありました。そんな時にも青木学長の笑顔とおしみなく働く事を思い出し、愛情聡明勤勉をさけびながら頑張ってきた様に思います   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 就職し初めて人の前に立った時に、愛情身を惜しまずに努力をし頑張る事を常に持って今までに張り切って過ごしてきた様に思います   |
| 11. 学生生活の思い出                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプファイヤーとフォークダンス</li> <li>・教材に追われ勉強の連続でした。苦しかった</li> <li>・寮の食事が外米に麦が入ってコロケ一つにタクアン2コ・</li> <li>・でも寮は楽しかった。先生が秋に球根を植えて春にはチューリップが一杯咲いて待ってて下さった。夏休みが終わると芙蓉の花がピンクで待ってて下さった</li> </ul>  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 愛情、聡明、勤勉。いつも労をおしませず、笑顔で頑張る事。努力、努力をおしませず  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 学校の名前は東京家政大学でよいのですが、幅広く活動できる様に、園芸や造園学部があつてよいと思います  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 努力せずに何も無いと思います。労をおしませず若い時は二度とない、死にものぐるいで頑張る事です。私はやって来ましたが  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 学長先生は、愛情、聡明、勤勉。1にも2にも努力と労をおしませず、ある時は疲れて、のめくるほど頑張つてアツと思う時もありました。でも学長先生と両親にありがとう。家政大学に入れてくれて感謝の気持で一杯です   |

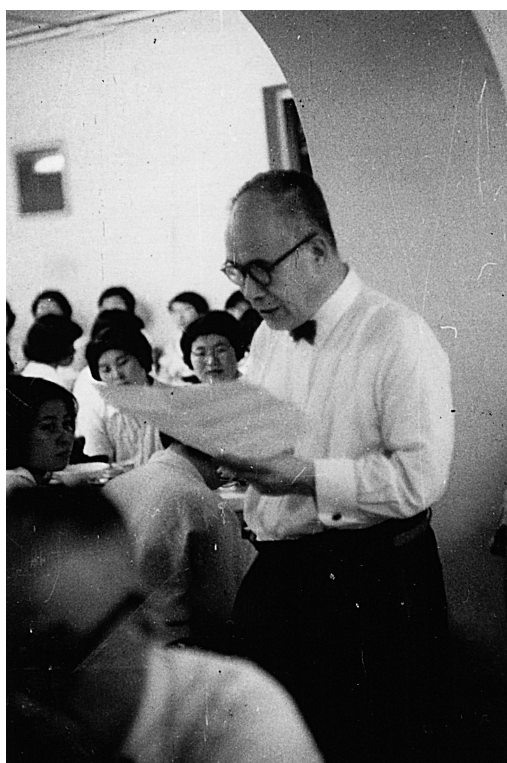
|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服C）卒   |
| 氏名   | T. Yさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 熊本県の田舎から熊本市内まえ3～4時間かかり、熊本から東京まで阿蘇号に乗って24時間かかって上京しました。座席が無い時が一番大変でした（上下とも）  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の家庭科の先生が本校卒業の方でしたので、すすめられました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 田舎と東京の違いに驚きました。教師になり度いと思っていましたので夢を実現できました  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 頭が少し光っていらっしゃって、ちょっと長目（お体の割に）の感じでした。背はあまり高くなく、いつもおだやかな方でした  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | クリスマスの時、サンタクロースにおなりになった時の記憶があります   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 講堂の中でマイクでたくさんの学生の中でいつもお話をなさいました。学長先生御自身がいつも範を示されていたと思います（おやさしい人柄）  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 他人の方からよく相談を受けます。そしてその人のことを精一杯心配している自分があるのを感じます   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 現代のように裕福な時代ではなく、学生全員が質素でした。寮の中食は食パン2枚と一ヵ月に1回マーガリンが配給されました。10人位いる大部屋に火鉢が1個でしたので、そのパンを焼いてたべていました。現金書留が届き、その知らせを見るのが一番うれしかったように思います |
| 12. 他の先生の思い出                               | 担任の先生は本郷先生でした。先生のおやさしい顔が懐かしく思い出されます。なかなか本校におたずねする事もかなわず、1昨年1人で行って見ました。兵舎が教室でしたので探しましたが、見当たりませんでした。あまりの変わりようにびっくり致しました            |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 発展している東京家政大学、短期大学を見ると大変うれしいです  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 世界に向かって翔び立って欲しいです  |

|                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと | 昔お話いただいたことをもう一度ききたいと思います |
|---------------------------|--------------------------|

|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和32年：短大（被服C）卒   |   |
| 氏名   | K. Eさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 兄と二人のアパート生活でしたから余り大変な事はありませんでした  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校担任の先生が本学卒業生（先輩）からのすすめ。青木先生が松本深志高校卒業で父や兄の先輩であり安心感があつた   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 時代が時代でしたから、一般教養と女性的な裁縫・料理が出来、幸せな結婚が出来ればと思い、都会の学生生活も楽しみながらの希望を抱いて   |   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 常に微笑み、温厚で親しみやすい。立派なお姿のみが思い出されます  |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① 卒業前の年に亡くなられ、葬儀の後のお別れの列で、私共学生全員泣いてお別れした事は今も思い出されます  |   |
|  | ② 長野県出身なので、県人会にもお出掛け下さり、御一緒した、変わらぬ温かいお姿の写真もあります。ユーモアもあつた先生でもありました  |   |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①嬉しかったこと   | 入学して初めての帰省の時（中央線が昼一本、準急が新宿発12時30分発。その後は夜行列車の時代です） |
|  | ②つらかったこと   | 被服に入ったものの裁縫は好きでなかったので、お直しが多く大変でした                 |
|  | ③楽しかったこと   | 通学でしたから、学生食堂の前の庭で（天気の良い日）学食のラーメン等を食べた事            |
| 12. 他の先生の思い出                               | 洋裁の尾中先生。三木先生の講義。育児の先生へ、皆でおんぶと抱っこ先生と云ってました。藤本先生の和裁：もの静かなやさしい口調の先生でしたが、おなおしの多い先生で有名でした。今では楽しい思い出です。各々の先生方のお顔は覚えて居ります |   |

別紙：

- ・本郷美枝先生のクラスでしたが、大変まとまりがあり、今年73才ですが、50才の時いそ路会と云う名前で出身県の当番で2年に1回泊りのクラス会をして、ここ数年は2泊を毎年5月ゴールデン明けの次の週に全国で行ってます。九州～青森迄、初めはクラス半分以上の23人位でしたが、参加者の中で5人位他界しましたが、今は12～13人位元気で参加して、楽しい会が続いて居ります。いつ迄も互いに元気で会いたいと願ってます。これもあの時代に地方から東京の学校迄出してもらった親の愛に感謝です。
- ・寮生の友人が二人居りました。私は兄と池袋のアパート生活でした。キッチンがありましたので、食べ盛りの娘にと親が送ってくれたお米や玉子30コ等私の所へ持って来て、寮の部屋の方々に食べさせてあげるからと、玉子を茹でたり、おにぎりを作ったりして、ミシンもあったので、休日は私の所へ良く来ました。今では考えられない様な楽しい思い出です。
- ・今年も5月12日～14日三浦半島、鎌倉、横浜のクラス会がありますからこのアンケートの話題が多く出ると思います。教職に就かれた方も数人居りました。



「食堂での青木先生」

赤レンガの食堂。中央がアーチ型になっていた

～ 上記写真、昭和31年短大卒（被服C）K. M様提供

## 昭和33年 短大卒業

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | Y. Aさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | <p>① 言葉、方言で苦しんだ。きれいな東京言葉が出来なかったこと</p> <p>② 芙蓉寮での6人部屋。楽しい反面、プライバシーがむずかしく、1人1人との会話が出来なかった。まるで現実にタコ部屋の感じでした。雑こ寝、食事、おしゃべり etc が異常な時代でした</p>                        |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 九州の福岡県田舎町の者が東京に出るのは大変な時代。先輩が入学されたことで、その方のお話をきいて来ました。女性はよき母になることだと、明治生まれの父母にきびしく言われ、また女性も手に職をもつことだとか、これからは女性も勉強しなくては、時代遅れになるなどと厳しく言われつつ                         |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | その時代に考えたこと。よき職業婦人になること、よき母親になることなど希望と夢でした  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情、勤勉、聡明な女性たれ！ と、かすかに思い出します  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | やさしい、シャイな、礼儀正しい品位を感じました  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | <p>① ホームシックになり、母が恋しい時カーネーションのカードでなごみました</p> <p>② 学生祭で写真を撮ったこと。きさくに仲間に入って下さいました。現在も眺めては思い出しています</p> <p>③ 箱根の研修でも庭に出っしやって、一緒に写真を撮りました。現在もあります。本当によい思い出となりました</p> |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 昭和31年、九州よりの1人旅。ホームシックに、ひたすら母を恋いました。そんな時、なんのために自分はここにいるのか悩み続けました。でも先生の言葉がひしひしと身に沁みて来ました。多くの人々の愛、それなくしては、今の自分はいなかっただろう。勤勉・聡明は己の力で育てていくものだと思いました                  |



|   |  |  |
|---|--|--|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか   | 私は職業人となり（結果は結婚はしませんでした）小、中と管理栄養士として72歳まで働きました。60歳で退職し65歳まで小学校で勤務し、66歳～72歳まで栄養専門学校に勤務しました。いずれも生徒に直接ふれる栄養士として愛情の大切さをひしひしと感じました。中学校では、5人の生徒が栄養士にあこがれ専門学校や短大に行きました |  |
| 11. 学生生活の思い出  | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと  | 現在もその時代の友人とおつきあいをしています。お互いに年を重ねて、昔々の話に花が咲きます。もうずいぶんと遠い昔のことですが、よき友人に恵まれて過ごしたことでしょいか |
|   | ②悲しかったこと   | 食事のことですが、30年代はまだ火鉢をかこんでパンを焼きました。食事は人造米で外国産のごはんでした。それを食べると下痢をするのです。慣れない食事内容で悲さんでした  |
| 12. 他の先生の思い出  | 担任の小笠原先生。物理の先生でした。卒業して栄養士として勤務している中学校で家政大の実習生をつれてお見えになり、その日が私の給食試食会で、保護者に講演をすることになっていましたが、先生が私でよかったらと、素晴らしい講演をして下さいました。驚きの思い出です                                |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 東京家政大の卒業生として、社会にあっては恥じない品位ある女性であることを期待しています  |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | もし栄養士として勤務されるならば、時代の流れにそって常に前進あるのみです。把握と理解力をもつこと。管理栄養士であること  |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 先生に、生きるということは何を求めていけばよいのでしょうか？と  |  |
| <p>別紙：</p> <p>20歳のあの時代、まだ厳しい戦後の時代でした。その時代をあの多くの人々の助けをかりて生きていたのだと思いました。ひたすら愛を受け、勤勉を尊び、聡明力を身につけるために勉強した日々。50年の月日を振り返って、ひしひしと感じます。あの時の良き友人に恵まれたこと。その友人も今、生きることの道を求めつつメール交換をかわしつつ、命の道を求めています～中略～神も佛もあるものかと悩み続けましたが、しかし彼女は強靱な心で、その人生をのり越えています。その強い力で私も生きることができました。</p> |  |  |

彼女の愛に感謝しつつ、現在奇病と戦っている毎日です～中略～。彼女の愛、生きることへの力を、よき友より得ることができる毎日です。彼女は人生をしっかり達観した女性となっています。共に生きよう、頑張ろうと励ましあいがらの毎日です。時折、あの学生時代に思いをはせます。私は、勤勉でも聡明でもなかった、ただひたすら生きていた。しかしこの年になって初めて、よき友の愛情に、心やさしくなり、生きていくことができたのだと、家政大の芙蓉寮の名のごとく、芙蓉の花咲く季節をあと何回見ることが出来るのか・・・愛情なくして人は生きられないのか？あの青木先生の言葉が身に沁みる昨今です。今、再びお目にかかれるならば、きいてみたい、お話をしてみたい。

- ① 生きる力とはなんですか？
- ② 現代の時代をどのように思われますか？
- ③ 勤勉とは、己をみがくことですか？ 勤勉を重ねればおのずと道は開けるのですか？
- ④ 聡明とは、どのようにして己と向き合うことですか？
- ⑤ 愛情は人に与えてこそ、己に返ってくるものですか？
- ⑥ 神佛とはなんですか？

よしなしごとをつれづれなるがままにしたためました。お許し下さい。  
遠い遠いその昔、なつかしきさでいっぱいです。

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養A）卒   |
| 氏名   | H. Cさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 経済的なことです   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 私は、数え年3才の時、種痘の予防接種後、夜40℃の高熱を出しました。医者は予防注射の為だから心配しないで冷やして下さい、とのこと。数日し熱も下がりました。おむつを替えようとすると、喜んで、足をバタバタするのに、右足を動かさないことに、母は、又医者に見せましたら、“小児マヒ”に冒されたと、事もなげに言われたとのこと。同じ時、同じ様に、もう一人の男の子も、小児マヒにかかってしまいました。私よりとてもひどく、顔もゆがみ、片方の手も足もマヒされ大変な体をひきずりながら、農業をして暮らされたとのこと。風の便りではすでに亡くなられたと聞いております。戦後の豊かな生活ではない状況の中で、昔は、まだ女の子に教育をとすることはあまり考えられていない状況にありました。 |

## 3. 本学を選んだ理由

でも、私の両親は、私には手に職を持たせ自立して、一人でも生きて行ける道を授けてやらねばと言う強い願いがあったようでした。高校の担任の先生と相談、いろいろご指導を頂きました。そして、当時、私の高校の教頭先生が東京家政大には心理学者として名高い青木誠四郎学長さんがいらっしゃる良い学校である事を、私の担任に教えて下さり、女子は家政の道に進むことは、生活にも役立ち良いのではと、担任と両親とで相談し合い選んで下さいました。自立心のない私に、担任の熱心なご指導によるものでした。私は田舎者で何もわかりませんでした。が、小学校、中学校、高校、そして短大と、めぐりおあいする先生方々に恵まれ、その時々支えられてお助け、ご教授をいただけた幸せ者です。その陰には、命がけで私を育ててくれた両親の深い、深い愛情に、感謝の心は常に消えることはありません。

家政大の短大に合格しましたことを担任にご報告しました時、教頭先生にもご報告しようと思われ、ご報告に行きました。今まで、生きることに夢中で、そして今は忘却の彼方へと老いの道にまっしぐら。青木先生のお話もしっかりと、どうしてだったのだろうか、と思い出しますが、高校の教頭先生が、折があったら青木先生にお話し掛けをされたらと言われましたが、勇気もありませんでした。どうして、そのことを知ったのかも思い出しますが、青木先生が病に伏されておられることを知り、おそれながら、本郷のご自宅にお訪ねしたことを覚えております。

床に伏されておりましたのに、お起きになり、その寝床の傍らで、一緒にスイカをいただきました。腎臓が悪いかで、顔がむくまれていらしたのでしょうか、大きな顔でした。青木先生は前の歯の1本が金歯があり、細くきれいな並んだ歯をみせられ、おだやかな笑顔でずっとお話し下さいました。左右のどちらかに笑窪がおりだっただように思います。

とても、とてもやさしい笑顔で迎え入れて下さいました。大変な緊張と短い時間でしたが、不覚であり、どんなに考えてもお言葉は思い出せません。大変、慈しみのお言葉であったように思います。帰り道、何故か、涙ぐんだように思い出します。真の慈しみに出あえたからでしょうか。

中学校卒業時、数学の先生が「悲しみを持つ者は幸せである」とサインして下さいました。私は、なぜ？ どうしてそんな？ 幸せであるはずはない、と反発にも似た思いで過ごし、忘れられない言葉でした……。日々の流れの中で、青木先生に直に接し、それはそれはおだやかな慈しみのお心に、私の頑な心、中学の先生の残して下さいました言葉に感謝の思いが持てるようになりました。青木先生は愛の心を教えて下さったのでしょ

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 3. 本学を選んだ理由                     | <p>書物より得た知識だけでは冷たく薄く弱い、宿命の我が身を通した体験も加味された中から得たことは深く、人の心を理解し、人生の道もよく見つめ、分相応な生き方と感謝の心、人を思いやれる素直な心になれたことだと思っております。師の言葉の意味はこうゆうことだったと気づかされました。</p> <p>両親はもちろんのことですが、多くの方々との出会いから慈しみの心を頂きました。</p> <p>老いて今は有料老人ホームの小さい2LDKのお部屋で、里の職員の皆さまにお助けを頂きながら、まだ自立して暮らしております。老いの速度と我慢比べ、忘却の彼方の毎日。関根先生からお手紙を頂き、半世紀以上過ぎた日々を思い起こし、今更に、青木学長先生から受けたご恩と幸せに感謝の念で一杯でございます</p>  |
| 4. 入学のときの希望や夢                   | 単位取得し、資格を取ること   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 高校の担任、教頭先生のお導きで選り入学出来ましたが、別紙に書きました様に生涯に亘る師であったと、70才を過ぎた今、思い起こしております   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 慈しむ心。おもいやりの心、と明るい笑顔で、人と接することをいつも心掛けて生きてきました。心は暗いのに、どうしてもそんなに明るくしていただけるのと言われていました  |
| 11. 学生生活の思い出                    | <p>① 楽しかったこと<br/>卒論は「ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸組成」というものでした。担任の小笠原八十吉先生にご指導頂きましたが、放課後、先生の実験室に通い、実験に没頭した時間でした</p> <p>② 嬉しかったこと<br/>休みになると、石炭を燃やしてポツ、ポツと汽笛を鳴らして走る蒸気機関車に4～5時間かかり、故郷の両親の元に帰れることでした</p> <p>③ つらかったこと<br/>家政大の学生はみんなお嬢さまの人が多かったように思います。先生方は、いつも大切なお嬢さまを、おあずかりしていますから、と気遣って下さいました。でも田舎者で障害を持つ身、内向的でした。当時、高校の普通科のクラスなのに大学に進む人は私1人。村でも私を含め5～6人でした。妹、弟も多く、次々に進学を控え、両親は経済的にも大変でした。少しでも親の助けになればと奨学金（月額2000円でした。勤めての初任給は昭和33年9月、6600円。短大で両親からの仕送りは月8000円。お金をとることの大変さをしみじみ感じりました）の援助を受けました。学力が落ちると注意を受けたり、とりけされてしまうと聞かされてました</p> |

|                      |  |
|----------------------|--|
| <p>1 1. 学生生活の思い出</p> | <p>陸軍跡の穴をくぐった所に山吹?の寮があり、10人か12人が一部屋。畳一帖が1人のスペース。午後9時が消灯。消灯になると懐中電気の灯りで勉強したこと。廊下の電灯の明かりの下で、編み物の作品を仕上げたり、寮の上に水道局があり、その芝生の上で1人勉強したこと。今は楽しい思い出かも知れません。</p> <p>教職と栄養士の資格を得る為に、短大ですので夏休みも授業がありました。授業の合間には、教育実習、学校給食、病院の実習、養護施設での実習。とにかく忙しい、忙しい日々を夢中で過ごしました。あつという間の2年間でした。短大から学部編入予定で、受験の準備をしておりましたが、12月、実家が盗難にあい、学費の都合が付かなくなり、断念し、急遽就職活動を始めましたが、遅く、あち・こち訪ね、捜し歩きましたが、だめでした。山手線の電車の窓ガラスに顔をあて、途方に暮れ涙したことでした。卒業式はどん底状態。夢も希望もありませんでした。今の若者達の就職難の気持、よく理解出来ます。その当時のことが思い出されてなりません</p> <hr/> <p>④ 悲しかったこと</p> <p>養護施設実習の時、担当した男の子(1~2才?)、名前は今は忘れましたが、どうしたことか亡くなってしまったことです。そのことを聞かされたとき、もうだっこもしてやれない、あんなにだっこしてやったら、喜んで、なついてくれてたのに、と言いやうのない、悲しみに暮れ、男の子の運命(さだめ)に涙を沢山流したことです</p> |
| <p>1 2. 他の先生の思い出</p> | <p>①担任は化学の小笠原八十吉先生でしたが、先生は「〇〇は頭は悪いけど、努力する人」と言われた言葉です。卒業し、やがて就職し、36年間もの長きにわたり、小笠原先生は研究された中から、私の仕事に生かせる知識や資料、現物(アミノから作った食べ物)ご趣味で研究なさっていた歴史の小冊子やコピーなど、ずっと送って下さりお教えを受けました。やがて、カリフォルニア大学の教授として渡米なさいましたが、外国からでも、それを続けて下さいました。卒業して2回程、お訪ねしましたが、東北なまりの言葉で、ニコ、ニコ笑顔で迎え入れて下さり、サァ、食べなさい、食べなさいと、ご馳走して下さったあの笑顔と言葉なまりが忘れられません。私が生きてゆく中でずーっとお助け下さり、お見守り頂いていたことです。私は頭が悪いから、人一倍、努力、努力と心に言いきかせ歩いてこれました。いつの日にか、連絡もとれなくなり、友達に聞いても、わかりませんでした。素晴らしい師に出会えたこと、今も感謝の念で一杯です</p>   |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 2. 他の先生の思い出                  | <p>②栄養学科の金野先生で、先生も東北なまりがあり、とても楽しい授業でした。</p> <p>先生は「子供を野球選手にするなら、借金・質においてもしっかり食べさせなさい。やがて何億ものお金が返って来る」と笑わせました。食の大切さをわかりやすく話して下さった一例です。田舎の市教育委員会に就職し、市内各学校の給食指導の仕事でした。父兄対象の講演会の講師に何回かお願いしましたが、心よくお引き受け下さり、実のある豊かなお話しは、いつも大好評でした。お話しの中に私のことも上手にお話して下さり、父兄の方々から、私までも信用して下さり、家政大出身であることに、自信と誇りを持って仕事が出来ました</p> <p>③斉藤禮子先生は副担任でした。卒業しましてもずっとお世話になりました。</p> <p>金野先生の講演の便宜をおはかり頂いたり、父兄から娘さんを家政大に進学させたいとのこと、いろいろ、ご紹介などお世話をお掛けいたしました。いつも笑みを浮かべ対応下さるやさしい先生でした</p> <p>卒業しましても、勤めている間、つまり現役で働いている間は、ずっと、ずっと家政大と継がりを持て、師にお導き、お助け頂いたこと、それが出来た大切な学校でした。家政大は私の誇りであり、先生方々は、私の生きてく、道しるべでもありました</p> |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 青木学長先生の思いがずっとひき継がれていってほしいことです   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 家政大・短大の卒業生であったことに、卒業して50年以上たった今も誇りに思っています。その誇りをけがさぬように一生懸命、生きてきました。人の心の奥にひそむ心にも、思いやりの心が向けられるような人になってネ   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | ただ、ただ感謝の心です   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養A）卒  |  |
| 氏名   | M. Eさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 自宅通学でしたのでたいへんな事はあえてなかったです   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 近くに本学の図書館の司書の方がいらっして、いろいろお話を聞きましたのが縁です  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時は短大に行く人もそんなには多くなく、高校の続き位にしか思っておらず、希望、夢もあらためて云うことはありません  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 青年心理学の先生ときいてました。残念なことに思い出せません   |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | 短大一年春  |
|  | ②内容   | ほとんど内容はおぼえておりません。ただ声がよくとおり表情が豊かでした   |
|  | ③感銘を受けた点  | 内容が記憶になく、とてもとても残念でなりません。33年卒でしたので、関根先生の書かれたものを読みあらためて、そうだったのかと、50年経った今、もっと大事に勉強すればよかったと後悔するばかりです |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 演台の中央にはすわらず端の方にすわり、とても聞き易かったです。（えらそうでは決してなく、おだやかで、遅刻者が何人か入って来ると、あまり感じのよいものではない等と云っておられました）              |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 母の日の小さなカーネーション思い出しました。短かった時間でしたので、当時にかえれたならどんなにかよかったと残念です。関根先生の書かれたことを読み、あっそうだったのか、と良くわかり、ありがたく思ったところです |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 四年生(大学)の方々だったようですが、芝生にまるくなってすわり、良く話し合いをしていた姿を思い出します   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 卒業アルバムを広げてみました。50年たち“愛情”の大事さを身をもって感じたこの頃です。なんだか“ざわざわと過ごして来てしまった今、これで良かったか”胸に手をあてる始末です                   |  |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 自宅通学でしたので寮生の方の話をきくのが興味深かったです。まだ貧しさを知っている頃なので（がまんができる）つらい、悲しいはあまり心に残っていません |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 二年の間に児童科と栄養科と一緒に学ぶという事は浅く広くで、やはり時間的に無理で、良いとは当時から思ってませんでした                 |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 高校ではありませんので、せまい事を深く深く学ぶのが大学です。（短大では無理なのかと思う事があります）                        |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 前述のように、せまい範囲を深く学ぶ   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | すばらしい環境の中でたくさんの情報のあるこの時代の基礎をつくっていただいた事に感謝です                               |

|  |                               |
|--|-------------------------------|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養A）卒              |
| 氏名   | H. Eさん                        |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 東京へ出る事                        |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の時の先生が卒業していた事。寮があった事で出られました |



|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養B）卒                                 |   |
| 氏名   | K. Rさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | たいへんだった事はあまり思い出せません。楽しい思い出が浮かんでいきます。若さがあったのでしょうか |   |
| 3. 本学を選んだ理由  | 自分で仕事を持って働きたいと・・・それには資格を取って、続けていきたいと本学を選びました     |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容   | やさしいお声で語りかけて下さるようなお話でしたが・・・内容は覚えていません            |   |
| 1 1. 学生生活の思い出  | ①楽しかったこと   | よき先生、よき友人との多感な一時期に色々と、学問に限らず、常識的な事など教えていただいた事です |
|  | ②嬉しかったこと   | 休講になって映画を見にいける時はとてもうれしかったです                     |
|  | ③つらかったこと   | 勉強はつらかったです(あまり好きではないですから)                       |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 自信を持ってのびのび勉強してください                               |   |
| <p>別紙：</p> <p>昭和33年3月卒業出来ました。そんなにとおもいますが半世紀がユメの様に過ぎていきました。それでも当時の校舎（教室、売店など）今、昨日のようにはっきりと憶えています。懐かしさでいっぱい！青木学長のイメージを私なりにお伝え出来ればと思います。</p> <p>最初に浮かんでいきます雰囲気は、とてもふくよかな穏和な感じで、どちらかと云いますと、やさしい、ややおじいさまに近い印象を受けたのを今でもはっきりと浮かんでいます。学生にお話をするときでも学生の目線で色々と若い学生にもお話されていました。こんなこともありました。グレーのダブルの背広姿で学生に囲まれて何かニコニコとうなずいているのをお見かけしました。校庭での一コマです。講演の内容は覚えておりません。</p> <p>あまりにも早く、お別れが突然でした。先生、学生一同が並んでお見送りをさせていただきました。マスコミの人達は取材に訪れていました。</p> <p>二年間の学園生活でしたが、少し背のびして、すばらしい充実した時間を持てたのは、今でも誇りに思っています。</p> |  |   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養B）卒  |  |
| 氏名   | N. Jさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 二年間の寮生活でした。一部屋（八畳？）に五人でしたが、それなりにすごく不満に思った記憶もなく懐かしい思い出です。お腹はすいていました。そして寮では消灯があり、そのあとは自分の懐中電灯（今のように明るくなかったと思います）でしたが、試験の時はつらかったです                                       |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 亡き母の出身校（東京女専時代）で、当時母が「今も、大学になり、あるみたい」がきっかけで、高校の先生もうちの高校なら東京の女子大どこでも受かる、といわれ一校だけ受験しました   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 長く教師をしていた母でした。私も教師をと思っていましたが、「子育てに専念するのが一番よ」と話していて、自分に出来なかったことを娘には望んだようでした  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | （関根先生からの）この資料で、私達が入学して、その年の年末には亡くなられていらっしゃるようで、短い間だったとはいえ柔らかな顔ばかりを思い出し、残念乍ら内容は覚えていません   |  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 穏やかで優しさに満ちあふれた柔和な方であったと思い出します   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 二年間、寮生活でしたので、友達との交流も濃く、未だに仲良くさせて頂いています。友達にこのアンケートについてたずねてみましたら、一人「母の日の手書きのカード」を頂いたことだけ覚えている・・・という人がありましたので（私は覚えていませんが）あれでもと思いアルバムを探しましたが、カードは見付からず、すぐに母にその時送ったのかもしれない |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | はや、2年前になりますが、最後のホームカミングデイの案内だから、ということで最初の最後で広島から参加させて頂きました。暖かい雰囲気です。「このような学園だったのねッ」と目に見えない教えを受けていたことを感じたことでした   |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと  | 短い二年間の学生生活でしたが、与えられた課題とはいえ苦手なことばかりでしたが、よく頑張りました。教育実習もあり（北区富士見中学）楽しく、子供達寮へ遊びに来てくれたり、思い出深いです |
|  | ②悲しかったこと  | 青木誠四郎先生の学園葬に（その時クラス委員でしたので）クラスのもう一人の方と参列し悲しくて泣きました。皆、泣いていました                               |

|  |   |
|--|---|
| 1 2. 他の先生の思い出  | 染色に興味があったかナー？と思います。英語も楽しかったです               |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 地方では知られていない大学と思いますが、ネットでみれば結構、偏差値も高く驚いたことです |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | プライドをもって頑張っ欲しいです                            |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | もう一度、授業を受けたいものです                            |
| <p>別紙：</p> <p>何かのお役に立ちたいの気持は在るのですが、ピントはずれのお答えしか出来ず、申し訳なく残念に存じます。このことを友達に話したら、「同じだけれど2～3日前に出したよ」とか「まだ出していないけれど、出す積り」とかに励まされ書くことにいたしました。そんなことでアルバムを探したりしていましたが家政大・東京女子専門学校時代の母の卒業アルバムがあったのです。(当時は本郷だったように母からきいていました)先生方のお写真の中にお若い青木誠四郎先生も在り(その当時から家政大にご縁が在られたのだとはじめて気付きました)。昭和3年3月の卒業記念アルバムです。古びてボロボロになっていますが、こんなもの持っている人はいないかな？と思います。この記述がきっかけで亡き母の若き日の写真の母にあえ、懐かしく熱くこみあげるものがありました。感謝いたします。ありがとうございました。</p> |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大(児童栄養B)卒   |
| 氏名   | Y. Kさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 学校の授業はあまり大変な記憶はありません。当時女子高から短大へ進学するのはわずかでした。家業が商売をしてましたので、経済的には困らず、短大へ行かせてもらい両親に感謝しております |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 姉の女学校の担任の先生(故西澤ふみ)のすすめだったと思います。渡辺学園卒だと思います   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時女性の職業として栄養士の免許を取得したいと覚えていたと記憶しています   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 残念ながらあまり記憶しておりません。優しそうで穏やかなお姿は記憶しております   |

|   |  |
|---|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | はっきりと覚えておりませんが、柔和で穏やかでゆっくり話さ<br>れた様な気が致します   |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 学園生活は短大の為か、2クラス一緒の事が多く、高校の授業<br>より大雑把でした。青木先生の教えの愛という言葉は今考えま<br>すと自然に身についた様な気がします。73才になります。自<br>分で言うのはおかしいですが、私の印象は「優しい人だった」<br>様です。息子二人の嫁にも優しいお母さん、孫（男子）二人に<br>も優しいおばあちゃんの様です。青木先生のお蔭だと思えます   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 幼稚園、小・中・高と松本で生活しました。その為同級会を開<br>くと幹事役を任せられます。皆よろこんで出席なさいます。自分<br>ではあまり感じませんが、こんな事でも皆さんを愛していたの<br>かなあと思えます  |
| 11. 学生生活の思い出                            | 2年間寮生活をしました。芙蓉寮でした。舎監は松田正子先生<br>でした。朝・夕の点呼、狭いお部屋でもあまりつらかった事は<br>ありません。自宅が松本なのでホームシックになるとちょっと<br>家に帰りました。短大は実習が多く、病院、小学校の給食室、<br>教員の実習は中学校へ行きました。その時の生徒さんとも長い<br>間文通しました。寮のお友達は今でもお付き合いが続いていま<br>す。去年は九州迄逢いに行きました。学校生活、寮生活楽し<br>かった事が多く、悲しかった事、つらかった事はありません。<br>末子でしたが、寮生活が良い経験になり、結婚しても家事でつ<br>らい事はありませんでした。卒業後、S大学の寮に栄養士とし<br>て勤めました。朝食から夕食迄、朝七時～夕方迄、食器は手洗<br>いでした。栄養士は名ばかり、昔風の賄いのおじさんの下で働<br>きました。でもこの仕事も良い勉強になりました。寮生の皆様<br>にも好かれ、おじさん夫婦にも可愛がられました。結婚しても<br>主人はもちろん義父母・義妹にも愛されました。やっぱり青木<br>先生の教え「愛」がしみ込んでいたと思えます |
| 12. 他の先生の思い出                            | 先生のお名前は忘れましたが、糖尿病の食事をカロリー計算を<br>して作りました。献立は“いなり寿司”のすし飯の代わりに“オ<br>カラの味付け”を入れました。その当時から糖尿病が多かった<br>のかなと思ひ出します  |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 「愛情、勤勉、聡明」の大切さを伝えたいです  |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 良き教え「愛」をありがとうございました |
| <p>別紙：<br/>青木誠四郎先生の生前の水曜講演などあまり記憶が無くお答え出来ず本当に申し訳ございません。ただお別れの会に出席させていただき、随分涙を流した事を思い出します。青木先生は長野県の御出身だったのでしょうか。実は姉の家の近くに墓地があり、青木先生のお墓がございました。同窓会の支部会でお参りに行った様な記憶があります。</p> |                     |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養B）卒   |  |
| 氏名   | U. Kさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 私は父親と相談し、女性らしく将来人生の上で役に立つであろうと、富山県から上京し、何もわからなく大変でしたが、入学してからはやる気ができたような気になりました |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 私の祖母も渡辺学園といていたころの卒業生で、よい学校だからとすすめられました   |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 漠然とこれという目標はなかったですが、将来成人としてきちんとした人生をおくられればと思っていました。後に学校で資格をとった栄養士として10年位つとめました  |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 受験や富山からの上京だったり、はっきりした記憶はうすれましたが、本校の学生としてただしく学んで下さいといわれた記憶があります                 |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 31年4月入学式で  |
|  | ②内容  | 入学式で新入生が一堂に会して、ゆったりと壇上で歓迎のお言葉をいただき、大学生になったのだなあーと |
|  | ③感銘を受けた点   | これからがんばろうと思いました                                  |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 椅子にゆったりと座られて皆をあたたかい目でゆっくりお話をされたことが思い出されます。学長さんらしく品格がありました                      |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 私は地方出身ですので不安な気持ちで上京し入学式にのぞみましたが、寮生の皆様や学校の雰囲気も大変よく、よい学校にて勉強できると安心しました           |  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 人は生まれた時からうけるすべての人の愛情で大きくなってきますが、卒業後も社会人になり、結婚し子育ての時もすべての人の愛情のもとでなりたっていると、毎日、今でも実感しています。ですからどんなつきあいでも、自分のできることは親切にしようと思っています |
| 11. 学生生活の思い出                    | 日本中のクラスメート、南は沖縄や北は佐渡ヶ島の人々とクラスメートや寮友になれて、お互いに切磋琢磨して無事卒業迄たどりついたという、今から思えばたのしい思い出がうかびます  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 山下俊郎先生の心のもちよう、人の考え方、ひらめき、展開はこういうものだなあと思いました   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 貴重な学生生活の間にすべて学んでそれをいかして、すべて有意義な人生をおくっていただきたいです  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 自然のすばらしい学校で、先生方も生徒に専門の教科を教えようとにじみでていて、私たちもそれにこたえようと勉強したことに感謝いたします   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養B）卒   |
| 氏名   | O. Nさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 終戦から11年。今から考えると大変なことはあったはずですが、学生は同様に質素で堅実。みんな一生懸命な時代でしたから、“たいへん”と思ったことはありません   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校時代の家庭科の先生が本学の出身で“これからは資格を持つ生き方”をと周りからもすすめられ、本学の栄養科を選びました（私の意志はあまりなかったようです）   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士になること。資格を持って働くことでした。友達をつくること。東京で勉強すること  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 覚えていません。とても残念ですが。現在の校門すぐにあった講堂での入学式は覚えています   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 遠い昔で記憶もさだかではないですが、入学してすぐ高校時代の先生と学長室で青木先生にお会いしました。田舎から出てきたばかりの私には大学の学長先生がとても大きく見え、ご挨拶はしましたが、気さくであたたかく、やさしい目をした先生でした。自然に学生たちの中に入って来てくださる先生でした。 |

|  |  |
|--|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等      | 水曜講演は、(関根先生からの) 同封の題目と概要を見ましても昭和31年の先生の最後の方の講演をお聞きしているはずですが、恥ずかしく残念ですが、記述するだけのものではありません  |
| 1 1. 学生生活の思い出                          | 短大の2年間の学生生活ですが、実習など次々にあり、中味の濃い2年間でした。もののない時代の寮生活、先輩・後輩の関係も余りなく現在も仲よく続いています。先生方もみんなやさしかったです。うれしい、楽しかったことはいっぱいあっても、辛いこと、悲しいことは覚えてないです                        |
| 1 2. 他の先生の思い出                          | 立派な先生方ばかりでした。その時その時にお世話になりながら、卒業して師弟関係が途絶えてしまったことも残念に思ったりしたこともありました。児童科の山下先生の卒業直前の講義で“あなたがその場所にいるだけでその場が明るくあたたかくなるような人になって下さい”と言われた言葉は50年終わった現在でもきもに命じています |
| 1 3. これからの大学・<br>短大に期待すること             | 時代の変化と共に家政と言う学問が遠ざかっているように感じますが、家政をいつまでも大切に守っていただきたいと思えます  |
| 1 4. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと | 家政大の学生は今も昔も純粹さを持ち派手さがないです。この伝統を守ってもらいたいです  |
| 1 5. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと     | 先生とは校内の道で。そして先輩の後について学長室にも。何回かお会いしてるはずですが、もっと積極的にお話をさせてもらえばよかった～。とても残念です   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養B）卒  |
| 氏名   | M. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況か<br>ら、大学・短大への入学、<br>特に上京しての入学で<br>たいへんだったこと | 地方から一人で上京し寂しさと生活の不安。学生生活になれる迄が大変だった。実習でほとんどの時間がついやされたこと |
| 3. 本学を選んだ理由  | 家政科希望で栄養士になること  |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 栄養士になり社会に貢献すること。食生活の改善に力をそそぎたかった                        |

|  |  |
|--|--|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等  | 何時もやさしい人柄でした。今でも先生の顔、姿を思い浮かべ<br>る事は出来ます  |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか  | 人を疑う事をしなかったせいで多くの人に騙されましたが、年<br>を重ねる毎にその回数も減ってきました。今では騙すより騙さ<br>れた方が良かったと思う様になりました。年のこうですかね(こ<br>の年になり、情けは人の為ならず、の意味がわかる様になった)                 |
| 11. 学生生活の思い出   | 学生生活時代はほとんどが実習で、ゆとりのある学生生活は送<br>れませんでした。が、寮生活はとても楽しいものでした。規則<br>は厳しいものでしたが、それが社会に出て、人から信頼され、<br>人間形成に役立っています                                   |
| 12. 他の先生の思い出   | 小笠原先生の化学の時間と卒論（魚の蛋白質）の指導をいただ<br>いたこと。授業とは関係ありませんが、卒業後寮に残り舎監を<br>していた頃、三木テイ先生が朝五時頃いつも下駄の音を響かせ<br>ながら見廻り、足音を聞くたび、ビクビクしていました。とて<br>も恐ろしい思いをしていました |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること  | 学問だけではなく社会人としての自分を磨いてほしい。愛され<br>る人、思いやりの心を養うこと   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと  | 現代人は自分勝手の人が多い。相手の気持ちを汲み取り、ひと呼<br>吸して答えを出す様   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと  | 青木先生の講義は青年心理学でした。が、ほんのわずかな期間<br>でしたのもっともっと学びたかった。青木先生にお会い出来、<br>愛情、勤勉の精神を子供に植えつける事ができ、子供達もすな<br>おに育ち、今は幸せな老後を送っています                            |
| 別紙：<br>青木先生とは半年か1年間位だと記憶しています。卒業時には学長が変わりました。学風<br>の愛情・勤勉・聡明の精神は今でも持っています。母校は今の私の人格形成の場でした。<br>有難うご座居ました。今後ますます母校の向上のためにご尽力下さいます様、お願い申し<br>上げます。 |  |



|  |  |   |
|--|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養B）卒   |   |
| 氏名   | K. Sさん   |   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活の楽しい一時の反面、プライバシーなどなかった。帰省には新潟へ6～8時間だった  |   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 父、母が教員で青木学長を尊敬していたので、家政大をえらんでくれた   |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 食生活の大切さを学びたい   |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 人として進歩すること   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 短大1年生の頃   |
|  | ②内容  | 学長は病気を発症していらしたので休講が多かった   |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | ゆったりとした、静かなお声でした。温和な優しいお顔でした   |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 四月に入学して、十二月の他界でほとんどお会い出来ず、とてもとても、50年余りたった今でも残念です   |   |
| 1 1. 学生生活の思い出                              | ①楽しかったこと   | 全国からの人が集まり、仲よしになり、50年たった今でも児栄Bクラス（松井先生）はクラス会をして、しっかりと友情をはぐくんでいる |
|  | ②嬉しかったこと   |   |
|  | ③つらかったこと   | 欠点で（音楽に）少ない送金の中からの支払いを思い出す                                      |
| 1 2. 他の先生の思い出                              | 心理の森先生（早くに他界）。楽しい授業でした   |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること                     | 深い専門学が必要   |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと             | ホーム・カミング（最後）にお招きいただいた折、学生祭でした。集う学生達は今も派手でなく、堅実な姿でした。嬉しく、これが家政大と思いました   |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                 | たった二年の学びでしたが、これを基に自分の歩く道を広く進めることが出来ました。いかに学問が必要なのか。高卒では出来ないことを痛感しました。両親に感謝しています。そして、戦後の混乱の中で良い学舎を選んだことを感謝しています。学長にもっと長寿してほしかった |   |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名   | T. Mさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親元を離れ上京をし、下宿での生活と学業の時間が思うように行かず充分悩みました。両親に生活の状況を手紙で送るのが約束で、文面で励まされ、だんだんに慣れて来ました   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女子教育（当時は良妻賢母が唱えられる時代でした）を受け、自分を磨く事。両親の方針でもありました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 児童栄養科の教育内容に学ぶ事の喜び、意欲を持って二年間をみつめました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 緊張している新生に、穏やかな微笑と温和な口調で、教訓をもとに学生生活を送る事だったと思います  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 通学組みで、講堂に入れないう学生がいっぱいでした。寮生の方々は早くから座席をとられ、入れませんでした。私は家事をすませ、夢中で毎日通いましたが、また駄目……。下宿屋さんの共通の場所は毎日掃除をして出掛ける習慣をつけたので、おそくなって講義は聞かれない方でした。（送られて来た）別紙の講演内容を見ながら、残念に思っております |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | やさしいお声でにこにここと、子供か孫にでもしっかり伝えなければならぬ感じだったでしょうか  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ①（カーネーションのカード等は）両親に送ったと思います。長い間家政大の教科書等々、保管していましたが、後輩に渡しました<br>② 両親も家政大の校風に喜び、学業を大切に受ける事がいつも書いてありました<br>③ 学内を歩いていらっしゃる姿が見えますと、緊張して立ち止まり、頭を下げた記憶があります              |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 先生方も一生懸命に指導されて、私達も一つ一つ、ノートする、聞く事でした。各教科の中で、先生の経験を交え、私達の将来に向けての講義をされておりました   |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 私は二年間の家政大学生生活に感謝しております。現在、元気で暮らしておられるのは両親、先生方のお蔭だと思っております。また、多くの級友と今でも親交があり、33年卒児童科C、Dクラスは二年ごとに同窓会があります。60才から再会し、73才の今年は静岡方面とか？ 皆様楽しみにしています                       |

|  |   |
|--|---|
| 1 1. 学生生活の思い出  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院実習、学校給食実習、福祉施設の見学。実習等々。本当に忙しい時間割で動いておりましたので、家に帰り、自炊するのが辛い事もありました</li> <li>・青木先生の急死は実感なく、冷たい雨の中の学葬に涙して立ち並び、お別れした事は今も思い出されます</li> </ul> |
| 1 2. 他の先生の思い出  | 調理実習の村上先生のベシャメルソースの作り方の説明に、楽しそうに云われますが、皆そのまねをして「ベシャメルソース」とあだ名にしたり・・・*話し方の特徴にすぐあだ名をつけてました  |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 家政学一般。時代は変わりますが、生活は今も昔も基本は同じです。家庭教育をよくする。多くに渡り、見直してほしいと思っています   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 今の自分の立場の学業を、生活にどう生かして行くか。豊かな人間に成長していただきたいです。自分らしい、自分らしく過ごして下さい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 教えに唯々感謝です。家政大で学べた事、私には一番でした   |
| <p>別紙：</p> <p>このたびのアンケート解答の企画に大変感謝致します。五十三年すぎ、多くの事が思い出されました。現在の子供教育、多くの事件、本当に心が痛む思いで、世間をみております。どこから手をつけ、良い方向に行かない事かと、いつも考え、友と語ります。根本は家庭から見直し、親が健全でなくてははいけないと云ってます。私達は家政大で、衣、食、住の教育に学び、毎日に役立ちました。家庭教育が大切です。関根先生を始め、家政大の発展心から願ひ上げます。</p> |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養C）卒                                     |
| 氏名   | K. Kさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮生活は楽しくもあり又自由時間も余りなく、親からの毎月1万円の送金を待ち2年間の年月はあっという間でした |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校での家庭科の担任の出身校でもあり、青木学長先生、山下俊郎先生にあこがれて入学いたしました       |

|   |  |   |
|---|--|---|
| 4. 入学のときの希望や夢                           | 教員をめざして卒業することが第一でした  |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                        | はっきりしませんが、愛情と勤勉と聡明についてだったと思います   |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                 | ①何年生の頃<br>何月頃  | 入学してまもなくでした                                     |
|   | ②内容  | せっかく入学したのだから実力をつける様にと                           |
|   | ③感銘を受けた点   | 男に比べ女は弱くすごしてきたが、この時にこそ実力をつけて自分をみがく様に、と教えて下さいました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等           | 静かに話されたと思います。大黒様でした  |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう<br>いう点で感じ取りましたか     | すべて先生方が学生に接して下さる時、雰囲気<br>がそのようになっていました   |   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生で生か<br>されましたか | 職場での多くの人々への愛情について学ばせてもらい、又家族<br>に対しても同様、愛情をそそぐことができたと思っています                        |   |
| 11. 学生生活の思い出                            | 寮生活は何より初めての経験で楽しかったのですが、短大でし<br>たので、実習時間が多く、時間的に忙しくて寮の夜時間がもう<br>少しほしかったです。(消灯時間あり) |   |
| 12. 他の先生の思い出                            | 栄養指導の金野先生は、ミカンは皮のまま全部食べるがよいと<br>東北弁で語られたことがありました。みな驚きでした                           |   |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 女子大一位をめざして下さい  |   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 先生方のお力のおかげですが、昔よりはるかにレベルがあがっ<br>ていて嬉しく思います   |   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | 先生、最後の時間でしたから10年前に戻って講義を受けたい<br>です   |   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養C）卒   |  |
| 氏名   | T. Mさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親元を離れて寮生活をするのに不安がありました   |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 将来性のある「資格」を身につける為  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 入学試験の面接時に、学長先生にお会いして親しみやすい会話を交わす事が出来て、この学校で栄養士の資格を身につけようと思いました   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 確か、日に3度、反省する習慣をつける様に言われたと思います  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘受けた水曜講演                     | 最後の水曜講演  |  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 穏やかで常に笑顔で話されていました  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 入学して間もなくレクリエーションで県別に先輩、後輩入りまじって金沢八景へ行きました。各県に関係あるか、出身の先生方との交流がありまして、青木学長は長野県松本の出身で県人会の方々と楽しく1日を学長と過ごした思い出があります |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 特に意識はしていませんが、自然にその信念で生きて来たと思っています  |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 学園祭で舞台上に立って当時流行していた“ケ・セラ・セラ”を3人の同級生と歌った事 |
|  | ②大変だったこと   | 寮で洗濯物を洗ったり干したりが大変でした                     |
| 12. 他の先生の思い出                               | 生物の先生。保育学の先生。栄養学の先生。調理の先生方。化学の先生。全ての先生方とても親しみやすく、楽しい授業でした  |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 青木誠四郎先生の足跡を残していただきたいと思います  |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 現代の若者達に、青木先生の信条を心の片すみにでも持っていたら、と思います   |  |

別紙：

青木学長の水曜講演は、寮生でした私にとって先輩達の言葉も加えられて競争で講堂へ急ぎましたが、一年生でしたので私達はうしろの方で聞いていた様に思います。お話の内容はあまり記憶にありません。

初めて学長先生にお会いしたのは、入学試験の面接の時です。緊張して御挨拶した私に満面の笑顔で迎えてくださって、先生の故郷の松本のお話をしてくださって、私の高校は、戦時中50連隊のあったところに出来た学校ですね、とにこにこして世間話をしてくださって、入学試験を忘れる程に笑い乍ら、松本の思い出話をしてくださった記憶があります。「松本に帰ったら校長によろしく伝えてください」と云われました。

春のレクリエーションで金沢八景に県別で行った時は、長野県出身者と青木学長と談笑して全員で学長を囲んで写真を写しました。

学長が亡くなられた時は、今はなくなった新館校舎の2階講義室で校葬をして、コーラス部だった私達は校歌を涙乍らに歌った事があります。

学長の奥様も私達がお宅へお線香をあげに伺わせていただいたり、私が卒業後松本に帰りました時は、松本の卒業生と奥様と浅間温泉の旅館で法事をしました。松本にもお墓がありました。

先輩達の間から在校中に「青木講堂」を建てたいとの話が出ていましたのに、何年か後に家政大に行ったら、青木学長の影が全くないのがっかりしました。今回この様に青木学長を甦らせていただいて心からうれしく懐かしく思っています。

何にもお役(力)になりませんが、青木学長先生の事を思い出させていただいて感謝しております。本当にありがとうございました。現在、同級生だった友人との交流が家政大で学んだ事の一の宝物です。何よりも、学ばせてもらった両親に感謝しております。

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養C）卒                                      |
| 氏名   | M. Yさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 幸い（埼玉県上尾市）という近くでしたので自宅通学でした。でも五十数年前ですので電車の本数も少なく大変でした |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 家政大学は附属高校で3年間お世話になりましたので当然のことと思い、短大を選びました             |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養学を学び栄養士となり、良い母親となることでした                             |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | やはり申し訳ないですが記憶にございません。何しろ講堂が学生でいっぱいだったことを覚えて居ります       |

|   |  |   |
|---|--|---|
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態<br>度等       | それはそれは「おやさしい口調」と「にこやかなお顔」は特に<br>印象に残っております   |   |
| 8. その他の行事に関す<br>る思い出                    | 青木先生がお亡くなりになりました年の在校生でしたのであまり<br>記憶にございません。ただ高校生だった頃より、よく黒いお<br>車でいらしてたのはお見かけしており、「学長」先生っておえら<br>いのだなあという印象はございました |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学<br>園づくりをどういう点<br>で感じ取りましたか | 青木先生の生活信条である「愛情・勤勉・聡明」というお言葉<br>を念頭におき、学生生活すべての面で見守られているという安<br>心感でいっぱいでした   |   |
| 10. 先生の「愛情」の<br>教えがどのように人生<br>で生かされましたか | 卒業後就職も致しませんでした、家族が出来、家族を愛し、<br>身近な方々にもやさしく愛情をもって接するよう心がけており<br>ます  |   |
| 11. 学生生活の思い出                            | ①楽しかった<br>こと   | 今思い出してみまして二十代前後でしたので、<br>それは見るもの・聞くこと何でも珍しく、楽し<br>いことが沢山ありました |
|   | ②つらかった<br>こと   | 教科目が多く試験と実習が多くて大変でした  |
|   | ③悲しかった<br>こと   | 悲しかったのはやはり青木先生がお亡くなり<br>になったことです                              |
| 12. 他の先生の思い出                            | 卒業論文で化学の小笠原八十吉先生にご指導頂き、春休み、夏<br>休み等、休みにも実験お手伝いし（友人3人）楽しかったです。<br>又、東北訛の先生、おやさしく懐かしく思い出されます                         |   |
| 13. これからの大学・<br>短大に期待すること               | 「愛情・勤勉・聡明」をモットーに、益々のご発展を期待いた<br>しております。一昨年（2008年10月）卒業五十周年で久しぶ<br>り参りましたが、昔とすっかり変わってしまい立派になり驚き<br>ました              |   |
| 14. 大学・短大の学生<br>達に最も伝えたいこと、<br>最も望むこと   | 愛情、勤勉、聡明を忘れずに、学内はもちろん、学外でも恥ず<br>かしくないよう、又次世代を担う女性として意識し責任を<br>もって学生生活を送って頂きたいと思っております                              |   |
| 15. 先生にお会いでき<br>るとしたらお伝えした<br>いこと       | ありがとうございました、と感謝の気持でいっぱいです  |   |

|  |  |                          |
|--|--|--------------------------|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養C）卒   |                          |
| 氏名   | A. Mさん   |                          |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 交通が不便だったので、田舎から上京するのも寮から帰省するのも大へんでした   |                          |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 通学していた高校の家庭科の先生にすすめられて   |                          |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 日本の中心都市である東京で勉強したかった。広い視野を持った人になること  |                          |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 何年生の頃、何月頃：<br>1年生の4月頃  |                          |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | やさしい声、ゆったりした口調、やさしさのある柔和な表情  |                          |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 母の日のカーネーションカードをいただいて、とてもうれしかった。すぐに故郷にいる自分の母に送ったところ、とても喜んでくれていました   |                          |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 女子だけの大学であったので、優しさのある平和な雰囲気を感じて勉学にはげむ事が出来た。環境にめぐまれていた   |                          |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 卒業して社会に出て働いていた間は、あまり余裕のない生き方をしていました。今、ようやく青木先生の教えを理解しています  |                          |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 学校での講義から実習など、すべてが初体験だった事 |
|  | ②嬉しかったこと   | 卒業論文が期限までに書いて提出できた事      |
|  | ③つらかったこと   | おなかがすいて仕方がなかった事          |
|  | ④悲しかったこと   | 青木学長の急逝                  |
| 12. 他の先生の思い出                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中華料理の大島先生から習った「ザホイタン」。どんな食材でもスープに全部使えるという事</li> <li>・西洋料理の村上先生の前でオムレツを作るテストがあり、うまく出来た事</li> <li>・自分の体に合わせて毛糸のセーターを編み、編み目が不揃いなのに合格だった事</li> </ul> |                          |



|   |  |
|---|--|
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること  | それぞれの学科で基礎をしっかり学ぶことを身につけさせてほしい。長い歴史と伝統を忘れず継承して行ってほしい |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 愛情・勤勉・聡明を忘れずに学んでほしい                                  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 先生ありがとうございました。東京家政大学で学んだことのすべてが私の人生のささえになりました        |
| 別紙：<br>この度は、素晴らしい企画をされ、ありがとうございました。改めて、母校のこと、青木先生のことを思い出させていただきました。何しろ、50年余もの事で思い出せなくて大へん申し訳ありませんでした。 |  |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 卒業年                            | 昭和33年：短大（児童栄養C）卒  |
| 氏名                             | Y. Yさん  |
| 3. 本学を選んだ理由                    | 母が教員をされており、夏休み等当校の教授が地方まで来て講演・講習をされており（母が）受講し、すすめられた                |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容               | 上京して都会の生活で胸一杯でしたので（訓示も初めて）良く憶えておりませんが、教員をしておりました母はとても感銘してたのが記憶に有ります |
| 6. 一番印象に残っている感銘受けた水曜講演         | 入学してすぐ青木学長が亡くなりましたので顔は思い出しますが、大切なお言葉は記憶にありません                       |
| 1 1. 学生生活の思い出                  | 月日が経つとすべて良かったと思うばかりです（クラス会でもみなそのように申してます）                           |
| 1 2. 他の先生の思い出                  | 城所先生：卒論の時遊びによく自宅に伺った<br>村上先生：ベシヤメルソースの作り方をよく教わった                    |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること         | 自分をみがき、世にハバタいて欲しいので、そのような教育をして欲しい                                   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 社会の動きを学び、愛情をもって世の中に出て欲しい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 勤勉、聡明に生きてますと伝えたい  |

|  |  |                           |
|--|--|---------------------------|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養D）卒   |                           |
| 氏名   | K. Aさん   |                           |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 寮での二年間でしたので助かっていました。特別ありません。（鹿児島から東京迄の汽車が大変でした）            |                           |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 父が医師でしたので病院に関した事をしたいと思い、栄養士になろうと思いました。歴史のある学校だったので         |                           |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 栄養士になって病院での仕事を・・・とっていました                                   |                           |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 貫禄があり、穏やかで優しい感じでした   |                           |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | （カーネーションのカード等）私達の頃はあまりなかったように思います                          |                           |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | その時と言うよりは、卒業して、子育ての頃、そして今、ホームカミングに参加して、家政大に行って良かったと思っています  |                           |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 何に対しても愛情があれば、自分に自信というか、生きていく上でプラスになる事が多いという事です             |                           |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 調理実習                      |
|  | ②嬉しかったこと   | 良いお友達が出来た事（今でも3人で旅をしています） |
|  | ③つらかったこと   | 児栄科だったので科目が多かったこと         |
| 12. 他の先生の思い出                               | 小児科のうるの先生の「○○○になったら赤ちゃんは死んじゃいます」。調理の村上先生はベシヤメルソースというあだ名でした |                           |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 私達の頃より立派になって嬉しく思っています。さらなる発展を願っています                        |                           |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 学問もですが、人間として立派になってもらいたいです（礼儀など）。人間としての教養を持ってもらいたいです        |                           |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 「有難うございました」  |                           |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（児童栄養D）卒  |
| 氏名   | K. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | 鹿児島島の離島（奄美大島）からの受験で当時飛行機はない。18時間位かけ鹿児島に船で行き、汽車で一泊（20時間余？）親戚宅から受験場に行ったのでした                                   |
| 3. 本学を選んだ理由  | 他に2校受験（2校ともパス）したのですが、キャンパス内に木立ちがあり寮が校内に有り、東京家政大学と云うネーミングも地方の者からは魅力があったのかも知れません                              |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 当時としては東京への受験者はあまりなく高額費用を使って進学させてもらったので親を安心させる為、恩に報いなければ・・・とは思っていたが、具体的にはなかったのか思い出せません。実際は教職につきました（短大なのに高校の） |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等   | 入学の頃学長でいらした・・・との記憶だけで、講演を聞いた記憶は残念乍ら有りません  |
| 8. その他の行事に関する思い出   | 入学してすぐの頃の遠足（金沢文庫）で青木学長に入って戴き一緒に写真を撮りました。ニコニコ顔でとてもお優しいお姿が忘れられません   |
| <p>別紙：</p> <p>卒後50年後のホームカミングデーに参加（一昨年）させて戴き、母校の素晴らしい発展ぶりは目を見張る程でした。その前二度程は母校に訪れた事が私にはあったのですが、友人の一人ははじめての母校訪問でその変わり様に驚いていました。卒業後もこの様な企画をして下さり、卒業生を大事にして下さる学校は他にないと思いますし、この様な事からもこの学校を選んで良かったと思っています。鹿児島での支部同窓会（2～3年おき）にも飛行機で出かけて居ります。</p> |   |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒  |  |
| 氏名   | S. Kさん  |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 入寮当時、かなりのホームシックにかかり朝夕泣いてばかりでした  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 結婚後役立つので家庭科へ行くよう親から云われ、2、3校入学案内も取り寄せましたが、知らぬまに家政大に決めたようです。後でわかったことですが、高校の被服の先生が東京女専卒の方でした |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | ただただ嫁入道具の一つでした（親が）  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃   | お恥ずかしい話ですが、51年前のことで全然思い出せません。青木先生の心理学の本等は実家にありますので・・・申しわけありません         |
|  | ②感銘を受けた点  | 何といても、先生の人柄です。愛媛の教員採用試験の面接の折、尊敬する人という質問に青木誠四郎先生と答えたのをはっきり覚えております       |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 常にこやかな表情、語りぐせ、お声、おだやかさ、教え悟すような人柄でした   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 思い出せません。ただ葬儀の時、正門から全学生の長い行列でお見送りしたことが一ばんはっきり覚えています  |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 入学試験の時、白百合寮にとめていただきました。その時のお世話して下さった寮生が非常に親切でやさしく、この大学だったら！という思いが強くなりました                  |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 悪い民主社会（例えば自己主義等）になったようで先生は悲しまれるでしょう   |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと<br>嬉しかったこと   | 2年間の寮生活だったけど大変楽しく、お部屋（8畳に5人）の人々と小旅行を楽しみ、現在（72才）でも旅行したりおしゃべりしたりしています。   |
|  | ②つらかったこと  | つらかったことは朝ねぼうが出来なかったこと。ハチャトリアンの剣の舞の曲で起こされつらかったです。だけどこの様な経験をさせてくれた親に感謝です |

|  |  |
|--|--|
| 1 2. 他の先生の思い出  | 木曾山先生の洋裁、藤本先生の和裁。松井正子先生の染色、宮下先生の色彩学、と色々それぞれに思い出します                                   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 卒業後建物が沢山建ち、うっそうとした木々がなくなったようで淋しい。母校に帰る日に参加した時、寮がなくなって思い出が消えてしまった。でも50年もたつとしかたないことですね |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 言葉遣い、服装関係、流行にまどわされず、品のある女性になってほしい  |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 学生時代のお姿のままでもう一度講演を聞きたい   |
| <p>別紙：</p> <p>先生のモットーとされる愛情・聡明・勤勉は、最近の家庭教育、そして政治を考えると消えてしまったようで残念に思う。特に戦後から今日まで若者達にさずけて来た教育は、日教組と家庭教育、そしてマスコミ（特にテレビ）が諸悪の根源！先輩をたて親を大切に、相手の立場になって考えてみる etc.をきちんと元のように戻すには60数年かかるでしょう。教育を見直さねばならない。日本人には品格がなくなってしまった。青木先生が生きて返えられたならこの現状をみて嘆き悲しまれることだろうと思います。</p> |  |

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒                    |
| 氏名   | K. Hさん                            |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 大変と考えたことはありません                    |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 渡辺学園卒の先生のすすめ                      |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 東京に勉強に行くこと                        |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 優しく愛情豊か                           |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | ① いつも私達のそばで、にこやかにやさしい笑顔を見せて下さいました |
|  | ② 水曜講演、大変楽しみでした                   |

|                                 |  |                             |
|---------------------------------|--|-----------------------------|
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 自由で優しい自分になれたと思います。自立心、やさしさ   |                             |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 卒業後50年、学園の信条は心にきざまれています。言葉として思い出せませんが、身体全部で感じて幸せに暮らしています                           |                             |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと   | 青春もありました                    |
|                                 | ②嬉しかったこと   | いろいろな地方の方々と友達になり、いまでも続いています |
|                                 | ③悲しかったこと   | 無し                          |
| 12. 他の先生の思い出                    | 生田先生：やさしい先生でした<br>木曾山先生：きびしかったが、良くして下さいました<br>青木みん先生：卒論でお世話になりました。法律・経済、いまでも生きています |                             |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 自分らしく生きる。自分を持つ。信念  |                             |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | しっかり学び、遊んで下さい  |                             |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | ありがとう。しっかり学生時代が身についています（法律学、経済学、育児学、みんな身についています）                                   |                             |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒                                  |
| 氏名   | S. Yさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 通学（片道2時間20分）。短大で教職課程も取っていたので単位数が多くて忙しい毎日で遊ぶ余裕なし |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 良妻賢母校で有名。環境の好き                                  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 自立できる女性になること。教員在職5年。後、結婚退職                      |

|                                 |   |                  |
|---------------------------------|---|------------------|
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                | 愛情、勤勉、聡明の校風を話されたかと思いますが、お亡くなりになる前年の入学で体調をくずされていて、水曜講演も何度か聞かせて頂いただけだと思います                      |                  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | 良く覚えていませんが、語り口が温厚でわかり易く、いつしか引き込まれて行くような感じでした。S31年4月入学で水曜講演を楽しみにしていましたが、よく中止になり、あまり聞いた覚えはありません |                  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | 田舎の出身でしたので、母の日のカーネーションカードをいただいた時は感動しました   |                  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | 校舎は小さく点在していましたが、木数は多くおい茂っていましたが、やたらと切らせないと聞いておりました。草木も生き物、愛情を注がれたのでしょう                        |                  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 世界の平和は、最初の家庭の一步から始まること。愛情が基と  |                  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①楽しかったこと  | 旅行や学園祭           |
|                                 | ②嬉しかったこと  | 入学。全国からの友達が出来たこと |
|                                 | ③つらかったこと  | 通学生で時間的に余裕のないこと  |
|                                 | ④悲しかったこと  | 青木学長先生が亡くなられたこと  |
| 12. 他の先生の思い出                    | 和裁や洋裁での合格点がきびしかったこと。おなおしが何度もでてつらかった   |                  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 人数の多い大きな学校にならなくてよい。こじんまりとした基礎のしっかりできる人間を輩出してもらいたい   |                  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 開校時の精神にかなうような人間作り、人になってもらいたい  |                  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 永らえて、もっともっと家政大を特色ある学校に育てていただきたいかった  |                  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒   |  |
| 氏名   | K. Mさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 親元から離れ、寮生活で地方からの方々で言葉がまず不安でした。夕方になると涙が出て帰りたいと思ったものです。しかし慣れると寮生活も上級生と楽しくすごせた思い出があります。いろいろ体験しました |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 親戚の方が卒業生で東京家政大だったら安心という考えがあったようです。妹2人も卒業生です。女性としての教養と学力（知識）が身につくとも思っていた様です                     |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | まず東京という大都会に来たのだからいろんなことを吸収しようと思い、希望で胸がいっぱいになりました。しっかり勉強して郷里に帰って教師になろうと思いました                    |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 50年前のことではっきりした記憶はないのですが、とても緊張していました。古い講堂の様子はしっかり覚えております。人間愛についてお話された様にありますが・・・？                |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 1年生、4月   |
|  | ②内容  | 幸福ということ  |
|  | ③感銘を受けた点   | 物事を論理的に考えたことがなかったので、お話の仕方や内容に感銘を受けました                        |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | いつもやさしい眼差しでお体全体から慈愛に満ちた雰囲気があり、お会いするとほっとしました  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | カーネーションのカードを思い出します   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 教授の方々、助手の方々が一人ひとりにきちんと向き合って指導して下さいました。寮では舎監の先生がとてもあたたかく話を聞いて下さいました                             |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | お陰様で教職に就くことが出来、微力ながら青木先生のお言葉を胸に、勤めていた様な気がします   |  |
| 11. 学生生活の思い出                               | ①楽しかったこと   | 生田教授のクラスでした。クラスで村山貯水池へ遠足に行った時、生田先生がクラス全員分のサンドイッチを作ってきて下さったこと |



|  |  |   |
|--|--|---|
| 1 1. 学生生活の思い出  | ②嬉しかったこと   | ・親からの小包を開ける時のうれしさ<br>・お部屋の方々との会話（地方のいろいろがわかりました）  |
|  | ③つらかったこと   | 考査（試験）の時、9時消燈でトイレに行き勉強したこと                        |
|  | ④悲しかったこと   | 手芸で刺しゅう糸を色別に分ける日、給食当番となり、分けきれずクラスの方々に迷惑をかけてしまったこと |
| 1 2. 他の先生の思い出  | 生田先生：手芸の高度でやっとなついていった感がありますが、現在は私の趣味としてなっています<br>木曾山先生：とてもファイトがあつて授業が楽しかった。助手の先生にはとてもお世話になりました |   |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること   | 今はもう生活全体が私が在学していた頃と違いますが、女性だけの学園（？）ですので気品のある自主した（一つのものを持った）人間づくり                               |   |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 何か一つ自分だけにしかできない事、物を得てほしい。正しい判断、世の中に流されない広い物事をみる心   |   |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 人間の生き方、価値観などいっぱいお話を御聞きしたい  |   |
| <p>別紙：</p> <p>アンケートを書いている時、今から54年前のことがいろいろと思い出されてきました。10年前学園にお邪魔しました。校舎がとても立派になっているのにびっくりしました。白百合寮はありましたが、倉庫になっていました。懐かしい思いがよみがえってきました。他のお部屋を訪問する時はきちんと廊下に座って両手で戸を開けた事（その前にはきちんとノックして）、中食は早く帰った人が下の食堂へ大きな木箱に入った食パンをもらいに行き、部屋の人が揃ったらパンにマーガリン、ジャムをぬり、いただきました。あのパンの味、マーガリンの味は忘れられません。それに家からのおやつなど地方色豊かでした。五月病といわれ一寸生活に慣れてくると家が恋しくなり夕日を眺めて涙したものです。入学したばかりは学園内が広くて教室をさがすのが大変でした。青木先生は有名な方だと上級生に聞いていましたが、亡くなられた日のことをはっきり覚えています。学園全体が悲しみ一色で先生方、学生みんな涙していました。児童心理学の本、長く持参していました。</p> |  |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | K. Aさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 地方の農村から大都市の生活が始まり、現在とは比較にならないカルチャーショックでした  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 父親が長野県で教職にあり、青木先生を尊敬して居り、青木先生の学校だからという理由で進学しました  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 井の中のかわずなので、大都会に出るあこがれでした。そして長野県に戻り教師になりたいと思っていました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | 愛情、勤勉と特に聡明について話されたと思いますが、その言葉のみ残っています  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | 身近な例を上げて話されたこと   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等                   | 水曜日は大勢の学生が受講しますので、早く出て席を取りました。先生のお話はジョークもまじえて楽しいものでした  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 県別に分かれて近い所にハイキングの様に行きました。私達長野県人は一番多く、青木先生もご一緒だった様に思いますが……。そこで一番広い県の方々、文化も異なる県人の交流が出来ました  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 学校に勤めてから、子供達を（愛情をもって）ほめて上げると、自信を持って答えてくれることを感じました  |
| 11. 学生生活の思い出                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科が一番苦手な学科でしたのに、寮に入れること、青木先生の学校という親の希望の入学でしたので、実習では大変苦勞しました。しかし当時は自分の意見のみでは進学不可能でしたので致し方なく単位を取りました。</li> <li>・青木先生のご葬儀に大塚の護国寺に行ったこと。悲しみのみでした</li> </ul> |
| 12. 他の先生の思い出                               | 美術の阿部先生の美術史が楽しく、印象派の話が未知の世界にひきこんでくれました   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 今、家庭そのものの崩壊も言われる中であって、青木先生の生活信条をより生かした教育をして欲しいと思います  |

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと | 以前のように教育の場で頑張ってもらいたいと思います                                    |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと     | 先生の授業をきっかけに心理学が大好きになり、就職後にも心理学をずっと勉強し、学級経営にも自分の子育てもたのしく出来ました |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒  |
| 氏名   | K. Jさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと   | 寮生活で：日曜日以外は朝～寝るまで時間割の生活。一部屋（6畳位に）5人で大変でした。今思えば後々の生活の基礎になっていると感謝、ありがたい事だと思っておりました<br>交通面：上京、帰省時の便の悪さ。普通列車で24時間。52、3人のクラスで上京する人は1～2名位だったので進学出来る事に親に感謝でした。でも24時間は大変でした |
| 3. 本学を選んだ理由  | 将来、家庭科の教師になりたいと云う希望があったので、担任の先生の母校と云う事もあり、すぐ決まりました  |
| 4. 入学のときの希望や夢  | 本大学を卒業して早く家庭科の教師になる事でした   |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 特別意識したつもりはないが、自然に気がついたらチョッピリではありますが、生活信条が身についたような気が致しますので、先生、ありがとうございましたと感謝の言葉を送りたいです   |
| <p>別紙：</p> <p>70才を過ぎますと苦しい事、悲しい事等は頭からとんでせめて良い事だけでもと、頑張ってみましたが、それも怪しいものです。でも当時、寮生活を一緒にした友達4～5人、今だに年一回集まって学生時代の思い出話になります。</p> <p>青木学長の思い出はいつも同じですが、何でも相談しやすい、やさしい目にやさしい顔、やさしい声、やわらかい声で包容力のある教授からは愛情を感じ、自然に生活信条が身についたように思います。卒業後も何度となく、私の生活の基盤は家政大の教えなのかなあ～と思う事がありました。</p> <p>当時は、今に比べて世の中が暗く経済的に大変でしたが、友達関係はみんな思いやりがあり、親に対しても経済的に苦しい中、進学させてもらっていると云う感謝の気持があり、そう云う思いが生活の根底にあったと思いますし、そう云う生活信条を教育して下さった事に対して、ただただありがとうございました、と心から手を合わせお礼を申し上げます。</p> |   |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服A）卒   |
| 氏名   | K. Kさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 2年間寮生活をしましたが、大変なことはあまり感じなく、すごく良い思い出でした   |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 恩師より渡辺学園のことをお聞きし、女子教育の充実度が高いことを知り選びました   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 若い人々を良き方向にみちびき、その中で生きる喜びを得る仕事につきたいと考えていました   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | よくおぼえていませんが、人間として、又女性として、人間のうつわを大きなものにしてゆく心のある人間になる様学んでほしいというようなことを云われたと思います                                     |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | お聞きしていれば、31年4月～11月迄ですが、学生が集まっていた様子を思い出すのですが、内容ははっきりおぼえていません。ごめんなさい   |
| 7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等                  | 慈愛にみちた方のお姿を思い出します。少しダミ声ですが、良くとうる声でゆっくり話しをされていたと思います  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 残念ですが、カードはいただいておりません   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 教授が学生を一人一人大切に思って接して下さいました  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 卒業後、仕事を通じて守ったことは、<br>① 全身で若い人を包み教育にあたったこと<br>② 常に親に感謝する心を育てる<br>③ 人間として自己の心をみがくこと<br>④ 友情を育てること<br>⑤ 心身共に清潔であること |
| 11. 学生生活の思い出                               | 担当教授（生田先生）と共に学園をあるいたり、話をうかがったりし、クラス会も開きお会いできたことをなつかしく思い出しています。（平成21年10月にも東京原宿でクラス会をしました）                         |
| 12. 他の先生の思い出                               | 宮下教授の色彩学では実技と講義が心に残っています   |

|   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 13. これからの大学・短大に期待すること   | 全人間教育をしてほしいと思います                  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 日本人として海外にも活躍する人になってほしいと思います       |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと   | 「人生いかに生きるか」等、先生とゆっくり話をうかがいたいと思います |
| <p>別紙：</p> <p>平成21年10月にひさしぶりに学園を訪れました。すっかり建物もりっぱになり、自分が過ごした時の様子が思い出せない位でした。寮につづく道がわずかに記憶にありましたが、学生らの姿は生きいきとしていて、良い大学に学んだことを再度感じてきました。現在73才で元気でおりますが、かなり遠い思い出になった学園の様子や青木学長のことがお伝え出来なく、大変失礼いたしました。</p> |                                   |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服B）卒          |
| 氏名   | N. Aさん                  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 時間がもっとあればと思いました         |
| 3. 本学を選んだ理由                                | すすめられました、学校の先生に         |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 教師めざしていました              |
| 11. 学生生活の思い出                               | 全国各県の人が集まり言葉の違いなど、楽しかった |
| 12. 他の先生の思い出                               | 時間があればもっと学習できたのに        |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服B）卒   |  |
| 氏名   | K. Hさん   |  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 現在のように情報が豊かでないので自分で調べたり、お聞きしたりしなければ何もわからないこと、例えば交通面  |  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女子教育の場として伝統あり。自分の状況（教員志望）を考え、上京を両親が許してくれたので受験しました  |  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 当時としては女性が最高の教育を受けられる幸福を感謝し真面目に勉強。卒業して教員になりたい希望を持って生活しました   |  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | お祝の言葉。伝統歴史ある学園で先輩が築いていること。生活信条をもとに健康で有意義な大学生活を送ってほしい等  |  |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演                    | ①何年生の頃<br>何月頃  | 31年4月～10月  |
|  | ②内容  | 人間関係、礼儀、愛、献身、感謝  |
|  | ③感銘を受けた点   | とにかく人間として心の問題（精神的）を例にあげ、その都度テーマをあげお話下さったので愛の大切さに感銘しました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等              | 口調はやさしく、おだやか、ゆっくりわかりやすい。雰囲気は家族的で学生にも親しみ、いつも楽しい存在   |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                           | 私が入学した31年は学園もマンモス。先生も公私にお忙しいにもかかわらず、色々の行事に出来るだけ顔を出して下さいました。県人会も私、長野県松本出身なので懐かしく思われます。又、水曜講演もお体のことがあり、途中でとても残念で、早くお元気になってほしいと願った位です。卒業は33年、学長先生は変わりましたが、青木誠四郎先生の生活信条は皆さんの心に生き、現在も大切な教えとして続いております。卒業時に頂いた絵皿等、思い出の品として毎日落着く部屋に飾り、人生の励みにしております |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういふ点で感じ取りましたか            | 短大での忙しい学生生活でしたが、地方から上京した身として、先輩、後輩の関係、又先生方、学生との関係。色々を通じ自然と信条が伝わっていたと思います。卒業後のクラス会のたび懐かしくお話されます   |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 子育て、教育、親子関係、親戚との関係、他人との関係、サークル活動、自治会、職場など。人間が生きていく上にかかわる中で大変、愛情の教えが生かされている点多いです。ただ現在の世の中はその点欠けていると思われま   |  |

|   |  |                                 |
|---|--|---------------------------------|
| 1 1. 学生生活の思い出   | ①楽しかったこと<br>②嬉しかったこと   | 地方の方々と同じ時代、最高の場で生活出来、教育を受けられたこと |
|   | ③悲しかったこと   | 青木先生が急逝したこと                     |
| 1 2. 他の先生の思い出   | 青年心理学。本を読むのではなく、学者としてでなく、ユーモアをまじえ楽しくお話下さり、気持ちをゆったりさせて下さったこと            |                                 |
| 1 3. これからの大学・短大に期待すること  | 少子化にともない学部学科も現在増え、内外充実していることは嬉しいことですが、青木先生の生活信条は忘れないでほしい               |                                 |
| 1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと  | 目標をもって入学した以上、勉学にいそしみ、又若い時代にしか経験出来ないこと、精神面の向上を望みたい。将来の目標に向かって、日本の国のためにも |                                 |
| 1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと  | 短い期間でしたが、人間として大切なことお教え頂き感謝御礼申し上げます                                     |                                 |
| <p>別紙：</p> <p>「(関根) 先生が御尊敬し、これからの大学のためこのような調査、御苦勞様です。是非統計まとめ、学園発展のため役立てて下さいませ。(関根所長の人間文化研究所主催の男女共同参画基礎講座や講座等に参加された旨記述)」</p> <p>関根宛私信：</p> <p>「この度は私の方、先生のアンケートに御協力出来ほっとしております。皆さんの回答率はどんなでしょうか。陰ながら心配しております。</p> <p>さて私事になりますが、青木先生と同県出身。家政大は受験合格、入学しましたので親に対しても感謝。自分自身、同年代全国の方々と勉学に励めることはとても幸福でした。伝統ある学園、生活信条「愛情、聡明、勤勉」の精神を人間の生き方大切なことを御指導して頂き、短い学生生活でしたが、若き思い出、あらゆる面で現在でも糧になり感謝御礼申し上げます。</p> <p>アンケート⑩の内容、学生生活一番嬉しかったこと等ありましたが、72才現在でも表面には出しませんが、心の中で、卒業式総代になり、学長先生は変わっていましたが、卒業証書授与を受けたことです。</p> <p>学問はいくつになっても必要。住いが狭山校舎に近いので、公開講座、地域推進協力センターなどでお世話になり、生涯、健康でいきいきしたく励んでおります。後略」</p> |  |                                 |

|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服B）卒  |
| 氏名   | H. Nさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | 戦後のこん乱から少しずつ経済面がよくなるうとしていた時、両親にとって大変な出費だったと思い感謝にたえない  |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 諸先輩の方々に対するの尊敬の念   |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 女性としての家政科の特徴や技と、地域社会に貢献したい  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか            | 豊かな森を感じさせる学舎  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 自分のことばかり思わないで他人にしてあげる事に幸を見い出す。私の家族は全員クリスチャンです（子供6人）。学生時代からよりよい家庭とは？を目指してきました。今は核家族になり、半数は都会で生活しておりますが、残り4人はよい家庭をと日々の糧を送っております   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 二年間という短い期間寮生活でした。被服科在でしたので、技術面の学習は夜間を通じ技をきたえられました。現在70代の歳になりましたが、技術に関しては今日でも活用できる事が沢山あります。私の子供三人も他大学の家政科入学でしたが、自分の卒業した家政大の教えの全般に対して母校に感謝しています。やはり校風といいですか、環境が家政学として素晴らしいものがあつたのだなーと思っています |
| 12. 他の先生の思い出                               | 服飾、手芸、被服製作、染色と・・・基礎～応用まで、現在でも、前のように出来ませんが、基礎力はあるようです。各教科の先生方を通して身につけられてきたのだと感謝するばかりです   |
| 13. これからの大学・短大に期待すること                      | 私共の在学した世代との変化はありますが、女性としての真の幸。～社会一般、人との豊かな交わりができていきますように  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと              | 短期に習得する事は大変なこと。真面目にこつこつと根気よくがんばることですね。雑多、雑感にうちかち、自己を知って充実した学生生活を送ってほしい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと                  | 学生時代は若かったし、あたえられた事を成す事で一心だったと思います。青木先生はクリスチャンと思っています。私もそうです。現代から見て私共はどういう人の歩みをしましょうか等々、お話ししたいですね  |



|  |   |
|--|---|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服C）卒  |
| 氏名   | W. Kさん  |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・親からの送金。</li> <li>・作品を期日までに提出すること</li> </ul> |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 女としての教養を身につけたかった  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか            | 子供を育てる時   |
| 11. 学生生活の思い出                               | 寮生活が大変楽しかった   |

|                                 |  |   |
|---------------------------------|--|---|
| 卒業年                             | 昭和33年：短大（被服C）卒   |   |
| 氏名                              | T. Yさん   |   |
| 3. 本学を選んだ理由                     | 附属高校から家政科へ。家政に関係した仕事が出来ればと思いました                          |   |
| 4. 入学のときの希望や夢                   | 卒業して考えた事は、福祉の仕事が良かったかと迷いました                              |   |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                | 心理学の事もお話してました。内容は思いだせません                                 |   |
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | ①何年生の頃<br>何月頃  | 短大に入り、6月頃だったと思います   |
|                                 | ②内容  | その時心理学で子供のことを話されました。暖かなまなざしで講義がおわりました。後に心理学の先生であることも聞きました |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | 高校から学園の中でお逢い出来なかったのが残念です                                 |   |
| 8. その他の行事に関する思い出                | ① 50余年になりますが、お写真とカーネーションのカードは今も懐かしい思い出として持っています          |   |
|                                 | ② おわかれの時は、幼稚園から大学生まで悲しみにしずんでいました                         |   |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | お逢いする機会が少なかったこと。小さな幼稚園生に関係していたのでしょうか。学園が暖かい雰囲気であった様に思います |   |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 私は今生涯学習で俳句をしています。夫婦2人の生活ですが、廻りの人と愛情をもって接したいと思います。生活の信条として改めて見なおして行きます |
| 11. 学生生活の思い出                    | 2年間と短い学生時代でしたが、専門的な講義を受けられたこと。東京以外の友達に出逢えたことなどが印象に残ります                |
| 12. 他の先生の思い出                    | 今では着ることも少なくなりましたが、和裁の先生が一枚一枚丁寧におしえて下さったことに感謝しました                      |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 50年前と違い、学部が増え世の中に出る機会が多くなりました。現代に合う仕事をしてほしいと思います                      |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 勉強が出来る機会に世界に向けて発進して下さい  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 講義を聞く機会があれば多くの話が聞けたと思います  |

|  |  |
|--|--|
| 卒業年  | 昭和33年：短大（被服C）卒   |
| 氏名   | K. Yさん   |
| 2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的に大学進学者はひとにぎり。特に女子大生は少なく「寮」に支えられ楽しく頑張れました</li> <li>・寮生活では先輩の指導を楽しく受け乍ら、外出の帰路、十条、板橋駅から怖い思いをしたこと。寒風の中、トンネルの中の洗濯場で歌い乍ら洗濯をしたこと等懐かしい思い出です</li> </ul>        |
| 3. 本学を選んだ理由                                | 高校の家庭科の先生（本学卒の先輩）より、青木先生を中心とした学園、寮についてくわしく話して下さいましたので、恩師のようになりたく憧れました。（恩師はIM先輩です）  |
| 4. 入学のときの希望や夢                              | 青木先生を中心に本学の先生方の生活信条にそうべく向上して、将来女子教育につくす一員になりたく存じました  |
| 5. 入学式の青木学長訓示の内容                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子教育の大切さ。本学の生活信条による指導のもと実力をつけ進歩していくよう</li> <li>・女子大生として勉学に励めるのは日本中でひとにぎりの学生しかいない、諸君はそのしあわせに感謝して自身をみがき励んでほしい。入学式での内容も時々、度々お聞かせ頂きましたが、『愛こそ人を救う』</li> </ul> |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| 6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演         | 弘法大師サマかイエスサマかと思われる心の広い愛で、礼儀正しく、不幸な人々をしあわせにするお力をお持ちでした   |  |
| 7. 水曜講演の青木先生<br>の声音、口調、表情、態度等   | えびす様のように、ゆったりと愛情あふれる笑みを浮かべたまなざしで、悟すように、わかりやすく、信念をお持ちになって話されました。いつの講演でも、もっと時間を延長して頂けたらいいのに、と思いました  |  |
| 8. その他の行事に関する思い出                | 金沢文庫への遠足の時親しくお話下さって個人的なカメラにも一緒に納まって下さって。私共多数の希望にも、かわるがわるお答え下さってよい記念になりました   |  |
| 9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試の時、寮を開放下さって、先輩方が寮生活の実践指導旁々お手伝い下さった事に感動し、これこそが生活信条の実践であると感銘を受けました</li> <li>・寮生が多いので、学校、寮共に先輩の指導を受け乍ら伝えて行けたのでしあわせでした</li> </ul> |  |
| 10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか | 日常の生活。特に近所づきあい、PTA活動の中で、生活信条を生かし、かゆいところに手がとどくということが、すべてのことの「潤滑油」として大切なものになりました  |  |
| 11. 学生生活の思い出                    | ①嬉しかったこと  | 青木先生のご指導を受けることが出来たこと<br>(勿論、よい学園生活、寮生活を過ごせたこと) |
|                                 | ②つらかったこと<br>悲しかったこと   | お目にかかれ、わずか8カ月で青木先生が亡くなられたこと                    |
| 12. 他の先生の思い出                    | 和裁の丸岩ツヤ先生：高齢とお見受けしましたが、多く和服を着こなされ、生活信条びつたりのご指導法で（やさしく、きびしく）。あの先生のような老い方をしたいと尊敬申し上げておりました  |  |
| 13. これからの大学・短大に期待すること           | 昨年、樋口恵子先生の「NHKラジオ番組心をよむ」を聞かせて頂き、学生に戻って講義を受けたような気分になり嬉しく存じました。どんな形でも、又そんな機会を望んでいます   |  |
| 14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと   | 生活信条を大切に、寮生活、学園生活をよりよいものに。先輩から後輩へと伝えて頂きたいです   |  |
| 15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと       | 卒業以来折にふれ、先生のご指導が、生活の中によみがえり豊かなものにして頂きましたので感謝申し上げます。又現在の世に、私共に何かお話頂き度い気持です   |  |



「東京家政大学 学生歌」 (現校歌)



～ 上記写真、昭和30年卒業アルバムより